

にし の る の まる
西野遺跡ルノ丸地区
2005年度調査

- 宅地開発に伴う発掘調査報告書 -

2013.3

香南市教育委員会

にし の る の まる
西野遺跡ルノ丸地区
2005年度調査

-宅地開発に伴う発掘調査報告書-

2013.3

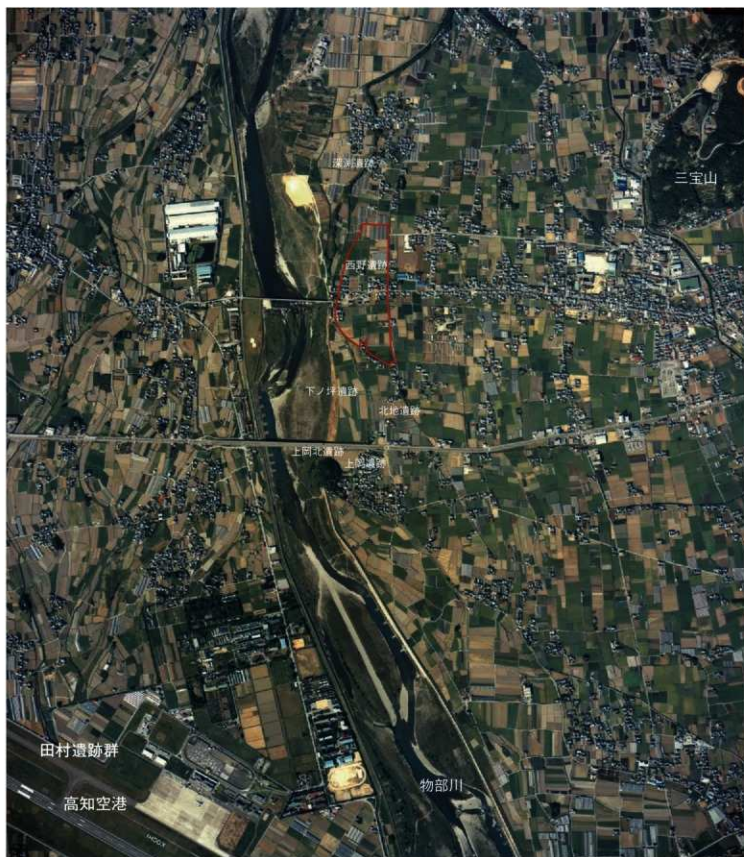
香南市教育委員会



ST1出土遺物 土師器 壺・甕・鉢 (古墳時代初頭)



西野遺跡ルノ丸地区 2005年度調査区と周辺の景観 (西から)



西野遺跡周辺の地形（上空より・平成元年撮影）

序

香南市文化財センターが香南市香我美町山北に開館したのは、平成21年4月のことです。今年の春で4周年を迎えます。温州みかんの産地として有名な山北地区は、300周年を迎えた「山北棒踊り」で知られる文化の里でもあります。本書は香南市文化財センター開館後10冊目の報告書であり、西野遺跡の成果を報告する最初の発掘調査報告書です。

西野遺跡は文化財センターから西へ約5km、野市町西野の物部川東岸にある弥生時代から古代・中世にかけての集落遺跡です。ここは香南市で最も遺跡が集中する場所のひとつで、下ノ坪遺跡や北地遺跡など隣接する遺跡の発掘調査が行われてきました。今回の調査は宅地化に伴うもので、当遺跡では初めての発掘調査になります。それ以来、平成22年度にかけ7回にわたって行われた西野遺跡の発掘調査では、日本で唯一の銅矛再加工品が出土するなど多くの注目される成果が得られています。弥生時代から古墳時代にかけての堅穴建物が57棟、古代から中世にかけての建物跡もたくさん見つかるなど、集落のようすが明らかになり始めています。

遺跡は先人の営みを伝える地域の大切な宝です。土の下に眠る埋蔵文化財は、私たち現代を生きる人間に多くのことを語りかけてくれます。過去の記憶をとどめる私たちの共有財産「埋蔵文化財」を守り、伝えていくことは、行政の大切な責務です。本書は、香南市の歴史を広く知っていただくとともに、埋蔵文化財に対する一層のご理解をいただきますことを願って刊行するものです。文化財保護の資料として広く活用されれば幸いです。

最後になりましたが、地元の皆様はじめ、高知県教育委員会、高知県埋蔵文化財センターなど多数の方々のご協力をいただいたことに心からお礼申し上げます。

平成25年3月

高知県香南市教育委員会
教育長 安岡 多實男

例 言

1. 本書は、野市町西野字ルノ丸で平成17年度に計画された民間の宅地開発に伴う記録保存のための緊急発掘調査報告書である。
2. 西野遺跡は、高知県香南市野市町西野1526番地2他に所在する。平成16年度の試掘確認調査以降、本遺跡の8回にわたる調査は「西野遺跡群」の調査として進められてきた。本報告書中でも、一部「西野遺跡群」の名称を使用する箇所がある。

遺跡が設定された当初は、より広範な面積（現在の深淵遺跡から上岡遺跡付近まで南北約1.5kmの範囲）を指していたため「遺跡群」とされてきたが、現在の埋蔵文化財包蔵地範囲は周辺の深淵遺跡・下ノ坪遺跡・北地遺跡と同程度であり、本遺跡も「遺跡群」ではなく「遺跡」とする方が適当だと考える。平成24年度に遺跡名の修正協議を行い、本報告書以降、「西野遺跡群」を「西野遺跡」に変更することとする。

本報告は2005年度西野遺跡ルノ丸地区の発掘調査報告である。

3. 試掘調査は平成17年3月16日から3月30日にかけて実施し、発掘調査は平成17年5月23日から8月5日にかけて実施した。

4. 調査対象面積	(試掘対象面積)	4,471㎡
	(本発掘調査対象面積)	2,409㎡
試掘調査面積		100㎡
発掘調査面積		564㎡

5. 試掘調査・発掘調査時（平成16・17年度）の調査体制は以下のとおりである。

事務担当	野市町教育委員会	生涯学習課	課長補佐	岩神 明美
調査員	野市町教育委員会	生涯学習課		溝渕 真紀
調査員	財野市町開発公社	埋蔵文化財調査員		更谷 大介

6. 本報告書に関する整理作業は、平成20年度まで更谷大介（香南市教育委員会生涯学習課 嘱託）と溝渕真紀（同）が担当し、遺物・図面類の整理を行った。平成22年度から23年度にかけての報告書作成作業は、松村信博（香南市文化財センター主監調査員）と藤方正治（香南市文化財センター臨時職員）が20年度までの成果を引き継ぎ、分担して行った。

7. 報告書作成時（平成23年度）の香南市教育委員会生涯学習課文化振興保護係の体制は以下のとおりである。なお、報告書の印刷業務を平成24年度に実施、報告書刊行年度は平成24年度である。

課 長	岡本 光広	臨時職員	水田 紀子
係 長	小松 誠	々	小松 経子
主監調査員	松村 信博	々	宮本 幸子
主 任	田中 一也	々	齋藤 美幸
調 査 員	宮地 啓介	々	藤方 正治
		々	澤田 佐代

8. 本書の編集作業は松村が行った。執筆分担は、第Ⅰ～Ⅲ章・Ⅳ章第1節及び第2節1～5・Ⅴ章が松村、第Ⅳ章第2節6・Ⅴ章が藤方である。遺構計測表は主に藤方が作成、遺物観察表作成、遺物写真撮影作

業は松村が行った。現場写真は更谷大介・溝淵真紀による。また、調査日誌抄、試掘調査に関する記述（遺物関連を除く）については更谷大介の原稿をもとにしている。

9. 発掘現場作業員は下記の方々である。精力的に作業に従事されたの方々に対し、記して敬意を表す。（敬称略）

佐野宣重・榎尾俊喜・河村みさ子・西川博明

10. 重機による表土剥ぎ、排土運搬、埋め戻しについては清藤勝秀氏の便宜、助力を得た。

11. 平成 22・23 年度の報告書作成に関する整理作業については、作業ごとに以下のメンバーで分担して行った。

注記・接合等 水田紀子・小松経子・宮本幸子・齋藤美幸・澤田佐世

遺物実測 小松経子・宮本幸子・齋藤美幸・藤方正治・松村信博

トレース 宮本幸子・齋藤美幸・澤田佐世・藤方正治・松村信博

遺構の原因作成 藤方正治・宮本幸子・齋藤美幸・澤田佐世

遺物写真撮影 松村信博・齋藤美幸・宮本幸子・澤田佐世

12. 下記の方々には現地での調査、報告書作成過程を通じて貴重なご助言・ご教示をいただいた。記して感謝する次第である。（敬称略・所属は 2012 年度）

出原恵三・吉成承三・池澤俊幸・久家隆芳（以上高知県埋蔵文化財センター）・浜田恵子（高知市教育委員会）

13. 出土遺物、写真その他図面類等の関係資料は香南市文化財センター（香南市香我美町山北 1553-1）で保管している。遺跡に注記した略号は、平成 16 年度の試掘調査が 05-NI、平成 17 年度の本発掘調査が 05-NR である。

本文目次

第Ⅰ章	調査の経緯及び方法	
第1節	調査の経緯	1
第2節	調査区の設定と調査の方法	3
第3節	西野遺跡ルノ丸地区2005年度調査 調査日誌抄	5
第4節	西野遺跡群の範囲と遺跡名の変更について	8
第Ⅱ章	位置と環境	
第1節	位置と自然環境	11
第2節	歴史的環境	13
第Ⅲ章	試掘調査（平成16年度）	
第1節	試掘調査の概要	23
第2節	試掘トレンチの概要と堆積状況・試掘調査のまとめ	24
第3節	試掘調査・遺構と遺物	26
第Ⅳ章	調査の成果	
第1節	基本層序	40
第2節	調査区の概要と遺構配置	43
第3節	遺構と遺物	
	1. 堅穴建物（ST）	46
	2. 土坑（SK）	64
	3. ビット（P）	77
	4. 溝状遺構（SP）	87
	5. 包含層出土遺物	93
	6. 鉄器・鉄製品（遺構及び包含層出土）	98
第Ⅴ章	考察	
	西野遺跡ルノ丸地区出土の鉄製鋸・鋤先	（藤方）119
第Ⅵ章	西野遺跡ルノ丸地区2005年度調査のまとめ	（松村）
第1節	「西野遺跡群」から「西野遺跡」へ ～西野遺跡群研究史と遺跡の捉え方の変遷～	125
第2節	2005年度調査のまとめ	129

図 版 目 次

第1図	高知県の行政区画と西野遺跡の位置	1
第2図	西野遺跡調査区位置図	2
第3図	グリッドの設定と公共座標	4
第4図	西野遺跡周辺の遺跡と地形	9
第5図	西野遺跡南側・物部川下流域の地形（昭和8年測量の2万5千分の1地形図）	11
第6図	西野遺跡周辺の地質構造帯	12
第7図	西野遺跡と高知平野東半・物部川下流域の遺跡	14
第8図	西野遺跡周辺の地籍図	22
第9図	西野遺跡ルノ丸地区平成16年度試掘調査トレンチ位置図	23
第10図	西野遺跡ルノ丸地区平成16年度試掘トレンチ セクション図 (S=1/40・1/60)	25
第11図	試掘TR1・2平面図 (S=1/60)	26
第12図	試掘TR3平面図 (S=1/60)	28
第13図	試掘TR1・2出土遺物 (S=1/4・1/3)	32
第14図	試掘TR3出土遺物1 (S=1/4・1/3)	33
第15図	試掘TR3出土遺物2 (S=1/4・1/3)	34
第16図	試掘TR3出土遺物3 (S=1/4・1/3)	35
第17図	東壁セクション図 (S=1/60)	40
第18図	南壁・西壁セクション図 (S=1/60)	41
第19図	北壁セクション図 (S=1/60)	42
第20図	遺構平面全体図 (S=1/160)	43
第21図	西半遺構平面図 (S=1/80)	44
第22図	東半遺構平面図 (S=1/80)	45
第23図	ST1 平面・セクション図 (S=1/40)	47
第24図	ST1 出土遺物1 (S=1/4)	48
第25図	ST1 出土遺物2 (S=1/4)	49
第26図	ST1 出土遺物3 (S=1/4)	50
第27図	ST1 出土遺物4 (S=1/4)	51
第28図	ST2 平面・エレベーション図 (S=1/40) 出土遺物 (S=1/4・1/3)	53
第29図	ST3 平面・セクション・エレベーション図 (S=1/40)	54
第30図	ST3 出土遺物1 (S=1/4)	55
第31図	ST3 出土遺物2 (S=1/4)	56
第32図	ST3 出土遺物3 (S=1/4)	57
第33図	ST3 出土遺物4 石器 (S=1/6)	58
第34図	ST3 出土遺物5 古墳時代後期・古代の遺物 (S=1/4・1/3)	59
第35図	ST4 上面遺構検出状況平面図 (S=1/60)	59

第36図	ST4平面・セクション・エレベーション図 (S=1/60)	60
第37図	ST4出土遺物1 (S=1/4)	61
第38図	ST4出土遺物2 (S=1/3)	62
第39図	SK1遺物出土状況平面・エレベーション図 (S=1/15) 完掘平面・ エレベーション図 (S=1/20) 及び出土遺物 (S=1/4)	66
第40図	SK2～9平面・エレベーション図 (S=1/40)	67
第41図	SK10～16平面・エレベーション図 (S=1/40)	68
第42図	SK17～25平面・エレベーション図 (S=1/40)	69
第43図	SK24-1・25-1・26・28～32平面・エレベーション図 (S=1/40)	70
第44図	SK33～38平面・エレベーション図 (S=1/40)	71
第45図	SK39～46平面・エレベーション図 (S=1/40)	72
第46図	SK47～51平面・エレベーション図 (S=1/40)	73
第47図	土坑 (SK) 出土遺物 石器 (S=1/2) 土師器 (S=1/4) 須恵器・ 土師器供膳具 (S=1/3)	74
第48図	調査区西側遺構平面図とピットの位置 (S=1/100)	77
第49図	調査区中央遺構平面図とピットの位置 (S=1/100)	78
第50図	調査区東側遺構平面図とピットの位置 (S=1/100)	79
第51図	ピット出土遺物(S=1/4・1/3)	83
第52図	調査区東端溝状遺構(SD)平面・エレベーション図 (S=1/40)	88
第53図	SD-E及び周辺遺構平面・エレベーション図 (S=1/40)	89
第54図	SD7平面図 (S=1/60) エレベーション・セクション図 (S=1/40)	90
第55図	SR1出土遺物 (S=1/4・1/3)	91
第56図	包含層出土遺物1 (S=1/4・1/3)	94
第57図	包含層出土遺物2 (S=1/4・1/3)	95
第58図	包含層出土遺物3 (S=1/4・1/3)	96
第59図	包含層出土遺物4 磨製石斧 (S=1/2)	97
第60図	出土遺物 U字型鋏・鋤先 (S=1/3)	98
第61図	出土遺物 鉄器・鉄製品他 (S=1/3)	99

表目次

表1	西野遺跡と高知平野東半・物部川下流域の遺跡	15
表2	試掘TR1 遺構計測表及び出土遺物	27
表3	試掘TR2 遺構計測表及び出土遺物	27
表4	試掘TR3 遺構計測表及び出土遺物 (1) ~ (3)	29 ~ 30
表5	試掘調査遺物観察表 (1) ~ (3)	36 ~ 38
表6	竪穴建物 (ST) 出土遺物	63
表7	土坑 (SK) 出土遺物	65
表8	土坑 (SK) 遺構計測表 (1)・(2)	75・76
表9	ピット (P) 遺構計測表 (1) ~ (5)	78 ~ 82
表10	ピット (P) 出土遺物 (1) ~ (3)	84 ~ 86
表11	溝状遺構 (SD) 出土遺物	92
表12	溝状遺構 (SD) 遺構計測表	92
表13	西野遺跡ルノ丸地区出土の鉄器・鉄製品観察表	101
表14	遺物観察表 (土器・土製品・須恵器・陶磁器類) (1) ~ (13)	105 ~ 117
表15	遺物観察表 (石器類)	118
表16	西野遺跡群の発掘調査一覧	125

写 真 図 版

巻頭図版 1	ST1 出土遺物 土師器 壺・甕・鉢 (古墳時代初頭) 西野遺跡ルノ丸地区2005年度調査区と周辺の景観 (西から)
巻頭図版 2	西野遺跡周辺の地形 (上空より・平成元年撮影)
写真図版 1	調査前の景観
写真図版 2	調査区東・中央 堆積状況
写真図版 3	遺構検出状況・東端部
写真図版 4	遺物出土状況 (1)
写真図版 5	遺物出土状況 (2)
写真図版 6	ST1 の調査 (1)
写真図版 7	ST1 の調査 (2)
写真図版 8	ST1 の調査 (3)
写真図版 9	ST1 の調査 (4)

- 写真図版10 ST3の調査 (1)
写真図版11 ST3の調査 (2)
写真図版12 ST3の調査 (3)
写真図版13 ST4の調査 (1)
写真図版14 ST4の調査 (2)
写真図版15 ST4の調査 (3)
写真図版16 SD7とその周辺の遺構
写真図版17 遺構完掘状況 (1)
写真図版18 遺構完掘状況 (2)
写真図版19 遺構完掘状況 (3)
写真図版20 遺構完掘状況 (4)
写真図版21 調査に参加した人々
写真図版22 試掘調査出土遺物 (1)
写真図版23 試掘調査出土遺物 (2)
写真図版24 試掘調査出土遺物 (3)
写真図版25 ST1出土遺物 (1)
写真図版26 ST1出土遺物 (2)
写真図版27 ST1出土遺物 (3)
写真図版28 ST1出土遺物 (4)
写真図版29 ST1出土遺物 (5)
写真図版30 ST1出土遺物 (6)
写真図版31 ST2出土遺物・ST3出土遺物 (1)
写真図版32 ST3出土遺物 (2)
写真図版33 ST3出土遺物 (3)
写真図版34 ST4出土遺物
写真図版35 SK1出土遺物 (1)
写真図版36 SK1出土遺物 (2)、その他の土坑・SD1出土遺物
写真図版37 ビット出土遺物
写真図版38 SD7・包含層出土遺物 (1)
写真図版39 包含層出土遺物 (2)
写真図版40 包含層出土遺物 (3)
写真図版41 出土遺物 (石器類)
写真図版42 出土遺物 (鉄器類)
写真図版43 平成16年度 試掘調査 (1)
写真図版44 平成16年度 試掘調査 (2)

第1章 調査の経緯及び方法

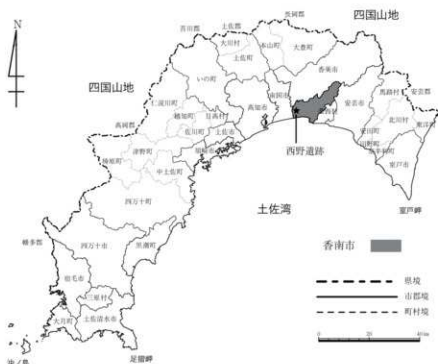
第1節 調査の経緯

本調査は、高知県香南市野市町西野で行われた民間の宅地開発に伴う記録保存のための緊急発掘調査である。

平成16年に計画された宅地開発の対象地点が西野遺跡群の包蔵地内にあったため、試掘確認調査が行われることとなった。西野遺跡群は、物部川左岸段丘上に立地、南北約600m、東西約250mの範囲に広がっている。北側には深淵遺跡があり、南側には下ノ坪・北地遺跡など、弥生時代から奈良・平安時代にかけての遺跡が隣接している。今回の調査地点の小字は「ルノ丸」、地番は香南市野市町西野1526番2他であり、西野遺跡群の中央付近に位置する。

工事予定区域に埋蔵文化財の存在が予想されたため、宅地開発区域内の埋蔵文化財の保護と開発の円滑な調整を図ることを目的として、野市町（現香南市）教育委員会が主体となって試掘確認調査を行った。試掘調査（平成16年度）は平成17年3月16日～3月30日にかけて行われ、設定した3箇所のトレンチの合計面積は100㎡である。

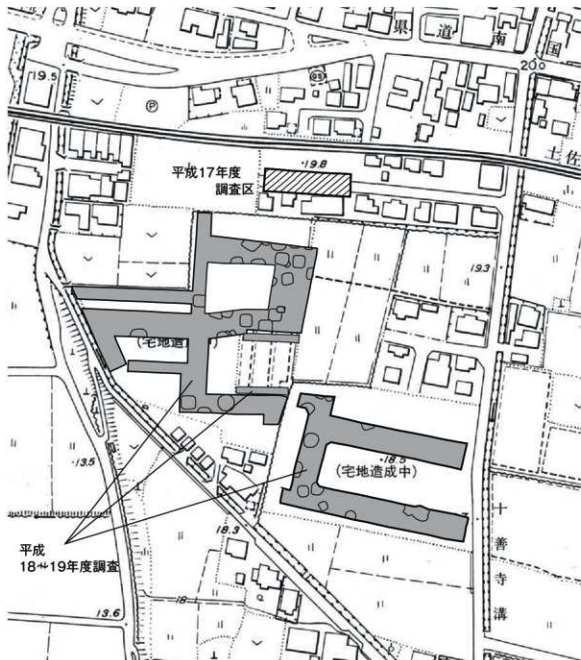
試掘調査の結果、調査対象地全域に遺物包含層及び遺構面が広がっていることが判明した。遺構検出面は一面であり、同一検出面から弥生時代後期～古墳時代初頭・古墳時代後期・古代・中世の各時期の遺構が検出された。地表面から遺構面までの深さは40～60cmと浅く、浄化槽設置予定箇所など工事により影響を受けることが予想される部分と道路予定部分について本発掘調査が必要だと判断された。



第1図 高知県の行政区画と西野遺跡の位置

試掘調査の結果を受けて、宅地開発に先立つ緊急発掘調査により遺跡の記録保存を図る目的で、平成17年度に本発掘調査を実施することとなる。4,471㎡の試掘調査対象地のうち、西半については今回の工事対象外となったため、本発掘調査の対象となったのは東半分に当たる部分である。野市町教育委員会は、対象面積2,409㎡のうち幅12m・総延長50m、約600㎡について本発掘調査を実施した。本発掘調査期間は平成17年5月23日～8月5日である。

西野遺跡群の中で今回の調査地点は小字名「ルノ丸」に対象地が所在する。それゆえ遺跡群内の他の遺物集中地点と区別するため、「西野遺跡群ルノ丸地区」として調査は進められた。



第2図 西野遺跡調査区位置図

第2節 調査区の設定と調査の方法

宅地開発予定地内に計画された幅6mの道路部分と、その両側3mずつの住宅浄化槽建設予定範囲、あわせて幅12m、延長48m（東端の12mを除く）の合計564㎡を調査区として設定し調査を進めた。調査に際しては、東西に走る中央道路の方向に合わせて任意の座標軸を決め、4mグリッドを設定して調査を進めた。設定したグリッドは、グリッド北東隅の測量杭を基準とし、その杭番号を4mグリッドの呼称とする。杭番号は東西方向をアルファベットで、南北方向をアラビア数字で示す。東西方向は、東から西に向かって1～13、南北方向は、北から南に向かってA～Dまでの杭番号を付し、調査地点の位置関係を示す。

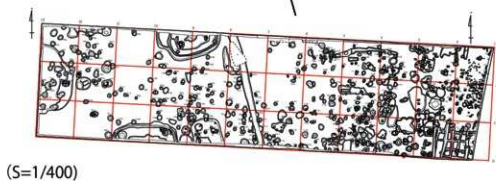
測量杭の設定 北→南 A～D 東→西 1～13

調査の手順としては、耕作土、包含層直上まで重機を用いて堆積土を除去した後、包含層掘削、遺構検出、遺構埋土掘削を手作業で進めた。平面実測及び土層断面図については、縮尺20分の1を基本とし、状況に応じて10分の1等、他の縮尺を用いて実測を行った。

第4図に示す公共座標は世界測地系に即した座標である。グリッドの座標軸は、公共座標の座標軸から約3度東に傾いている。



西野遺跡周辺の空中写真（平成元年）



第3図 グリッドの設定と公共座標

第3節 2005年度 西野遺跡ルノ丸地区本発掘調査調査日誌抄

平成17年

5月23日(月)

調査区の草刈り・発掘用具運搬

5月24日(火)

草刈り作業・調査区の東側より調査開始。道路施工部と浄化槽設置予定箇所、併せて幅12m、総延長52mを予定。その幅に合わせて任意に測量杭を設定する。北東端をA-1、南東端をD-1、西へ向かって1・2・3・4・・・と設定、西側畔と東側水路、各々から約2mの余裕(緩衝帯)をとる。



5月25日(水)

東側の調査。V層(黄色シルト)上面で遺構検出。南北・東西に延びる溝や柱穴を検出。南北溝を東からSD1・SD2・・・SD6、東西溝を南からSD-A・SD-B・・・SD-Dとする。

5月26日(木)

東側の調査。検出した溝・柱穴の調査、遺物取り上げ。

5月27日(金)

調査区東・北半の調査。調査地点の桑の木の影響で地山は凸凹になる。

5月30日(月)

SK1(D-3杭北側)から弥生土器がまとまって出土。調査区東側、掘り残しの黒茶褐色シルト質土を掘削していく。D-4杭北側で検出した南北に長い土坑には礫(小礫~15センチ大の礫)が放り込まれている。



5月31日(火)

調査区北東、南西部の図面作成。北側中央部に大きな落ち込み(遺構)が3基ほど検出される。

6月1日(水)

A-4→D-4杭付近、遺構検出と掘削。

6月6日(月)

県文化財課池澤氏来跡。指導・助言をいただく。

SD1(11世紀ごろ)、SK1(弥生終末~古墳初頭、鉢・支脚出土、タタキあり)、SK2(6世紀末~7世紀前半・坏身)、SK6(古墳時代の遺物)、Ⅲ・Ⅳ層(古代の遺物がほとんど)、出土遺物からみて、西野遺跡群は弥生終末~古墳初頭、奈良・平安・鎌倉初頭ごろまで。

6月7日(火)

P-55~115、SK16~27まで、平面及びレベル測量。

6月8日(水)

P-115~117、SK27・28まで、平面及びレベル測量。

6月9日(木)

P-118～141, SK29・30まで、平面及びレベル測量。

6月10日(金)

P-142～161, SK31・33まで、平面及びレベル測量。

6月14日(火)

A-1→A-7(北壁)セクション図作成。

6月15日(水)

A-1→D-1(東壁)・D-1→D-7(南壁)セクション図作成。

6月20日(月)

SR1周辺掃除。SR1完掘状況写真撮影。SR1西側掘削していく。

6月21日(火)

A→D-7付近の調査。SR1西側に柱穴を検出。

6月24日(金)

A-8杭南側に竪穴住居(ST1)を検出する。北壁にサブトレを入れて調査を行う。

6月27日(月)

A～D-8→A～D-9付近、ST1の調査。

ST1はA-8杭南側に位置する。確認延長約5.8m、西側に付属する施設を加えると約6.8m、隅丸方形を呈している。北側約半分強が調査区外に出ている。北側壁に沿ってサブトレを入れて確認する。サブトレからは、弥生・土師器・須恵器・炭・鉄などが出土している。ST1の床面からは古式土師器が出土。

6月28日(火)

D-8→D-9付近調査

南壁に約3.5m(長軸)方形の住居跡を検出、その住居跡を切る遺構から調査を行う。この住居跡をST2とする。

6月29日(水)

ST1、1回目約10cmほど埋土を掘削していく。弥生終末期の住居。

県埋文センター出原班長来跡。

6月30日(木)

ST1、2回目掘削後写真撮影を行い、さらに掘り下げ。ST2南壁崩落のため、崩落部については約2m×2m南へ拡張する。

7月1日(金)

ST1の調査。

7月7日(木)

調査区西側南にST3検出。約3分の1が検出できる。残りの3分の2は調査区外。

7月8日(金)



ST3付近遺構検出。ST3の調査。

7月13日（水）

ST1バンク断面図。バンク除去。

ST3の調査。

7月14日（木）

ST1バンク除去、ST2完掘、土器
取り上げ。

7月15日（金）

ST1完掘、平面図・レベル測量。

7月19日（火）

ST3調査、ST3付近遺構掘削。

7月20日（水）

ST3測量。

7月21日（木）

鉄製U字型鋤出土（SK45）、ST4を切っている。ST3バンク除去。

7月22日（金）

SK46、P300まで平面図。

7月25日（月）

ST4バンク断面をとる。調査区西側北、遺構検出。

7月27日（水）

P326、SK47まで平面図をとる。

7月28日（木）

P327～343、SK48～51平面図作成。

7月29日（金）

北壁・南壁セクション図作成。

調査区外の試掘トレンチ2と3に杭を打ちトレンチの位置が分かるように確認。

発掘調査終了。

8月から埋め戻し作業



第4節 西野遺跡群の範囲と遺跡名の変更について

「西野遺跡群」として遺跡範囲が確定したのは、昭和53年のことである。西野1530番地など、周辺から遺物が出土することが知られており、昭和53年の分布調査の際にも弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての遺物が分布することが確認されていた。

「遺跡」ではなく「遺跡群」としたのは、昭和50年代初頭に遺跡が確認された時点でより広い範囲に遺物の分布が確認されたため、野市町西野周辺（現在の深淵遺跡から上岡遺跡に至る範囲）を一連の遺跡群として捉えたためではないか、と考えている。当時の地元紙、高知新聞に記事で紹介された遺跡の範囲図にも、深淵から上岡までの物部川左岸段丘上が「西野遺跡群」の範囲として示されている。平成16年度のルノ丸地区試掘調査（平成17年3月16日～30日）以降、「西野遺跡群」という当初設定された遺跡名称により調査が行われた。高知県教育委員会の包蔵地カードでも「西野遺跡群」として記録されていたことから、この遺跡名称で調査が進められたのは、自然であり妥当なことである。

一方、平成4年に刊行された『野市町史 上巻』原始編・第二章弥生時代の中で、廣田典夫氏はこの遺跡を「西野遺跡」として報告している。「物部川左岸段丘上に広がる広範な遺跡と見られる。ただ、発掘調査された遺跡ではないので、断片的にしき資料を得ることができなかった。ここでいう西野遺跡とは、西野ルノ丸1530番地の地下60cmから出土した遺物と、西野1514番地の遺物が発見された地点につけた遺跡名である。」と遺跡名が紹介されており、「西野遺跡群」ではなく、「西野遺跡」として把握されていたことがわかる。

西野遺跡出土遺物は、1530番地からは、弥生中期初頭の田村式土器、古墳時代初頭のヒビノキⅢ式土器、1514番地は井戸からの出土で、古墳時代のヒビノキⅢ式土器（甕形土器・土製支脚など）、古墳後期の須恵器、平安前期の土師器羽釜などが、実測図とともに紹介されている。遺跡範囲からみれば、西野遺跡群ではなく「西野遺跡」が遺跡名称として適切である。遺跡は広範囲に広がっているのだが、周辺に近接する深淵遺跡・下ノ坪遺跡・北地遺跡（発見された当時は、下井遺跡と呼ばれていた－野市町史による－）の遺跡範囲と比較しても質的な差はほとんどない。それでは、西野遺跡群の名称が使われはじめ、遺跡名称として定着していくのはいつ頃のことなのだろうか。

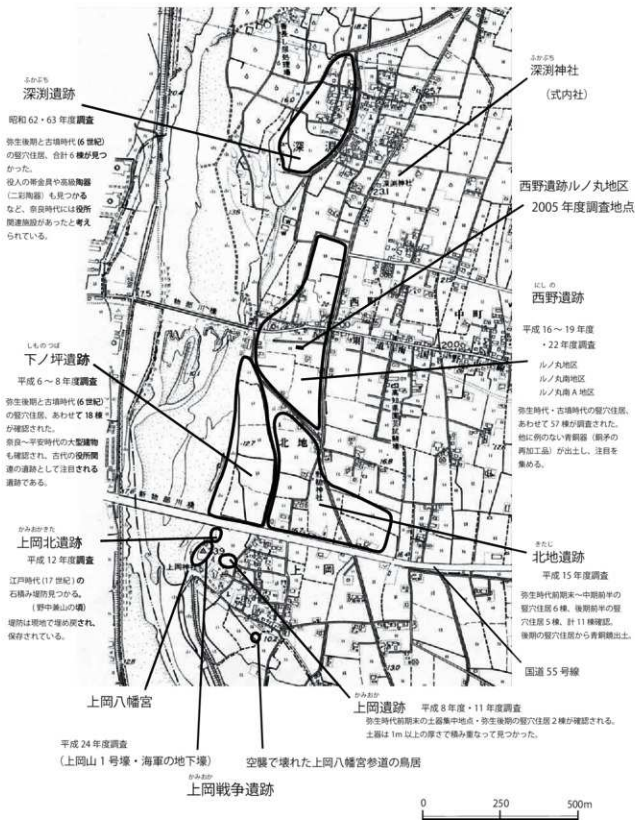
昭和51年発行の『全国遺跡地図 高知県』（文化庁）によると、242深淵城跡、243深淵遺跡（深淵・西町・北地一帯）、244北地遺跡、245下の坪条里遺跡、となっており、西野遺跡群は深淵遺跡の範囲にある遺跡として把握されていた。（遺跡地図を添付）

平成8年発行の『高知県遺跡地図』（高知県教育委員会文化財保護室 高知県埋蔵文化財調査報告第42集）では、地図No10－634深淵遺跡、635深淵城跡、636西野遺跡群、638下ノ坪遺跡、639北地遺跡となり、「西野遺跡群」の名称が使用されている。

野市町教育委員会および高知県教育委員会が行った分布調査を基にした遺跡台帳（埋蔵文化財包蔵地カード）には、より詳細な情報が記されている。

昭和53年3月12日付の高知県教育委員会の調査（調査員浜田真高）によれば、この遺跡が「西野遺跡群」として報告されている。出土地点は3箇所、下井605番地（弥生土器－大篠・田村式）と西野1309-1番地（弥生土器－大篠・田村・ヒビノキⅡ）、そして西野1509番地（弥生土器－大篠・

※ 西野遺跡周辺の物部川沿いに広がる遺跡（弥生時代～第二次世界大戦）



第4図 西野遺跡周辺の地形と遺跡

田村・神西、須恵器)となっており、出土資料の一部は、野市町西野在住の河野通信氏が所蔵・保管していると記録されている。また、昭和53年10月9日、岡本健児、宅間一之、野市町教委、発見者で実地調査確認、と付記されていた。

注目されるのは、遺物出土地点の中に下井605番地が含まれていることである。この地点は、現在松田ふとん店が建っている場所で、松田ふとん店からは40年以上前の建築時に土器がまともに出土したという証言が残っている。(前出浜田真尚氏)現在、下井605番地周辺は北地遺跡の範囲にあたる。北地遺跡は平成元年3月22日の高知県教育委員会の踏査(調査員吉原達生)により、弥生時代の集落遺跡として包蔵地に指定された地点なのである。

すなわち、遺跡の名称設定時においては、深淵地区の南から国道55号線周辺、現在の北地遺跡の範囲まで、南北約1km以上、東西約200～400mの広範囲に遺跡が広がると想定した上で「西野遺跡群」と呼んでいたと考えられる。しかし、台帳に指定された領域には「下井605番地」は含まれておらず、現在の西野遺跡群よりもさらに狭い範囲のみが包蔵地とされていた。現在の包蔵地の範囲が確定したのは、平成17年度の試掘調査(野市町教育委員会・担当更谷大介)で遺跡が南側に広がる事が確認されてからのことである。

とするならば、あえて現在の遺跡範囲を西野遺跡群とする必然性はないことになる。遺跡名から「群」を取り除き、新たに「西野遺跡」あるいは「西野ルノ丸遺跡」と呼ぶ方がより適当だと考える。

野市町史の中で、廣田典夫氏は「西野遺跡」と「下井遺跡」として、2005年調査時点での周知の埋蔵文化財包蔵地名である「西野遺跡群」と「北地遺跡」の範囲に対応する遺跡を区別していた。西野遺跡も下井遺跡も他の文献には登場しておらず、遺跡名の由来を示す出典は明らかではない。発掘調査ではなく表採資料であり、土器出土地点は遺跡台帳とは異なっているものの、遺物実測図も示されており詳細な報告となっている。

平成24年度、香南市教育委員会は高知県教育委員会文化財課と協議、従来使われてきた「西野遺跡群」の名称を「西野遺跡」に変更する方向で検討を進めている。

本報告書中でも以下、「西野遺跡群」ではなく「西野遺跡」の名称で調査報告を行いたい。

第二章 位置と環境

第1節 位置と自然環境

西野遺跡は、高知県香南市野市町西野に所在する^①。物部川の段丘面上に立地し、物部川に接する下段には下ノ坪遺跡と上岡北遺跡、上岡遺跡が、同じ段丘面の南隣には北地遺跡、さらに北側には深瀬遺跡があるなど、周辺一帯の物部川段丘面に遺跡が分布している。

昭和40年代から一帯に遺物が散布することが知られており、遺跡の南方を走る南国バイパス(国道55号線)建設の際にはまとまった土器の出土が報告されている^②。土器の出土した地点を中心に、南北約600m、東西約100～200mの範囲が「西野遺跡群」として埋蔵文化財包蔵地として指定されてきた。

近年の開発に伴って、西野遺跡の東側一帯も野市町教育委員会による試掘調査が行われているが、東側には今のところ、新たな遺跡は確認されていない。

西野遺跡は野市台地の東端、物部川段丘上にあたる。段丘の下段また、遺跡の南付近から三宝山にかけてのエリアに仏像構造線が走っている。遺跡周辺の地質構造帯は三宝山帯(秩父帯南帯)であり、チャートを中心にした岩石層を示すが^③、物部川上流域の三波川帯の緑色岩類も河川的作用により運ばれてきている。

西野遺跡の南西には、このエリアのランドマークだったと考



第5図 西野遺跡南側・物部川下流域の地形
(昭和8年測量の2万5千分の1地形図)

えられる「上岡山」がある。物部川対岸の旧三島村（現南国市田村、上岡山も三島村の範囲）には、昭和17年に始まる高知海軍航空隊第一飛行場（日章飛行場）建設計画と滑走路建設により、取り除かれて現在はなくなった通称「命山」（久枝山）という標高28mの小丘陵があった⁴¹。

物部川は土佐3大河川の一つであり、総延長71km、流域面積468平方キロメートル、高知平野の東半分にあたる香長平野をつくった河川である。現在の物部川下流域の本流は、江戸時代に掘削されて開かれた流路で、それ以前は南国市南部の平野部を分流していた。遺跡は現河口まで約2kmの地点の左岸にあり、物部川の下流域にあたる。現在は国道55号線と旧国道55号線である県道364号線が遺跡をはさんで東西方向に走っている。南1kmの場所に高知平野東部に栄えた商都赤岡町と物部川右岸の南国市南部地域を經由して高知市を結ぶ旧街道である「下街道」が主要交通路として機能しており、物部川左岸の渡し場付近には宿もあり、昭和初期までは、にぎわっていたようだ⁴²。

(1) 香南市は2006年3月、赤岡町・香我美町・野市町・夜須町・吉川村が合併して誕生した。2012年12月現在、面積126.51km²、人口約33,600人。

(2) 「下井南国バイパス」「下井ヲノ丸」「西野ノ丸」など出土した土器は、野市図書館地下倉庫に保管されてきたが、現在は、香南市文化財センターで整理中である。

廣田典夫「原始編 第二章 弥生時代 第一節」『野市町史 上巻』平成4年 野市町史編纂委員会

(3) 『日本の地質8 四国地方』共立出版 1998年

(4) 命山については、『南国市史 上巻』1979年『里改田遺跡発掘調査報告書』などに詳しい。また、高知海軍航空隊第一飛行場建設に関する経緯は、『高知空港史』に詳述されている。

(5) 参考『2009年度香南市史跡めぐり資料』 谷合卓氏（香南市文化財保護審議委員）の御教示による。



第6図 西野遺跡周辺の地質構造帯

第2節 歴史的環境 ～香南市域 物部川下流域から香宗川下流域にかけての遺跡～

物部川下流域の左岸（香南市域）では、川沿いの河岸段丘上に遺跡が集まっている。特に西野遺跡周辺には、弥生時代から近世にかけての遺跡が集中する。この地域では弥生時代前期末（約2400年前）に物部川対岸の田村遺跡群から分村によって集落が成立、以後盛衰を繰り返しながら集落規模が拡大していく。弥生時代から古墳時代にかけて、西野遺跡周辺で発掘調査により調査された竪穴住居は98棟にのぼる（2012年12月現在¹¹⁾。奈良～平安前期の官衙関連遺跡である深淵遺跡¹²⁾・下ノ坪遺跡¹³⁾、近世の石積み堤防が確認された上岡北遺跡¹⁴⁾など、それ以降の時期も注目される遺跡が多い。



弥生中期前半の竪穴住居（北地遺跡）

また近年、市中央部を流れる香宗川下流域の遺跡も調査され¹⁵⁾、市内の主要河川沿いに遺跡が分布している状況がわかりはじめた。

旧石器～縄文時代

現段階で、香南市内で旧石器時代の遺跡は確認されておらず、縄文時代の遺跡も市内全域で5遺跡と極めて少ない。高知県内でも旧石器はほとんど出土せず、様相は不明だったが、近年、香南市に隣接する南国市や香美市の国分川水系で奥谷南遺跡¹⁶⁾、新改西谷遺跡¹⁷⁾など発掘調査によって旧石器時代遺跡の存在が知られはじめた。物部川水系にも佐野楠目山遺跡¹⁸⁾や林田遺跡¹⁹⁾など、新たに旧石器時代の遺跡が確認されている。

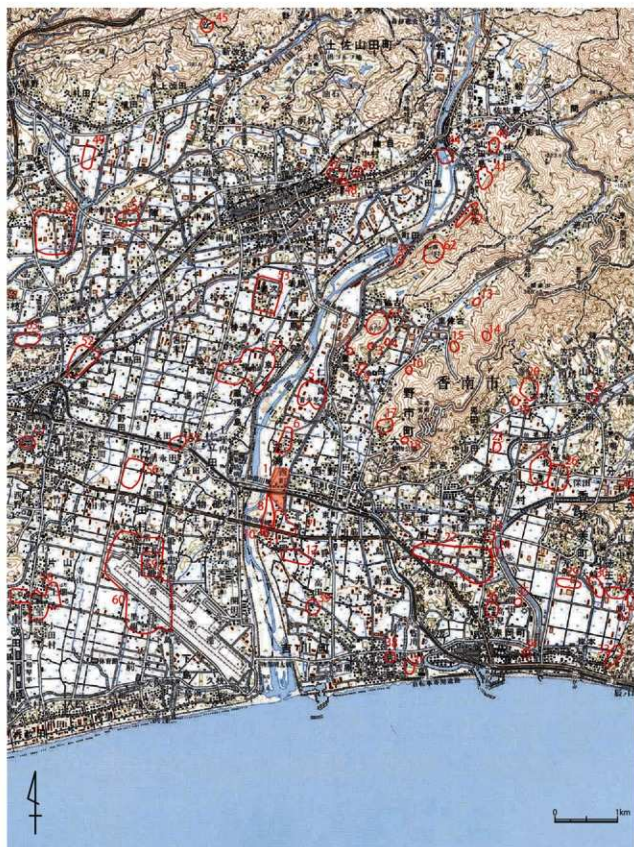


縄文晩期の孔列文土器（庭ヶ淵遺跡）

2011年、香我美町の香宗川の支流山南川に面した段丘上から、縄文晩期から弥生前期前半にかけての移行期の集落・庭ヶ淵遺跡が確認された²⁰⁾。孔列文土器や北陸系の縄文弥生移行期の土器（長竹式土器の影響下に成立した土器）など、在地の晩期突帯文土器から弥生前期前半の遠賀川式土器など出土遺物の様相は、当該期の山間部に展開する小集落のあり方を示している。火処や使用された礫、住居の可能性のある竪穴状遺構など、香南市内の縄文遺跡として初めて集落を復元可能な遺構を検出した遺跡としても注目される。

弥生時代

香宗川下流域の徳王子大崎遺跡²¹⁾から、前期前半西見当Ⅰ式段階の土器と遺構が検出されている。前期前半にさかのぼる遺跡は、庭ヶ淵遺跡と徳王子大崎遺跡の2例のみである。高知平野の他地域同様、香南市域においても、前期末～中期初頭と後期後半～古墳時代初頭の2時期に遺跡数が増加、



第7図 西野遺跡周辺の遺跡

その直後に顕著な遺跡数減少が認められる。



下分遠崎遺跡出土土器（弥生時代中期）

・前期末～中期初頭

市内全域で集落が確認され始める。当遺跡周辺の土岡²²・北地・下ノ坪遺跡、香宗川流域の下分遠崎・十万²³・拝原遺跡²⁴など、遺跡数が急増する。北地遺跡からは田村遺跡以外に県内では出土例のほとんどない前期の磨製石鏃が出土している²⁵。香南市内の弥生集落は、弥生時代の拠点集落田村遺跡群（物部川対岸・南国市）²⁶との関連を抜きにしては語れない。

・中期前半～中葉

北地・下分遠崎・十万遺跡などいくつかの集落は、前期末から集落が継続する。「土佐の登呂遺跡」とも称される下分遠崎遺跡からは、大量の土器とともに木製品や種子、獣骨・魚骨など大量の自然遺物が出土しており、当時の生活復元のための大きな手がかりとなっている²⁷。この時期は、田村遺跡群でも遺構がきわめて少なくなる時期で、遺構、特に竈穴住居はほとんど見つからない。北地遺跡からは、県内で類例のほとんどな

表1 西野遺跡と高知平野東半・物部川下流域の遺跡

番号	遺跡名	主な時代	番号	遺跡名	主な時代	番号	遺跡名	主な時代
1	西野遺跡	弥生～古代	22	東野土居遺跡	弥生～近世	43	司田塚東遺跡	縄文～中世
2	父業寺古墳	古墳	23	香宗城跡	中世	44	山田塚	近世～
3	日吉山古墳群	古墳	24	宝鏡寺跡	中世	45	新改西谷遺跡	旧石器・古代・中世
4	亀山竈跡	古代	25	磐我遺跡	弥生～中世	46	ひびのき遺跡	弥生・古墳
5	深湖北遺跡	弥生・古代・中世	26	下分遠崎遺跡	弥生	47	ひびのきサウジ遺跡	弥生～近世
6	深洲遺跡	縄文～中世	27	岡ノ芝遺跡	古墳～中世	48	伏原大塚古墳	古墳～中世
7	北地遺跡	弥生～古代	28	十万遺跡	縄文～中世	49	白桶田遺跡	古墳・古代
8	下ノ坪遺跡	弥生～古代	29	花室遺跡	弥生～古墳	50	土佐国府跡	弥生～中世
9	母代寺土居屋敷遺跡	弥生・古代・中世	30	徳王子大崎遺跡	弥生・古蹟・中世	51	三島遺跡	弥生～古代
10	上岡北遺跡	弥生・近世	31	徳王子広本遺跡	弥生～中世	52	東崎遺跡	弥生～中世
11	上岡遺跡	弥生・古代	32	徳王子前島遺跡	弥生～中世	53	大塚遺跡	古墳～中世
12	高田遺跡	平安	33	クノ丸遺跡	弥生～近世	54	岩村遺跡群	弥生～中世
13	小山古墳	古墳	34	江見遺跡	古墳	55	寺ノ前遺跡	弥生～中世
14	鬼ヶ岩屋洞穴遺跡	弥生	35	大東遺跡	古墳～近現代	56	修理田遺跡	弥生～古代
15	白岩竈跡	古代・中世	36	須留田城跡	中世	57	大篠小学校校庭遺跡	弥生
16	竹ノ内山古墳	古墳	37	住吉砂丘遺跡	弥生	58	里改田遺跡	弥生～中世
17	大谷城跡	中世	38	南中曾遺跡	弥生・古墳	59	田村城跡	中世
18	大谷古墳	古墳	39	野口遺跡	弥生～中世	60	田村遺跡群	縄文～近現代
19	大崎山古墳	古墳	40	林田シクノテ遺跡	縄文～中世	61	前ノ山城跡	中世
20	本村遺跡	弥生	41	林田遺跡	弥生～中世	62	鳥ヶ森城跡	中世
21	栗田柳ヶ本遺跡	弥生・古墳	42	加茂遺跡	古墳～中世	63	折牟遺跡	縄文～近世

い中期前半の竪穴住居が確認された²⁸。

・中期後半

香南市域で、この時期明確にまとまった遺物が出土したといえる遺跡は現段階では確認できていない。これに対して、田村遺跡群は集落が拡大していく時期で、土器の出土量も増加してくる²⁹。

・中期末～後期初頭にかけて

仏像構造線周辺の山間や山麓部に高地性集落（本村遺跡、笹ヶ峰、鬼ヶ岩屋、龍河洞など）が確認されている。後期初頭になると下ノ坪遺跡など平野部にも新たに集落が形成される。

本村遺跡では竪穴住居7棟や段状遺構など、当地域において中期末から後期の初めにかけての短期間機能した丘陵上のムラの姿が明らかになった。瀬戸内の影響が強い凹線土器の割合が高く、ガラス製の勾玉も出土している³⁰。



本村遺跡の竪穴住居（高地性集落・弥生中期末）

・後期前半～中葉

下ノ坪遺跡が盛行し、集落は周辺へと広がっていく。田村遺跡群の集落最盛期とも重なる。このころになると鉄器の普及も進み、遺跡からの出土量も増加する。青銅器も特徴的で、日本でも例のない西野遺跡出土の銅矛の再加工品³¹、時期は異なるが兎田八幡宮伝世の絵画銅剣³²など、遺跡周辺には特異な青銅器が存在する。後期前葉の下ノ坪遺跡や銘々器である小型鉢が増加する後期中葉の深淵遺跡には、直径7～8m大の大型住居が出現する³³。下ノ坪遺跡の大型住居からはガラス玉など威信財もまとめて出土しており、他の住居との明確な違いが認められる³⁴。



西野遺跡ルノ丸南A地区出土の青銅器再加工品

・庄内期（弥生時代終末～古墳時代初頭）

弥生時代終末から古墳時代にかけて、集落が増加し、他地域からの土器の持ち込みが目立つようになる。鉄器の普及はさらに加速し、土器は調整痕であるタタキ目のみで、加飾がほとんど認められなくなる。庄内式土器はじめ各地の搬入土器が、西野・兎田柳ヶ本・東野土居遺跡など、当該期の遺跡から出土している³⁵。ほぼ完形の庄内式土器が確認された江見・東野土居・兎田柳ヶ本遺跡など香宗川流域からの出土例が目立っている³⁶。これらの大半は集落遺跡だが、兎田柳ヶ本遺跡からは、平野部に形成された周溝を持つ墓域が検出され、高知平野でも類例の少ない弥生・古墳移行期の墓域として注目されている³⁷。

古墳時代～飛鳥・白鳳期

香我美町押原遺跡から4世紀の住居跡が確認されているが、発掘調査によって明らかになった5世紀から6世紀前半にかけての集落の例は、今のところなく、古墳の状況もこの地域の人口減少を示唆する。6世紀の後半になって、深淵遺跡や下ノ坪遺跡では竈を持つ竪穴住居が出現する³⁸。



古墳時代後期のカマド（下ノ坪遺跡）

時期の集落（深測・下ノ坪・西野など）も確認されている²⁹。

7世紀末～8世紀初めの須恵器窯として徳王子窯跡の存在が知られている³⁰。この地域には礎石の存在を根拠に、古代寺院の存在の可能性が追求されてきた³¹が、近年の発掘調査で、8世紀初めの瓦頭が出土（東野土居遺跡）³²、古代寺院があった可能性が高まっている。

香南市域でみつかった古墳は、物部川以西の高知平野中央部と比べて格段に少ない。香我美町徳王子天皇古墳が唯一中期古墳（5世紀代）とされる例で、現存あるいは記録保存された古墳は大崎山・大谷・小山・溝瀆山古墳など全て後期古墳であり、小規模古墳の多くは消滅しており、実見することはできない。多くは6世紀後半以降の古墳であり、古墳のある地域には同

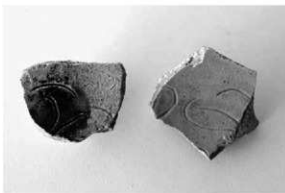


徳王子窯跡

古代（奈良～平安前期）

8世紀には、下ノ坪遺跡や深測遺跡など官衙的な性格を持つ遺跡の存在が知られるようになってくる。香南市域においても、8世紀から9世紀にかけて香宗川流域の曾我遺跡や十万遺跡など官衙関連遺跡（郷家だと想定されている）が確認されるようになる³³。深測遺跡からは二彩陶器や緑釉陶器、曾我遺跡からは近江産や洛北産を中心に総数45点以上の緑釉陶器が出土している。曾我遺跡は高知県で最も多くの緑釉陶器を出土した遺跡である³⁴。

なお、西野遺跡からは東海系猿投窯の緑釉陶器（印刻花文）の出土が確認されている。未報告資料だが、現段階で2点の東海系緑釉陶器が出土していることを提示しておきたい³⁵。2点とも9世紀後半のK-90（猿投窯黒笹90号窯）の段階に比定される資料であり、同様の印刻花文緑釉陶器の出土は、高知県内では奥谷南遺跡1995年度調査（山岳寺院の可能性のある遺跡・推定される寺院名称「清山寺」³⁶）例以外になく、この遺跡の特殊性を物語る極めて重要な資料だといえる³⁷。



西野遺跡出土 印刻花文緑釉陶器

古代の役人の存在を直接想起できる革帯装飾具が出土した遺跡だけでも、深測遺跡（銅製蛇尾）、下ノ坪遺跡（石製丸軻）、十万遺跡（石製丸軻）、東野土居遺跡（石製丸軻・2009年の香南市教育

委員会試掘調査時に出土)と4遺跡にのぼる。石製丸靴が確認されたのは、県内では物部川と香宗川に挟まれたこの地域だけである³³⁾。

これら郡衙や郷家に関すると考えられる遺跡の中でも、特に注目されるのは、下ノ坪遺跡である。長岡京・太宰府以外に出土例のない四仙騎獣八稜鏡や赤彩土師器、製塩土器、硯類など官衙関連遺跡の中でも特別な機能を持ったエリアであることを示す遺物を含む大量の出土遺物とともに、コの字状に配置された一辺20m近い大型の建物群も確認され、郡衙関連の川津ではないかと遺跡の性格についても検討が進められている³⁴⁾。



下ノ坪遺跡より物部川と土佐湾を望む

古代から中世へ

9世紀後半から10世紀になると、今まで盛行していた遺跡が地点を変えたり、規模が縮小されたりするなど、律令制の崩壊過程に入ったことが、遺跡の上にも反映されるようになる。深淵遺跡(7～9世紀)の官衙的機能は、北方にある深淵北遺跡(9～12世紀)へと移り、官衙関連の建物群が検出された下ノ坪遺跡からも、10世紀後半以降の遺物出土量は少ない。

遣唐使廃止後、王朝国家体制が展開しはじめる10世紀は、古代から中世への転換期であり、この時期、この物部川左岸段丘上の西野遺跡周辺で確認される遺構や遺物は少なくなる。

中世

11世紀後半から12世紀には、土佐でも各地で荘園が成立、香南市域でも大忍庄・夜須庄・吉原庄・須留田別府・香宗我部保などの存在が知られている³⁵⁾。西野遺跡でも一定量の遺物が確認され、遺構も形成されている³⁶⁾。

この時期には、曾我遺跡や深淵北遺跡、母代寺土居屋敷遺跡などの調査例がある³⁷⁾。深淵北遺跡は、古代末から中世前期にかけて機能した川津であり、白磁など日宋貿易にかかわる遺物や布目瓦が出土している。院政期の寺院建立に対応した瓦需要の増加に応え、亀山窯などで生産された瓦の積み出し港としての役割も担っていたと考えられている。亀山窯に近い母代寺土居屋敷遺跡からは、屋敷跡と大量の瓦と土器による廃絶儀礼がのこる井戸が確認されている³⁸⁾。

西野遺跡北方には、夜須行宗が源希義救援に駆け付けたものの、希義討死を聞き引き返したと伝えられる野々宮の森がある³⁹⁾。12世紀末には、中原秋家が地頭として着任、その子孫は香宗我部氏として中世を通じて勢力を拡大していく。16世紀にかけて、土佐全域で700箇所以上の山城が築かれるが、香南市域でも43箇所の中世城郭が確認されている⁴⁰⁾。

野市台地から香宗川流域、さらに東の夜須川流域は中世の石造物が多く残されている。五輪塔や線刻地藏など石造物は中世の景観復元の手がかりとなり得る貴重な歴史資料である⁴¹⁾。

近世

近世に入ると、野市台地の開墾が、土佐藩家老野中兼山によって進められ、17世紀半ば過ぎには野市台地の開発が進み、開墾によって得られた耕作地は野市台地だけで合計702町歩に達する⁴²⁾。

この文献史料によって伝えられる野市台地開墾の実態が、遺跡の発掘調査によって検証され、新たな事実が明らかになろうとしている。2009年から2011年にかけての高規格道路建設に伴う東野土居遺跡の発掘調査で、生産施設（水田・畑）や関連する水利施設が野市台地上から確認されたのである⁹⁰。確認された生産関連遺構群の検討により、近世の野中兼山の開墾の具体的な展開の一端が明らかになるのではないかと。東野土居遺跡の調査報告に期待したい。

土佐藩藩政前期の開墾以降、野市は近世郷村として発展する。幕末には、市内で大石弥太郎（圓）・新宮馬之助・安岡嘉助など郷士を中心に人材を輩出する⁹¹。

近世で注目されるのは、西野遺跡の南、上岡北遺跡で発掘された石積みの堤防である。堤防の上面からは18世紀後半から19世紀にかけての陶磁器が出土している。しかし、堤防内からの時期判定可能な出土遺物は皆無であり、遺物から、この堤防状遺構の時期を特定することはできなかった。遺物はないものの、この堤防は近世の絵図面と形態を手がかりに、野中兼山の時期に築かれたと推定されている。この遺構の歴史的意義を確認した上で、当時の野市町教育委員会は迅速に保存を決定、施設設計画の設計変更を行った⁹²。

上岡北遺跡の堤防は、先人の残した歴史を伝える貴重な文化財として、現地でそのまま埋め戻され、大切に保存されている。



保存された近世の堤防（上岡北遺跡）

近代～第2次世界大戦（香南市戦争遺産）

明治維新以降、土佐には新しい時代を求めて、自由民権の波が押し寄せた。「自由は土佐の山間より」、香南市内でも民権派の演説会、集会が企画される。農村にも新しい時代を学ぼうとする



重要文化財 安岡家住宅



空襲で破壊された上岡八幡宮参道の鳥居

情熱が満ち溢れ、富家村の初代村長役春田の薫陶により、多くの青年が夜毎集い、学び、演説会を行った。その中には、後に世界的に有名になり、現在に伝わる森田療法の創始者森田正馬もいたという⁹³。

日清戦争以降、日本の近代対外戦争が始まる。香我美町山北と夜須町羽尾長谷寺山門にある日清戦争の石碑は、単独で日清戦争を伝える記念碑としては、県内に残る数少ない例として知られている。特に従軍した村民15名の個別の従軍記録を刻んだ山北村

清役記念碑は、当時のできごとを伝える歴史史料としても重要である⁹³。

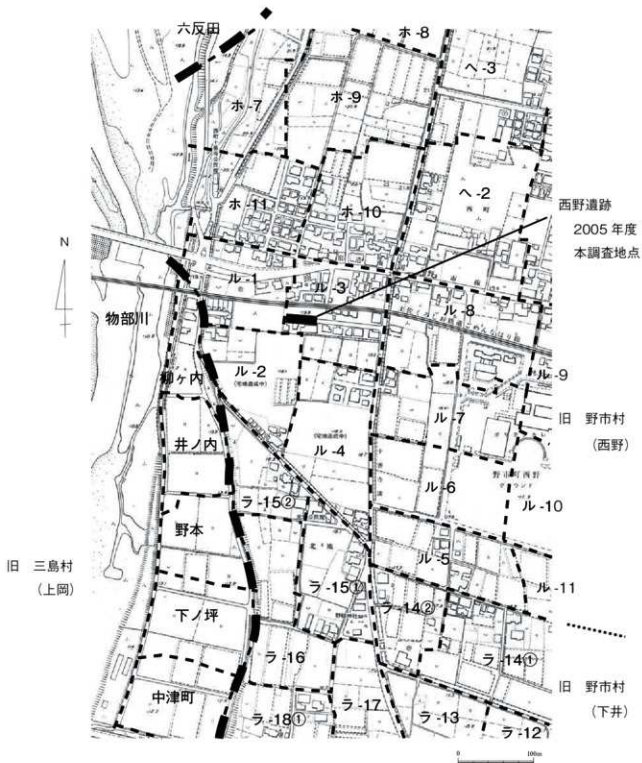
夜須町大峰山の海軍砲台跡⁹⁴や南海地震津波対策の避難路建設に伴う海軍の地下壕（上岡山1号壕）の調査⁹⁵など、近年、市内の第2次世界大戦末期の戦争遺跡に関する調査・報告が相次いでいる。本土決戦に備えて平野部の山々に構築された壕や陣地など、市内には数多くの戦争遺跡が残る。香南市教育委員会は、平成24年度から、これら戦争遺跡について、今まで語り伝えられ記録されてきた戦争体験とともに「香南市戦争遺産」として将来の世代に伝えていく取り組みを始めた⁹⁶。戦争体験を伝える語り部が少なくなる中、直接、戦争体験を聞く機会は貴重である。同時に戦争遺跡の果たす役割も年ごとに大きくなっている。

脚注 参考・引用文献

- (1) 本文9ページ 第4図参照
- (2) 高橋啓明・出原恵三・吉原達生『深淵遺跡発掘調査報告書』野市町教育委員会 1989年
- (3) ①出原恵三・池澤俊幸・小松大洋・行藤たけし「下ノ坪遺跡Ⅰ」野市町教育委員会 1997年
②出原恵三・池澤俊幸・小松大洋「下ノ坪遺跡Ⅱ」野市町教育委員会 1998年
③更谷大介「下ノ坪遺跡Ⅲ」野市町教育委員会 2000年
- (4) 更谷大介・溝渕真紀「上岡北遺跡」香南市教育委員会 2009年
- (5) 南国安芸道路建設に伴い、高知県埋蔵文化財センターの調査が進んでいる。
「東野土居遺跡平成22年度現地説明会・記者発表資料」(財)高知県埋蔵文化財センター 2010年
- (6) 松村信博・山本純代「奥谷南遺跡Ⅲ」(財)高知県埋蔵文化財センター 2001年
- (7) 中山泰弘「新改西谷遺跡・勝楽寺跡」土佐山田町教育委員会 2002年
- (8) 松村信博・山崎真治「高知県出土の後期旧石器時代新出資料と細石刃文化期の遺跡」
〔第17回中・四国旧石器文化談話会資料〕2000年
- (9) 藤方正治「林田遺跡Ⅲ」(財)高知県埋蔵文化財センター 2005年
- (10) 「庭ヶ洞遺跡 記者発表・現地説明会資料」香南市教育委員会 2011年
- (11) 「徳王子大崎遺跡 現地説明会資料」(財)高知県埋蔵文化財センター 2008年
- (12) 更谷大介・溝渕真紀「上岡遺跡」野市町教育委員会 2005年
- (13) 高橋啓明・出原恵三・吉原達生「十万遺跡発掘調査報告書」香我美町教育委員会 1988年
- (14) 出原恵三「拝原遺跡」香我美町教育委員会 1993年
- (15) 松村信博・宮地啓介「北地遺跡」香南市文化財センター 2011年
- (16) 出原恵三「南国土佐から問う弥生時代像 田村遺跡」新泉社 2009年
- (17) 出原恵三「下分遠崎遺跡発掘調査報告書(1)」香我美町教育委員会 1989年
- (18) 出原恵三「下分遠崎遺跡」(財)高知県埋蔵文化財センター 1994年
- (19) 山本八也・松村信博「下分遠崎遺跡Ⅳ」香南市教育委員会 2010年
- (20) 同15
- (21) 同16
- (22) 坂本憲昭「高知県野市町本村遺跡調査報告書」野市町教育委員会 1993年
- (23) 「香南市野市町西野遺跡群出土の新知見の弥生時代の銅矛再加工品について 説明会資料」香南市教育委員会・高知県立歴史民俗資料館 2008年
- (24) 岡本桂典「高知県香美郡野市町兎田八幡宮所蔵の絵画のある銅剣」(『考古学雑誌』80-1) 1994年

- 229 同(2)・(3)
- 230 下ノ坪遺跡ST11は直径8m以上の大型住居址で、ガラス小玉80点が出土している。 同(3)②
- 231 東野土居遺跡の調査では竪穴住居内から完形の庄内式土器が出土している。 同(5)
- 232 江見遺跡(旧赤岡町)の庄内式土器は大正年間にも井戸掘削中地表下4mから発見された。
- 233 『赤岡町史 改訂版』赤岡町史編纂委員会 2008年
- 234 松村信博・宮地啓介『兎田柳ヶ本遺跡』香南市教育委員会 2011年
- 235 池澤俊幸「高知平野における古墳時代後期の竪穴住居について-カマドより見た予察-」同(3)①
- 236 同(2)・(3)・(2)
- 237 『香我美町史 上巻』香我美町史編纂委員会 1985年
- 238 恒石真生・谷合卓『伝・香宗城礎石は古代寺院の礎石転用と鑑定』野市町文化財保護審議会 2005年
- 239 同(5)
- 240 高橋啓明・吉原達生『曾我遺跡発掘調査報告書』野市町教育委員会
- 241 同(2)
- 242 百瀬正恒氏・橋本久和氏・森島康男氏のご教示による。
- 243 松村信博・山本純代『奥谷南遺跡Ⅱ』(財)高知県埋蔵文化財センター 2000年
- 244 池澤俊幸「四国地方の鈎帯」(『鈎帯をめぐる諸問題』奈良文化財研究所)2002年
- 245 山本八也・伊野広高『東野土居遺跡試掘調査概要報告書』香南市教育委員会 2009年
- 246 同(3)及び『高知県の歴史』山川出版社 2012年
- 247 『高知県の歴史』山川出版社 2012年
- 248 『平成22年度 西野遺跡群 現地説明会資料』香南市教育委員会 2011年
- 249 吉成承三『深湖北遺跡』野市町教育委員会 1995年
- 250 松村信博・宮地啓介『母代寺土居屋敷遺跡』香南市教育委員会 2010年
- 251 『野々宮の森』は史跡として香南市指定文化財となっている。
- 252 香南市内の中世城郭の大半は中世後期のものだが、夜須行宗の居城とされる下夜須城跡など中世前期に遡る城郭もある。ただし、後世の地形変化のため中世前期の縄張りの把握はできない。
- 253 線刻地蔵は香南市及び隣接する香美市北部・安芸郡芸西村などに集中して分布し、他地域にはほとんど認められない。
- 254 『野市町史 上巻』野市町史編纂委員会 1992年
- 255 菊池直樹氏(高知県埋蔵文化財センター)のご教示による。
- 256 同(6)
- 257 同(4)
- 258 公文豪「別役春田と安岡家の人々」(平成24年度「山北文化の会」講演資料)
- 259 日清戦争以降、県内各地で戦争の記録が「記念碑」「忠魂碑」など石碑に残されるようになるが、日清戦争関連の石碑は極めて少ない。県内では5例が知られているに過ぎず、香南市の2ヶ所は貴重である。特に山北村の碑は、村内から出征した一人一人の記録が残されている点で注目される。平成23年に現地を訪ねてくださった井上勝生北海道大学名誉教授と小幡尚高知大学准教授から、日清戦争の記録が山北と同様に残る石碑は四国内でも他に1例(徳島県)あるのみだとのご教示をいただいた。
- 260 福井康人「呉鎮守府第十一特別陸戦隊の手結砲台跡」(『高知の戦争 証言と調査』第15号 平和資料館草の家 2011年12月)
- 261 『上岡山戦争遺跡(上岡山1号塚)見学会資料』香南市教育委員会 2013年1月
- 262 民具など戦時中の暮らしを伝える資料も、戦争体験や戦争遺跡とともに「香南市戦争遺産」と位置づけられている。

旧 深測村
(深測)



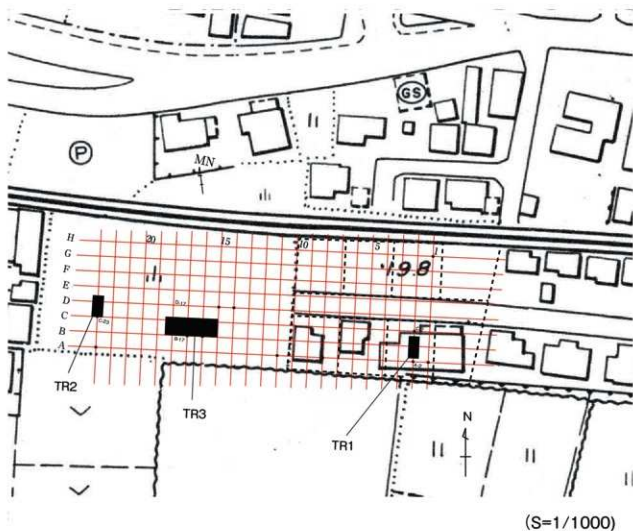
第8図 西野遺跡周辺の地籍図

第Ⅲ章 試掘調査（平成16年度）

第1節 試掘調査の概要

試掘調査は平成16年度に実施された。平成17年3月16日～30日まで、調査面積は約100㎡（調査対象面積4,471㎡）である。試掘調査の担当は更谷大介（財団法人野市町開発公社 埋蔵文化財調査員）と溝渕真紀（野市町教育委員会 臨時職員）であり、事務担当は岩神明美（野市町教育委員会 生涯学習課課長補佐）である。（以上、所属は平成16年度）

調査対象地内に3ヶ所の試掘トレンチを設定、調査区の東側からTR1～TR3までとし調査を進めた。重機及び手掘りにより遺構・遺物の有無を確認し、検出した遺構については平面図を1/20を基本に作成する。各トレンチの位置については平板による測量を1/250で行い、土層の確認は壁断面図を1/20で作成し記録を行う。



第9図 西野遺跡ルノ丸地区平成16年度試掘トレンチ位置図

第2節 試掘トレンチの概要と堆積状況・試掘報告まとめ

試掘TR1

調査対象地東側の南に設定した約3×4mのトレンチである。主にⅢ・Ⅳ層から土師質土器や須恵器などが約300点出土する。検出した遺構は、土坑・柱穴・溝上の落ち込みである。

西壁セクションをⅠ～Ⅴ層としてまとめる。

Ⅰ層：表土。

Ⅱ層：灰色シルト質土に橙色シルト質土が混じる。

Ⅲ層：灰黒色シルト質土。

Ⅳ層：黄橙色（茶色が濃い）シルト質～砂質土に1～20cm大の礫が混じる。

試掘TR2

調査対象地西側の南に設定した3×5mのグリッドである主にⅢ層より土師質土器や須恵器が出土した。検出した遺構は掘立柱建物跡・柱穴である。

西壁セクションをⅠ～Ⅳ層に分層。

Ⅰ層：表土。

Ⅱ層：灰色シルト質土に橙色シルト質土が混じる。

Ⅲ層：灰黒色シルト質土。

Ⅳ層：黄橙色（茶色が濃い）シルト質～砂質土に1～20cm大の礫が混じる。

試掘TR3

調査対象地中央側の南に設定した3×5mのグリッドである主にⅢ層より土師質土器や須恵器が出土した。検出した遺構は掘立柱建物跡・柱穴である。

西壁セクションをⅠ～Ⅳ層に分層。層名は試掘TR2と同様。

Ⅰ層：表土。

Ⅱ層：灰色シルト質土に橙色シルト質土が混じる。

Ⅲ層：灰黒色シルト質土。

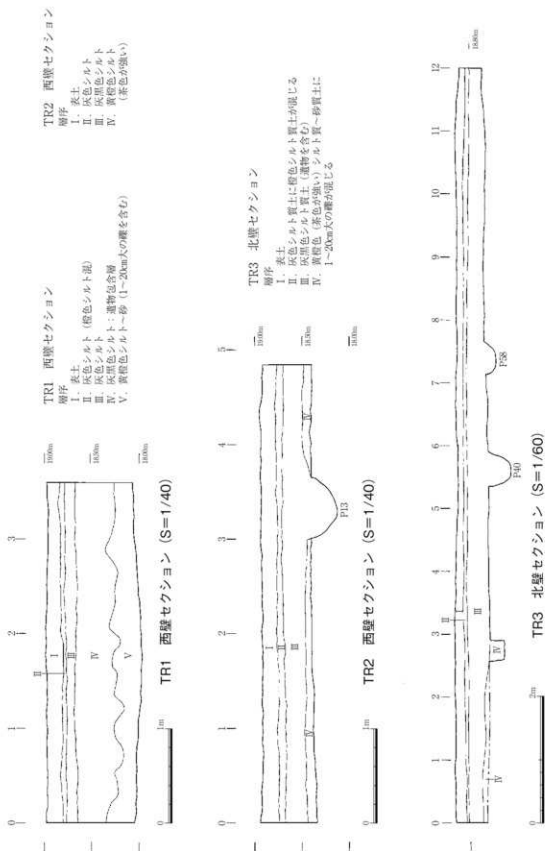
Ⅳ層：黄橙色（茶色が濃い）シルト質～砂質土に1～20cm大の礫が混じる。

試掘調査のまとめ

本調査地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である西野遺跡群内の南端部に位置しており、北側に深淵遺跡、南側に北地遺跡、西側に下ノ坪遺跡が存在している。

今回の調査の結果、本調査地には良好な包含層が遺存しており、土師質土器・須恵器等が約500点以上している。検出した遺構は、出土遺物から判断して平安時代に属するものと考えられる。

本調査地の遺構検出面は、西で標高18.5m前後、東で18.3m前後を測り、西から東へ向けて標



第10図 西野遺跡ルノ丸地区平成16年度試掘トレンチ セクション図 (S=1/40・1/60)

高は低くなっている。また、東の方が遺物包含層も厚く、遺物も多量に含まれており、平安時代後期に属すると考えられる土師質土器や須恵器、土鎌、中世の貿易陶磁器が出土している。

西側の標高が高い場所には柱穴が多数検出でき、掘立柱建物で構成される集落の一部が確認できた。

今回の試掘調査の結果、調査地全体に平安時代～鎌倉初頭の遺跡が遺存していることが考えられる。

参考資料)

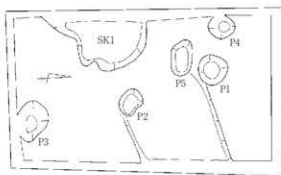
〔平成16年度 西野遺跡群宅地開発に伴う試掘確認調査概報〕 野市町教育委員会

第3節 試掘調査・遺構と遺物

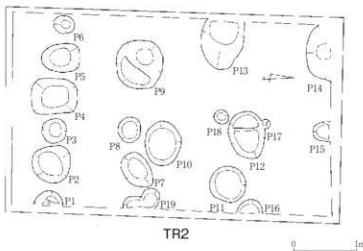
試掘調査で確認できた遺構と遺物の報告を試掘トレンチごとに行う。

遺構計測表の「グリッド」は、試掘調査時の位置を記録するため設定した任意の4mグリッドであり、2005年度本発掘調査で使用したグリッドとは異なるものである。

TR1はグリッドA-1・2とB-1・2周辺、TR2はD-22・23とE-22・23周辺、TR3はC14～17とD14～17周辺に設定したトレンチで、遺構の場所を示すためグリッド呼称を使用している。遺構番号については試掘トレンチごとの通し番号とした。図示可能な遺物のうち63点について図化（第13図～16図）し、詳細な内容については試掘調査遺物観察表（表5）に示している。



TR1



TR2

第11図 試掘TR1・2平面図 (S=1/60)

表2 試掘TR1遺構計測表及び出土遺物

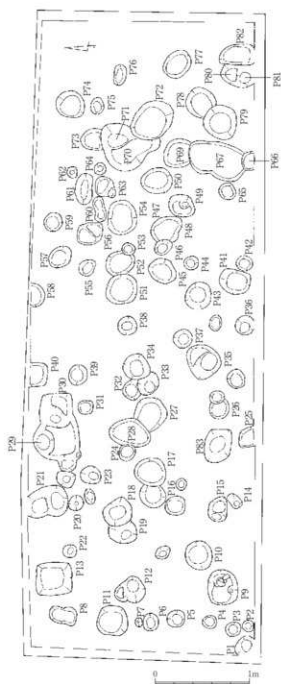
遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	検出面標高 (m)	底面標高 (m)	深さ (cm)	出土遺物	時期
P1	B-2	円形	48	—	18.281	18.062	22	土師器8点とテタキ目のある甕	古代
P2	A-2	不整形円形	42	38	18.212	18.042	17	土師器2点	古代
P3	A-1	楕円形	66	48	18.240	18.035	21		
P4	B-2	(楕円形)	42	(36)	18.245	18.079	17		
P5	B-2	不整形長方形	55	32	18.247	18.139	11		
SK1	A-2	不整形	160	78	18.314	18.154	16	土師器10点	古代

表3 試掘TR2遺構計測表及び出土遺物

遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	検出面標高 (m)	底面標高 (m)	深さ (cm)	出土遺物	時期
P1	D-22	(円形)	48	(24)	18.375	18.189	19	土師器1点	8世紀
P2	D-22	不整形円形	60	—	18.349	18.215	13		
P3	D-22	円形	38	—	18.349	18.232	12		
P4	D-23	隅角長方形	74	56	18.345	18.025	32	土師器2点	古代
P5	D-23	不整形円形	60	42	18.365	18.206	16	土師器1点	
P6	D-23	楕円形	32	28	18.352	18.205	15		
P7	D-22	楕円形	60	42	18.378	18.263	12		
P8	D-22	円形	36	—	18.381	18.333	5		
P9	D-23	隅角長方形	76	72	18.408	18.211	20		
P10	D-22	楕円形	70	58	18.394	18.298	10	土師器1点(供養具)	古代～中世
P11	D-22	円形	58	—	18.439	18.381	6	土師器1点(煮炊具)	
P12	D-22	楕円形	76	57	18.425	18.248	18	土師器2点(糸切籠)	中世前期
P13	D-23	(楕円形)	(78)	68	18.414	18.079	34		
P14	E-23	(楕円形)	(82)	(40)	18.408	18.148	26		
P15	E-22	(楕円形)	(24)	33	18.448	18.255	19		
P16	E-22	(円形)	44	(24)	18.446	18.353	9		
P17	E-23	(円形)	34	—	18.420	18.294	13		

TR1からはピット5基と土坑1基が確認されている。遺構の形態・規模と出土遺物については、表3に示している。図示した遺物は1～6の6点で、古墳時代後期・古代（10世紀）・中世前期（11世紀後半～12世紀）の3時期の遺物が出土した。いずれも包含層（IV層）出土遺物である。P1・2、SK1は出土遺物から古代の遺構の可能性が高いが、詳細な時期は不明。

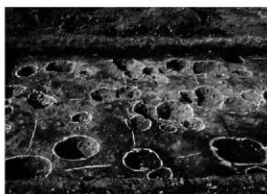
TR2からはピット17基が確認されている。遺構の形態・規模と出土遺物については、表4に示している。図示した遺物は7～10の4点で、古代（8世紀）から中世前期（13世紀）にかけての遺物が出土した。遺構出土遺物は7（P4・8世紀末）、10（P14・8世紀）の2点で、他は包含層出土遺物である。P4とP14は8世紀の遺構、それ以外にP1から8世紀、P10から古代～中世、P12から中世の遺物が出土している。



第12図 試掘TR3平面図 (S=1/80)



TR3



TR3 完掘 (南から)



TR3 完掘 (西から)

TR3からはピット 83 基が確認されている。遺構の形態・規模と出土遺物については、表4に示している。図取掲載遺物以外の出土遺物の所属時期は判断可能な限り、表中に示したが、大半が小破片で混入した遺物である可能性もあり、遺構の時期を正確に特定するものではない。

表4 試掘TR3遺構計測表及び出土遺物及び出土遺物（1）

遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	検出面標高 (m)	底面標高 (m)	深さ (cm)	出土遺物	時期
P1	C-17	(楕円形)	48	(34)	18.365	18.075	29	土器1	不明
P2	C-17	円形	24	-	18.354	18.124	23		
P3	C-17	楕円形	33	30	18.355	18.122	23	黒色土器1(内箱)	10世紀
P4	C-17	円形	30	-	18.370	18.120	25	土器2	古代中世
P5	C-17	楕円形	38	36	18.394	18.274	12		
P6	C-17	楕円形	38	34	18.421	18.069	35	土器1	不明
P7	C-17	楕円形	18	15	18.444	18.269	18		
P8	D-17	瓢箪形	60	38	18.483	18.230	25	土器12	不明
P9	C-17	隅四方形	73	62	18.349	17.412	94	タタキ目録片4点、平成1点	弥生末
P10	C-16	楕円形	60	46	18.362	17.994	37	カメ目録2、タタキ有2	弥生末
P11	C-17	楕円形	68	63	18.459	18.318	14	土器2	不明
P12	C-17	不整楕円形	66	56	18.480	18.249	23		
P13	D-17	方形	74	68	18.484	18.149	34	土器10	不明
P14	C-16	楕円形	36	24	18.389	18.244	15	土器1、ズ11(土器・杯蓋)	8世紀
P15	C-16	不整楕円形	58	44	18.387	18.100	29	古土1	古墳初?
P16	C-16	(円形)	(56)	-	18.388	18.120	37	ズ12(土器・杯蓋)	12世紀
P17	C-16	楕円形	68	60	18.370	18.048	32	古土・土器蓋30 糸切	中世前期
P18	C-16	楕円形	63	54	18.424	18.170	25	土器6(ヘラ)	古代
P19	C-16	(楕円形)	(64)	54	18.417	18.159	26	古土2	古墳初
P20	C-16	(円形)	(34)	-	18.445	18.278	17	土器23、須恵5、炭小片10、ズ13-14(土師 釜、土器)	12世紀
P21	D-16	(不整楕円形)	(86)	68	18.447	18.045	40	須恵1、土器20(甕)、ズ15	古代?
P22	C-16	円形	28	-	18.436	18.332	10	土器1	古代中世
P23	C-16	(不整楕円形)	52	40	18.414	18.272	14	須恵カメ1、土器・甕26	古代?
P24	C-16	円形	(36)	-	18.396	18.094	30	土器6	古代中世
P25	C-16	(方形)	(32)	40	18.459	18.242	22	土器10(ヘラ、蓋)	古代
P26	(円形)	(42)	-	18.462	18.165	30	土器(甕11、煮3)、甕2	古代	
P27	C-16	(円形)	(66)	-	18.502	18.170	33	土器1、須恵1	不明
P28	C-16	(楕円形)	90	(64)	18.396	18.137	26	土器7(甕、煮カメ)	古代
P29	D-16	(楕円形)	(72)	(43)	18.442	18.084	36	土器32(糸切)、須恵1	中世前期
P30	D-16	(隅四長方形)	(70)	20	18.450	17.944	51	古土8(タタキ、ハケ)、ズ16	古墳初
P31	C-16	方形	30	-	18.434	18.353	8	土器2	古代中世
P32	C-16	(楕円形)	(45)	(40)	18.385	18.299	9	土器(甕4)	古代
P33	C-15	(楕円形)	(52)	(47)	18.514	18.180	32	古土6(タタキ、ハケ)	古墳初
P34	C-15	(円形)	(53)	-	18.499	18.124	38	土器1(ヘラ・タタキ)	古墳後期
P35	C-15	不整楕円形	74	68	18.521	18.065	46	土器(甕3、煮2)、ズ17-18	古代
P36	C-15	円形	40	-	18.532	18.289	24	土器(甕3)	古代以降
P37	C-15	円形	42	-	18.495	18.314	18	土器(カメ1、鉄糸切2)	中世前期
P38	C-15	円形	40	-	18.517	18.336	18		
P39	C-15	楕円形	42	40	18.433	18.136	30	土器15(甕、糸切)	中世前期
P40	D-15	(隅四方形)	50	(40)	18.470	18.083	39	土器15、須恵1、ズ19-20	古代?
P41	C-15	不整楕円形	68	51	18.523	18.356	17	土器3	中世前期
P42	C-15	円形	34	-	18.541	18.168	36	土器6	中世前期
P43	C-15	円形	58	-	18.530	18.184	35	ズ21(土器・皿)	8世紀
P44	C-15	円形	30	-	18.525	18.364	16	土器7(糸切)	中世前期
P45	C-15	楕円形	81	52	18.450	18.415	13	古土1(タタキ)	古墳初
P46	C-15	楕円形	39	30	18.535	18.233	30		
P47	C-15	(楕円形)	80	(40)	18.529	18.343	19	土器16(糸切)、古土4	中世前期
P48	C-15	(楕円形)	50	30	18.527	18.338	19		

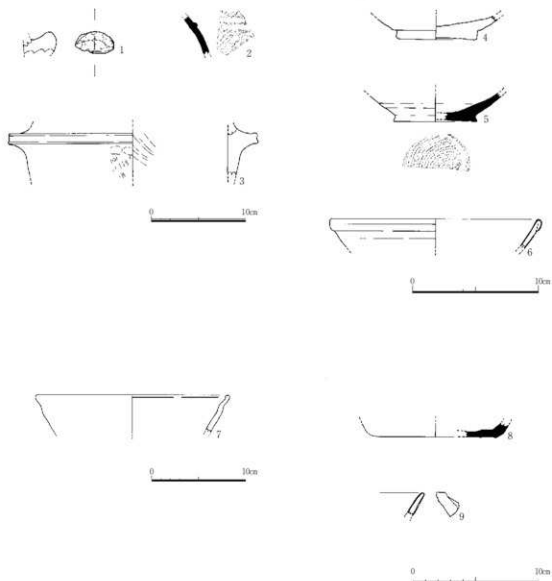
表4 試掘TR3遺構計測表及び出土遺物及び出土遺物(2)

遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	検出面標高 (m)	底面標高 (m)	深さ (cm)	出土遺物	時期
P49	C-15	楕円形	60	48	18.504	18.426	8		
P50	C-14	楕円形	66	57	18.496	18.116	38	古土8(クナキ) 土師1(蓋)	古墳初
P51	C-15	不整形	68	62	18.523	18.234	29	古土・土師14 炭灰	不明
P52	C-15	楕円形	64	54	18.548	18.384	16	土師6	中世前期
P53	C-15	楕円形	30	22	18.554	18.363	19	土師8	古代中世
P54	C-15	楕円形	75	60	18.531	18.148	38	古土24(クナキ)	古墳初
P55	C-15	円形	36	-	18.537	18.392	15		
P56	C-15	楕円形	64	50	18.502	18.325	28		
P57	D-15	楕円形	53	44	18.513	18.286	23	須恵カメ1、土師3	古墳後期-古代
P58	D-15	円形	50 (30)	-	18.315	18.349	17	土師4	古代以降
P59	D-15	円形	40	-	18.497	18.371	13	土師2	不明
P60	C-15	瓢箪形	52	25	18.485	-	-	土師(供14-1714底1糸切)、ズ22-23	12世紀
P61	C-14	不整形円形	64	36	18.448	18.341	11	土師44(供-糸切合)	中世前期
P62	C-14	方形	22	-	18.493	18.406	9	土師8、瓦器1	中世前期
P63	C-14	不整形円形	50	44	18.514	18.276	24	古土3、スエ杯蓋、土師7、ズ24	不明
P64	C-14	円形	26	-	18.504	18.300	20		
P65	C-14	円形	36	-	18.489	18.205	18	土師4(供)	中世前期
P66	C-14	円形	40 (20)	-	18.484	18.308	18	土師6(供3、煮3)	古代
P67	C-14	(楕円形)	(70)	76	18.459	18.204	26		
P68	C-14	(楕円形)	68 (56)	-	18.468	18.359	11	土師40(供12 小皿あり)	中世前期 12世紀
P69	C-14	(楕円形)	(52)	60	18.489	18.333	16	土師3、須恵2	古代?
P70	C-14	(不整形円形)	120 (58)	-	18.499	18.046	45	土師32(クナキ、鉄器具混在)	不明
P71	C-14	(楕円形)	(70)	(53)	18.484	18.003	48		
P72	C-14	(楕円形)	(100)	74	18.493	18.021	47		
P73	C-14	(楕円形)	(42)	49	18.488	18.321	17	古土16(クナキ・カメ)、ズ73	古墳初
P74	C-14	(楕円形)	64	56	18.519	18.276	24		
P75	C-14	楕円形	36	28	18.496	18.388	11		
P76	C-14	不整形円形	43	29	18.529	18.430	10		
P77	C-14	楕円形	60	50	18.543	18.390	15		
P78	C-14	(楕円形)	(56)	64	18.500	18.043	46	古土18(クナキ)	古墳初
P79	C-14	楕円形	78	72	18.496	18.204	29	土師22(うち煮3)、須恵カメ1、ズ32	8世紀
P80	C-14	(楕円形)	(42)	(32)	18.509	18.285	22	古土12(クナキ)、瓦器1、ズ33	不明
P81	C-14	(楕円形)	(46)	(40)	18.498	17.893	61	古土1	古墳初
P82	C-14	(不整形円形)	77 (43)	-	18.543	18.322	22	瓦器・瓦質2、土師32(供)、ズ34~39	12世紀
P83	C-16	不整形方形	70	58	18.463	17.933	53	古土5、ズ83	古墳初

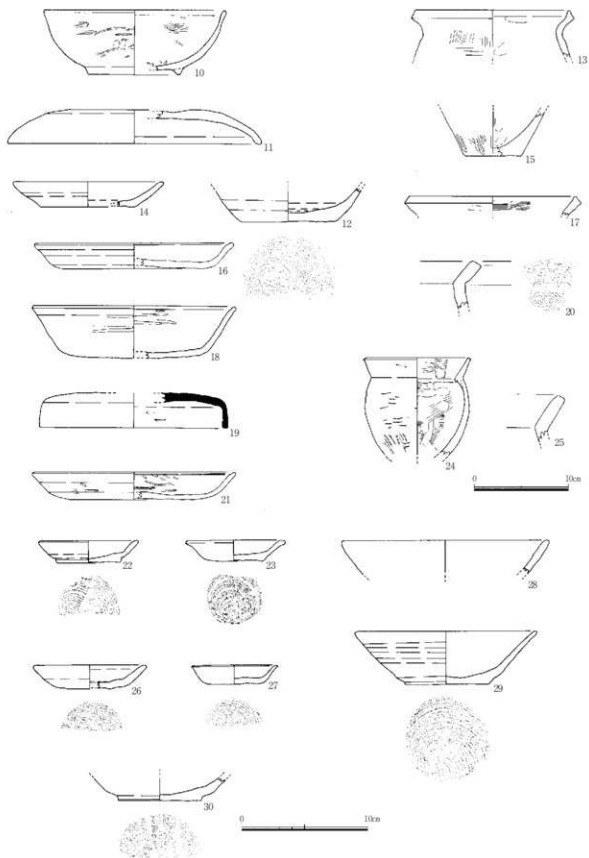
図示した遺物は11～63の53点で、遺物の主な時期は、弥生時代前期末、弥生時代後期前半、弥生時代終末～古墳時代初頭、古代（8世紀から10世紀）中世前期（11世紀後半～12世紀）、近世（18世紀）の各時期である。少量だが、中世後期（61の瓦質土器）、近世（62の肥前系陶器・18世紀）の遺物も出土している。図示できなかった遺物の中に、古墳時代後期（6世紀後半前後）の資料も一定量確認されており、この試掘トレンチからは、西野遺跡で今まで確認されているほぼ全ての時期の遺物が出土しているといえる。

11～39が遺構出土遺物、40～63が包含層出土遺物である。

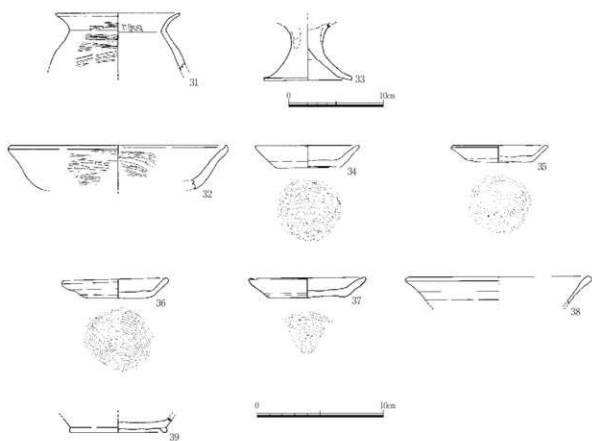
黒色土器A類（11）の出土したP3や土師器甕（13・17）が出土したP20・29・35など9～10世紀の遺構や、古墳時代初頭の遺構（P73・80）も確認されているが、多くの遺構が古代前期（8世紀）と中世前期（12世紀前後）の2時期のものであり、掘立柱建物の復元も可能である。



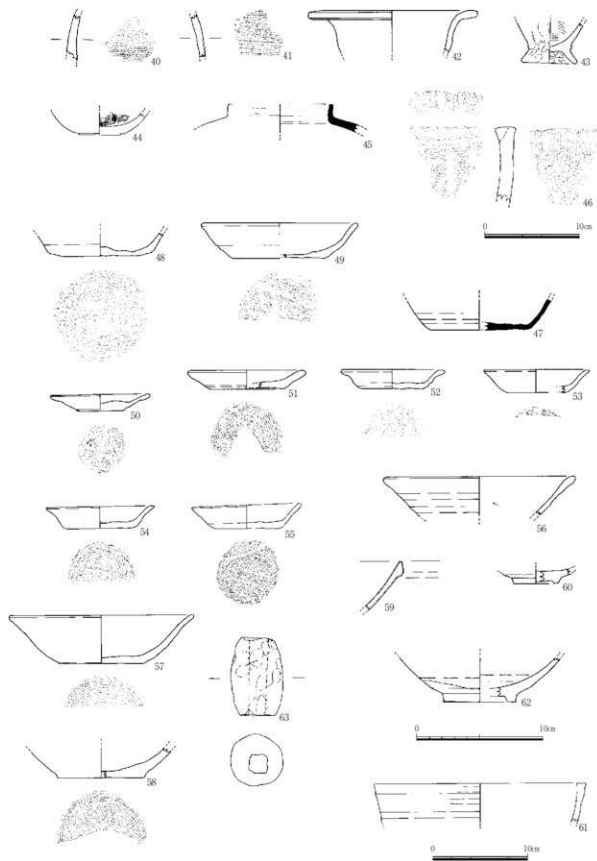
第13図 試掘TR1・2出土遺物 (S=1/4・1/3)



第14図 試掘TR3出土遺物1 (S=1/4・1/3)



第15図 試掘TR3出土遺物2 (S=1/4・1/3)



第16図 試掘TR3出土遺物3 (S=1/4・1/3)

表5 試掘調査 遺物観察表(1)

図式番号	試掘TR	遺構部位	形状	材料	部位	法量 (cm)			出土	色調		磨製		特徴	時期・様式番号	
						口径	器高	胴径		底径	内面	外面	内面			外面
1	TR1	Ⅱ層	土器器	織	把手	-	(2.3)	-	-	1~2mm大の砂粒をやや多く含む。	10YR 7/4 にぶい黄褐色	2.5Y 6/2 灰黄色	エビナサエ、ナデ	エビナサエ、ナデ	全面に磨損圧痕が残る。	古墳時代後期 (6世紀後半~7世紀前期)
2	TR1	Ⅱ層	須恵器	磁	胴部	-	(4.1)	-	-	磨滅した白色粉物を若干含む	N 6/ 灰色	10BG 6/1 青灰色	ナデ	タタキ	胴部縦溝、外面に断面台形の突起を貼付する。	古代?所屬時期不明
3	TR1	Ⅱ層	土器器	田舎罫	底部	(20.2)	(5.2)	-	-	0.5~1mm大のチャート状の微細砂を少量含む。	10YR 6/3 にぶい黄褐色	2.5Y 6/3 にぶい黄褐色	ナデ、エビナデ	ハケ、ナデ、エビナサエ	断面台形の突起が貼付される。	10世紀前半 (中葉に近い第2四半期)
4	TR1	Ⅱ層	土器器	供養具(陶)	底部	-	(1.9)	-	6.4	精選された胎土。	10YR 8/3 浅黄褐色	10YR 8/4 浅黄褐色	回転ナデ	回転ナデ	磨滅のため不明瞭ではあるが、断面に回転糸切り痕が確認できる。内腔状高台、内面見込み付内にロクロ目が見える。	中世前期
5	TR1	Ⅱ層	須恵器	織	底部	-	(2.3)	-	(6.6)	精選された胎土。微細砂を含むのみ。	2.5Y 8/1 灰白色	2.5Y 8/1 灰白色	回転ナデ	回転ナデ	内腔状高台、底部回転糸切り痕。内面に火傷が残る。軟質で土器器に近い。	中世前期 11世紀後半~12世紀
6	TR1	Ⅱ層	白磁	陶	口縁部	(16.1)	(2.3)	-	-		7.5Y 8/1 灰白色	7.5Y 8/1 灰白色	不明	不明	玉縁状の口縁。白磁片。	12世紀
7	TR1	P4	土器器	杯	口縁部	(15.0)	(2.9)	-	-	胎土中に白色粘土を少量含む。	5YR 6/8 褐色	5YR 6/8 褐色	不明	不明	口縁は直線的に上方へ立ち上がる。内面に沈殿状の突起が残る。	古代
8	TR2	Ⅱ層	須恵器	磁	底部	-	(1.2)	-	9.6	胎土中に小気泡の気孔を残す。白色胎。	7.5Y 5/1 灰色	7.5Y 6/1 灰色	ナデ	ナデ	粘土継ぎ合痕を残す。	古代 8世紀末
9	TR2	I-II層	青磁	陶	口縁部	-	(1.9)	-	-		2.5GY 6/1 オリーブ灰色	5GY 6/1 オリーブ灰色	不明	不明	口縁は薄部で広く外反する。釉は青磁釉でやや粗い貫入、外面。薄文、波線装。	森田編年 青磁Ⅰ-5b 13世紀初期~前半
10	TR2	P14	土器器	杯蓋	頸部が欠損	(20.1)	(2.7)	-	-	精選された胎土。砂粒をほとんど含まない。	7.5YR 7/6 褐色	7.5YR 7/6 褐色	磨滅のため不明	磨滅のため不明	頸部形状不明。下縁はわずかに肥厚し丸く仕上げる。	8世紀 杯の蓋
11	TR3	P3	黒色土器	陶	口縁部-底部	(14.6)	(5.1)	-	(7.3)		N3/ 暗褐色	10YR 7/4 にぶい黄褐色	ミガキ	エビナサエ、ナデ、ミガキ	口縁部は肥厚する。内面は口縁部以外全面を覆く。外面にもミガキが観察される。高台は断面直方形状で、貼付され、墨色付けは丸みを帯びている。	10世紀 黒色土器A類
12	TR3	P16	土器器	杯	底部	-	(2.7)	-	7.8	精選された胎土。微細砂を含むのみ。	10YR 8/3 浅黄褐色	10YR 8/3 浅黄褐色	回転ナデ	回転ナデ	底部回転糸切り痕。底部は内面気味に立ち上がる。	中世前期 12世紀
13	TR3	P20 P29	土器器	罫	口縁部	(16.3)	(5.0)	-	-	1~2mm大のチャート砂粒を含む。	10YR 6/3 にぶい黄褐色	7.5Y 6/4 にぶい褐色	エビナデ、ココナデ	ハケ、ナデ、ココナデ	頸部でゆるやかに屈曲した後外反し、口縁は上方へ傾斜する。	9世紀後半~10世紀前期
14	TR3	P20	土器器	小罫	口縁部-底部	(11.7)	2.0	-	(7.4)	精選された胎土。微細砂を含むのみ。	7.5Y 8/4 浅黄褐色	7.5Y 8/4 浅黄褐色	回転ナデ	回転ナデ	底部残りのわずかに、糸切り痕が確認される。	中世前期 12世紀
15	TR3	P21	染土器	罫	底部	-	(4.8)	-	(5.9)	1~2mm大の砂粒を多く含む。6mm大の小罫も認められる。	2.5Y 7/3 浅黄褐色	10YR 7/3 にぶい黄褐色	ナデ、エビナデ、エビナサエ	ナデ、エビナサエ	平底。	染土時代
16	TR3	P30	土器器	皿	口縁部-底部	(15.6)	2.0	-	(11.2)	精選された胎土。砂粒をほとんど含まない。	10YR 5/4 にぶい黄褐色	10YR 5/4 にぶい黄褐色	回転ナデ	回転ナデ	口縁部内面に沈殿がめぐる。底部へ丸く、底部に灰化物付着。	8世紀
17	TR3	P35	土器器	罫	口縁部	(17.7)	(2.0)	-	-	2~3mm大の砂粒をやや多く含む。	7.5Y 5/4 にぶい褐色	7.5YR 3/2 黒褐色	ハケ	ナデ	口縁部肥厚。口縁は面をなす。	古代 9~10世紀頃
18	TR3	P35	土器器	杯	口縁部-底部	(16.1)	(4.1)	-	(11.8)	精選された胎土。1mm前後の微細砂を若干含むのみ。	10YR 7/4 にぶい黄褐色	10YR 7/4 にぶい黄褐色	ヘウミガキ	ヘウミガキ	口縁部内面に沈殿がめぐる。沈殿はしっかりとっており、明確。底部へ丸く、内外面とも横方向のへうミガキ。	8世紀前半
19	TR3	P40	須恵器	磁	頸部が欠損	(15.0)	(2.8)	-	-	精選された胎土。微細砂を含むのみ。	7.5Y 5/1 灰白色	7.5Y 5/1 灰白色	ナデ、回転ナデ	ナデ、回転ナデ	頸部形状不明。頸部形状をなす。	9世紀中葉~9世紀後半(平安京西宮II期)
20	TR3	P40	土器器	罫	口縁部	-	(4.5)	-	-	5mm大の小罫が認められる。	7.5YR 5/4 にぶい褐色	7.5YR 5/4 にぶい褐色	ナデ	ハケ、ナデ	口縁は屈曲した後外反、肥厚し口縁は面をなす。	古代
21	TR3	P43	土器器	皿	口縁部-底部	(16.2)	(2.5)	-	(12.6)	精選された胎土。1mm前後の砂粒を少量含む。	7.5YR 7/4 にぶい褐色	7.5YR 7/4 にぶい褐色	ナデ、ヘウミガキ	ナデ、エビナサエ、ヘウミガキ	口縁部内面に沈殿がめぐる。沈殿はしっかりとしており、明確。底部へ丸く。	8世紀中葉~後半
22	TR3	P60	土器器	小罫	口縁部-底部	(7.9)	1.8	-	5.0	精選された胎土。	7.5YR 7/4 にぶい褐色	7.5YR 7/4 にぶい褐色	回転ナデ	回転ナデ	底部回転糸切り痕。平底圧痕が残る。底部は底面付近で一旦丸く、口縁は丸く仕上げる。	中世前期 12世紀

表5 試掘調査 遺物観察表(2)

図面番号	試掘TR	遺構層位	器形	器名	部位	法量 (cm)				胎土	色相				調査				特徴	時期・様式	
						口径		胴径			底径	内面		外面		内面		外面			
						器高	胴径	底径	内面			外面	内面	外面							
23	TR3	P60	土師器	小皿	底部	7.5	1.7	-	4.1	精選された胎土。	5YR 7/6 褐色	5YR 7/6 褐色	回転ナデ	回転ナデ	底部回転糸切り痕。口縁部はわずかに凹み、口縁に肥厚し丸く仕上がる。	中世前期 12世紀					
24	TR3	P63	古式土師器	鉢	口縁~胴部	11.4	10.3	11.2	-	1~3mm 大の砂粒を多量含む。	10YR 7/4 にぶい黄褐色	10YR 7/4 にぶい黄褐色	ハケ、エビオサセ、ナデ	ナデ、ナデ	上腹部が膨った球形の胴部から、胴部で狭く傾曲して口縁は斜め上方に直線的に立ち上がる。口縁は面をなす。	古墳時代初期					
25	TR3	P67-68	土師器	壺	口縁部	-	(5.0)	-	-	1~2mm 大の砂粒を多量含む。	10YR 5/3 にぶい黄褐色	10YR 4/4 褐色	ナデ	ハケ、ヨコナデ	口縁は面をなす。外面に炭化物が付着。	平安京1期9世紀前半の資料に類似					
26	TR3	P67-68	土師器	小皿	口縁~底部	9.0	1.9	-	5.2	精選された胎土。微細砂粒を含むのみ。	7.5YR 8/4 浅黄褐色	10YR 7/3 にぶい黄褐色	回転ナデ	回転ナデ	底部回転糸切り痕。口縁は丸く仕上がる。	中世前期 11~12世紀					
27	TR3	P67-68	土師器	小皿	口縁~底部	6.8	1.5	-	3.8	精選された胎土。	7.5YR 7/4 にぶい褐色	7.5YR 7/4 にぶい褐色	回転ナデ	回転ナデ	底部回転糸切り痕。体部は直線的に立ち上がり、口縁は傾く仕上がる。	中世前期 12世紀					
28	TR3	P67-68	土師器	椀	口縁部	17.5	(2.4)	-	-	精選された胎土。8mm 大の砂粒を逆められる。	2.5Y 6/6 褐色	2.5Y 6/6 褐色	回転ナデ	回転ナデ	口縁は丸く仕上がる。	中世前期 12世紀					
29	TR3	P67-68	土師器	杯	底部	14.3	4.3	-	6.6	精選された胎土。	10YR 8/3 浅黄褐色	10YR 8/1 灰白色	回転ナデ	回転ナデ	底部回転糸切り痕。体部は底面付近で一旦くびれた直線的に立ち上がり、口縁は丸く仕上がる。	中世前期 12世紀					
30	TR3	P67-68	土師器	杯	底部	-	(1.9)	-	(6.6)	精選された胎土。微細砂粒を多量含む。	10YR 7/3 にぶい黄褐色	2.5Y 7/3 浅黄色	回転ナデ	回転ナデ	底部回転糸切り痕。平行圧痕が浅く傾斜して付定で一旦くびれた後内凹状に立ち上がる。	中世前期 12世紀					
31	TR3	P73	古式土師器	壺	口縁~上腹部	13.1	(6.1)	-	-	1~2mm 大の砂粒を少し含む。	10YR 6/2 灰黄褐色	10YR 5/2 灰黄褐色	ハケ、ナデ	ナデ、ナデ	胴部で腹をなし、口縁は傾く仕上がる。口縁は面をなす。	古墳時代初期					
32	TR3	P79	土師器	杯	口縁~底部	17.0	(3.4)	-	-	精選された胎土。微細砂粒を含むのみ。	2.5YR 5/6 明褐色	2.5YR 5/8 明褐色	ヘウミガキ	ヘウミガキ	口縁内面に肥厚あり。外面に横方向のヘウミガキを、きわめて丁寧なつくり。当地土師器である。	中世前期 12世紀					
33	TR3	P80	古式土師器	高杯	脚部	-	(6.0)	-	(9.2)	2~3mm 大の砂粒を少し含む。	10YR 7/4 にぶい黄褐色	2.5Y 7/3 浅黄色	ナデ	ナデ、押圧痕	胴部は傾曲して大きく開く。胴部下縁は円形の面をなす。	古墳時代初期					
34	TR3	P82	土師器	小皿	底部	8.0	1.8	-	5.2	精選された胎土。1mm 程度の砂粒を若干含むのみ。	10YR 7/4 にぶい黄褐色	10YR 7/4 にぶい黄褐色	回転ナデ	回転ナデ	底部回転糸切り痕。平行圧痕。	中世前期 12世紀					
35	TR3	P82	土師器	小皿	底部	7.7	1.9	-	5.0	精選された胎土。微細砂粒を多量含む。	10YR 7/4 にぶい黄褐色	10YR 7/4 にぶい黄褐色	回転ナデ	回転ナデ	底部回転糸切り痕。平行圧痕。	中世前期 12世紀					
36	TR3	P82	土師器	小皿	底部	8.2	1.6	-	5.2	精選された胎土。微細砂粒を含むのみ。	7.5YR 7/6 褐色	7.5YR 7/6 褐色	回転ナデ	回転ナデ	底部回転糸切り痕。平行圧痕。	中世前期 12世紀					
37	TR3	P82	土師器	小皿	口縁~底部	(9.2)	1.6	-	(6.2)	精選された胎土。	7.5YR 7/6 褐色	7.5YR 7/6 褐色	回転ナデ	回転ナデ	底部回転糸切り痕。口縁は傾く仕上がる。	中世前期 12世紀					
38	TR3	P82	土師器	杯	口縁部	14.7	(2.2)	-	-	精選された胎土。	7.5YR 8/4 浅黄褐色	7.5YR 7/4 にぶい褐色	回転ナデ	回転ナデ	口縁はわずかに肥厚し、丸く仕上がる。	中世前期 12世紀					
39	TR3	P83	土師器	杯	底部	-	(1.2)	-	(7.5)	精選された胎土。微細砂粒の白色鉱物を若干量含む。	2.5Y 5/6 明赤褐色	2.5Y 6/6 にぶい黄褐色	ヘウミガキ	ヘウミガキ	底部へウミ切で、輪軸台を貼付する。外底は黒色。	9世紀前半					
40	TR3	Ⅱ層	染土師器	壺	胴部	-	(4.8)	-	-	0.5~2mm 大のチャート砂粒(角礫)をやや多く含む。	10YR 6/3 にぶい黄褐色	7.5YR 7/4 にぶい褐色	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	外面に5条以上のへう旗状彫刻(直線文)が残る。	弥生時代前期末 大塚式土器新段階					
41	TR3	Ⅲ層	染土師器	壺	胴部	-	(4.7)	-	-	1~3mm 大のチャート砂粒をやや多く含む。	2.5Y 7/2 灰黄色	10YR 5/1 黄褐色	ナデ	ハケ	へう旗直線文の間を反山山形文で埋める。へう旗状彫刻(直線文)は、上が3条以上、下が5条以上確認できる。	弥生時代前期末 大塚式土器新段階					
42	TR3	Ⅲ層	染土師器	壺	口縁部	18.0	(4.5)	-	-	2~5mm 大の粗粒砂粒を多く含む。	10YR 6/4 にぶい黄褐色	10YR 6/4 にぶい黄褐色	不明	不明	口縁はツツバ状に大きく開き、水平方向にのびる。唇状部の縁部彫刻で調査不明。口縁部外面が肥厚。貼付口縁だが退化したものが。	弥生時代後期前半					
43	TR3	Ⅲ層	染土師器 あるいは古式土師器	台付鉢	底部	-	(4.4)	-	(5.5)	2mm 大前後の砂粒をやや多く含む。	2.5Y 7/3 浅黄色	2.5Y 2/3 浅黄色	ハケ、ナデ	ハケ、エビオサセ、ナデ	短い脚部を持つ。外底は黒色。彫刻を台付鉢としたが彫刻が口縁に不明。	古墳時代初期					
44	TR3	Ⅲ層	古式土師器	鉢	底部	-	(2.4)	-	4.5	1~3mm 大の砂粒を多く含む。	2.5Y 7/4 浅黄色	2.5Y 7/4 浅黄色	ハケ	ナデ	突出した平底の底部。	古墳時代初期					
45	TR3	Ⅲ層	粗悪器	足置壺	口縁~上腹部	11.1	3.0	-	-	白色鉱物が多い。	5Y 5/1 灰色	5Y 5/1 灰色	回転ナデ	回転ナデ	胴部で傾曲し、口縁は上方へ開く立ち上がる。	8世紀					

表5 試掘調査 遺物観察表(3)

調査 番号	試掘 TR	遺構 部位	器種	器形	部位	法量 (cm)				胎土	色澤		肌理		特徴	時期・様式 備考
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	内面	外面		
46	TR3	遺構	土師器	鉢式 蓋	胴部?	-	(8.1)	-	-	精選された胎土。微細粒砂を含むのみ。	10YR 5/3 に濃い黄褐色	10YR 5/3 に濃い黄褐色	ハチ、 ユビナサエ	ハチ、ナデ、 ユビナサエ	断面に繊維状肌あり。断面は粗密なる。	古代
47	TR3	遺構	須恵器	杯	底部	-	(2.5)	-	(8.2)	精選された胎土上。	5Y 6/1 灰色	5Y 6/1 灰色	回転ナデ	回転ナデ	底部へう切。	8世紀
48	TR3	遺構	土師器	杯	底部	-	(1.8)	-	8.2	精選された胎土上。	10YR 7/4 に濃い黄褐色	10YR 8/3 浅黄褐色	回転ナデ	回転ナデ	底部へう切。断面に平行圧痕が見える。	古代 9世紀
49	TR3	遺構	土師器	杯	口縁~ 底部	12.0	2.8	-	7.2	0.5mm未満の微細粒砂を多く含む。	10YR 7/2 に濃い黄褐色	10YR 7/2 に濃い黄褐色	回転ナデ	回転ナデ	底部へう切。断面に平行圧痕が見える。わずかに内湾気味のユビナサエを示し、口縁は丸く仕上げられる。	古代後期 9世紀末~10世紀
50	TR3	遺構	土師器	小皿	底部	(7.9)	(1.3)	-	3.8	精選された胎土上。	5YR 7/4 に濃い褐色	5YR 6/4 に濃い褐色	回転ナデ	回転ナデ	底部回転糸切り痕。口縁は肥厚し丸く仕上げられる。	中世前期 12世紀
51	TR3	遺構	土師器	小皿	口縁~ 底部	(9.3)	(1.5)	-	(5.8)	精選された胎土上。	10YR 7/3 に濃い黄褐色	5YR 7/6 褐色	回転ナデ	回転ナデ	底部回転糸切り痕。口縁は丸く仕上げられる。	中世前期 12世紀
52	TR3	遺構	土師器	小皿	口縁~ 底部	(8.2)	1.5	-	(4.8)	精選された胎土上。	5YR 7/6 褐色	5YR 7/6 褐色	回転ナデ	回転ナデ	底部回転糸切り痕。口縁部は外反。口縁は肥厚し丸く仕上げられる。	中世前期 12世紀
53	TR3	遺構	土師器	小皿	口縁~ 底部	(8.2)	1.8	-	(4.8)	精選された胎土上。	10YR 7/2 に濃い黄褐色	10YR 6/3 に濃い黄褐色	回転ナデ	回転ナデ	底部回転糸切り痕。口縁部はわずかに外反。口縁は丸く仕上げられる。	中世前期 12世紀
54	TR3	遺構	土師器	小皿	口縁~ 底部	8.2	1.7	-	5.0	精選された胎土上。	10YR 8/3 浅黄褐色	10YR 8/2 灰白色	回転ナデ	回転ナデ	底部回転糸切り痕。平行圧痕が見える。底部は底面付式で一旦くびれた後内湾気味に立ち上がる。	中世前期 12世紀
55	TR3	P64	土師器	小皿	碗形	8.6	1.9	-	5.1	精選された胎土上。	5YR 7/6 褐色	5YR 7/6 褐色	ナデ	ナデ	摩耗顕著。断面に平行圧痕、糸切り痕。	中世前期 12世紀
56	TR3	遺構	土師器	杯	口縁部	(15.2)	(3.1)	-	-	精選された胎土上。微細粒砂を多く含む。	7.5YR 7/4 に濃い褐色	7.5YR 7/4 に濃い褐色	回転ナデ	回転ナデ	口縁はわずかに肥厚し、丸く仕上げられる。右下方の強いナデにより砂粒が移動する。	中世前期 12世紀
57	TR3	遺構	土師器	碗 あ い は 杯	口縁~ 底部	14.5	4.8	-	6.7	精選された胎土上。	10YR 8/3 浅黄褐色	10YR 8/3 浅黄褐色	ナデ、 回転ナデ	ナデ、 回転ナデ	底部回転糸切り痕。底部はわずかにくびれて内湾気味に立ち上がる。口縁は丸く仕上げられる。	中世前期 12世紀
58	TR3	遺構	土師器	碗	底部	-	(2.4)	-	(6.8)	精選された胎土上。	7.5YR 7/4 に濃い褐色	10YR 8/4 浅黄褐色	回転ナデ、 ナデ	ナデ	底部回転糸切り痕。底部は底面付式で一旦くびれた後内湾気味に立ち上がる。	中世前期 12世紀前後
59	TR3	遺構	白磁	碗	口縁部	-	(3.9)	-	-	5Y 7/2 灰白色	5Y 7/2 灰白色			玉縁状の口縁。白磁吉野。	12世紀	
60	TR3	遺構	白磁	皿 あ い は 碗	底部	-	(1.2)	-	(3.5)	良好にガラス化。気孔が存在する。	7.5Y 7/2 灰白色	7.5Y 7/1 灰白色			高台は断面直方形で、削り出しにより成形。外底がやや浅くなる。底部外面は磨光する。	中世前期 12世紀
61	TR3	遺構	瓦葺土師器	器種不明	口縁部	(22.3)	(4.2)	-	-	精選された胎土上。微細粒砂を含むのみ。	7.5Y 5/1 灰色	7.5Y 5/1 灰色	ナデ	ナデ	口縁は水平面をなし、口縁はほぼ直立する。	中世
62	TR3	遺構	近畿南部系(肥前系)	碗	口縁部	-	(3.6)	-	(5.7)	2.5Y 8/3 浅黄褐色	2.5Y 8/1 灰白色			削り出し高台。高台付直は磨光。	近畿南部系。肥前系陶器。18世紀。	
63	TR3	遺構	土製品	土練	碗形	6.2	4.1	4.1	1.4~1.9	0.5mm前後の0.1~0.3mm級粒砂を少し含む。	-	10YR 6/2 灰黄褐色	-	ユビナサエ	中央部がわずかに膨らむ四角形。裏さ90°。	包含燻出土質料であり、時期不明。

第IV章 調査の成果

今回の調査では、堅穴住居状遺構4棟、土坑53基、ピット343基、溝状遺構12条などの遺構を検出した。遺構検出面は1面であり、すべての時期の遺構が同一面で重なっている。

細片のみ出土する遺構も多く、少量の出土遺物のみをもとに詳細な形成時期が特定できない遺構が大半である。出土遺物の時期を示し可能な限り時期の推定を行いたい。いくつかの時期の資料が混在する遺構もあるが、混入したケースもあり、必ずしも新しい時期の遺物であるとは限らず、遺物の時期を示す事ができるのみである。

出土遺物の中で図示できた資料（2005年3月の試掘調査出土資料を含む）は、弥生土器・土師器・須恵器・陶器・磁器等が350点、石器が4点、鉄製品が11点の合計366点である。種類ごとに観察表を作成、法量や特徴についてまとめて提示する。それ以外の出土資料については、遺構ごとにまとめ、表および本文中で報告することとする。

出土遺物から確認された時期は、弥生時代前期末、中期前半、弥生時代終末～古墳時代初頭、古墳時代後期（6世紀後半～7世紀前半）、古代前期（8世紀～9世紀）、古代後期（9世紀～10世紀）、古代末～中世前期（11世紀～13世紀）、近世～近代と多時期にわたる。まとめて詳述するが、今回の調査区及び2005年度の試掘調査で出土遺物が最も多かった時期は弥生時代終末～古墳時代初頭であり、これに次いで古墳時代後期、古代～中世前期の遺物が一定量確認されている。それ以外の時期の遺物出土量は僅少であり、形成された遺構も極めて少ない。



西野遺跡ルノ丸地区 調査区の景観（西から）

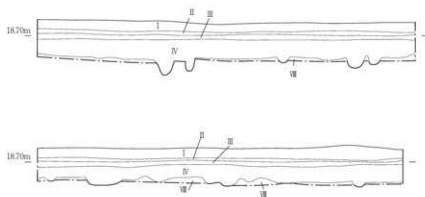
第1節 基本層序

調査区全体を通じた基本層序は以下の通りである。I層が表土、II・III層が遺物包含層であり、IV層上面が遺構面である。地表面から遺構検出面までの深さは40cm前後、包含層の厚さは10～30cm程度である。

- I層 表土・基盤層 灰色シルト層
- II層 黒褐色シルト層
- III層 茶灰色シルト層
- IV層 黄灰色シルト層
- V層 黄灰色（あるいは黄橙色）シルトに1～10cm大の礫を含む

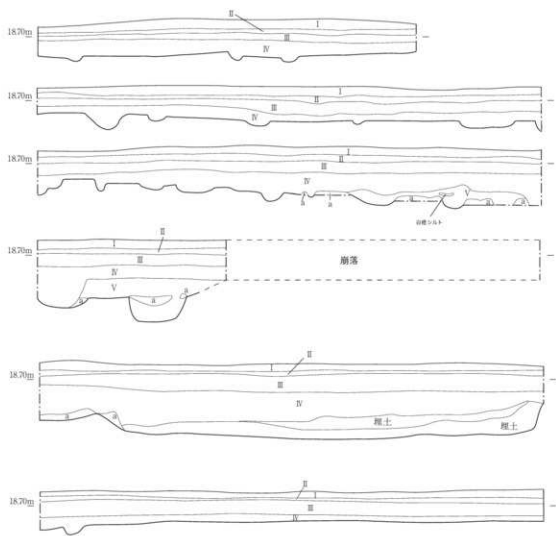
第9図～11図に調査区全体の堆積状況を示した。第9図がA区の西壁、北壁、第10図がD区の北壁、C区の西壁、第11図がB区からC区にかけての西壁の堆積状況である。いずれも60分の1のスケールで示した。セクションポイントは第2節第12図中に示す。標高の基準となるデータラインは、17.0mである。

- a 灰色粘砂土 ST9溝埋土
- b 茶灰色シルトに黄灰色シルトが混じる
- c II層に1～5センチ大の礫が混じる
- d 濃茶灰色シルト
- e 黒褐色シルトに黄灰色シルトが混じる

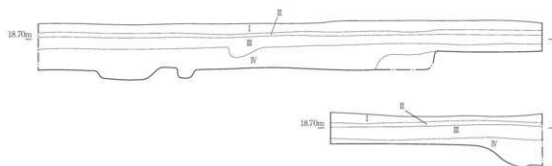


東壁セクション図 (S=1/60)

第17図 東壁セクション図 (S=1/60)

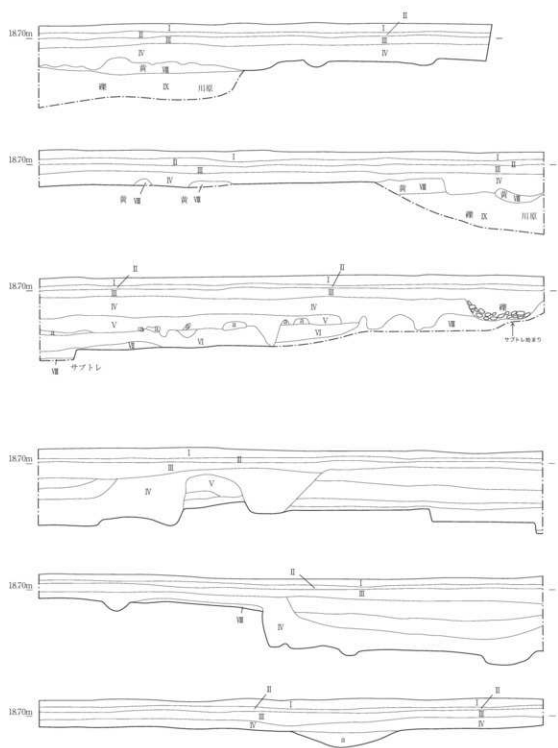


南壁セクション図 (S=1/60)



西壁セクション図 (S=1/60)

第18図 南壁・西壁セクション図 (S=1/60)



北壁セクション図 (S=1/60)

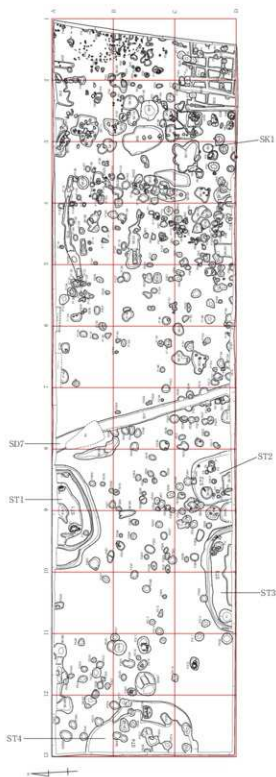
第19図 北壁セクション図 (S=1/60)

第2節 調査区の概要と遺構配置

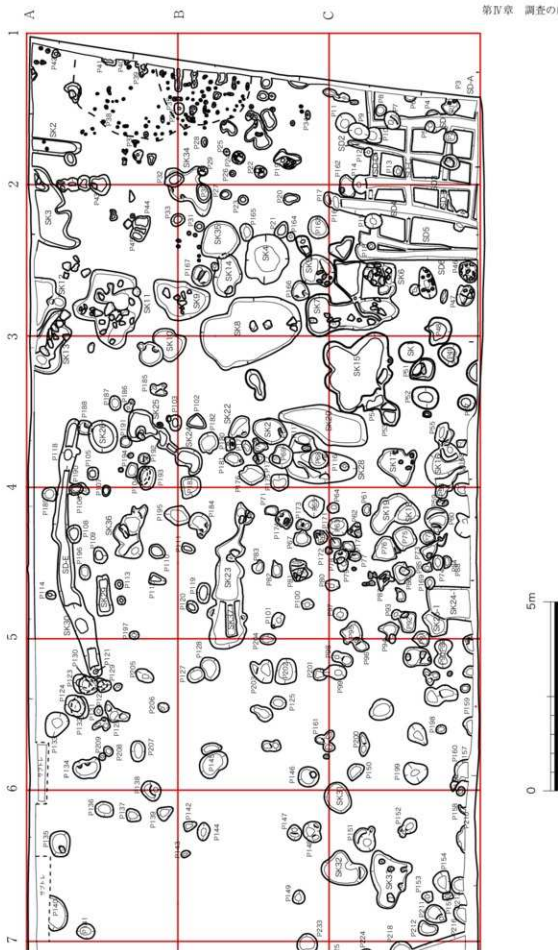
2005年度調査は、設定した南北12m東西48mのほぼ長方形の調査区の東側より順次進められた。道路建設予定地と隣接する浄化槽設置予定地を含む範囲である。

調査区東側には小ピットや不整形土坑、溝状遺構など遺構が集中する。中央部付近は比較的遺構密度は小さい。南北方向に走る溝（SD7）から西側にST1～4の4棟の竪穴建物（いずれも古墳時代初頭）が確認できる。

第20図が調査区全体の遺構配置図（250分の1）である。第21・22図（100分の1）では東半と西半に分けて各遺構の名称を示した。



第20図 ルノ丸地区2005年度調査 遺構平面全体図
(S=1/250)



第22図 東半遺構平面図 (S = 1/100)

第3節 遺構と遺物

1. 竪穴建物 (ST)

合計4棟の竪穴建物が確認されている。いずれの遺構も調査区外に延びており、遺構の全形を把握できるものはない。出土遺物は異なる時期の遺物(古墳時代後期・古代～中世前期)が若干量混入するものの、大半は、タタキ目を持ち、底部が丸底化する古墳時代初頭の範疇で捉えられる資料である。

(1) ST1

調査区中央付近北壁際位置する。グリッドはA-9・A-10。平面形態は隅丸長方形を呈し、約5分の3は調査区外と推定される。調査区内では、他の遺構との切りあい関係はない。

竪穴遺構は一辺5.50～6.0mで西側に張り出し部を持つ。東西方向の辺を基準とする竪穴建物ST1の軸方向は、北から70°東へ傾いている。(N-70°-E)張り出し部の幅は70cmから100cm、長さは180cmまで確認できるが、それ以上は調査区外となっている。張り出し部の床面と中央部付近の床面とのレベル差はほとんどない。遺構の中央付近に一辺3mの方形と推定される深さ12～18cmほどの掘り込み(低くなった部分)があり、張り出し部へ向かって開いている。中央部床面を囲むように幅40～50cmの高まりが残り、その周囲には幅20～40cm、深さ10cm前後の壁溝状の小溝を巡らせている。

底面遺構としては、中央ピットと遺構のコーナー部に柱穴だと考えられるピットが検出されている。

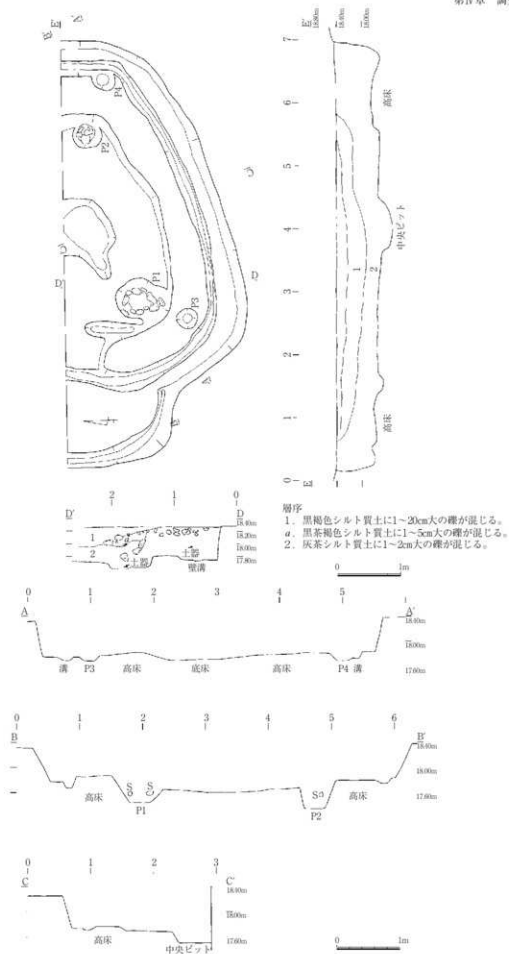
中央ピットは長軸104cm・短軸80cmの楕円形で、長軸方向の東側はさらに15～20cm幅で40cmほど東側に延びる部分を持つ。中央ピットの軸方向はN-58°-Eで建物の方向とほぼ同じ向きである。中央部下段には、P1(径64cm、深さ下段床面より23cm・上段床面より42cm)、P2(径48cm、深さ下段床面より31cm・上段床面より42cm)の2基、一段高い壁際の高まりにP3(径36cm、深さ12～13cm)、P4(径32cm、深さ12～13cm)の2基が形成されている。

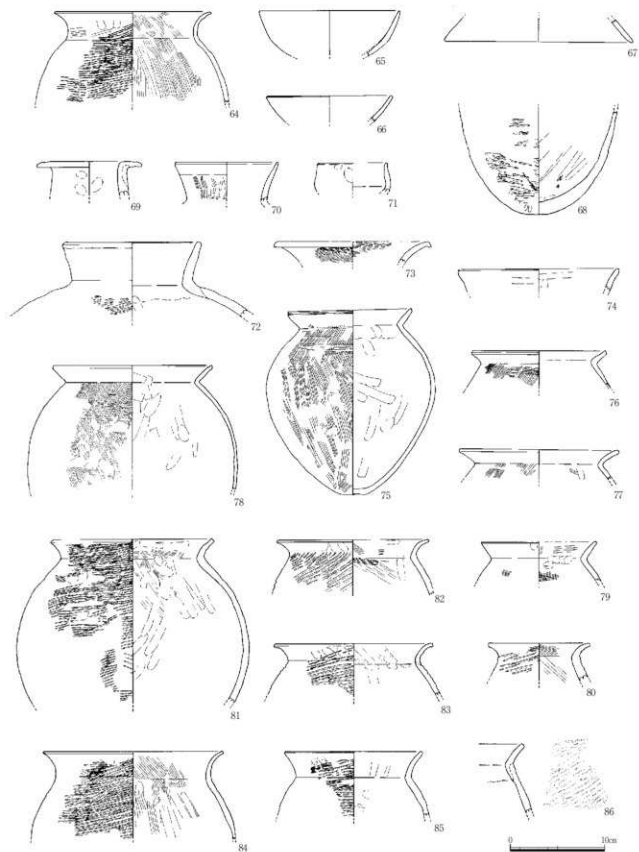
支柱穴を構成しているのは、P1とP2であり、深さと大きさから判断するとP3とP4は補助的な役割を持つ柱穴の可能性はある。遺構の北半は未検出だが、支柱4本の竪穴建物であったと考えられる。

出土遺物は、細片も含めて約1,800点、そのうち74点について図化し掲載している。古墳時代初頭が1,700点余り、古墳時代後期が40点ほど、古代の遺物が20点、古墳時代後期から古代にかけての須恵器甕が11点、それ以外は石器や時期不明の資料となっている。遺構調査に先行するトレンチ調査や検出面や上層の調査等で混入した以外の90パーセント以上の資料が古墳時代初頭のものである。

古墳時代初頭の遺物 (ST1)

中央ピットからは、64の甕の他、タタキ・ハケ調整がある破片12点出土している。P1からは65～67の高坏が出土、P2からは68の甕底部(丸底)が出土している。P1に隣接するP3からも精製土器の口縁が出土している。P1出土の65～67も精製土器であり、遺構南西の角には精製土器が集



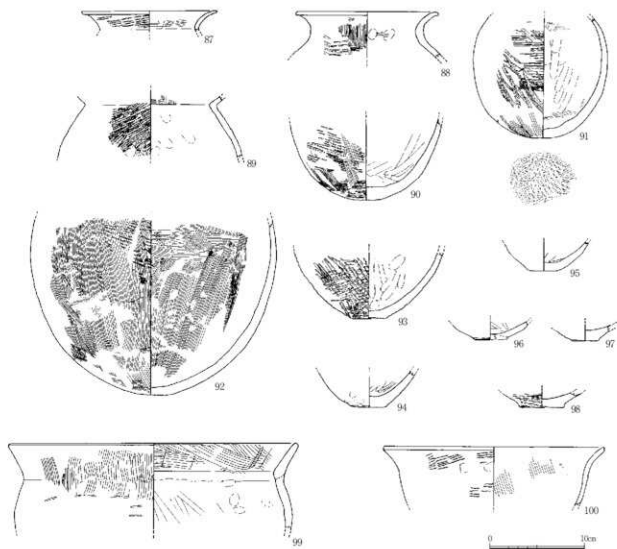


第24図 ST1出土遺物1 (S=1/4)

まっていたことがわかる。

ST1出土の壺形土器は、図示した資料が69～73の5点、小片で壺だと認識可能な個体が2点、厚みから判断できる底部3点とあわせて10点余り確認できる。これに対して甕形土器は、底面遺構出土の64・68、遺構中出土の74～93・97・98の24点を図化、それ以外に口縁部12点、底部15点、合計51点、底部だけでは鉢との区別が困難なものも含めるとさらに増える。鉢形土器は94～96（底部）、99・100（大型鉢・口縁～胴部）、101～115（口縁～底部）の20点を図化、他に口縁部など判断可能な資料が21点あった。図化した遺物の中では少なかった101（第26図）の浅い皿状の鉢は、他に10点出土しており、合計41点確認できた鉢形土器の中では25%を超える高い割合を占めている。116～123が高坏あるいは器台と考えられる精製土器で、これ以外に坏部1点、脚部4点、合計13点が出土している。また、支脚形土製品が2点出土、うち1点（124）を図示した。

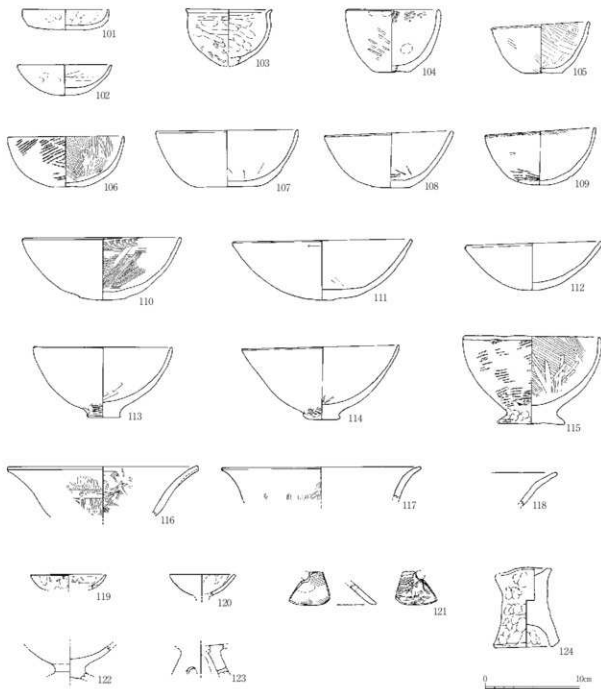
調査では、壺形土器・甕形土器・鉢形土器・高坏（および小型器台）・支脚形土製品（土製支脚）



第25図 ST1出土遺物2 (S=1/4)

が出土した。ST1出土資料の中で、器種が判別可能な資料から割り出した器種ごとの点数・比率は、壺：甕：鉢：高坏（小型器台）：土製支脚 = 10点：51点：41点：13点：2点（合計117点）で、壺：甕が8.5%、甕が43.5%、鉢が35.0%、高坏（小型器台）が11.1%、土製支脚が1.7%となり、この遺構内から出土した遺物の中心となる時期の器種別のおおよその傾向は反映している。

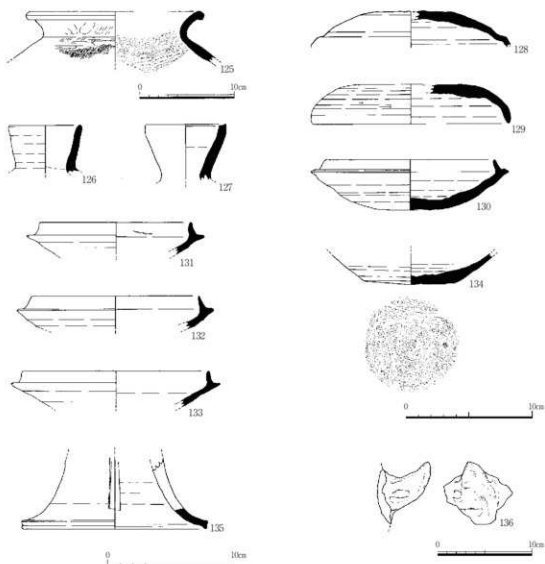
出土遺物の中で、特筆すべきは75と78（第24図）の甕形土器である。75は底部から口縁部まで全体の形を確認することができる。底面は僅かに上げ底気味の狭い平坦面をなし、上腹部に最大形



第26図 ST1出土遺物3 (S=1/4)

を持ち、口縁は端部が肥厚し、わずかに上方へ立ち上がる形状など、形態的に庄内甕を模倣した可能性のある土器である。内面のヘラケズリは認められず、胎土や製作技術は在地のものであり、他の伝統的の第V様式土器と製作技術は何ら変わらない土器なのだが、器壁は他の土器と比較すると格段に薄く、外面は細かいハケ調整で仕上げられている。78の器壁は4mmほどで、弥生時代から受け継がれた技術のみでこの薄さを実現している点も注目される。庄内式影響在地甕と位置付けておきたい。

91の甕形土器は、胴部のみではあるが球形を指向していることがよくわかる資料である。類似例として高知市春野町仁ノ遺跡の例が挙げられる。鉢形土器の大きく分化した様相や甕形土器胴部球形化、庄内式模倣甕の存在など、弥生時代と古墳時代を繋ぐ庄内期のより新しい段階の資料として位置づけられる資料である。高知平野では、古式土師器I期の新しい段階、II期直前の様相を示す資料だと捉えたい。



第27図 ST1出土遺物4 (S=1/4・1/3)

古墳時代後期～古代の遺物（ST1）

125は須恵器・甕、126・127は須恵器・提瓶、128・129が須恵器・坏蓋、130～134が須恵器・坏身、135が須恵器・高坏、136が土師器・甕の把手部分であり、須恵器・甕や提瓶など正確な所属時期断定が難しい資料もあるが、坏蓋・坏身の形態をもとに土佐須恵器Ⅲ-2型式、時期は6世紀後半の資料だと位置づけている。

また図化していないが、古代の資料として奈良時代（8世紀）の内面沈線が退化する段階の土師器・坏や、赤彩土師器細片など、少量ではあるが出土している。

・石器及び炭化物

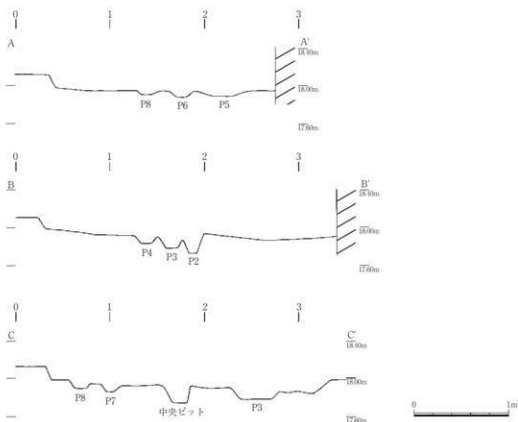
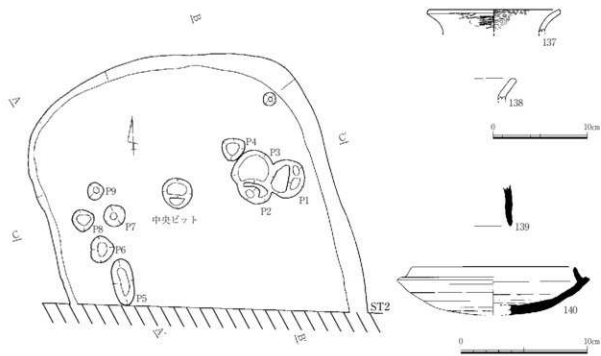
自然石も含め、合計21点の石器類が出土している。端部に敲打痕のある棒状砂岩礫が1点、被熱して赤変した砂岩礫が1点確認された。床面直上も含め、炭化物が小袋7袋分出土した。少量であり、炭化物が集中した地点等は確認されていない。これらの遺物については図化はしていないが、出土資料として実見できるよう保管してある。

(2) ST2

調査区東半の南壁際に位置する。グリッドC-8。遺構の南半は調査区外のため未検出である。SK39・42・48、P246・247と切り合い関係にある。ST2はこれらの遺構に先行して形成された遺構である。検出面標高は18.38～18.45m。平面形態は隅丸長方形、短辺3.04m、長辺3.20m以上で、深さ15cm～20cmである。長辺の方向を基準とした軸方向はN-13°-W、北から13°西へ傾いている。床面から11基のピット（P1～9及び中央ピット）が検出されているが、堅穴建物の支柱穴を構成するピットの復元はできなかった。底面遺構であるこれらピットの規模は直径12～40cmで深さは8～20cm、P5のみ短軸20cm・長軸50cmと細長い形状である。また、中央ピットとされるピットは直径30cm深さ20cmである。遺構底面には壁溝状の周溝は確認できない。

出土遺物は細片も含めて約180点。そのうち172点が弥生時代終末～古墳時代初頭の遺物、大半がタタキ目を持つ胴部小破片であり、図示し得た当該期の遺物は137（壺口縁部）と138（甕口縁部）の2点のみである。底面遺構からの出土遺物はP1からタタキ・ハケ調整の小片1点、P2からタタキ目のある小片が1点出土している。

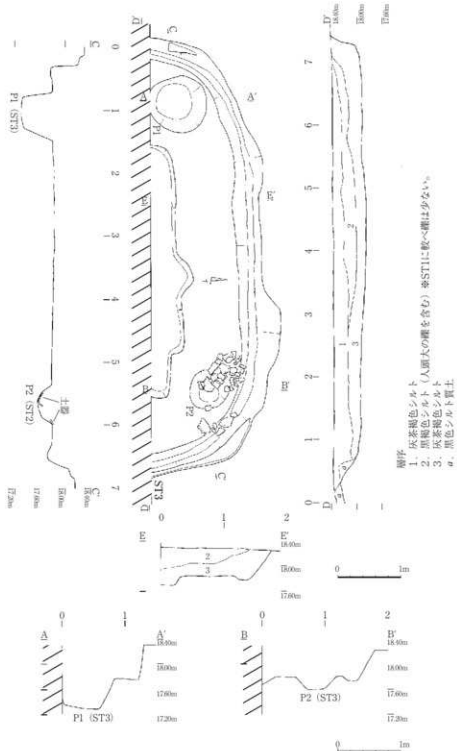
異なるの時期の遺物として、古墳時代後期（6世紀後半）と古代と考えられる資料が出土しているが、それぞれ数点程度と少量であり、この遺構の時期は古墳時代初頭、ヒビノキⅢ式土師器の段階（土佐古式土師器Ⅰ期）だと判断している。異なる時期ではあるが、6世紀後半の須恵器（土佐古墳時代後期Ⅲ-2型式）2点（139・140）については図化して示した。



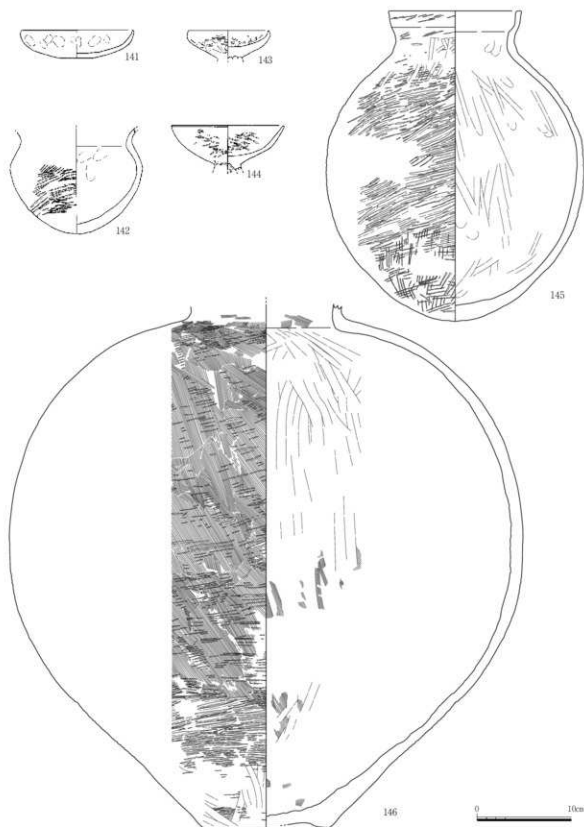
第28図 ST2平面・エレベーション図 (S=1/40) 出土遺物 (S=1/4・1/3)

(3) ST3

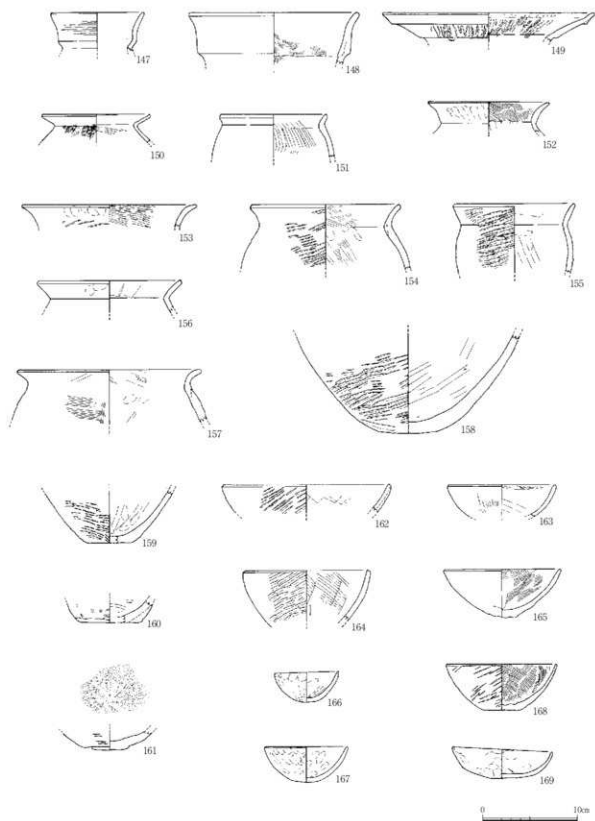
調査区東半の南壁際に位置する。グリッドはC-9・10。南側3分の2程は調査区外のため未検出である。P308と切り合い関係にある。検出面標高は18.42m。平面形態は隅丸方形で、検出できた東



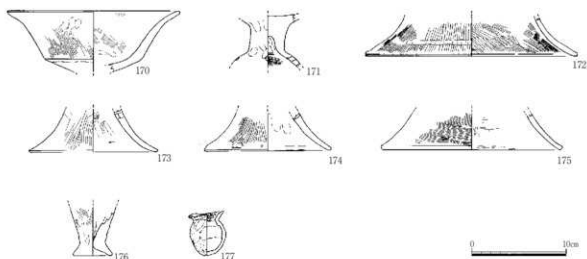
第29図 ST3平面・セクション・エレベーション図 (S=1/60)



第30図 ST3出土遺物1 (S=1/4)



第31図 ST3出土遺物2 (S=1/4)



第32図 ST3出土遺物3 (S=1/4)

西方向の長さは6.9m、遺構の軸方向は北から4°西に傾いている。(N-4°-W)

検出面から床面までの深さは42～50cmで、遺構底面は中央部でさらに一辺4.0mの方形の掘り込みがある。遺構が調査区外に帯びているため、中央ピットなど底面遺構の全体像を把握することはできないが、コーナー部からP1(直径90cm、深さ48cm)、P2(直径60cm、深さ24cm)の2基の柱穴が検出されている。P1・2はST3の主柱穴を構成するピットであり、この堅穴建物は4本の主柱穴を持っていたと推定される。

細片も含め、出土遺物は約700点、タタキ目を持つ土器片が大半である。出土遺物を所属時期で分けると、弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての資料が650点、古墳時代後期6世紀後半を中心とした時期の資料が25点、古代の資料が34点、そして弥生時代前期末の資料が1点となる。

ST3・P1からは、141～144の精製土器が出土している。141は浅い皿状の鉢、142は深さのある球形に近い胴部を持った鉢、143は器台、144は在地土器と胎土の異なる高坏である。144は搬入品で、雲母・角閃石を含む特徴から、高松平野周辺から持ち込まれた土器だと考えている。図示していないが、P1出土遺物に敲石がある。砂岩の円礫を用い、端部に敲打痕が観察される。

ST3・P2とその周りの床面から146の甕形土器が出土している。底部は平底で、底面周縁が高台状に盛り上がり、上げ底気味になった大型の甕で、頸部から上は失われており、口縁部形状はわからない。145も甕形土器で、卵形の胴部形状と袋状になった口縁部形状に特徴のある土器である。147、148も袋状を呈する壺口縁部で、二重口縁の土器である。147は在地の胎土だが、148は胎土も異なる搬入品である。形態の特徴から山陰系土器だと考えている。150は東阿波型土器の甕、151は口縁が短く立ち上がるタイプの甕形土器である。在地の甕形土器は、頸部でくの字状に強く屈曲し、大きく外反する形態は少なく、頸部で屈曲するものの、屈曲が緩やかな甕形土器が多くなっている。

器種別にみれば、壺は145～148・158、甕は150～157、159～161、鉢は162、163～169、高坏及び小型器台は170～175、脚付土器が176、小型土器(ミニチュア土器)が177、ST3から出土した古墳時代初頭の土器の器種は以上6グループに大別できる。実測遺物以外のカウント可能な資料

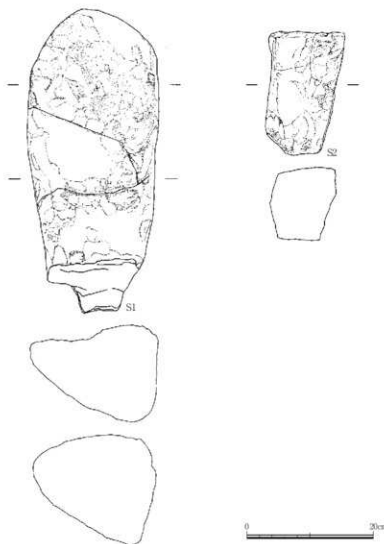
も合わせると、壺7点（10.3%）、甕23点（33.8%）、鉢24点（35.3%）、高坏及び器台12点（17.6%）、脚付土器1点（1.4%）、小型土器1点（1.4%）となる。ST1同様、甕と鉢の割合が高い。

176の脚付土器は、製塩土器の可能性もある。

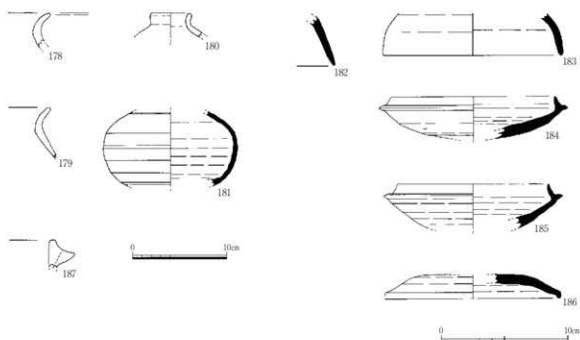
遺構からは石器も出土している。S1とS2の2点とも被熱赤変した自然礫である。

古墳時代初頭以外の時期の遺物も点数が少ないが、検出されており、178～186については図化して提示した。より新しい時期の遺物は、遺構上層や切り合い関係にある他の遺構との関連で、ST3から出土した物だと考えている。

第34図に示したものは、178・179の土師器・甕が古墳時代後期（6世紀後半）、180の土師器・壺と181の須恵器・貯蔵具（壺）は正確な時期不明、182～185の須恵器・坏蓋と坏身は古墳時代後期（6世紀後半）、186の須恵器・坏蓋が7世紀初頭、187の土師器・羽釜が古代の資料であり、掲載した以外にも数点ずつだが、各時代の資料が含まれている。1点だけ出土している弥生時代前期末の遺物は、上胴部に微隆起帯3条を持つ甕の破片である。



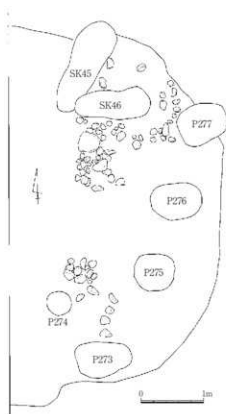
第33図 ST3出土遺物4 石器類 (S=1/6)



第34図 ST3出土遺物5 古墳時代後期・古代の遺物 (S=1/4・1/3)

(4) ST4

調査区西端、グリッドA-12・13・14に位置する。西半分は調査区外のため未検出である。P273・274・275・276・277・307と切り合い関係にある。遺構は北から70～80°ほど西に傾いている。(N-70～80°-W) 検出標高は18.48m、平面形態は東側に張り出し部を持つ若干変形した隅丸方形ではないかと、検出範囲の状況から推定している。推定される遺構規模は一辺が7.2mで、張り出し部の長さは短い東端で4.2m、根元部分で4.8～5.0m、幅0.9～1.2mとなっている。張り出し部はベッド状の高まりとなり、遺構中央部床面との段差は10～12cm、遺構検出面とベッド上の張り出し部との比高差は15～20cmとなっている。底面遺構の可能性を持つピットにP301～305などがあるが、P301からは時期不明の細片、P304からはタタキ目のある土器片、P305からは古墳時代後期以降の土師器片

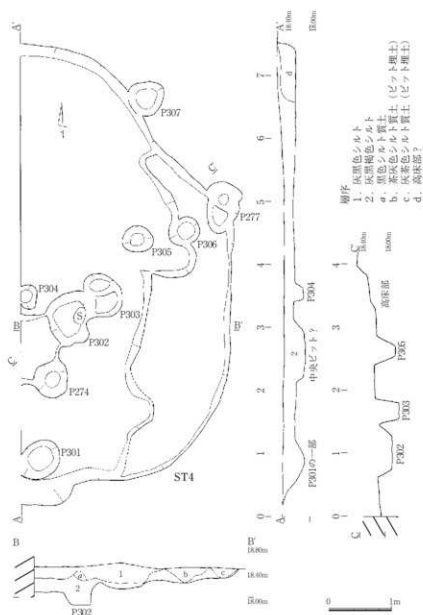


第35図 ST4上面遺構検出状況平面図 (S=1/60)

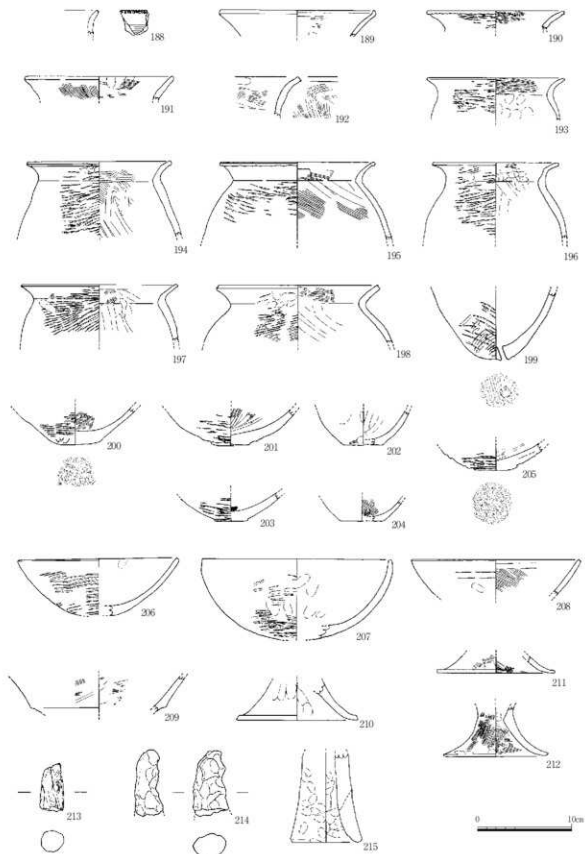
が出土、ST4に伴うピットを断定することは難しく、主柱穴の復元は困難である。壁溝に相当する溝状遺構は検出されていない。

出土遺物は約950点、そのうち920点ほどが古墳時代初頭の遺物で、それ以外に古墳時代から古代にかけての須恵器、同時期の土師器、中世前期の土師器供養具などが出土しているが、出土量はそれぞれ数点程度と少なく、上層からの出土である場合が多い。また、弥生時代後期の土器が1点、弥生時代前期の土器が2点確認されている。弥生前期の土器は前期末の大篠式土器であり、ヘラ描沈線が3条以上残る甕形土器の破片で、うち1点(188)は図示した。

189~215が、古墳時代初頭の遺物である。189の甕は搬入品で、庄内式新段階の資料、190~203が甕形土器で、202の底部は、精選され白色鉾物を含む在地とは異なり搬入品だと考えられる。



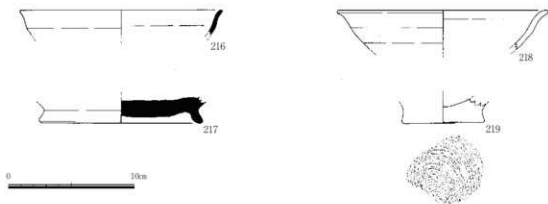
第36図 ST4平面・セクション・エレベーション図 (S=1/60)



第37図 ST4出土遺物1 (S=1/4)

204～208 が鉢形土器、底部のみでは甕と鉢の弁別が難しい資料もある。209～210 が高坏、213～215 が支脚形土製品である。

異なる時期で資料化した 216～219 も古墳時代の資料はなく、古代から中世前期にかけての遺物である。



第38図 ST4出土遺物2 (S=1/3)

表6 竪穴建物（ST）出土遺物

遺構	詳細地点	点数	不明	弥生土器	古墳期	古墳後期	古代	中世前期	石・他	詳細
ST1	サブトレ	400			○					タタキ目のある破片大半点、タカツキ12
	西壁	32			○					タタキ
	埋土	1065			○					タタキ（口縁35、底部13）
	床 西半分	120			○					タタキ、口縁部
	床 東半分	30			○					タタキ
	中央ピット	12			○					タタキ、ハケ、小片
	P1	10			○					タタキ、ハチ口縁あり
	P2	1			○					小片
	P3	2			○					ナデ・精製
P4	1			○					ハチ口縁	
ST1	サブトレ	25				○				土師器（内ヘラズリ）、須恵器（カメ）6、須恵器（坏身・蓋）5
	西壁	3	○			○				須恵器
	埋土	15				○				須恵・カメ、須恵・坏蓋2、フゴ1
ST1	埋土	15					○			土師器・供養具
	サブトレ	2					○			8世紀の坏（内面沈没腐化）、赤彩土師器破片
ST1	埋土	15							○	石（赤岩焼熟煎石6、円礫2-うち1点は棒状）
	サブトレ 東	1							○	緑石（棒状砂岩礫・扁形扇形礫）
	床 西半分	2							○	焼熟礫
	床 東半分	2							○	焼熟砂岩礫
	P1	1							○	焼熟赤変砂岩礫
	P2	1							○	石
ST2	サブトレ	30			○					タタキ目のある小片
	埋土	40			○					タタキ目
	床	100			○					タタキ目、ハケ、ナデ
	P1	1			○					タタキハケ（小片）
	P2	1			○					碎面タタキ（小片）
ST2	埋土	4				○	○			生焼け須恵器、土師器供養具1、煮炊具2
	サブトレ	3					○			供養具1、煮炊具2
ST3	遺構付付検出面	59				○	○	○		土師（カメ）10、須恵（カメ）14、須恵（器）5、土師（器）30
		20				○				タタキ
ST3	サブトレ東西	112			○					タタキ、口縁部（ハチ3、フゴ3、カメ6）
	サブトレ南北	28			○					タタキ
	埋土	355			○					タタキ、ナデ、口縁（カメ6、ハチ8）
	P1	9						○		緑岩煎石1、鉢1、小片7
	P2周辺床	9			○					タタキ
床上	220			○					タタキ、口縁部出、小型鉢（タタキなし）1、精製の器台の鉢口縁7	
ST3	サブトレ東西	7				○				外ナデ、内ヘラズリ、須恵（カメ、坏蓋、坏身）
	サブトレ南北	2	○							須恵2
	埋土	6				○				外ナデ、内ヘラズリ
ST3	埋土	12					○			須恵（坏蓋、カメ）
	埋土	34						○		口縁（土師14、須恵4）、土師15、須恵1
ST3	サブトレ東西	20						○		土師（赤切）、須恵
ST3	灰（床上）	6							○	自然石
	埋土	3							○	石
ST3	埋土	1		○						鐵線蛭帯3条（前期末）
ST4	検出面	110			○					タタキ 他
		30				○	○			須恵器（カメ他）10、土師器30
		2							○	磁器（網目魚文）、陶器（古代以降）
ST4	埋土	240			○					小中片、口縁17（カメ）、鉢2、タカツキ1、底部丸底（タタキ）、底部（木の葉形底）、底部（丸底・タタキなし）支脚1、高坪
	サブトレ	190			○					タタキ
ST4	埋土	10				○	○			土師・供（うち輪高台1）、土師器、土師器（穿孔あり）
	埋土	7	○			○	○			須恵器7
ST4	埋土	6						○		円盤状高台（赤切）他
ST4	バンク北サブ	1		○						弥生前期末カメ（ヘラ）沈3条以上
		2		○						弥生前期末（ヘラ）沈、カメ、長形（口縁）

2. 土坑 (SK)

全体で54基の土坑が検出されている。遺物の有無にかかわらず、位置の確認できた53基について平面・エレベーション図の作成を行った。数時期の出土遺物が存在するものや、出土遺物が僅少あるいは皆無の遺構もある。可能な限り推定される時期を提示、遺構の計測データ及び出土遺物の状況を表にまとめて示す。また、まとまった遺物が出土したSK1については、表以外に、遺構・遺物に関する記述も行いたい。

(1) SK1

調査区西半の南側、グリッドC3に位置する。軸方向はN-2°-Eで南北方向の遺構で、遺構の平面形は楕円形、長軸58cm、短軸47cm、検出面標高は18.42mである。遺構内には、さらに40cm×28cmの平面楕円形の掘り込みがあり、2段になっている。検出面から1段目までが6~10cm、さらに10cmほど掘り込みがあり、深さは18cmとなっている。

出土遺物は図示できた遺物が220~234の15点、破片数にして70点ほど出土している。遺構内からは円礫も出土している。礫の性格は不明。壺形土器と考えられる破片も1点出土しているが、大半が甕と鉢である。底部の形状は、わずかに平坦面を残すもの(226・230)もあるが、丸底を指向、鉢形土器はボウル状の形態となる。鉢形土器の口縁部は外傾する面をなし、内面をハケ調整で仕上げる。壺形土器には、頸部で稜をなくす字形に強く屈曲するタイプとより緩やかに屈曲するタイプがある。甕と鉢を比較すると、内外面の調整が異なることがわかる。鉢は大きくボウル状に開くのに対し、甕は鉢に較べ開きが若干小さく上方に立ち上がる。甕は外面にタタキ目の後ハケ目が残るが、鉢(229~232)は外面にハケ目が認められない。甕の内底付近にはユビナデが残りハケ調整がほとんどないのに対して、鉢は内面に残るハケ調整の痕跡が顕著である。甕と鉢以外では234の支脚形土製品、233の台付土器の脚部も出土している。234は完形品、233は脚部のみであり、台上の器形は判断できない。

これらの器形、調整の特徴から出土遺物はヒビノキⅢ式土器であり、SK1の時期は古墳時代初頭である。

(2) その他の土坑 (SK) 出土遺物

その他の土坑からは、第47図に示した遺物が出土している。図示遺物については表15遺物観察表、各遺構出土遺物細片の詳細は表7土坑(SK)出土遺物一覧表、遺構の位置・形態・規模は遺構計測表にまとめて提示する。

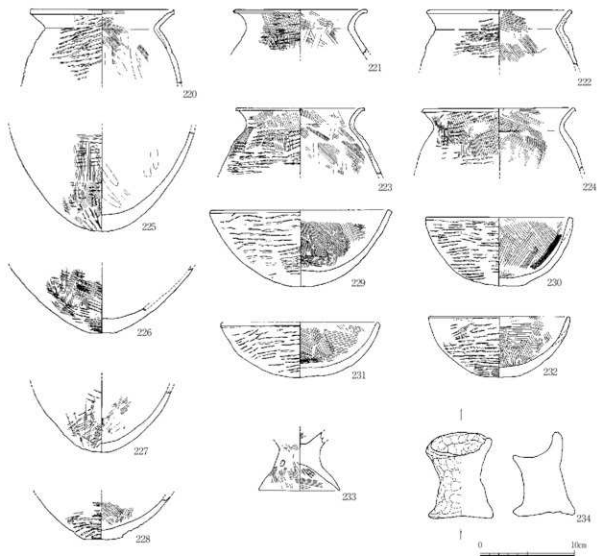
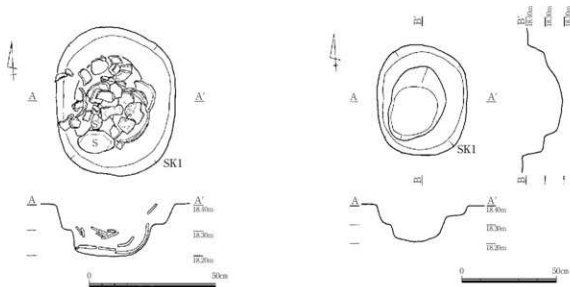
SK2(235)、SK6(237)、SK8(236)、SK15(238・239・240・241)、SK18(242)、SK24(243)、SK27(245)、SK31(246)、SK33(247)、SK39(248・249)、SK40(250)、SK43(252)、SK47(253)、SK51(254)が土器・須恵器・土製品で、SK15(S3)が石器(打製石包丁)である。

出土遺物から判断できる時期は、古墳時代初頭3世紀中葉(SK18・27)、古墳時代後期6世紀後半(SK2)、古代8世紀前後(SK8・15・31・33・40・43・47・51)、中世前期12世紀前後(SK39・40)の4時期だが、出土遺物僅少なうえ他時期の資料が混在、詳細な時期特定が難しい例が多い。なお、SK3・11・20~22・25・29・30・37・38・45・52~56の16基から遺物は出土していない。

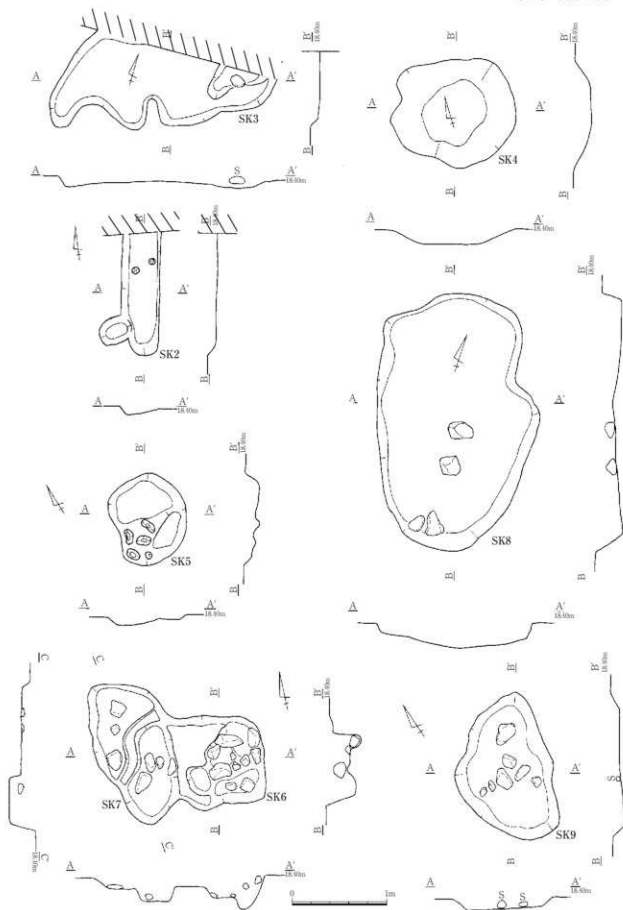
表7 土坑(SK)出土遺物

遺構	遺物 点数	詳細 時期 不明	弥生 土器	古墳 初	古墳 後期	古代	中世 前期	詳細	図示遺物
SK1	70			○				テタキ目の珪岩破片が大半で、部分的にはハケによる最終調整を確認できる。1.5cm以上の厚みを持つ珪岩土器も多かったが、鉢・甕が主である。	220～234
SK2	11				○			土師器小片9点。須恵器杯身2点。6世紀後半。	235
SK4	19					○		土師器1細片16点、ヘラ切威1点、赤彩土師器1点、煮炊具1点)、須恵器貯蔵具1点、須恵器の器紐は赤か。古代の遺構である。詳細な時期特定は難しい。	
SK5	3				○	○		土師器2点と須恵器1点。時期特定は難しいが、古墳時代後期～古代。	
SK6	13	○		○	○	○		土師器12点、須恵器1点。テタキ目のある土器と土師器供養具、須恵器が出土。小片ゆえに時期特定は難しい。古墳～古代。	237
SK7	42					○		土師器40点。細片ではあるが、赤彩土師器も出土している。須恵器(甕)2点。	
SK8	30	○						テタキ目のある破片が大半。古墳時代初期と古代の資料が混在している。須恵器3点。	
SK9	10	○						土師器細片と須恵器細片1点	
SK10	22	○						土師器20点。細片が多い。時期特定難しい。土師器供養具含む。須恵器2点。	
SK12	7			○	○	○		土師器小片で、資料混在。	
SK13	1	○						土師器小片1点の出土。砂岩四稜も含む。	
SK14	1			○				ハケ、ナデの調整を確認できる土器片1点のみの出土。	
SK15	50	○		○	○	○		古墳後期～古代の遺物が混在している。	238～241
SK16	8	○			○	○		土師器細片8点。古墳～古代の資料だが、時期不明。	
SK17	2	○				○		細片2点。詳細な時期はわからない。	
SK18	5	○		○				テタキ、ハケのある土器片は古墳時代初期のもの。	242
SK19	3	○				○		小片だが、土師器供養具が出土。古代の可能性あり。	
SK23	7	○						土師器供養具と煮炊具の小片が出土。古代の可能性がある。	
SK24	34	○				○		土師器(煮炊具27点・うぐへら切威4点、煮炊具3点)、須恵器(甕3点、杯1点)が出土。古代の遺構ではあるが、詳細時期不明。	243～254
SK26	41					○		須恵器1点。土師器細片40点。土師器細片には供養具が多い。古代の遺構か。	
SK27	16	○						古式土師器16点。テタキ目を持つ破片(5～8センチ大)が大半で、葉や小葉の魚状の跡の付く(3点)も確認できる。	245
SK28	22	○				○		土師器小片21点。須恵器1点。古代の可能性あり。	
SK31	3	○						詳細な時期不明。土師器小片3点。古墳時代以降?	246
SK32	10			○				テタキ目のある破片。古墳時代初期の可能性。	
SK33	27	○				○		土師器25点。須恵器2点。詳細な時期不明。古代?	247
SK34	4				○			テタキ目のある破片。古墳時代初期の可能性。	
SK35	5	○						テタキ目のある土器が出土しているが、細片で少量である。詳細時期不明。	
SK36	5	○						土師器。小片のため不明。	
SK39	21					○	○	土師器20点。須恵器1点。詳細な時期不明。古代?	248～249
SK40	11			○	○	○		土師器10点。須恵器11点古墳時代初期～古代の資料が混在している。	250
SK41	5	○						土師器小片。詳細な時期不明。	
SK42	40			○				テタキ目のある土器片。弥生時代末～古墳時代初期。	
SK43	48			○		○		須恵器3点。土師器45点。資料は混在しているが、土師器供養具が多く、古代の遺構だと考えられる。	252
SK44	4					○		土師器煮炊具と供養具。古代の遺構。	
SK46	14			○				テタキ目のある土器片。弥生時代末～古墳時代初期。	
SK47	10	○				○		須恵器2点。土師器8点。小片。古代か。	253
SK48	20			○		○		土師器。大半が弥生時代末～古墳時代初期の食料。少量だが、古代の供養具もある。	
SK49	16	○						須恵器1点。土師器15点。いずれも小片で時期不明。	
SK50	2	○						土師器。詳細な時期不明。	
SK51	30	○						土師器供養具。細片	254

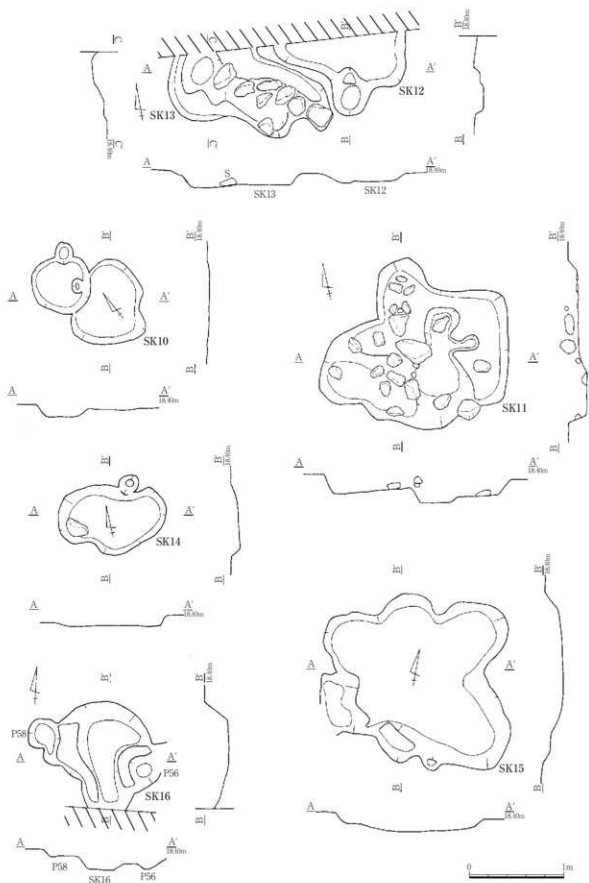
※SK3-11・20～22・25・29・30・37・38・52～56は出土遺物なし。
SK45からは、U字形線・線文(第60回・F1)が出土している。
(SK45はT4の上側に形成された遺構である。)



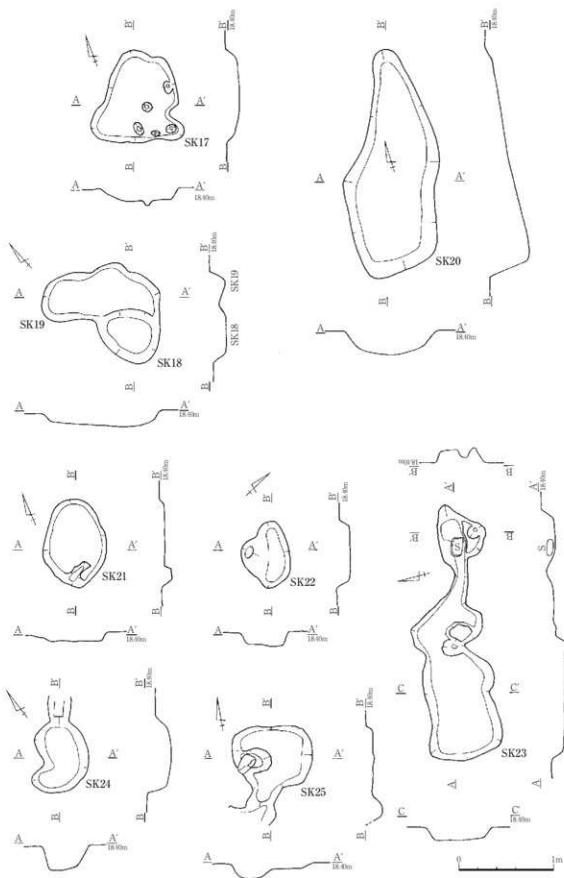
第39図 SK1 遺物出土状況平面・エレベーション図 (S=1/15) 完掘平面・エレベーション図 (S=1/20) 及び出土遺物 (S=1/4)



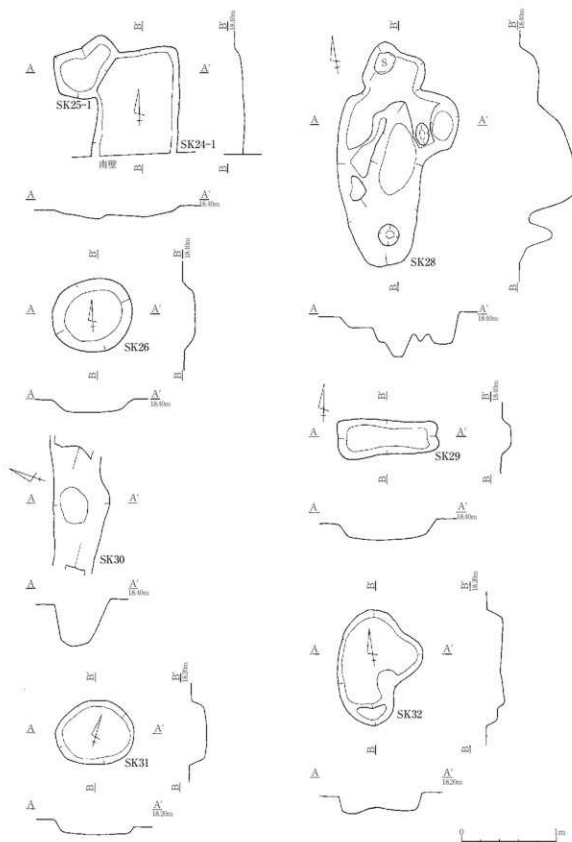
第40図 SK2~9平面・エレベーション図 (S=1/40)



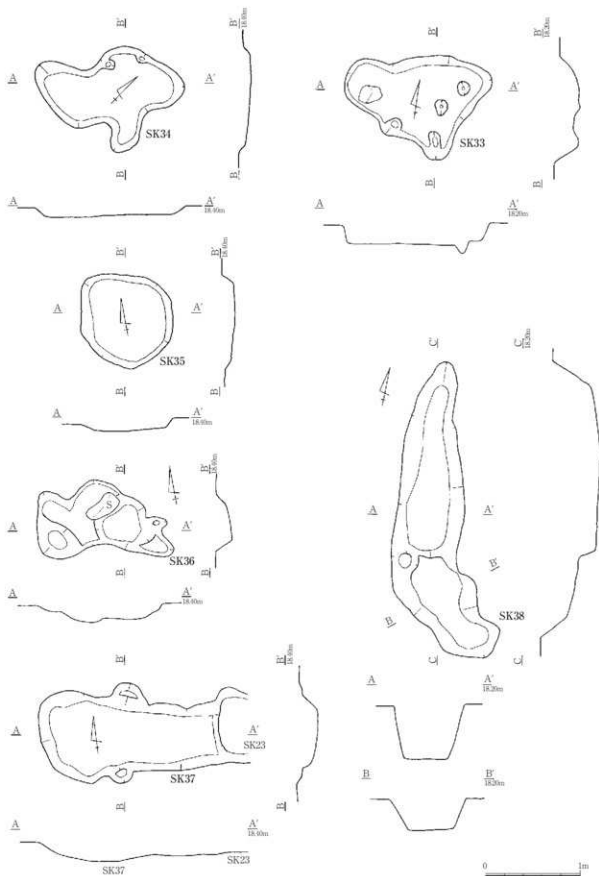
第41図 SK10～16平面・エレベーション図 (S=1/40)



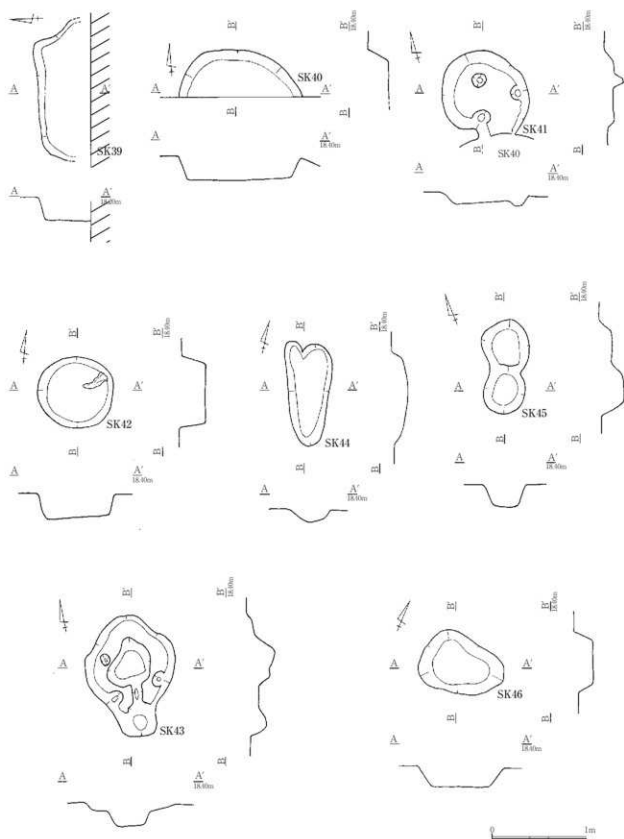
第42図 SK17~25平面・エレベーション図 (S=1/40)



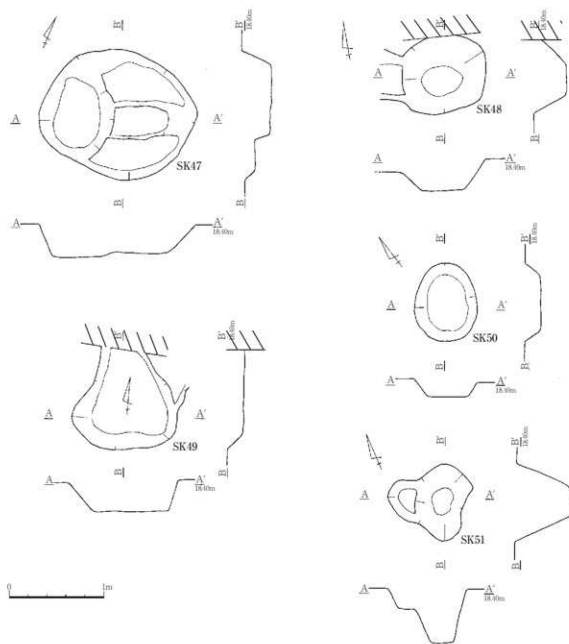
第43図 SK24-1・25-1・26・28～32平面・エレベーション図 (S=1/40)



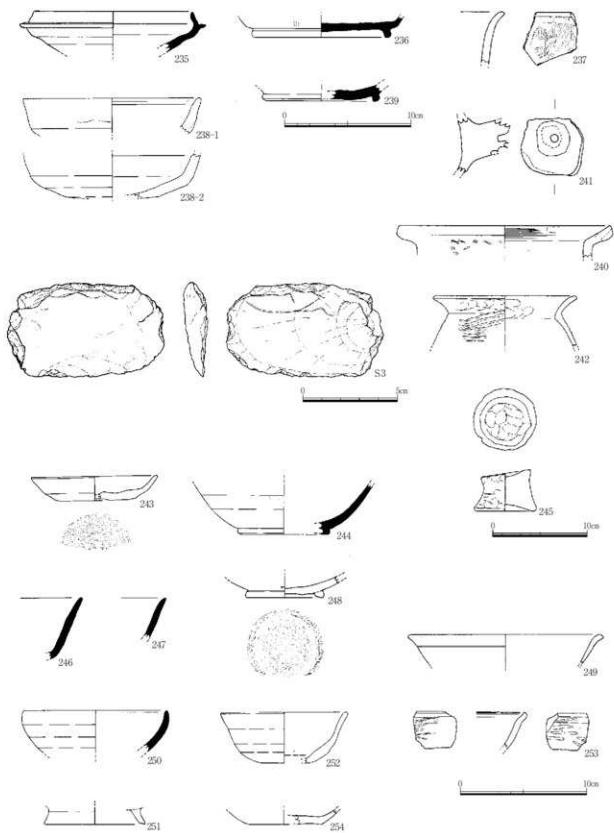
第44図 SK33~38平面・エレベーション図 (S=1/40)



第45図 SK39～46平面・エレベーション図 (S=1/40)



第46図 SK47～51平面・エレベーション図 (S=1/40)



第47図 土坑(SK)出土遺物 石器(S=1/2) 土師器(S=1/4) 須恵器・土師器供膳具(S=1/3)

表8 土坑 (SK) 遺構計測表 (1)

遺構 番号	グリッド	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	検出面標高 (m)	底面標高 (m)	深さ (cm)	主軸方向
SK1	B-3	楕円形	58	47	18.421	18.244	18	N-2°-E
SK2	A-1	長楕円形	(128)	42	18.423	18.330	10	N-7°-E
SK3	A-1～A-2	不整形円形	196	(110)	18.430	18.278	15	N-90°-W
SK4	B-2	不整形円形	130	112	18.357	18.162	20	N-17°-E
SK5	B-2	不整形円形	97	82	18.344	18.192	15	N-31°-E
SK6	C-2	隅円長方形	(92)	92	18.359	17.992	37	N-6°-E
SK7	C-2	楕円形	158	86	18.362	17.086	28	N-7°-W
SK8	B-2～B-3	不整形円形	272	172	18.304	18.017	29	N-15°-W
SK9	A-2～B-2	楕円形	151	103	18.293	18.146	15	N-16°-E
SK10	A-3～B-3	不整形円形	90	(53)	18.279	18.121	16	N-55°-E
SK11	A-2	不整形長方形	200	178	18.328	17.992	34	N-77°-W
SK12	A-2	楕円形	140	(82)	18.328	18.181	15	N-69°-W
SK13	A-2～A-3	楕円形	174	(82)	18.367	18.186	18	N-57°-W
SK14	B-3	楕円形	113	73	18.352	18.233	12	N-78°-W
SK15	B-2～C-2	不整形	230	192	18.392	18.174	22	N-63°-W
SK16	B-3	不整形円形	(112)	(94)	18.394	18.017	25	N-5°-W
SK17	C-3	不整形円形	98	98	18.443	18.247	20	N-20°-E
SK18	C-4	不整形円形	70	54	18.374	18.229	15	N-25°-E
SK19	C-4	不整形長方形	114	52	18.407	18.232	18	N-46°-E
SK20	B-3～C-3	不整形円形	241	54	18.447	18.162	29	N-18°-E
SK21	B-3	楕円形	94	68	18.427	18.295	13	N-21°-E
SK22	B-3	不整形円形	70	52	18.425	18.277	15	N-44°-W
SK23	B-4	不整形長方形	269	76	18.373	18.128	25	N-77°-W
SK24	B-3	不整形楕円形	80	68	18.383	18.109	27	N-37°-E
SK25	A-3	隅円長方形	82	(84)	18.395	18.229	17	N-77°-W
SK24-1	C-4	長方形	(110)	88	18.338	18.222	12	N-1°-E
SK25-1	C-4	楕円形	76	56	18.389	18.209	16	N-45°-E

表8 土坑 (SK) 遺構計測表 (2)

遺構番号	グリップ	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	検出面標高 (m)	底面標高 (m)	深さ (cm)	主軸方向
SK 26	A-3	楕円形	88	77	18.398	18.258	14	N-66°-E
SK 27	-	-	-	-	-	-	-	-
SK 28	B-3	楕円形	235	125	18.424	17.809	62	N-12°-E
SK 29	A-4	隅円長方形	104	42	18.332	18.175	16	N-88°-E
SK 30	A-4 ~ A-5	楕円形	126	60	18.302	17.795	51	N-71°-E
SK 31	C-5 ~ C-6	楕円形	84	66	18.110	17.929	18	N-73°-E
SK 32	C-6	不整楕円形	122	90	18.025	17.835	19	N-8°-E
SK 33	C-6	不整方形	133	110	18.077	17.933	26	N-70°-E
SK 34	B-1 ~ B-2	不整楕円形	158	110	18.402	18.280	12	N-46°-E
SK 35	B-2	不整円形	99	98	18.391	18.251	24	N-8°-E
SK 36	A-4	不整楕円形	148	74	18.349	18.137	21	N-56°-W
SK 37	B-4 ~ B-5	隅円長方形	190	92	18.284	18.064	22	N-80°-W
SK 38	A-7 ~ C-9	長楕円形	316	68	18.015	17.397	63	N-9°-W
SK 39	C-8	長方形	(140)	54	18.219	17.920	30	N-87°-E
SK 40	C-8 ~ C-9	楕円形	131	(49)	18.218	17.971	25	N-86°-W
SK 41	C-8 ~ C-9	不整円形	(95)	90	18.189	17.977	21	N-15°-W
SK 42	C-8	円形	80	-	18.217	17.939	28	N-84°-E
SK 43	C-8 ~ C-9	楕円形	128	96	18.182	17.935	25	N-5°-E
SK 44	B-5	不整楕円形	108	52	18.270	18.100	17	N-9°-W
SK 45	B-12	橢圓形	100	51	18.361	17.945	42	N-23°-E
SK 46	B-12	楕円形	89	64	18.301	17.945	36	N-88°-W
SK 47	B-11	楕円形	167	137	18.434	18.091	34	N-64°-E
SK 48	A-11	隅円方形	(90)	(80)	18.455	18.109	35	N-89°-W
SK 49	A-12	楕円形	(106)	110	18.423	18.115	31	N-6°-W
SK 50	A-12	楕円形	82	36	18.451	18.283	17	N-34°-W
SK 51	A-12	不整円形	81	81	18.459	17.876	58	N-58°-W

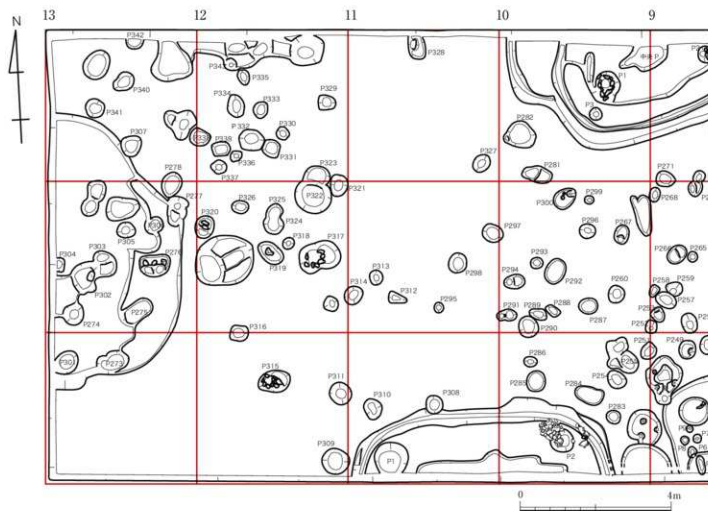
3. ピット (P)

遺構番号を付けたピット数は343基、P 272は位置の特定ができなかったが、それ以外の342基については確認することができた。調査は東から西へと進行したため、遺構番号はおおよそ東から西への順となっている。第48図～50図に遺構名と平面形を、遺構の位置(グリッド)・形状・規模を表9に記録した。また、少量でも出土遺物が確認できた遺構については、表10ピット出土遺物で可能な範囲で遺物所属時期を判断する。

第51図がピット出土遺物で、図版掲載遺物の遺構番号は以下の通りである。

256 (P2)・257 (P47)・258 (P63)・259 (P117)・260 (P74)・261 (P127)・262～263 (P157)・264 (P224)・265 (P231)・266 (P233)・267 (P236)・268 (P255)・269 (P274)・270～271 (P282)・272 (P314)・273 (P315)・274 (P327)・275 (P254)・276 (286)

遺物の詳細については遺物観察表に記載する。

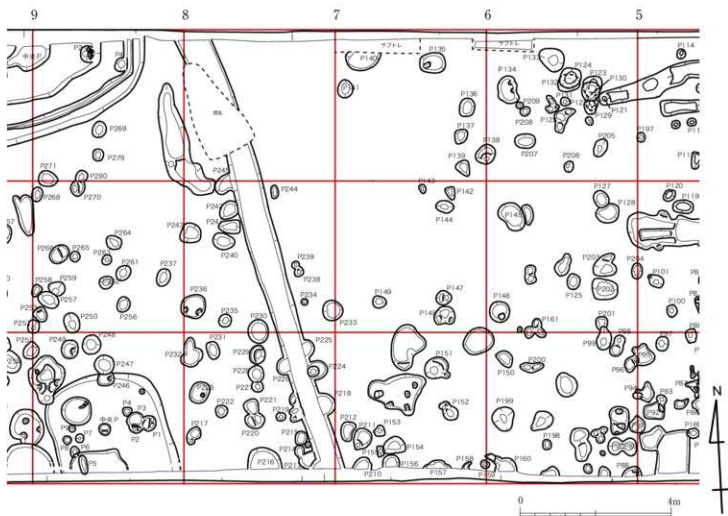


第48図 調査区西側遺構平面図とピットの位置 (S=1/100)

表9 ビット 遺構計測表(1)

遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	検出面標高 (m)	底面標高 (m)	深さ (cm)
P1	C-1	不整形	45	38	18.407	18.242	16
P2	C-1	円形	36	30	18.407	18.254	15
P3	C-1	楕円形	50	40	18.405	18.319	9
P4	C-1	円形	38	(20)	18.394	18.347	(9)
P5	C-1	長方形	28	25	18.390	18.239	15
P6	C-1	円形	30	(14)	18.399	18.311	9
P7	C-1	楕円形	48	40	18.399	18.133	25
P8	C-1	円形	30	26	18.398	18.284	9
P9	C-1	楕円形	58	44	18.382	18.086	30
P10	C-1	円形	43	-	18.391	18.214	18
P11	C-1	円形	40	-	18.386	18.159	23
P12	C-1	円形	23	-	18.379	18.202	17
P13	C-1	隅付長方形	28	22	18.397	18.177	22
P14	C-1	楕円形	50	38	18.394	18.268	14
P15	C-2	楕円形	46	38	18.397	18.002	39
P16	C-2	楕円形	42	25	18.395	18.104	29

遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	検出面標高 (m)	底面標高 (m)	深さ (cm)
P17	C-2	楕円形	40	20	18.376	18.254	12
P18	C-2	円形	18	-	18.322	18.192	13
P19	B-1	不整形円形	72	42	18.478	18.328	16
P20	B-2	不整形円形	42	30	18.472	18.348	11
P21	B-2	不整形円形	46	34	18.448	18.358	9
P22	B-1	不整形円形	34	31	18.488	18.376	11
P23	B-1	円形	26	-	18.488	18.361	11
P24	B-2	円形	34	-	18.492	18.371	12
P25	B-1	円形	-	-	18.492	-	-
P26	B-1	円形	16	-	18.492	-	-
P27	B-2	楕円形	30	25	18.491	18.433	6
P28	B-1	楕円形	26	16	18.489	18.399	9
P29	B-1	円形	26	-	18.481	18.401	8
P30	B-2	楕円形	52	36	18.486	18.378	9
P31	B-2	円形	24	-	18.464	18.378	9
P32	A-1	楕円形	52	36	18.478	18.378	10

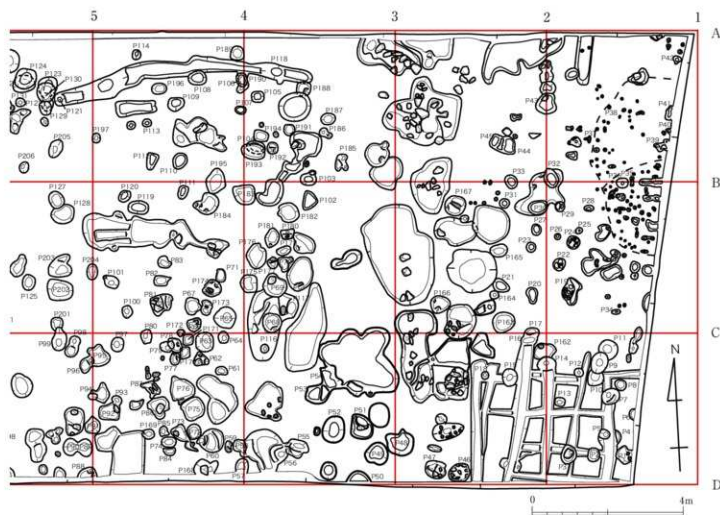


第49図 調査区中央遺構平面図とビットの位置 (S=1/100)

表9 ビット 遺構計測表 (2)

遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	検出面標高 (m)	底面標高 (m)	深さ (cm)
P33	A-2	楕円形	38	30	18.418	18.288	13
P34	B-1	長楕円形	23	12	18.488	18.401	9
P35	A-1	楕円形	32	26	18.414	18.182	23
P36	A-1	円形	5	-	18.414	18.371	4
P37	A-1	不整形	18	17	18.451	18.398	5
P38	A-1	楕円形	10	8	18.391	18.273	12
P39	A-1	不整形	38	30	18.384	18.268	12
P40	A-1	楕円形	14	(13)	18.380	18.258	13
P41	A-1	楕円形	38	(16)	18.377	18.177	20
P42	A-1	隅四三角形	14	12	18.340	18.400	6
P43	A-1	不整形	55	52	18.428	18.252	17
P44	A-2	不整形	46	37	18.408	18.229	22
P45	A-2	不整形	38	26	18.378	18.255	12
P46	C-2	不整形	56	-	18.357	18.045	31
P47	C-2	不整形	52	-	18.371	18.078	30
P48	C-2	不整形楕円形	74	64	18.428	18.240	18

遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	検出面標高 (m)	底面標高 (m)	深さ (cm)
P49	C-3	不整形	60	58	18.433	18.151	28
P50	C-3	(円形)	64	(22)	18.479	18.236	24
P51	C-3	不整形	64	58	18.418	18.183	23
P52	C-3	楕円形	64	60	18.396	18.023	37
P53	C-3	(不整形)	64	48	18.406	18.271	13
P54	C-3	(不整形)	62	38	18.406	18.048	36
P55	C-3	楕円形	50	30	18.386	18.187	20
P56	C-3	(円形)	60	-	18.372	18.157	22
P57	C-4	楕円形	(34)	32	18.377	18.229	15
P58	C-4	(円形)	32	-	18.394	18.203	19
P59	C-4	(不整形)	30	14	18.375	18.237	14
P60	C-4	不整形	74	62	18.381	18.184	20
P61	C-4	楕円形	32	21	18.376	18.303	7
P62	C-4	隅四三角形	40	36	18.377	18.239	14
P63	C-4	楕円形	51	48	18.374	18.177	20
P64	C-4	楕円形	31	28	18.375	18.190	18



第50図 調査区東側遺構平面図とビットの位置 (S=1/100)

表9 ビット 遺構計測表(3)

遺構番号	グリップ	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	横出面標高 (m)	底面標高 (m)	深さ (cm)
P65	B-4	円形	56	-	18.383	18.194	19
P66	B-4	不整形円形	36	-	18.363	18.261	10
P67	B-4	不整形方形	44	-	18.364	18.232	13
P68	B-3	円形	50	-	18.417	18.303	11
P69	B-3	不整形方形	62	32	18.398	18.281	11
P70	B-3	不整形形	40	38	18.403	18.292	11
P71	B-4	長方形	34	24	18.379	18.345	13
P72	C-4	円形	36	-	18.360	18.237	13
P73	C-4	不整形楕円形	44	38	18.348	18.188	16
P74	C-4	楕円形	40	26	18.358	18.170	19
P75	C-4	不整形方形	58	-	18.374	18.169	21
P76	C-4	不整形楕円形	68	64	18.368	18.197	17
P77	C-4	不整形方形	33	25	18.369	18.243	12
P78	C-4	楕円形	45	30	18.369	18.166	20
P79	C-4	楕円形	34	28	18.340	18.129	22
P80	C-4	不整形長方形	36	29	18.319	18.144	17
P81	B-4	長方形	60	53	18.321	18.179	14
P82	B-4	不整形長方形	38	28	18.321	18.203	12
P83	B-4	不整形楕円形	38	31	18.307	18.201	11
P84	C-4	(円形)	32	(23)	18.363	18.248	12
P85	C-4	(楕円形)	(30)	(22)	18.358	18.237	12
P86	C-4	不整形三角形	56	56	18.358	18.185	17
P87	C-4	不整形方形	40	28	18.337	18.183	15
P88	C-5	楕円形	50	27	18.346	18.239	11
P89	C-5	(楕円形)	(38)	35	18.302	18.121	18
P90	C-5	(円形)	45	(38)	18.312	18.149	16
P91	C-4	不整形円形	46	42	18.291	17.955	34
P92	C-4	不整形方形	54	44	18.309	18.113	19
P93	C-4	楕円形	28	(22)	18.302	18.169	13
P94	C-4	不整形方形	54	54	18.300	18.171	13
P95	C-4	不整形方形	54	(38)	18.303	18.190	11
P96	C-5	楕円形	46	30	18.263	18.200	6
P97	C-4	楕円形	38	31	18.308	18.142	17
P98	C-5	瓢箪形	59	31	18.270	18.018	25
P99	C-5	楕円形	62	40	18.263	17.979	25
P100	B-4	楕円形	33	28	18.300	18.199	10
P101	B-4	不整形楕円形	45	31	18.285	18.060	28
P102	B-3	楕円形	52	38	18.408	18.304	10
P103	A-3	不整形方形	42	40	18.402	18.205	20
P104	A-3	楕円形	50	33	18.389	18.248	14
P105	A-3	方形	32	-	18.372	18.238	13
P106	A-4	楕円形	39	29	18.351	18.252	10
P107	A=4	楕円形	29	21	18.362	18.312	5
P108	A-4	楕円形	49	38	18.299	18.084	21
P109	A-4	不整形長方形	42	36	18.332	-	-
P110	A-4	楕円形	44	36	18.328	18.202	13
P111	B-4	楕円形	37	25	18.291	18.146	15

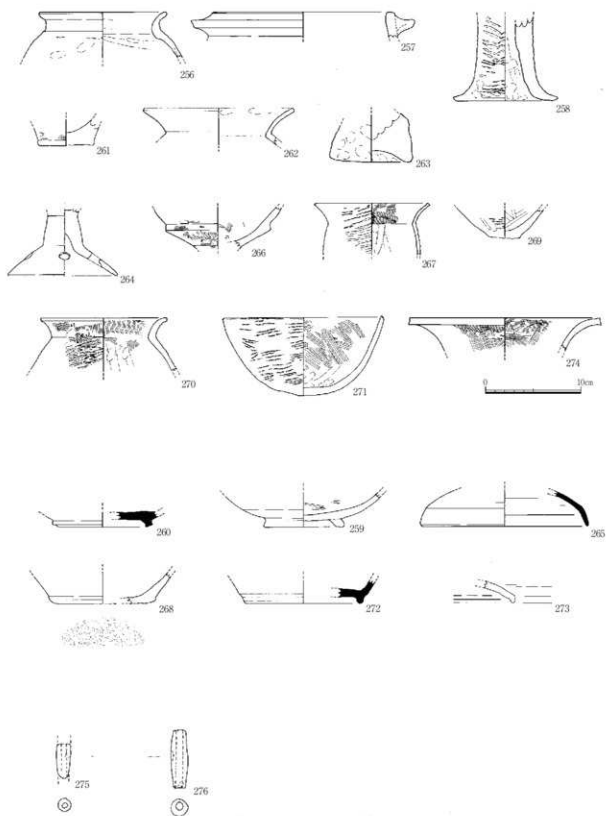
遺構番号	グリップ	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	横出面標高 (m)	底面標高 (m)	深さ (cm)
P112	A-4	不整形楕円形	45	29	18.310	18.147	16
P113	A-4	不整形円形	25	20	18.298	18.218	8
P114	A-4	楕円形	28	22	18.318	18.107	21
P115	A-4	円形	22	-	18.298	18.220	8
P116	C-3	円形	22	-	18.424	18.044	38
P117	B-3	楕円形	54	30	18.402	18.093	31
P118	A-3	(楕円形)	66	42	18.372	18.070	30
P119	B-4	楕円形	53	36	18.273	18.186	9
P120	B-4	楕円形	36	28	18.249	-	-
P121	A=5	(円形)	32	-	18.249	18.022	13
P122	A=5	(円形)	32	-	18.282	18.084	20
P123	A=5	(楕円形)	56	49	18.262	18.009	25
P124	A=5	不整形円形	60	54	18.269	-	-
P125	B=5	楕円形	41	34	18.246	18.084	16
P126	B=5	(楕円形)	62	(41)	18.219	17.967	25
P127	B=5	楕円形	45	38	18.198	17.968	23
P128	A=5	不整形形	74	38	18.240	18.127	11
P129	A=5	楕円形	37	31	18.273	18.087	19
P130	A=5	不整形楕円形	(49)	48	18.273	18.104	17
P131	A=5	円形	25	-	18.257	18.173	8
P132	A=5	楕円形	58	44	18.267	17.979	29
P133	A=5	不整形楕円形	74	57	18.250	17.888	36
P134	A=5	楕円形	73	56	18.119	17.892	23
P135	A=6	楕円形	68	56	18.063	17.820	24
P136	A=6	不整形楕円形	49	40	18.097	17.874	22
P137	A=6	不整形円形	42	35	18.099	18.013	9
P138	A=6	不整形方形	56	54	18.091	17.781	31
P139	A=6	隅円三角形	44	37	18.058	17.961	10
P140	A=6	楕円形	90	(50)	17.990	17.792	20
P141	A=6	楕円形	48	40	17.977	17.854	12
P142	B=6	不整形楕円形	34	24	18.065	-	-
P143	B=6	楕円形	25	16	18.024	17.907	12
P144	B=6	楕円形	48	32	18.060	17.752	31
P145	B=5	不整形楕円形	80	53	18.117	18.050	7
P146	B=5	円形	54	-	18.122	17.792	33
P147	B=6	楕円形	42	38	18.049	17.716	32
P148	B=6	不整形楕円形	56	43	18.048	17.834	21
P149	B=6	楕円形	36	32	17.997	17.859	18
P150	C=5	楕円形	50	35	18.159	18.008	15
P151	C=6	不整形円形	68	66	18.087	17.719	37
P152	C=6	不整形形	58	37	18.123	17.947	18
P153	C=6	不整形方形	30	30	18.094	17.979	12
P154	C=6	楕円形	58	44	18.113	17.974	14
P155	C=6	長方形	28	17	18.090	17.933	16
P156	C=6	(楕円形)	46	(32)	18.141	17.974	17
P157	C=6	不整形形	(75)	(22)	18.156	18.074	8
P158	C=6	不整形楕円形	(24)	(20)	18.209	18.145	6

表9 ビット 遺構計測表(4)

遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	検出面積高 (m)	底面積高 (m)	深さ (cm)
P159	C-6	楕円形	23	20	18.217	18.140	8
P160	C-5	不整形	80	40	18.290	18.135	15
P161	B-5	楕円形	31	26	18.188	18.124	6
P162	C-2	不整形円形	60	38	18.382	18.266	12
P163	B-2	楕円形	60	52	18.372	18.316	6
P164	B-2	円形	42	-	18.368	18.287	8
P165	B-2	楕円形	47	32	18.390	18.292	10
P166	B-2	楕円形	52	47	18.323	18.197	13
P167	B-2	不整形	54	52	18.317	18.228	9
P168	C-4	不整形	66	(40)	18.422	18.247	18
P169	C-4	楕円形	32	26	18.330	18.239	11
P170	C-4	不整形	30	25	18.372	18.147	23
P171	C-4	方形	27	-	18.372	18.202	17
P172	C-4	円形	20	-	18.355	18.170	19
P173	B-4	菱形	38	30	18.384	18.194	19
P174	B-4	不整形	48	44	18.374	18.242	13
P175	B-4	不整形	45	-	18.378	18.185	19
P176	B-3	楕円形	66	54	18.372	18.182	19
P177	B-3	円形	30	-	18.382	18.178	20
P178	B-3	楕円形	38	22	18.387	18.174	21
P179	B-3	不整形	34	23	18.395	18.264	13
P180	B-3	長方形	36	24	18.388	18.210	18
P181	B-3	楕円形	53	37	18.378	18.222	15
P182	B-3	不整形	54	53	18.393	18.172	22
P183	B-3	不整形	59	52	18.358	18.172	19
P184	B-4	不整形	58	57	18.349	18.176	17
P185	A-3	不整形円形	48	40	18.358	18.232	13
P186	A-3	菱形	36	24	18.370	18.277	9
P187	A-3	楕円形	38	30	18.369	18.236	13
P188	A-3	隅円方形	38	37	18.373	18.213	16
P189	A-4	不整形	38	38	18.332	18.177	16
P190	A-4	不整形円形	50	27	18.353	18.180	17
P191	A-3	円形	29	-	18.352	18.303	5
P192	A-3	円形	30	-	18.357	18.247	11
P193	A-3	楕円形	62	42	18.352	18.234	12
P194	A-3	不整形長方形	39	30	18.388	18.288	10
P195	A-4	楕円形	70	52	18.333	18.207	13
P196	A-4	楕円形	38	29	18.320	18.172	15
P197	A-4	楕円形	25	22	18.316	18.094	22
P198	C-5	楕円形	27	23	18.280	18.145	14
P199	C-5	不整形	62	58	18.222	17.747	48
P200	C-5	不整形円形	63	24	18.196	18.064	13
P201	B-5	楕円形	35	31	18.266	18.198	7
P202	B-5	不整形長方形	47	56	18.234	18.154	8
P203	B-5	不整形	62	56	18.226	18.044	18
P204	B-5	楕円形	42	28	18.272	18.108	16
P205	A-5	楕円形	51	34	18.221	17.957	26
P206	A-5	楕円形	30	24	18.198	18.042	16
P207	A-5	楕円形	55	38	18.122	18.002	12
P208	A-5	不整形	28	24	18.092	17.964	13
P209	A-5	不整形	20	-	18.072	17.990	8
P210	C-6	(楕円形)	50	(30)	18.053	17.875	18
P211	C-6	楕円形	60	48	18.062	17.742	32
P212	C-6	不整形楕円形	52	32	18.045	18.000	5
P213	C-6	(楕円形)	(44)	40	18.038	17.929	11
P214	C-7	(楕円形)	(30)	27	18.046	17.899	15
P215	C-7	楕円形	36	30	18.033	17.875	16
P216	C-7	(楕円形)	90	(56)	18.025	17.637	39
P217	C-7	不整形楕円形	50	34	18.009	17.761	25
P218	C-7	(円形)	62	(41)	18.063	17.832	23
P219	C-7	楕円形	26	22	18.028	17.767	25
P220	C-7	(楕円形)	50	(40)	18.012	17.839	15
P221	C-7	(楕円形)	40	(40)	18.019	17.976	4
P222	C-7	円形	22	-	18.007	17.797	21
P223	C-7	楕円形	62	50	17.997	17.728	27
P224	C-7	(楕円形)	(53)	49	18.049	17.584	47
P225	C-7	(楕円形)	47	(30)	18.018	17.855	16
P226	C-7	(楕円形)	46	(36)	18.019	17.691	33
P227	C-7	(円形)	30	(26)	18.018	17.710	31
P228	C-7	(円形)	(44)	42	18.021	17.716	31
P229	C-7	楕円形	50	41	18.028	17.866	16
P230	B-7	楕円形	62	54	18.015	17.740	28
P231	C-7	楕円形	48	33	18.014	17.673	34
P232	C-7	不整形	77	62	18.068	17.767	24
P233	B-7	円形	54	-	17.962	17.728	23
P234	B-7	円形	17	-	17.995	17.808	19
P235	B-7	円形	33	-	18.013	17.739	27
P236	B-7	不整形	66	63	18.019	17.743	28
P237	B-8	楕円形	47	35	18.023	17.905	12
P238	B-7	(不整形)	26	(23)	18.013	17.753	26
P239	B-7	(円形)	21	-	18.009	17.749	26
P240	B-7	楕円形	58	42	18.086	17.823	26
P241	B-7	楕円形	58	42	18.110	17.818	29
P242	B-7	楕円形	57	35	18.065	17.831	23
P243	B-7	不整形	56	52	18.064	17.875	19
P244	B-7	隅円長方形	34	20	18.018	17.765	25
P245	B-7	楕円形	(44)	42	18.110	18.005	11
P246	C-8	(円形)	44	(30)	18.123	17.936	19
P247	C-8	円形	51	-	18.167	17.883	23
P248	C-8	円形	50	-	18.173	18.053	12
P249	C-8	不整形	48	43	18.184	17.999	19
P250	B-8	楕円形	52	41	18.194	17.874	32
P251	C-8	楕円形	46	40	18.267	17.966	30
P252	B-8	不整形	32	30	18.201	17.923	28

表9 ビット 遺構計測表(5)

遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	検出面標高 (m)	底面標高 (m)	深さ (cm)	遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	検出面標高 (m)	底面標高 (m)	深さ (cm)
P253	B-8	楕円形	40	34	18.199	18.079	12	P300	B-9	楕円形	65	50	18.346	18.215	13
P254	C-9	楕円形	54	43	18.202	17.983	22	P301	C-12	(楕円形)	92	56	18.162	17.933	23(53)
P255	C-9	(楕円形)	60	52	18.203	17.978	23	P302	B-12	(楕円形)	81	(85)	18.197	17.886	31(53)
P256	B-8	楕円形	40	34	18.123	18.040	12	P303	B-12	(楕円形)	73	(25)	18.173	17.776	40(63)
P257	B-8	楕円形	57	40	18.210	17.982	23	P304	B-12	(方形)	38	20	18.198	18.086	11(33)
P258	B-8	楕円形	33	23	18.197	18.150	5	P305	B-12	楕円形	50	40	18.170	17.830	34(53)
P259	B-8	(不整形)	45	(36)	18.199	18.003	20	P306	B-12	楕円形	50	40	18.343	18.068	28(34)
P260	B-9	円形	45	-	18.219	18.115	10	P307	A-12	楕円形	60	54	18.432	17.977	46
P261	B-8	楕円形	44	38	18.157	18.042	12	P308	C-10	円形	46	-	18.269	18.053	22
P262	B-8	楕円形	38	34	18.157	17.992	17	P309	C-11	円形	70	-	18.293	17.989	30
P263	B-8	円形	24	-	18.173	17.957	22	P310	C-10	楕円形	54	47	18.285	17.968	32
P264	B-8	楕円形	43	38	18.178	18.001	18	P311	C-11	円形	54	-	18.325	18.039	29
P265	B-8	円形	28	-	18.209	18.047	16	P312	B-10	隅円三角形	50	30	18.383	18.143	24
P266	B-8	楕円形	56	44	18.217	17.944	27	P313	B-10	円形	37	-	18.398	18.139	26
P267	B-9	楕円形	50	38	18.252	17.968	29	P314	B-10	楕円形	52	44	18.411	18.192	22
P268	B-8	楕円形	38	28	18.254	18.149	11	P315	C-11	楕円形	88	60	18.385	17.897	47
P269	A-8	楕円形	44	36	18.206	18.066	15	P316	C-11	隅円長方形	48	40	18.393	18.135	26
P270	B-8	(楕円形)	40	38	18.165	18.077	9	P317	B-11	楕円形	111	74	18.411	17.822	59
P271	A-8	楕円形	52	41	18.235	18.133	10	P318	B-11	円形	30	-	18.429	18.300	13
P272	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	P319	B-11	楕円形	71	49	18.440	18.095	35
P273	C-12	不整形楕円形	88	56	18.317	17.953	36	P320	B-11	楕円形	61	51	18.429	18.075	35
P274	B-12	円形	52	-	18.367	17.881	49	P321	B-11	楕円形	57	46	18.408	18.250	16
P275	B-12	楕円形	94	48	18.399	18.118	28	P322	A-11	(円形)	100	-	18.425	18.106	32
P276	B-12	楕円形	94	58	18.328	18.127	20	P323	A-11	(円形)	70	(40)	18.424	18.065	36
P277	B-12	隅円長方形	80	62	18.417	18.187	23	P324	B-11	(楕円形)	55	(42)	18.430	18.089	34
P278	A-12	楕円形	70	50	18.456	18.201	26	P325	B-11	(楕円形)	42	(40)	18.435	18.168	27
P279	A-8	楕円形	32	28	18.196	18.071	13	P326	B-11	楕円形	44	34	18.430	18.281	15
P280	A-8	(楕円形)	32	(29)	18.171	18.057	11	P327	A-10	楕円形	51	42	18.405	18.262	14
P281	A-9	楕円形	80	43	18.382	18.179	20	P328	A-10	(隅円長方形)	60	44	18.479	18.270	21
P282	A-9	不整形円形	86	74	18.400	18.151	25	P329	A-11	不整形方形	48	39	18.439	18.265	17
P283	C-9	円形	40	-	18.170	18.070	10	P330	A-11	円形	35	-	18.430	18.255	18
P284	C-9	楕円形	78	45	18.204	18.003	20	P331	A-11	方形	44	-	18.434	18.341	9
P285	C-9	円形	52	-	18.237	18.115	12	P332	A-11	楕円形	68	54	18.449	18.239	11
P286	C-9	楕円形	36	28	18.252	18.065	20	P333	A-11	楕円形	44	38	18.433	18.333	10
P287	B-9	楕円形	50	42	18.243	18.116	13	P334	A-11	楕円形	61	46	18.429	18.299	13
P288	B-9	長方形	38	25	18.277	17.897	38	P335	A-11	楕円形	42	31	18.449	18.314	14
P289	B-9	楕円形	50	30	18.271	18.031	24	P336	A-11	不整形楕円形	34	27	18.448	18.379	7
P290	B-9	楕円形	56	50	18.257	18.034	22	P337	A-11	楕円形	42	37	18.443	18.290	15
P291	B-9	楕円形	54	32	18.271	17.997	27	P338	A-11	不整形長方形	48	36	18.419	18.326	9
P292	B-9	楕円形	68	52	18.314	18.159	16	P339	A-11	楕円形	57	36	18.456	18.363	9
P293	B-9	円形	33	-	18.314	18.150	16	P340	A-12	楕円形	60	48	18.419	17.975	44
P294	B-9	楕円形	56	38	18.314	17.967	35	P341	A-12	不整形円形	50	46	18.445	18.039	41
P295	B-10	円形	26	-	18.345	18.233	11	P342	A-12	(円形)	47	-	18.463	18.312	15
P296	B-9	円形	40	-	18.295	18.105	19	P343	A-12	(円形)	32	(26)	18.456	18.009	45
P297	B-10	楕円形	55	46	18.360	18.193	17								
P298	B-10	円形	50	-	18.353	18.203	15								
P299	B-9	円形	22	-	18.311	18.159	15								



第51図 ビット出土遺物 (S=1/4・1/3)

表10 ビット出土遺物(1)

遺構	出土遺物	詳細時期不明	弥生土器	古墳初期	古墳後期	古代	中世前期	遺物の時期等
P2	土師器3点(細片)					○		古代 Ⅸ256
P3	土師器8点(細片)					○		古代の土師器供養器具
P8	土師器3点、 須恵器1点					○		いずれも小片 ヘラ切り底 古代
P9	土師器14点(供養具12点、煮炊具2点)					○		古代の可能性
P11	古式土師器(タタキ目)4点		○					遺物は弥生終末～古墳時代初期
P13	土師器2点(細片)	○						詳細な時期不明
P15	土師器15点(供養具・煮炊具)、 須恵器3点	○				○		古代
P16	古式土師器(タタキ目)4点			○				遺物は弥生終末～古墳時代初期
P17	土師器供養具3点、 須恵器1点(細片)	○				○		古代か
P18	土師器供養具3点(細片)	○				○		古代か
P19	土師器2点(細片)					○		古代か
P20	土師器1点	○						細片1点のみ
P22	土師器3点(細片)	○						不明
P23	土師器2点(糸切瓶)	○				○		中世前期
P24	土師器2点(細片)	○						不明
P27	須恵器1点	○		○	○			古墳後期～古代詳細不明
P28	土師器1点	○		○	○			古墳後期～古代詳細不明
P31	古式土師器(タタキ目)1点			○				タタキ目あり
P34	土師器2点	○						不明
P35	土師器3点、 須恵器1点	○						不明
P36	土師器細片6点	○						不明
P37	土師器5点	○						不明
P38	土師器5点	○						不明
P39	古式土師器2点			○				遺物は弥生終末～古墳時代初期
P40	土師器7点(細片)	○				○		供養具 古代
P41	古式土師器(タタキ目)3点			○				古墳時代初期
P42	古式土師器(タタキ目)4点			○				古墳時代初期
P43	土師器2点、 須恵器1点	○				○		古代
P44	土師器5点	○				○		古代
P45	土師器2点	○			○			内面ヘラズリ 古墳時代後期の瓶
P46	土師器4点(細片)、 須恵器2点	○						
P47	土師器(細片)(供養具)10点、 須恵器小片2点	○						Ⅸ257
P48	土師器4点、 須恵器3点	○						須恵器のうち輪高杯の瓶部1点
P49	土師器5点	○						
P50	土師器5点	○						
P51	土師器3点	○						
P52	土師器5点	○						
P53	土師器4点(細片)	○						
P55	須恵器1点	○				○	○	
P59	古式土師器(タタキ目)4点				○			
P60	土師器1点	○						
P62	土師器1点	○						
P63	土師器4点	○					○	Ⅸ258
P64	古式土師器(タタキ目)1点				○			
P65	古式土師器(タタキ目)2点				○			
P66	土師器2点、 須恵器1点(耳)						○	
P72	土師器2点	○						
P73	古式土師器(タタキ目)3点				○			
P74	土師器4点	○						Ⅸ260
P75	土師器10点	○						
P76	土師器2点(細片)	○						
P77	土師器5点(細片)	○						
P78	土師器3点	○					○	
P79	土師器1点	○						
P80	土師器1点	○					○	
P81	土師器2点	○					○	○
P84	土師器4点(供養具・煮炊具)	○						
P85	土師器2点	○						
P86	土師器7点	○						古代
P87	土師器2点	○						
P89	土師器7点	○						古代
P91	土師器10点	○						
P93	土師器1点	○						
P94	古式土師器(タタキ目)1点				○			
P96	土師器1点	○					○	
P97	土師器4点	○						
P98	土師器3点(供養具・煮炊具)	○					○	

表10 ビット出土遺物(2)

遺構	出土遺物	詳細時期不明	弥生土器	古墳初	古墳後期	古代	中世前期	遺物の時期等
P99	古式土師器(タタキ目) 2点		○					
P100	土師器4点(細片)					○		供養具
P105	土師器1点	○						
P108	土師器4点、須恵器1点	○				○		
P109	土師器3点	○						
P111	土師器2点	○						
P112	土師器4点(供)	○				○	○	古代以降
P113	土師器4点(供)	○				○	○	古代以降
P114	土師器1点	○				○		
P115	土師器7点	○						
P116	土師器4点							
P117	土師器15点(桑畑舎心)					○		中世前期 Ⅸ259
P119	土師器2点	○						
P120	土師器4点(細片)、須恵器1点	○						
P125	土師器3点(細片)	○						
P126	土師器5点(細片)	○						
P127	古式土師器(タタキ目) 10点、弥生土器1点		○	○				古墳時代初期 Ⅸ261は弥生土器(煎火・中耕)の底部
P128	古式土師器(タタキ目) 1点、土師器5点、須恵器1点			○	○	○		
P129	古式土師器(タタキ目) 1点、土師器1点			○		○		タタキ目の破片と土師器供養具
P130	古式土師器(タタキ目) 8点			○				
P131	土師器2点(燻)					○		
P132	土師器2点、須恵器1点(燻)			○	○			
P133	土師器20点、須恵器2点	○				○		
P134	土師器1点							
P135	土師器(ヘラケズリ) 3点				○			
P138	土師器(タタキ) 3点	○						
P145	土師器1点					○		供養具、内面に沈殿が残る8世紀
P146	土師器20点				○			内面にヘラケズリ
P147	古式土師器(タタキ目) 4点							古墳時代初期
P148	土師器3点	○						
P151	土師器8点				○			古代供養具ヘラ切底
P152	土師器2点				○			内面ヘラケズリ
P157	土師器7点	○	○	○	○			弥生～古代遺存 Ⅸ262は古墳時代初期の燻
P159	土師器4点	○						
P160	土師器3点	○					○	供養具 古代
P161	土師器4点						○	贈入品が1点あり
P162	土師器3点(細片)	○						
P163	土師器3点(細片)	○						
P165	土師器3点(細片)	○						
P166	土師器2点(細片)	○						
P168	土師器2点(細片)	○						
P169	土師器1点(細片)	○						
P170	土師器3点(細片)	○						
P171	土師器3点(細片)	○						古代以降
P172	土師器3点	○						
P175	土師器1点	○						タタキ、ハケ
P176	土師器1点(細片)	○						
P177	土師器1点(細片)	○						
P178	土師器3点	○						
P179	土師器2点	○						
P181	土師器4点	○						
P182	土師器1点	○						供養具口縁 古代以降
P183	土師器1点(細片)	○						
P184	土師器3点	○						うち肥厚した口縁1点
P187	土師器1点	○						
P189	土師器3点	○						
P196	土師器5点	○						
P198	土師器1点	○						
P201	土師器1点	○						
P205	古式土師器(タタキ目) 1点				○			
P215	土師器1点	○						
P216	土師器1点	○						
P218	土師器3点	○						古代以降
P222	土師器5点	○						古代以降 供養具、差炊具
P223	土師器10点、須恵器2点					○		土師器供養具ヘラ切底 須恵器燻
P224	古式土師器(タタキ目) 12点				○			古墳時代初期 Ⅸ264は高坏脚底
P228	土師器3点、須恵器1点					○		土師器は内面ヘラケズリ Ⅸ265は須恵器坏燻 6世紀後半

表10 ビット出土遺物(3)

遺構	出土遺物	詳細時期不明	弥生土器	古墳初期	古墳後期	古代	中世前期	遺物の時期等
P229	土師器10点	○						古代以降
P230	古式土師器(タタキ目)3点			○				タタキ目あり 丸底
P231	土師器3点	○						
P232	土師器16点					○		鉄器具14点、煮炊具2点 古代
P233	古式土師器(タタキ目)20点			○				タタキ目 図266
P236	土師器3点、黒色土器1点、古式土師器1点・要			○		○		古代(10世紀)、黒色土器小片 図267は古式土師器
P241	土師器4点					○		ヘラ切底
P242	土師器2点(細片)	○						
P243	土師器2点(細片)	○						
P244	土師器2点				○			
P245	土師器3点					○		ヘラ切底
P246	土師器8点、須恵器1点	○		○	○			古墳後期あるいは古代
P247	土師器15点、須恵器1点	○						
P249	土師器2点(細片)	○						
P251	土師器2点	○				○		ヘラ切底
P254	土師器14点、須恵器1点	○						
P255	土師器15点、須恵器3点					○		鉄器具口縁2点、底部4点、板輪土器1点、図268
P256	土師器10点、土師1点	○			○	○		古代以降 図275は土師
P257	土師器20点	○						古代以降
P266	土師器15点	○						古代以降
P269	土師器2点	○						古代以降
P270	土師器3点、須恵器1点	○						土師器供養具、須恵器要
P271	土師器2点	○						
P272	土師器1点	○						
P273	土師器10点					○		ヘラ切底、ミザキ
P274	土師器28点	○						タタキ目 図269
P275	土師器3点	○						タタキ目
P276	土師器6点、須恵器1点	○						
P277	土師器5点、須恵器1点	○						
P278	土師器3点、須恵器1点	○						
P281	土師器3点	○						
P282	古式土師器(タタキ目)49点							古墳時代初期 図279・271
P284	土師器10点	○						古代以降
P286	土師器4点	○				○	○	古代以降 口縁2点、底部2点 図276は土師
P288	土師器1点							
P289	土師器2点	○						
P290	土師器10点、須恵器1点	○						
P291	古式土師器(タタキ目)3点					○		
P292	古式土師器(タタキ目)1点					○		
P293	古式土師器(タタキ目)3点					○		
P300	土師器8点(細片)	○						
P304	古式土師器10点					○		タタキ
P305	土師器10点					○	○	古墳以降
P309	古式土師器(タタキ目)3点					○		ST4に隣接
P308	土師器3点、須恵器1点	○						
P309	土師器3点、須恵器2点							
P310	器手1、古式土師器(タタキ目)1点	○	○	○				弥生前～中
P311	土師器2点、須恵器1点	○						小型棒状磚(赤色顔料付着)
P312	土師器1点	○						
P314	土師器10点						○	図272 古代
P315	土師器10点						○	図273 8世紀中葉～後手
P316	土師器5点					○		
P317	古式土師器(タタキ目)17点					○		タタキ目
P319	古式土師器(タタキ目)16点、土師器2点、須恵器1点					○	○	
P320	土師器10点						○	
P322	土師器10点、須恵器1点						○	
P324	土師器5点	○						石1点
P326	土師器2点	○						
P327	古式土師器1点					○		図274
P330	土師器3点	○						
P332	土師器2点	○						
P335	須恵器3点						○	
P339	土師器1点						○	土師器供養具
P340	土師器4点						○	
P341	土師器4点						○	
P342	古式土師器(タタキ目)2点						○	

※上記以外のビットからは遺物は出土していない。

4. 溝状遺構 (SD)

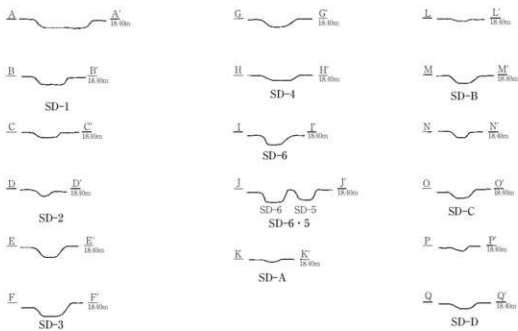
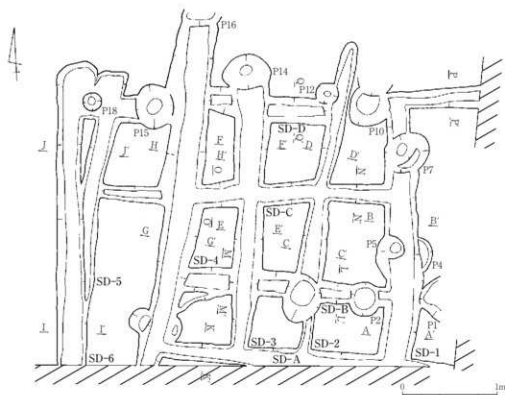
調査区全体で検出した溝状遺構は全部で12条、南北方向の溝には1～7、東西方向の溝にはA～Eの遺構番号を付けた。

SD-1～6とSD-A～Dは調査区東南端に集中している。(第52図)これらの溝の切り合い関係は不明である。溝状遺構は遺構の方向を基にSD-1・3・6(1群)、SD-2・4・5(2群)、SD-A～D(3群)の3つのグループに分けて捉えることができる。SD-1・3・6の方向がN-3°-E前後、SD-2・4・5の方向がN-13°-E前後とはほぼ同方向であり、交差するSD-A～Dの方向もN-82～87°-Eとそろっている。遺構の間隔は1群が120～150cm、2群が70～120cm、3群が50～80cm、と群ごとに異なる。これら東南端に集中する溝状遺構の断面形状は逆台形で、検出面からの深さは10cm以下と浅く、深さ2～4cm前後の地点が大半である。

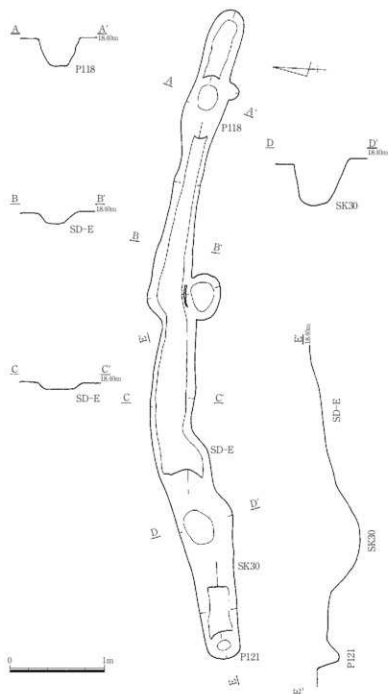
形態上の特徴から、これらの遺構は畑の畝状遺構の残存部の可能性がある。これらの溝状遺構は古代末以降に形成された遺構である。出土遺物の大半は細片であり、詳細な時期の特定は困難。図示可能な遺物は、SD-1出土の口縁部内面が肥厚した須恵器・鉢(255)1点のみである。10世紀以降の古代に属する遺物だが、詳細は不明。

SD-Eは調査区東半北側グリッドA3からA5にかけての東西方向の溝(第53図)で、SK30およびP118と切り合っているが切り合い関係は不明。また、いずれの遺構からも遺物は出土しておらず、遺構形成時期は不明である。

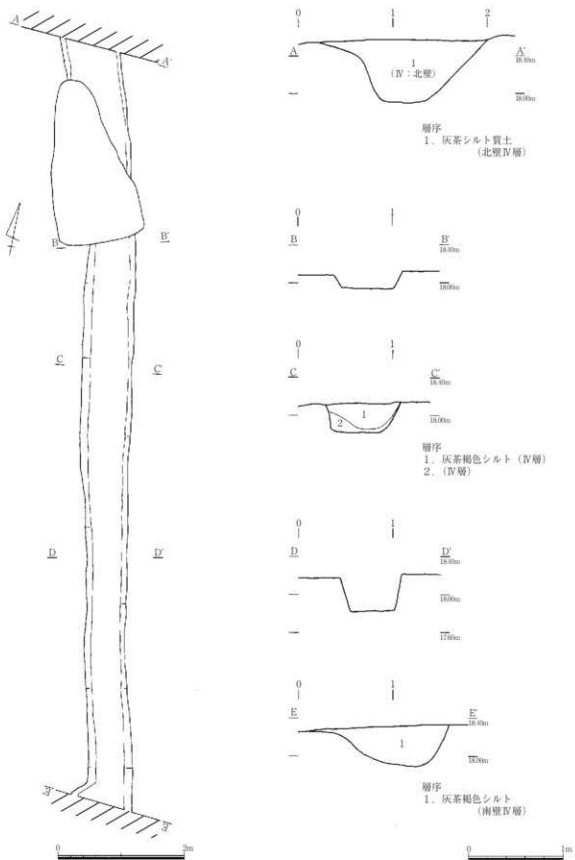
SD-7は調査区中央部を南北方向に横断する溝状遺構である。(第54図)調査の段階ではSR-1(自然流路)として調査が進められたが、幅60～90cmで直線的にのび、深さ63cmの逆台形状の堀方を持つなど遺構の特徴から溝状遺構(SD-7)として報告する。SD-7からは、弥生時代から古代末にかけての遺物約600点(細片も含んだ点数)が出土している。11～12世紀前後の資料である亀山窟産須恵器甕(胎土から判断)や288および289の回転糸切り底の須恵器底部が最も新しい時期の遺物であることから、この溝は古代末以降に形成された溝だと考えられる。



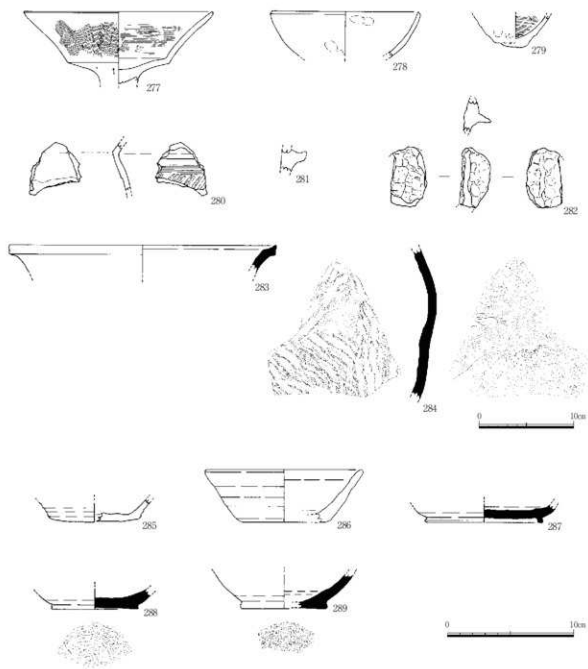
第52図 調査区東端溝状遺構 (SD) 平面・エレベーション図 (S=1/40) 出土遺物須恵器 (S=1/3)



第53図 SD-E及び周辺遺構平面・エレベーション図 (S=1/40)



第54図 SD7平面図 (S=1/60)・エレベーション・セクション図 (S=1/40)



第55図 SD7出土遺物 (S=1/4・1/3)

表11 溝状遺構出土遺物

遺構	出土遺物	詳細時期不明	弥生土器	古墳初期	古墳後期	古代	中世前期	遺物の時期等
SD1	土師器供懸具10点、須恵器1点(甕)、土師器(ヲナキ目)1点	○		○		○		
SD2	土師器15点	○						細片のみ。
SD3	弥生土器・口縁1点、土師器細片10点	○	○			○		
SD4	土師器40点(供懸具等、甕等)	○				○	○	
SD5-6	土師器30点、須恵器1点	○				○		底部で確認できるものはへう型。
SD-A	土師器供懸具細片10点	○				○		
SD-C	土師器5点、須恵器1点	○				○		古代の可能性あり。
SD-E	土師器8点	○				○		古代の可能性あり。
SD7	土師器332点(供懸具200点、煮炊具22点)				○	○	○	奈良-平安時代(8世紀から12世紀にかけての資料である。)
	須恵器70点(貯蔵具38点、供懸具22点、細片10点) 古式土師器(ヲナキ目あり、大きめの細片20点、小片150点)		○		○	○	○	古墳時代後期-8世紀までが大半。1点だけだが、平安後期の亀山原産の須恵器と考えられる資料あり。 古墳時代初期(ヒビノキⅢ式に限定される)

表12 溝状遺構 遺構計測表

遺構番号	グリッド	断面形	全長 (cm)	幅 (cm)	横出面標高 (m)	底面標高 (m)	深さ (cm)	主軸方向
SD1	C-1	舟底形	2.60	22~35	18.401	18.303	10	N-3°-13°-E
SD2	C-1	-	3.30	17~30	18.400	18.315	9	N-15°-E
SD3	C-1	船底形	3.10	30	18.399	18.290	10	N-8°-E
SD4	C-2	逆台形	3.60	32~42	18.395	18.277	12	N-13°-E
SD5	C-2	-	2.50	24	18.402	18.301	10	N-13°-E
SD6	C-2	-	3.20	25~30	18.380	18.256	12	N-3°-E
SD-A	C-1~C-2	-	3.10	30	18.407	18.367	4	N-82°-W
SD-B	C-1~C-2	船底形	2.30	20~30	18.400	18.340	6	N-82°-W
SD-C	C-1~C-2	-	3.10	15~25	18.402	18.301	10	N-87°-W
SD-D	C-1~C-2	逆台形	4.40	22~28	18.398	18.307	9	N-87°-W
SD-E	A-3~A-5	-	6.60	28~44	18.391	18.228	16	N-90°-W
SD7	A-7~C-1	逆台形	11.10	60~80	18.211	17.822	39	N-12°-W

5. 包含層出土遺物

290～350の土器・須恵器・陶磁器類（第56図～58図）及びS4の石器（第59図）が包含層出土遺物である。

図示できなかった資料も含め、包含層からは破片数で約1,600点の遺物が出土している。

図版掲載遺物は弥生時代後期から中世前期にかけての遺物だが、図示していない小破片を含む包含層出土資料の多くは弥生時代末～古墳時代初頭、古墳時代後期（6世紀後半～7世紀初頭）、古代（8～10世紀）、古代末～中世前期（11～13世紀）の4つの時期に大きく分けられる。4時期以外では、弥生後期と近世以降の遺物が数点確認できるものの、それ以外はほとんど認められない。

包含層出土遺物について、小破片の資料についても可能な限り時期ごとにまとめ、今次調査区の様相を遺物の所属時期から概観してみる。

弥生時代後期の遺物として、350（第58図・甕口縁）が挙げられる。図示できた当該期の資料は1点のみ、口縁端部が上方へ拡張し、強いヨコナデにより端部外面が凹状になる後期前半の資料である。小破片の中にも、弥生後期前半と特定できる遺物はほとんどない。

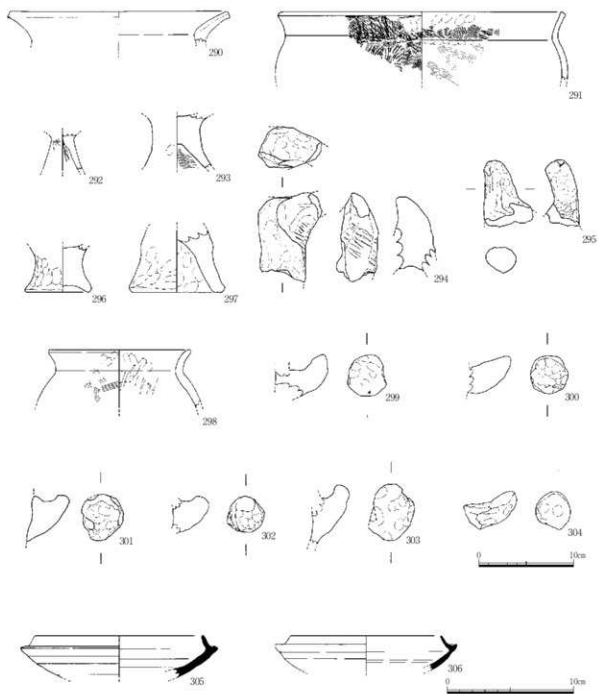
291～297が弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての遺物である。291は大型の鉢形土器で、292・293が高坏の脚部、294～297が支脚形土製品である。291は外面にタタキ目が残っているが、細かい単位のハケ調整で丁寧にタタキ目を消している。頸部の屈曲は緩やかである。図示した高坏や土製支脚など断片的な資料だが、タタキ目の残る胴部片など弥生時代末～古墳時代初頭（3世紀中葉）の資料は約400点、そのうちタタキ目の残る鉢底部が13点、土製支脚が8点、甕口縁部が28点など一定量の資料が出土している。

298～306が古墳時代後期の遺物で、6世紀後半～7世紀初頭の資料である。298は甕で、内面頸部下までヘラケズリが残る。299～304が甕の把手部分、305・306が須恵器蓋坏の身である。須恵器供膳具は細片も含め全部で30点程確認できたが、明らかに古墳時代後期と判断できる資料は2点、7世紀末から8世紀にかけての資料は12点と古墳時代後期の遺物は古代と較べると少なく、内面ヘラケズリと胎土の特徴から当該期だと考えられる土師器・甕も少なかった。

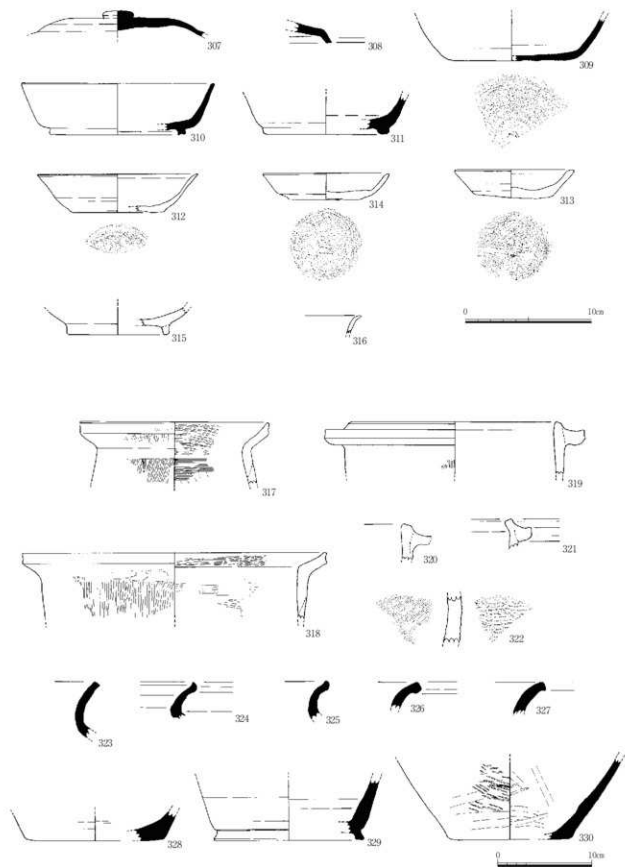
290（第56図）と307～330（第57図）、347～349（第58図）が奈良時代から平安時代前期にかけて古代（8～10世紀）の遺物である。307～311が須恵器供膳具、312～314が土師器供膳具、315が黒色土器、316が緑釉陶器、290・317・318・348・349が土師器・甕、319～321が土師器・羽釜（摂津）、322が布目瓦、323～330が須恵器・貯蔵具、347が土師器・竈である。これら古代の遺物は、さらに2時期、8世紀前後と9世紀後半～10世紀に分けられる。

8世紀前後の資料は307～312、290、322であり、9世紀後半～10世紀の資料は、317・318、313～316、319～321、347である。323～330の須恵器の甕あるいは壺は、古代を中心とした時期（古墳～古代末）だが詳細な時期特定は難しい。

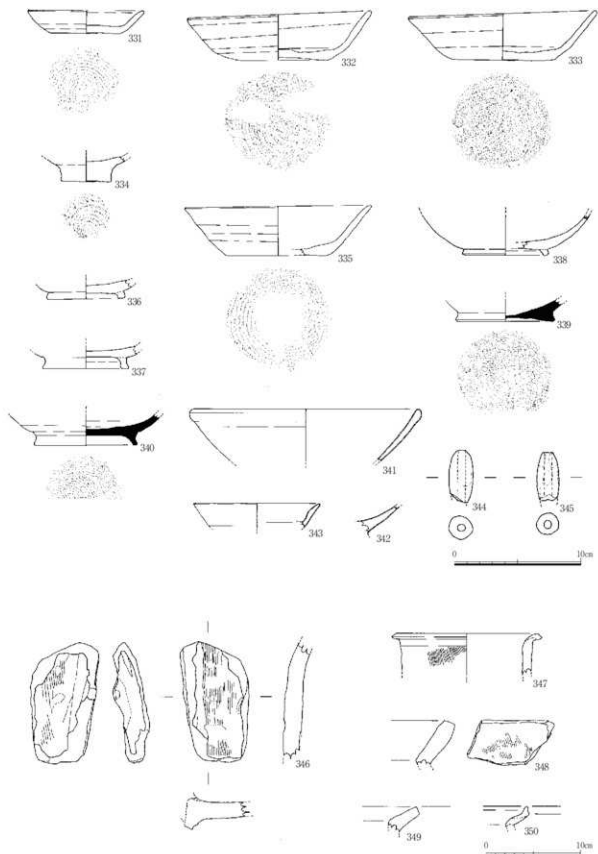
322の布目瓦は今回の調査で唯一出土した瓦である。周辺の遺跡から出土する布目瓦は古代前期と古代末～中世前期の2時期のものがあるが、この布目瓦は凸面の縄蒨痕から古代前期だと考えて



第56圖 包含層出土遺物1 (S=1/4・1/3)



第57図 包含層出土遺物2 (S=1/3・1/4)



第58圖 包含層出土遺物3 (S=1/3・1/4)

いる。土師器や須恵器の供膳具も8世紀の資料である。

316の緑釉陶器は、小片だが畿内産で口縁部端反りの特徴から碗A類に分類されるもので、9世紀後半だと考えられる。315は内黒の黒色土器A類で10世紀、317・318は9世紀、319～321は9世紀後半～10世紀と位置づけられる。347は土師器・甕の脚部で10世紀の遺物である。

古代から中世前期にかけての土師器供膳具の小片は900点ほど確認されている。口縁部が残る土器は約90点、古代前期（8～9世紀）の資料が多い。供膳具の底部は170点ほど出土している。底部切り離しがへらによるものが98点、輪高台が38点、糸切りが確認できるものが31点（糸切り底の中で円盤状高台の形状を呈する物が19点）である。また小破片であり、詳細な時期特定はできないが、黒色土器が2点（A類・B類各1点）、瓦器2点、赤彩土師器1点が出土している。古代から中世前期の各時期の遺物がある。

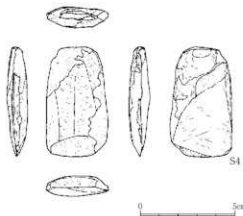
胎土と調整から古代～中世前期の土師器煮炊具だと判断できる破片は約100点で、うち13点が甕口縁部、羽釜の鈎も9点出土している。

須恵器の甕や壺の胴部破片など出土した須恵器貯蔵具は破片数で約150点、うち甕の口縁部が10点、壺底部が2点確認されている。古代前期を中心とした時期の遺物だが、胎土に黒斑を持つ甕（亀山窯など野市町西佐古～東佐古の窯跡・11～12世紀）も3点出土するなど、古墳後期～中世前期の資料が含まれている。

331～343が古代末から中世前期（11～13世紀）の遺物である。（第58図）331～338が土師器供膳具、339・340が須恵器供膳具、341・342が白磁碗、343が青磁皿である。341は口縁が玉縁状を呈する白磁Ⅳ類、343は同安窯の青磁皿で、土佐ではいずれも12世紀の資料となる。

344・345は土鍾で所属時期は不明である。ともに中央部分が膨らむ円筒形。

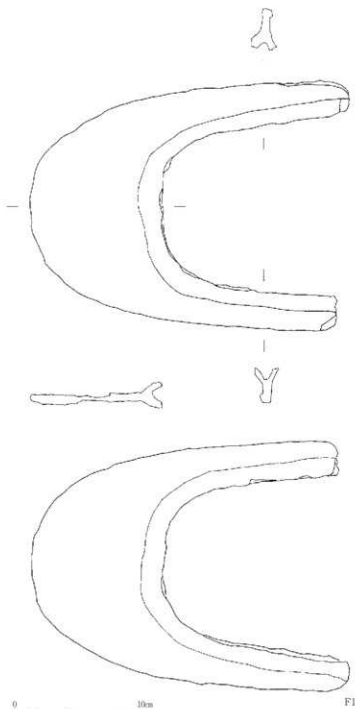
表採資料ではあるが石器類の中で1点のみ図化した。（第59図）S4は蛇紋岩製の磨製石斧で弥生時代の遺物。扁平片刃石斧で両側縁と基部に面を形成する。刃部は直線的である。



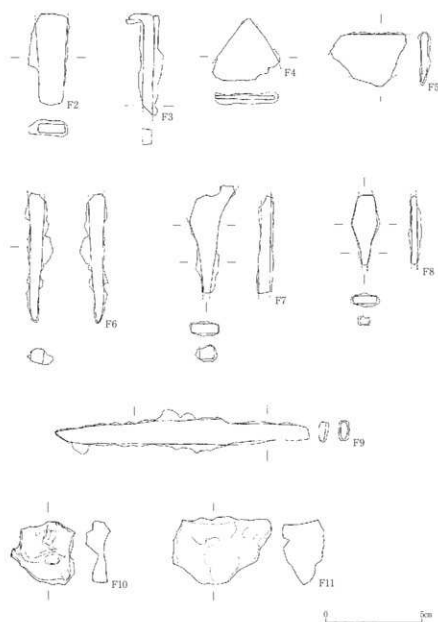
第59図 包含層出土遺物4 磨製石斧（S=1/2）

第6節 鉄器・鉄製品（遺構及び包含層出土）

F1は鉄製の鋤先である。所謂U字形鋤・鋤先であり、残存状態は良好である。調査区の西部で検出された堅穴住居跡ST4を切る土坑SK45から出土している。全長20cm、全幅19.7cm、中央刃部の長さは10cm、耳部幅は3cmを測る。木柄装着部には溝が設けられている。この溝は断面形V字形を呈し、深さは6～10mm、開口部幅は9～12cmを測る。装着部の先端は直線的である。この鋤先の最大幅は耳部の端（柄側端部）にあり、刃先へ向かって緩やかに内湾している。刃の先端部分は殆ど丸味を失い扁平になっている。使用に伴い先端が丸味を失った可能性もあるが、摩滅かどうかは確認できない。補記1)



第60図 出土遺物 U字形鋤・鋤先 (S=1/3)



第61図 出土遺物 鉄器・鉄製品他 (S=1/2)

目)が附着している。

F4は鉄鎌である。鋒から刃部は約75度の角度をもって直線的に広がる。圭頭形または三角形を呈したものであり、平造りと考えられる。鎌身の幅は3.2cmを測る。補記2)

F5は残存長4.0cm、幅2.8cmの板状を呈している。断面観察では片側が細く、短く曲がっており、片刃の刃部とも考えられる。鉄鎌の先、または刀子であれば背部の厚さ0.4cmを測る。鉄鎌の刃付けについては、消費地側で刃部に施される例が多いとされている。片刃の製品であろうか。

F7は鉄鎌の身部から茎部の破片と考えられる。圭頭形、またはY字形(雁股形)であり、鎌身の刃部を欠いている。残存長は5.6cm、幅は2.3cm、厚さ0.5cmを測る。関は無関で、断面形は方形を成している。補記3)

F2は概ね短冊状を呈した鉄製品の一部(基部?)である。緩い凸面を呈した端部(?)が残存している。断面形は長方形を呈し、端部から欠いた先へ向かって幅が微かに広がる。残存長は4.8cm、幅は約1.7cm、厚さは0.4cmを測る。槍穂(やりがんな)の基部、または剣の茎部端であろうか。

F3・6は角釘である。F3は頭部と頸部を残し、芯部中心で欠損する。頭部は平らで、長さ1.3cm、幅1.0cmを測る。頭部で直角に曲がり鉤状を呈している。

F6は芯部中心から頭部を欠いている。断面形は方形で、先端は細くやや丸味を持っている。芯の一部に木質(横位の木

F8は鉄鏃と考えられる。鏃身の刃部を欠いている。柳葉形、または細身の三角形を呈するものか、鋒から直線的に小さく広がるものであろう。鏃身間から頭は斜向する。残存長は3.7cm、全幅1.5cmを測る。頭部から茎部にかけて、帯状の紐のようなものが斜めに付着している。

F9は刀子である。茎尻を欠いている。残存長は13.4cm、刃部幅1.4cm、背側の幅は0.3cmを測る。刀身は背が緩く内湾している。両関と考えられるが、刃側の括れは背側にくらべて浅く、共に撫関と考えられる。平造りであり、断面形は刀身部で二等辺三角形、茎部は長方形を呈している。茎胴部には木質？の付着が認められる。補記4)

F10・F11はそれぞれ鉄滓と鉄塊とした。F10は表面に多くの気泡による小円孔が存在しており、小石が付着し脱落した痕跡や丸みを持った窪みが残されている。F11はF10にくらべて重量感があり、表面の小円孔は少ない。また、磁石にも吸着する。補記5)

補記

1) 鉄製のU字形鏃・鋤先は松井和幸氏の論考によれば三国時代の朝鮮半島に起源を持つとされている。列島での出現時期は5世紀の初頭から前葉である。高知県域では、西野ルノ丸遺跡に程近い深河遺跡の古代遺物包含層や南国市の蒲原山東1号墳から出土しており、同じく長畝4号墳では、副葬品として石室内から出土している。県の西南部では、古津賀遺跡と具同中山遺跡で、何れも祭祀に伴う遺物として出土が見られた。

2) 同様な時期の出土例としては、弥生後期後葉の林田遺跡(香美市)のST2(平成2年度調査、参考文献)から出土した圭頭形の有茎鏃があり、鏃身幅は約3.4cmを測る。時期的に後出するものでは、当遺跡の北東方向の金剛山尾根斜面に大谷古墳があり、初葬時の副葬品の中に全幅約3cmを測る有茎の柳葉形鏃がある。初葬時期は6世紀後半から末とされている。また、今治市の市街地西部にある高橋岡寺1号墳では、6世紀中頃とされる第1床面から、鏃身幅3.8cmを測る。圭頭形の鉄鏃が出土している。

3) Y字形を呈する凸凸有茎鉄鏃は、香南市の深湖北遺跡の調査I区南包含層から出土している。残存長は8.4cm、幅は4.4cmを測る。共伴する遺物から11世紀後半から12世紀の所産とされている。

4) 先述した大谷古墳では、1991年に調査が実施されており、石室内から出土した遺物の中に刀子がみられた。全長は15.1cm、刃幅1.1から1.5cm、背部幅0.4から0.5cmを測る。両関であり、関の形状や括れの深さは今次調査で出土した遺物とやや異なる。追葬の際の副葬品と考えられており、7世紀初頭から前半のものとされている。また、今治市の高橋山岸2号墳から出土した刀子には、残存長が12.9cm、両関で撫関を呈するものが見られる。この関は刃部側でやや浅く括れている。初葬に伴う副葬品であり、7世紀前半のものとされている。

5) F10が出土したST1は住居の壁際に高床部を残す竅穴住居である。今次調査の範囲からは鍛冶に関する遺構は発見されていないものの、西野遺跡の西に隣接してある下ノ坪遺跡では、古代の鍛冶に関わる遺物が出土している。報告書によると、SK16では輪羽口、SK20では輪羽口と砥石、SK21では増場、SK29では羽口と鉄滓などみられる。今治市の高橋佐夜ノ谷Ⅱ遺跡では、古代国家に関わる製鉄遺構が検出されており、伊予国府との関わりが指摘されている。

表13 西野ルノ丸遺跡出土の鉄器・鉄製品観察表

遺物No.	出土地点	遺物の名称・部位	法量 (cm)	重量 (g)	備考
F1	SK45	鋸先	20.2×19.7×0.6	714.0	
F2	TR1	刀子or 鋸 基部	4.8×1.7×0.4	11.8	
F3	TR3	釘	5.3×1.3×1.0	13.4	角釘
F4	ST2	鉄鏃	3.2×3.5×0.2	5.8	三角形?
F5	ST3	鎌or 刀子	4.0×2.8×0.4	8.3	片刃?
F6	SK50	釘	6.7×0.9×0.9	14.3	角釘
F7	遺物包含層 遺構検出面	鉄鏃	5.6×2.3×0.5	11.7	Y字鏃?
F8	遺物包含層 遺構検出面	鉄鏃	3.7×1.5×0.4	3.7	柳葉式?
F9	遺物包含層 遺構検出面	刀子	13.4×1.4×0.3	20.9	
F10	ST1	鉄滓	3.4×3.2×1.3	11.9	
F11	SR1	鉄塊	5.2×3.6×2.2	52.5	

参考文献

- 松井和幸, “鉄製農具の変遷”, 古代における農具の変遷－稲作技術史を農具から見る－, 財団法人静岡県埋蔵文化財研究所, 1994, (発表要旨集), p.49～60.
- 高橋啓明, 出原恵三, 吉原達生, 深淵遺跡, 野市町教育委員会, 1989
- 岡本健児, 日本の古代遺跡 高知, 保育社, 1989
- 廣田佳久, 池澤俊幸, 長畝遺跡・長畝古墳群, (財) 高知県文化財埋蔵文化財センター, 1996
- 松田直則, 浜田恵子, 池澤俊幸, 筒井三菜, 具同中山遺跡群Ⅳ, (財) 高知県文化財埋蔵文化財センター, 2001
- 出原恵三, 廣田佳久, 松田直則, 山本哲也, 後川・中筋川埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ 古津賀遺跡 具同中山遺跡群, 高知県教育委員会, 1988
- 詫間一之, 山本哲也, 森田高宏, 林田遺跡, 土佐山田町教育委員会, 1985
- 山本哲也, 大谷古墳, (財) 高知県文化財団, 1991
- 柳部大作, “高橋岡寺Ⅱ遺跡 (高橋岡寺1号墳)”, 高橋山岸山古墳, 今治市教育委員会, 2009, p.13～103.
- 三ツ井遺跡, (財) 愛知県埋蔵文化財センター,
- 出原恵三, 池澤俊幸, 小松大洋, 行藤たけし, 下ノ坪遺跡Ⅰ, 野市町教育委員会, 1997
- 柳部大作, 高橋佐夜ノ谷Ⅱ遺跡, 今治市教育委員会, 2007

遺物観察表

(2005年調査出土遺物)

・土器、土製品、須恵器、陶磁器類

※試掘調査出土遺物観察表(1～63)は、

P.36～38

表14 遺物観察表(土器・土製品・須恵器・陶磁器類)(1)

国史 番号	遺構	住所 遺構 層位	器種	形状	部位	法量 (cm)				胎土	色調		肌理		特徴	時期・様式 番号
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	内面	外面		
64	ST1	中央P	古式土器	壺	口縁-上腹部	16.4	(9.6)	(20.8)	-	1-2mm大のチャート砂粒をやや多く含む。	7.5YR 6/4 にぶい褐色	7.5YR 7/4 にぶい褐色	ハケ	タタキ エビサキ	胴部でゆるやかに屈曲した後、口縁が大きく反折する。	古墳時代初期
65	ST1	P1	古式土器	高坏	坏部	14.8	(4.8)	-	-	精選されている。1-2mm大の砂粒を少量含む。	5YR 6/4 にぶい褐色	5YR 6/6 褐色	ナデ	ナデ	胴状の高坏坏部、口縁は細く仕上げられる。内面に口縁上方のナデが観察される。	古墳時代初期
66	ST1	床P1	古式土器	高坏	口縁部	13.0	(2.8)	-	-	精選されている。1-2mm大の砂粒を少量含む。	7.5YR 6/6 褐色	7.5YR 6/6 褐色	ナデ	ナデ	胴状の高坏坏部、口縁付近小片。	古墳時代初期
67	ST1	床P1	古式土器	高坏	脚端部	-	(2.4)	-	(20.0)	精選された胎土。1-2mm大の砂粒を少量含む。	7.5YR 6/6 褐色	7.5YR 6/6 褐色	ナデ	ナデ	脚端部は強いヨコナデで仕上げられる。	古墳時代初期
68	ST1	床P2	古式土器	壺	胴部-底部	-	(11.1)	-	3.8	2-4mm大のチャート粗粒砂を含む。	5YR 5/6 明赤褐色	5YR 5/6 明赤褐色	ハケ、 エビサキ、 エビサキ	タタキ	底面は丸みを帯びる。器表は部分的に平滑。内面の粗粒砂が含まれる部分が盛り上がる。	古墳時代初期
69	ST1	床	古式土器	壺	口縁-胴部	6.4	(3.7)	-	-	2mm大の粗粒砂も認められるが、泥和材のほとんどない精選された胎土である。	7.5YR 6/6 褐色	7.5YR 6/6 褐色	ナデ、 エビサキ	ナデ、 エビサキ	直立する胴部から90°屈曲し、口縁は水平方向に広がる。口縁は本末2重口縁だが、口縁部が湾曲している。	古墳時代初期
70	ST1	床	弥生土器(或古式土器)	壺	口縁部	10.8	(4.3)	-	-	2mm大前後のチャート砂粒を含む。赤色チャート多し。	5YR 5/6 明赤褐色	5YR 6/8 褐色	ナデ	ハケ、ナデ、 エビサキ、 ヨコナデ、 ハウミダキ	口縁は直立し、わずかに反折。口縁は丸く仕上げられる。	古墳時代初期
71	ST1	古式土器	壺	口縁部	7.2	(3.0)	-	-	-	1-2mm大のチャート砂粒を少し含む。	7.5YR 6/4 にぶい褐色	7.5YR 6/4 にぶい褐色	ナデ	ナデ、 エビサキ	腹立口縁の直、ゆるやかに屈曲した後、口縁は直立する。	古墳時代初期
72	ST1	床	古式土器	壺	口縁-上腹部	14.8	(8.0)	-	-	1-2mm大の砂粒を多く含む。	10YR 4/1 褐色	10YR 6/3 にぶい黄褐色	ハケ、ナデ、 エビサキ、 ヨコナデ、 ハウミダキ	タタキ、 ナデ	口縁は丸みを帯び、口縁外面肥厚。口縁は直線的に外上方へ立ち上がる。	古墳時代初期
73	ST1	古式土器	壺	口縁部	16.7	(2.2)	-	-	-	精選されており、1mm大の砂粒を少量含む。ごく少量のガラス質微物も観察される。	2.5Y 5/3 暗灰黄色	2.5Y 5/2 暗灰黄色	ハケ、 ヨコナデ	ハケ、 ヨコナデ	口縁は面をなし、下縁を大きく低折する。	古墳時代初期
74	ST1	土器	壺	口縁部	16.8	(2.5)	-	-	-	1mm大のチャート砂粒を少量含む。	7.5YR 6/6 褐色	7.5YR 6/6 褐色	ヨコナデ、 ナデ	ヨコナデ	口縁は丸く仕上げられる。	古墳時代初期
75	ST1	床	古式土器	壺	定形	13.0	19.7	18.0	2.8	胎土は精選されており、1mm前後のチャート粗粒砂を少量含む。	10YR 4/1 褐色	10YR 7/4 にぶい黄褐色	ハケ、ナデ、 エビサキ、 ヨコナデ	ハケ、ナデ、 エビサキ	底面は狭い平断面(わずかに上げ底)が浅い。胴部は上腹部に最大径を持ち、胴部でこの字状に強く屈曲して口縁は屈曲して外折する。口縁は、従来のと同様に、一部凹状の外縁面をなす。外面中央に炭灰状微物を観察。器表面には何れも所が脱落する箇所がある。	古墳時代初期
76	ST1	弥生1 中① 床	古式土器	壺	口縁-上腹部	14.3	(4.0)	-	-	1-2mm前後のチャート砂粒をやや多く含む。	7.5YR 6/6 褐色	7.5YR 6/4 にぶい褐色	ヨコナデ、 ナデ	ハケ、 ヨコナデ	口縁は面をなし、上腹部は厚さ3.5-4mmほど薄い。	古墳時代初期
77	ST1	古式土器	壺	口縁-胴部	16.7	(3.2)	-	-	-	1-2mm大のチャート砂粒をやや多く含む。	10YR 4/3 にぶい黄褐色	7.5YR 6/4 にぶい褐色	ハケ、 エビサキ、 ヨコナデ	ハケ、 ヨコナデ	胴部でくの字状に屈曲。口縁は面をなし。	古墳時代初期
78	ST1	弥生1 中②	古式土器	壺	口縁-胴部	16.8	(13.2)	22.4	-	1mm大の砂粒を多く含む。内面に砂粒を含む砥石所が観察されることが多い。	7.5YR 7/4 にぶい褐色	7.5Y 2/1 黒色	ハケ、 エビサキ、 ヨコナデ	ハケ、 エビサキ、 ナデ	口縁は面をなし、外縁はわずかに肥厚する。浅い窪状の凹みが口縁内面に深さ。胎土の特徴から、高知平野の土器(地上土)ではあるが、器形の薄さと形制から内式土器の形制を模倣した在地の製だと考えられる。内面ハウミダキは認められないが、極めて薄く仕上げられている。	古墳時代初期
79	ST1	古式土器	壺	口縁-上腹部	12.2	(4.2)	-	-	-	1-2mm大のチャート砂粒を含む。(中量)	2.5Y 4/2 暗灰黄色	2.5Y 5/2 暗灰黄色	ハケ、ナデ、 エビサキ、 ヨコナデ	ハケ、 ヨコナデ	口縁は丸く仕上げられる。胴部はくの字状に強く屈曲。胴部は大きく開く。口縁は面をなし。	古墳時代初期
80	ST1	古式土器	壺	口縁-上腹部	10.8	(4.0)	-	-	-	1mm前後のチャート砂粒を少量含む。	10YR 7/4 にぶい黄褐色	10YR 3/2 暗褐色	ハケ、ナデ	タタキ、 ナデ	胴部でくの字状に強く屈曲。口縁部は大きく開く。口縁は面をなし。	古墳時代初期
81	ST1	弥生1 中②	古式土器	壺	口縁-胴部	16.8	17.4	14.8	-	1-2mm前後のチャート砂粒をやや多く含む。	10YR 6/4 にぶい黄褐色	10YR 6/4 にぶい黄褐色	ハケ、ナデ、 エビサキ、 ヨコナデ	タタキ、 ナデ	口縁はわずかに凹状の面をなし、口縁部は胴部中央に炭灰状微物付着。	古墳時代初期
82	ST1	古式土器	壺	口縁-上腹部	16.0	(5.9)	-	-	-	1-2mm大のチャート砂粒を含む。(中量)	7.5YR 7/4 にぶい褐色	5YR 7/6 褐色	ハケ、 エビサキ、 ナデ	タタキ、 エビサキ	口縁は面をなし、胴部でくの字状に強く屈曲。口縁は反折。	古墳時代初期

表14 遺物観察表(土器・土製品・須恵器・陶磁器類)(2)

図版番号	遺物	産出遺構層位	器種	器形	部位	法量 (cm)				胎土	色画		面割		特徴	時期・様式番号
						口径	器高	胴径	底径		内面		外面			
											内面	外面	内面	外面		
83	ST1		古式土器	甕	口縁-上胴部	16.7	(5.6)	-	-	1~2mm 大のチャート砂粒を含む。(中)	7.5YR 5/4 におい・褐色	7.5YR 6/6 褐色	ハク、ナデ、ユビオサエ、ヨコナデ	タタキ、ユビオサエ	胴部でゆるやかに屈曲した後再び、口縁は直をなし、下縁が彫り穿る。	古墳時代初期
84	ST1		古式土器	甕	口縁-上胴部	19.0	(9.3)	121.6	-	1~2mm 大のチャート砂粒をやや多く含む。(中)	10YR 7/4 におい・黄褐色	7.5YR 6/4 におい・褐色	ハク、ユビオサエ、ナデ	タタキ、ユビオサエ、ナデ	胴部内面はハク調動により種々変化する。残さばれの底跡がある。	古墳時代初期
85	ST1		古式土器	甕	口縁-上胴部	14.1	(6.9)	-	-	1mm 前後のチャート砂粒を少量含む。	10YR 7/6 明黄褐色	2.5YR 6/6 褐色	ハク、ナデ、ユビオサエ、タタキ	タタキ、ユビオサエ、ナデ	胴部でくの字状に屈曲。口縁は直をなし。	古墳時代初期
86	ST1		古式土器	甕	口縁-胴部	-	(7.3)	-	-	2~3mm 大のチャート砂粒を含む。	10YR 6/4 におい・黄褐色	7.5YR 5/4 におい・褐色	ナデ	タタキ、ナデ	口縁は丸みを帯びた面をなし。	古墳時代初期
87	ST1		古式土器	甕	口縁部	14.3	(2.3)	-	-	1~2mm 大のチャート砂粒をやや多く含む。	10YR 7/4 におい・黄褐色	10YR 7/4 におい・黄褐色	ハク、ナデ、ユビオサエ、ナデ	タタキ、ハク、ナデ	口縁は直をなし、下縁はわずかに彫り穿る。	古墳時代初期
88	ST1		古式土器	甕	口縁-上胴部	15.2	(5.1)	-	-	1~2mm 大のチャート砂粒をやや多く含む。	2.5YR 7/6 褐色	7.5YR 7/6 褐色	ハク、ナデ、ユビオサエ、ヨコナデ	タタキ、ハク、ナデ	胴部でゆるやかに屈曲した後、口縁は大きく外反する。	古墳時代初期
89	ST1		古式土器	甕	胴部	-	(6.5)	20.0	-	1~3mm 大の粗粒砂粒をやや多く含む。	7.5YR 6/6 褐色	7.5YR 5/4 におい・褐色	ハク、ユビオサエ、ナデ	タタキ	胴部でくの字状に屈曲する。上胴部に集積状物が付着する。	古墳時代初期
90	ST1		古式土器	甕	底部	-	(8.6)	16.2	(4.0)	1~2mm 大のチャート砂粒をやや多く含む。	7.5YR 6/3 におい・褐色	5YR 7/6 褐色	ナデ、ユビオサエ	タタキ、ハク	丸底の底部。胴部は球形を削り穿る。	古墳時代初期
91	ST1		古式土器	甕	胴部-底部	-	12.8	14.3	3.2	1~4mm 大のチャート粗粒砂・小礫を多く含む。	2.5YR 6/8 褐色	5YR 6/8 褐色	ハク、ユビオサエ、ナデ	タタキ、ハク、ナデ、板ナデ	胴部は球形に大きく膨る。丸底。底部方向からのタタキ目が残る。	古墳時代初期
92	ST1	灰基(半)	古式土器	甕	下胴部-底部	-	18.6	26.2	6.0	1~3mm 大のチャート砂粒を多く含む。	10YR 7/4 におい・黄褐色	10YR 6/4 におい・褐色	ハク、ユビオサエ、ナデ	タタキ、ハク、ナデ、ユビオサエ	丸底で、胴部は球形に大きく膨る。底部付近に焼成時の節子あり。	古墳時代初期
93	ST1		古式土器	甕	底部	-	(7.0)	-	3.9	2~3mm 大のチャート粗粒砂を含む。	10YR 6/2 灰黄褐色	10YR 5/2 黄褐色	ユビオサエ、ナデ	タタキ、ナデ	平底。底面にタタキ目が残る。	古墳時代初期
94	ST1		古式土器	鉢	底部	(3.8)	-	-	3.9	1~2mm 大の砂粒をやや多く含む。	7.5YR 7/4 におい・褐色	5YR 7/6 褐色	ナデ、ヘア仕肌	ナデ、ユビオサエ	平底。底面の平坦面は狭い。体部は内湾して立ち上がる。	古墳時代初期
95	ST1		古式土器	鉢	底部	-	(3.1)	-	3.6	精選された胎土。1~2mm 大の砂粒を少量含むのみ。赤色チャート。	7.5YR 8/6 浅黄褐色	7.5YR 8/6 浅黄褐色	ナデ、ヘア仕肌	ナデ	平底。底面の平坦面は狭い。体部は内湾して立ち上がる。	古墳時代初期
96	ST1		古式土器	鉢	底部	-	(2.0)	-	(3.8)	精選された胎土。1mm 大の砂粒を少量含む。	2.5YR 6/6 褐色	7.5YR 6/6 褐色	ユビオサエ	ナデ、ユビオサエ	突出した平底。	古墳時代初期
97	ST1		古式土器	甕	底部	-	(1.8)	-	3.0	1~2mm 大のチャート砂粒を含む。(中)	7.5YR 7/4 におい・褐色	7.5YR 7/6 褐色	ハク、ナデ	ナデ	突出した平底。底面に横線圧痕。	古墳時代初期
98	ST1		古式土器	甕	底部	-	(1.7)	-	4.8	1~2mm 大前後のチャート砂粒をやや多く含む。	7.5YR 7/3 におい・黄褐色	10YR 7/4 におい・黄褐色	ハク、ヘアミダギ	タタキ、ナデ	突出した平底。	古墳時代初期
99	ST1		古式土器	鉢	口縁-上胴部	30.8	(9.1)	-	-	2~3mm 大の砂粒を含む。0.5mm 以下の微細砂粒も多く含む。	2.5Y 6/4 におい・黄褐色	2.5YR 7/4 浅黄褐色	ハク、ナデ、ユビオサエ	タタキ、ハク、ナデ	大型の鉢。胴部に縦合痕あり。口縁は直をなし、下縁が彫り穿れる。ほとんどもみ込まれている。	古墳時代初期
100	ST1	灰基(半)	古式土器	鉢	口縁-上胴部	23.4	(6.0)	-	-	1~2mm 大のチャート砂粒を含む。(中)	7.5YR 7/6 褐色	7.5YR 7/6 褐色	ハク、ナデ	ナデ	縦線調子で内外面とも調整不明。	古墳時代初期
101	ST1		古式土器	鉢	口縁-胴部	(9.0)	2.2	-	(7.6)	1~2mm 大の砂粒を少量含む。	10YR 4/1 褐色	10YR 5/2 灰黄褐色	ナデ、ユビオサエ	ユビオサエ	扁平で浅い皿状の鉢。	古墳時代初期
102	ST1	灰基(半)	古式土器	鉢	口縁-胴部	(9.9)	(3.2)	-	(3.0)	1~2mm 大の砂粒をやや多く含む。	2.5YR 5/6 明黄褐色	2.5YR 6/6 褐色	ナデ、板ナデ	ヨコナデ、ユビオサエ	浅い楕状の鉢で、丸みを帯びた底縁から内湾して口縁に至る。	古墳時代初期
103	ST1	灰基(半)	古式土器	鉢	口縁-底部	9.2	(6.0)	-	(1.6)	2~5mm 大の粗粒砂・小礫を少量含む。	10YR 5/4 におい・黄褐色	7.5YR 7/6 褐色	ハク、ナデ、ヨコナデ	タタキ、ナデ、ヨコナデ	小型の鉢。胴部で種々変化する。口縁は直をなし、下縁が彫り穿る。口縁縁部は削り上げられる。	古墳時代初期
104	ST1	灰基(半)	古式土器	鉢	口縁-底部	10.0	6.6	-	(4.0)	1~3mm 大のチャート砂粒を含む。	10YR 6/3 におい・黄褐色	10YR 6/3 におい・黄褐色	ハク、ナデ、ユビオサエ	タタキ、ナデ、ユビオサエ	平底。内面のナデ調整は下→上方向で、口縁内面には横方向のハクが残る。外面は丁家なナデにより成形痕を消すが、タタキ目の底跡がわずかに残り観察できる。体部は短式で上方に立ち上がる。口縁は直をなし。	古墳時代初期
105	ST1		古式土器	鉢	定形	10.6	5.5	-	4.3	1~2mm 大のチャート砂粒を含む。	7.5YR 6/6 褐色	7.5YR 6/6 褐色	ハク、ユビオサエ	タタキ、ナデ	底面見込み付近に放射状に圧痕が残る。その底跡を消すように、下→上方のユビオサエで仕上げられている。口縁は短式で上方に立ち上がる。口縁は直をなし。平坦面が、のり付した厚さ3cmの平底である。	古墳時代初期

表14 遺物観察表(土器・土製品・須恵器・陶磁器類)(3)

図録番号	遺物	作田遺跡層位	器種	器形	部位	法量 (cm)				胎土	色調		肌理		特徴	時期・様式番号
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	内面	外面		
106	ST1	灰草1キ①	古式土師器	鉢	定形	12.2	5.4	-	3.4	1-2mm大のチャート砂粒を含む。(中量)	7.5YR 7/6 褐色	7.5YR 6/6 褐色	ハク、ナデ	タタキ、ナデ	内面のハケ肌調整は放射状に入る。口縁部は細く仕上げられる。底面はほぼ平坦な部分がある。底面に繊維圧痕が認められる。	古墳時代初期
107	ST1	灰草1キ①	古式土師器	鉢	定形	15.2	5.9	-	6.9	精選された胎土。1mm大の砂粒を少量含む。	10YR 6/3 にぶい黄褐色	10YR 6/3 にぶい黄褐色	ハク、ナデ	ナデ、ヨコナデ	平底で、底面には繊維圧痕が認められる。	
108	ST1	灰草1キ①	古式土師器	鉢	定形	13.6	6.2	-	4.0	1-2mm大前後のチャート砂粒を多く含む。3-3.5mm大の粗粒砂も認められる。	10YR 6/6 明黄褐色	10YR 7/4 にぶい黄褐色	ハク、ナデ	タタキ、ナデ	口縁部はわずかに丸みのある面を残す。外面のタタキ目はナデにより閉じられ、ほとんど残らない。底面は径3.8-4.0cmでわずかに突出気味の平坦な底面である。	古墳時代初期
109	ST1	灰草1キ①	古式土師器	鉢	定形	11.8	6.2	-	5.3	1-2mm大のチャート砂粒を含む。(中量)	7.5YR 6/6 褐色	7.5YR 6/6 褐色	ハク、ナデ	タタキ、ナデ、ミガキ	内面は口縁付近にハケ目が見えるが、それ以外はナデにより丁寧に仕上げられる。口縁は丸く仕上げられ、一部面を形成する。丸底で底面には粘土を丁寧に仕上げられ、タタキ目はほとんど残らない。底面は明確では無いが、一部にミガキが確認される。	古墳時代初期
110	ST1	灰草1キ①	古式土師器	鉢	定形	17.0	6.7	-	4.6	1-2mm大のチャート砂粒を含む。(中量)	7.5YR 7/4 にぶい褐色	7.5YR 6/4 にぶい褐色	ハク、ナデ、ヨコナデ	タタキ、ナデ、ユビオサス、ミガキ	口縁部はヨコナデにより成形、口縁は丸みを帯びた面をなす。外面にはタタキ目があったと考えられるが、丁寧なナデにより肌理をほとんどとどめない。丸底で、底面は径4.5cm以上の円形に粘土を粘付して成形されている。	古墳時代初期
111	ST1		古式土師器	鉢	定形	19.1	6.5	-	3.3	1-3mm大のチャート砂粒を多く含む。	7.5YR 6/6 褐色	7.5YR 5/4 にぶい褐色	ハク、ナデ	ナデ、ユビオサス、ミガキ	丸底、碗状の形態で大きく開く。口縁は砂粒が右へ左に動く強いヨコナデで成形される。底面は丸く仕上げられる。口縁内面一部等に粘土部分がある。底面に、径4.0cmほどの円形粘土を粘付して成形する。外面、底面付近ミガキが見える。	古墳時代初期
112	ST1		古式土師器	鉢	定形	14.3	5.2	-	2.9	1-3mm大のチャート砂粒をやや多く含む。	5YR 6/6 褐色	7.5YR 6/6 褐色	ハク、ナデ	ナデ、ヨコナデ	丸底で、大きく開いた碗状の形態。口縁部内面に横方向の強いハケ目が見える。口縁は面をなし、ヨコナデにより部分的に円状となる。底面付近に粘土粘付の肌理が確認できる。	古墳時代初期
113	ST1		古式土師器	鉢	定形	14.8	7.5	-	3.6	1-3mm大のチャート砂粒を含む。	10YR 7/4 にぶい黄褐色	10YR 6/4 にぶい黄褐色	ハク、ナデ、ヨコナデ	タタキ、ナデ、ユビオサス、ヨコナデ	突出した底面。底面は外縁が直径、径3.5cm前後で円柱状に突出する。内面は窪み面に放射状にハケ目調整による肌理が見える。底面は外縁にタタキ目があり、ユビオサス仕上げされる。口縁部はヨコナデで仕上げ、口縁は細く仕上げられる。底面には繊維圧痕と指痕が見える。	古墳時代初期
114	ST1	床	古式土師器	鉢	定形	16.7	8.1	-	4.0	1-2mm大のチャート粗粒砂をやや多く含む。7mm大の粗粒砂も認められる。	7.5YR 7/6 褐色	7.5YR 7/6 褐色	ハク、ナデ、ヨコナデ	タタキ、ナデ、ヨコナデ	突出した底面。底面は外縁が直径、径4.0cm前後で円柱状に突出する。内面は窪み面に放射状に肌理が見える。底面付近にタタキ目が見える。ユビオサス仕上げされる。内面ナデは右へ左へ上方向、ヨコナデで仕上げ、口縁は細く仕上げられる。	古墳時代初期
115	ST1	灰草1キ①	古式土師器	鉢	口縁一部	14.5	9.4	-	(6.8)	1-3mm大のチャート砂粒を含む。	7.5YR 6/6 褐色	7.5YR 6/6 褐色	ハク、ヘウミガキ	タタキ、ユビオサス、ナデ	口縁の底面で、外縁を外方に大きく突出する。碗状で、口縁は丸く仕上げた部分と面をなす部分とがある。器表面に2-3mm大の粒状に盛り上がった部分が見られる。これは胎土中に含まれる粗粒砂によるものだと考えられる。	古墳時代初期
116	ST1		古式土師器	高坏	口縁部	20.2	(5.3)	-	-	精選された胎土。1-3mm大のチャート砂粒を少量含む。	5YR 7/6 褐色	7.5YR 7/6 褐色	ハク、ナデ、ユビオサス、ヨコナデ	ハク、ナデ、ヨコナデ	口縁は大きく外方へ開き、口縁は面をなす。	古墳時代初期
117	ST1		古式土師器	高坏	口縁部	21.1	(3.4)	-	-	精選されており、3mm大のチャート粗粒砂を少量含む。	7.5YR 6/6 褐色	7.5YR 6/6 褐色	ナデ	ハク、ナデ、ヨコナデ	口縁は丸く仕上げられる。	古墳時代初期
118	ST1		古式土師器	高坏	口縁部	-	(3.4)	-	-	精選された胎土。3mm前後のチャート砂粒を少量含む。	7.5YR 7/6 褐色	7.5YR 7/6 褐色	ハク、ナデ	ナデ、ヨコナデ	口縁は丸く仕上げられる。	古墳時代初期
119	ST1	灰草1キ①	古式土師器	小型器台あるいは小型の高坏	器部	(8.0)	(1.5)	-	-	精選された胎土。1mm大の砂粒を少量含む。	5YR 3/4 にぶい赤褐色	5YR 3/4 にぶい赤褐色	ナデ、ユビオサス、ヘウミガキ	ナデ、ユビオサス、ヘウミガキ	浅い皿状の器部。ヘウミガキで丁寧に仕上げられる。	古墳時代初期

表14 遺物観察表(土器・土製品・須恵器・陶磁器類)(4)

図版番号	遺構	床面遺構層位	器種	器形	部位	法量 (cm)				胎土	色面		面装		特徴	時期・様式番号
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	内面	外面		
120	ST1		古土 土器	小型 片 い は 環 型 の 高 杯	杯部	(7.8)	(1.6)	-	-	3~5mm 大の 磁鉄屑も認め られる。赤褐色 色面の発色を 示す。	5YR 5/4 にぶい赤褐色	5YR 5/4 にぶい赤褐色	ナデ、 ユビオサエ	ナデ、 ユビオサエ	杯部は焼伏。器壁は厚さ2mm程 度で極めて薄い。	古墳時代初期
121	ST1		古土 土器	高杯	脚部	-	(2.2)	-	-	胎土は精選さ れており、砂 粒をほとんど 含まない。	10YR 5/4 にぶい黄褐色	7.5YR 5/6 明褐色	ハケ	ハケ、 ヘラミガキ	杯部はヘラミガキで丁寧に仕上 げられている。透孔あり。	古墳時代初期
122	ST1		古土 土器	高杯	脚部	-	(3.5)	-	-	1~2mm 大の チャート・砂 粒を少量含む。	7.5YR 7/4 にぶい褐色	7.5YR 7/4 にぶい褐色	ナデ、 ヘラミガキ	ナデ、 ヘラミガキ	足口部に放射状に圧痕が残る。 杯部は焼伏の形。	古墳時代初期
123	ST1		古土 土器	高杯 あるいは 登壇	杯部	-	(3.0)	-	-	胎土は精選さ れている。	5YR 6/8 褐色	5YR 5/4 にぶい赤褐色	ナデ	ナデ	赤褐色に発色せず。厚8mm大の 透孔を持つ。透孔数など全体 の発色は均一。	古墳時代初期
124	ST1	医薬土 *(1)	土製 土製品	支脚 形土 製品		(6.0)	8.5	-	7.0	1~2mm 前後 のチャート・砂 粒をやや多く 含む。	5YR 4/6 赤褐色	7.5YR 5/6 明褐色	ナデ、 ユビオサエ	ナデ、 ユビオサエ		古墳時代初期
125	ST1		須恵 器	甕	口縁一 下脚部	(19.0)	(5.2)	-	-	0.5mm 以下の 磁鉄屑を多量 含む。2mm 大 人の磁鉄屑も 認められる。	2.5Y 8/2 灰白色	2.5Y 8/2 灰白色	ナデ、ヨコ ナデ	ナデ、 ヨコナデ	口縁は玉縁状。器表面の磨減 痕。内面に赤い器具(青銅製 ?)の痕跡あり。	古墳時代後期 (6世紀後半~ 7世紀初期)
126	ST1		須恵 器	提籠	口縁部	(5.8)	(3.8)	-	-	精選された胎 土。	2.5Y 6/1 黄灰色	2.5Y 6/1 黄灰色	回転ナデ	回転ナデ	わずかに開き気味に直立。	古墳時代後期
127	ST1		須恵 器	提籠	口縁部	(6.4)	(4.4)	-	-	精選された胎 土。3mm 以下 の砂粒を含む。 3mm 以上の 円孔あり。	5Y 5/1 灰色	7.5Y 6/1 灰色	ナデ	ナデ	口縁は内湾気味に立ち上がる。 口唇はごくわずかに内傾する面 をなす。	古墳時代後期
128	ST1		須恵 器	杯蓋	器部一 下脚部	(15.6)	(2.9)	-	-	精選された胎 土。7mm 大の 小礫も認めら れる。	2.5Y 6/1 黄灰色	10YR 8/2 灰白色	回転ナデ、 ナデ	回転ナデ、 ナデ	器部は丸みを持った面をなす。 器部付近気味により全体の発色 など発色は不明。下脚は傾斜す る。	古墳時代後期 (6世紀末~7 世紀初期)
129	ST1		須恵 器	杯蓋	天井部 一上脚部	(15.5)	(3.1)	-	-	精選された胎 土。1~3mm 大の白色磁物 を若干量含む。 黒色磁物やブ ラス質磁物も 認められる。	10YR 5/1 灰褐色	2.5Y 5/1 黄灰色	ナデ、回転 ナデ	回転ナデ、 回転ヘラケ ズリ、ナデ	下脚は支く仕上げ。回転は右 回り。器面にへら記あり。	古墳時代後期 (6世紀後半)
130	ST1		須恵 器	杯蓋	口縁一 底部	(13.6)	4.0	-	(5.4)	胎土は精選さ れており、磁 鉄屑や石膏質 磁物、白色 磁物を含むの み。	2.5Y 5/1 黄灰色	2.5Y 6/1 黄灰色	ナデ、回転 ナデ	回転ナデ、 回転ヘラケ ズリ、ナデ	立ち上がりは0.9cmで内傾する。 受部径は16.8cm(復元)。回転 は右回り。	古墳時代後期 (6世紀末~7 世紀初期)
131	ST1		須恵 器	杯蓋	口縁部	14.1	(2.6)	-	-	精選された胎 土。磁物(白 色・黒色磁物 を含む)。	10Y 5/1 灰色	10Y 5/1 灰色	回転ナデ	回転ナデ、 ナデ	立ち上がりは1.0cmで内傾する。 受部径は16.8cm(復元)。回転 は右回り。	古墳時代後期 (6世紀後半)
132	ST1		須恵 器	杯蓋	口縁部	15.6	(2.6)	-	-	精選された胎 土。磁物(白 色・黒色磁物 を含む)。	10Y 5/1 灰色	10Y 5/1 灰色	回転ナデ	回転ナデ、 ナデ	立ち上がりは1.0cmで内傾する。 受部径は17.0cm(復元)。回転 は右回り。	古墳時代後期 (6世紀後半)
133	ST1		須恵 器	杯蓋	口縁部	14.8	(2.8)	-	-	精選された胎 土。0.5~1mm 大の砂粒を少 量含むのみ。	2.5Y 8/2 灰白色	2.5Y 8/2 灰白色	回転ナデ	回転ナデ	黄土上に灰白色が混ざった色面 に発色する。134と胎土も類似。 同一製体の可能性が高い。	古墳時代後期 (6世紀末~7 世紀初期)
134	ST1		須恵 器	杯蓋	底部	-	(2.4)	-	7.5	精選された胎 土。0.5~1mm 大の砂粒を少 量含むのみ。	2.5Y 8/2 灰白色	2.5Y 8/2 灰白色	回転ナデ	回転ナデ	底部が切妻断面。133と同一 製体。	古墳時代後期 (6世紀末~7 世紀初期)
135	ST1		須恵 器	高杯	脚部	-	(5.7)	-	(14.8)	5mm 大の小礫 が認められ る。精選され た胎土上で、そ れ以外には磁物 認められない。	5Y 5/1 灰色	5Y 5/1 灰色	回転ナデ	回転ナデ	脚部は上下に拡張し、四角に 全す。透孔は長方形。	古墳時代後期 (6世紀後半 ~7世紀初期)
136	ST1		土師 器	瓶	把手	-	(4.5)	-	-	0.5~1mm 大 のチャート・砂 粒を多量に含 む。	10YR 8/4 浅黄褐色	10YR 8/4 浅黄褐色	なし	ユビオサエ、 ナデ	瓶の把手部分。	古墳時代後期 (6世紀後半 ~7世紀初期)
137	ST2	Ⅱ	古土 土器	壺	口縁部	(13.9)	(2.4)	-	-	1~2mm 大の チャート・砂 粒を少量含む。	7.5YR 6/4 にぶい褐色	7.5YR 6/4 にぶい褐色	ハケ、 ユビオサエ	ナデ	口唇は面々全す。	古墳時代初期
138	ST2		赤土 土器 あるいは 土師 器	土師 器	口縁部	-	(2.1)	-	-	0.5~2mm 大 のチャート・砂 粒を多く含む。	7.5YR 4/3 黄褐色	7.5YR 4/2 灰黄褐色	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	口唇は面々全す。小礫片。	古墳時代初期
139	ST2		須恵 器	杯蓋	下脚部	(11.2)	(3.2)	-	-	胎土は精選さ れている。	2.5Y 5/1 黄灰色	5Y 5/1 灰色	回転ナデ	回転ナデ	下脚は丸く(細く)仕上げる。	口唇は参考値 古墳時代後期
140	ST2		須恵 器	杯蓋	口縁一 底部	(12.9)	(3.8)	-	-	胎土は精選さ れている。	5Y 7/1 灰白色	5Y 6/1 灰色	回転ナデ	回転ナデ、 回転ヘラケ ズリ、ナデ	立ち上がりは0.9cmで内傾する。 受部径は15.4cm(復元)。回転 は右回り。	古墳時代後期 (6世紀後半)

表14 遺物観察表(土器・土製品・須臾器・陶磁器類)(5)

国産番号	遺物	作田遺跡層位	器種	器形	部位	法量 (cm)				胎土	色相				画装				特徴	時期・様式番号	
						口径		器高	胴径		底径	内面		外面		内面		外面			
						上部	下部					黄褐色	灰黄色	黄褐色	灰黄色	黄褐色	灰黄色				
141	ST3	P1	煮生土器	鉢	口縁部	12.0	(3.0)	-	-	1-2mm 大の砂粒を少し含む。	10YR 7/4 深い黄褐色	10YR 7/4 深い黄褐色	ナナ、エビオサエ	ナナ、エビオサエ	ナナ、エビオサエ	ナナ、エビオサエ	口縁の形態が独特。口縁は強く仕上げる。	古墳時代初期			
142	ST3	P1	古式土器	鉢	胴部・底部	-	(7.5)	13.6	1.4	1mm 大前後のチャート砂粒を多く含む。	10YR 7/6 明黄褐色	10YR 7/4 深い黄褐色	ナナ、エビ	ナナ	ナナ	ナナ	小笠の鉢。平底で下部に比喩が見える。器形は残存部からの推定によるものだが、因に採した形と若干異なる可能性もある。	古墳時代初期			
143	ST3	P1	古式土器	器	杯部	8.5	(3.0)	-	-	0.5mm 前後の粗粒砂を多く含む。	5YR 6/6 褐色	5YR 6/6 褐色	ナナ、ヘムリギキ	ナナ、ヘムリギキ	ナナ、ヘムリギキ	ナナ	杯部は浅い形状。内外面に工具による擦痕の痕跡が認められる。	古墳時代初期			
144	ST3	P1	古式土器	高坏	杯部	15.8	(5.8)	-	-	煎茶用ガラス質の胎土を含む。角四角も認められる。胎土は黄褐色。	2.5YR 5/6 明赤褐色	2.5YR 5/6 明赤褐色	ナナ、ヘムリギキ	ハク、ナナ、ヘムリギキ	ハク、ナナ、ヘムリギキ	ハク、ナナ、ヘムリギキ	胎土の特徴から輸入品だと考えられる。杯部は筒状で、口縁は強く仕上げる。全面にヘムリギキがある丁寧な作りである。	輸入品(高坏野原遺跡か?) 古墳時代初期			
145	ST3	床P2	古式土器	壺	定形	14.0	32.8	17.2	3.8	1-2mm 前後のチャート砂粒を多く含む。	10YR 7/2 深い黄褐色	5YR 7/4 深い黄褐色	エビナナ、エビオサエ、ナナ、ヨコナナ	エビナナ、エビオサエ、ナナ、ヨコナナ	エビナナ、エビオサエ、ナナ、ヨコナナ	エビナナ、エビオサエ、ナナ、ヨコナナ	再度変えたタタキ画装により、丁寧に底部形状を整え、丸底とする。胴部は筒状で中央にのみ、胴部中央は断面である。腹縁の口縁は外反した後ゆるやかに傾斜。上方へは上がる。	古墳時代初期			
146	ST3	床P2	古式土器	壺	胴部・底部	-	(60.5)	32.8	(13.0)	1-3mm 前後のチャート砂粒を多く含む。	2.5Y 7/3 浅黄褐色	7.5YR 7/6 褐色	ハク、エビナナ、ナナ	ハク、エビナナ、ナナ	ハク、エビナナ、ナナ	ハク、エビナナ、ナナ	底部は平底だが、器縁が高台状に盛り上げられていた。底部付近外周はヘムリギキで丁寧に仕上げられる。胴部中央が大きな段部を形成する。口縁は丸く仕上げる。胴部形状は縁部に近い。胴部は断面で成立。口縁部形状不明。内面には器表面が剥離した部分がある。	古墳時代初期			
147	ST3	床	古式土器	壺	口縁部	(9.8)	(4.1)	-	-	精選された胎土。1-2mm 大の砂粒を多く含む。	10YR 7/6 明黄褐色	10YR 7/6 明黄褐色	ナナ、エビオサエ	ハク、ナナ、エビオサエ	ハク、ナナ、エビオサエ	ハク、ナナ、エビオサエ	袋状の口縁。胎土は在土器と異なり、胎土は外周の可能性があると考えられている。	古墳時代初期			
148	ST3	床	古式土器	壺	口縁部	(17.8)	(5.5)	-	-	1mm 前後の砂粒を多く含む。在土の胎土は異なる輸入品。	10YR 6/3 深い黄褐色	10YR 6/3 深い黄褐色	ハク、ナナ	ハク、ナナ	ハク、ナナ	ハク、ナナ	強いナナにより砂粒が修飾(古→白)に。口縁は丸く仕上げる。輸入品。形態上の特徴から山形系の土器だと考えている。	古墳時代初期			
149	ST3	タロ①	古式土器	壺	口縁部	(22.4)	(3.1)	-	-	精選された胎土。1-1mm 前後の砂粒を少量含む。	5Y 7/6 褐色	5YR 7/6 褐色	ハク、ナナ、ヘムリギキ	ハク、ナナ、ヘムリギキ	ハク、ナナ、ヘムリギキ	ハク、ナナ、ヘムリギキ	口縁部端大きく開き。内面には四角の、外面には厚層に0.2mm 程度の皮を形成する。口縁は丸く仕上げる。内外面とも縦方向のヘムリギキにより修飾。	古墳時代初期			
150	ST3	床	古式土器	壺	口縁・上胴部	(11.4)	(3.0)	-	-	1-3mm 大のチャート砂粒をやや多く含む。	10YR 7/6 明黄褐色	10YR 7/6 明黄褐色	ハク、エビナナ、ヨコナナ	ハク、エビナナ、ヨコナナ	ハク、エビナナ、ヨコナナ	ハク、エビナナ、ヨコナナ	胴部でくの字状に強く傾斜。口縁は上方へは上がる。器縁は薄い。在土の胎土だが、形状上東国系土器類(東河内型土器)の要に類似。	古墳時代初期			
151	ST3	床	古式土器	壺	口縁・上胴部	(11.2)	(4.6)	-	-	1-2mm 大の砂粒を多く含む。	10YR 5/3 深い黄褐色	10YR 4/2 灰黄褐色	ハク	ハク	ナナ	ナナ	口縁は丸みを帯びた面をなす。胴部でくの字状に強く傾斜し、口縁は強く外反する。胴部外面に炭化灰化物付着。小型の要。	古墳時代初期			
152	ST3	タロ③	古式土器	壺	口縁部	(12.9)	(3.2)	-	-	1-2mm 大の粗粒砂を少し含む。	5YR 6/6 褐色	5YR 6/4 深い黄褐色	ハク、ナナ	ハク、ナナ	エビオサエ、ナナ	エビオサエ、ナナ	外反する口縁。外面に炭化灰化物付着。	古墳時代初期			
153	ST3	床	古式土器	壺	口縁部	18.4	(2.4)	-	-	1-2mm 大のチャート砂粒をやや多く含む。	7.5YR 6/4 深い黄褐色	5YR 5/6 明赤褐色	ハク、ナナ、エビオサエ	ハク、ナナ、エビオサエ	ハク、ナナ、エビオサエ	ハク、ナナ、エビオサエ	口縁は外反し、口縁は丸く仕上げる。	古墳時代初期			
154	ST3	床	古式土器	壺	口縁・上胴部	(15.6)	(6.9)	-	-	1-2mm 大のチャート砂粒をやや多く含む。	10YR 7/4 深い黄褐色	7.5YR 7/4 深い黄褐色	ハク、ナナ、エビオサエ	ハク、ナナ、エビオサエ	ハク、ナナ、エビオサエ	ハク、ナナ、エビオサエ	胴部でくの字状に強く傾斜。口縁は丸みを帯びた面。外面に炭化灰化物付着。	古墳時代初期			
155	ST3	床	古式土器	壺	口縁・胴部	12.8	(7.4)	12.6	-	2-3mm 大の砂粒を少量含む。	7.5YR 6/6 褐色	7.5YR 6/6 褐色	ハク、ナナ、エビナナ、エビオサエ	ハク、ナナ、エビナナ、エビオサエ	ハク、ナナ、エビナナ、エビオサエ	ハク、ナナ、エビナナ、エビオサエ	口縁は面をなす。胴部でくの字状に強く傾斜。	古墳時代初期			
156	ST3	床	古式土器	壺	口縁	(15.1)	(3.5)	-	-	1-2mm 大のチャート砂粒をやや多く含む。	10YR 7/4 深い黄褐色	7.5YR 7/4 深い黄褐色	ハク、ナナ	ハク、ナナ	ナナ、エビオサエ	ナナ、エビオサエ	胴部でくの字状に強く傾斜。口縁は面をなす。外面に炭化灰化物付着。	古墳時代初期			
157	ST3	タロ①	土器	壺	口縁・上胴部	19.4	(5.7)	-	-	精選された胎土。1-2mm 大のチャート砂粒を少量含む。	10YR 4/1 褐色	10YR 5/2 灰黄褐色	ハク、ナナ	ハク、ナナ	ハク、ナナ	ハク、ナナ	口縁は丸く仕上げる。胴部はゆるやかなに傾斜し、口縁は外反する。	古墳時代初期			
158	ST3	床(P1)	古式土器	壺	底部	-	(10.5)	-	8.6	1-3mm 大のチャート粗粒砂を多く含む。	2.5Y 7/3 浅黄褐色	10YR 7/4 深い黄褐色	ナナ、エビナナ	ナナ、エビナナ	ナナ	ナナ	丸みを帯びた変色臭味の底部。内面は強いエビナナにより、砂粒が修飾(古→白)する。外面は焼成時の黒点がある。小破片1点のみ断面形状P1上。	古墳時代初期			
159	ST3	タロ②	古式土器	壺	底部	-	(5.0)	-	(4.6)	1-2mm 大のチャート砂粒をやや多く含む。	10YR 7/4 深い黄褐色	7.5YR 7/4 深い黄褐色	エビナナ	エビナナ	エビナナ、ナナ	エビナナ、ナナ	底部は平底で、しりとりした平坦面をなす。	古墳時代初期			
160	ST3	タロ②	煮生土器あるいは土器	壺	底部	-	(2.5)	-	6.6	1-3mm 大の砂粒を多く含む。7mm 以上の小石も認められる。	5YR 6/4 褐色	5YR 6/6 褐色	ハク、ナナ	ハク、ナナ	ハク、ナナ	ハク、ナナ	平底の底部。	?			

表14 遺物観察表(土器・土製品・須恵器・陶磁器類)(6)

図版 番号	遺構	床面 遺構 層位	器種	器形	部位	法量 (cm)				胎土	色画		面影		特徴	時期・様式 番号
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	内面	外面		
161	ST3		古式土器	罌	底部	-	(2.1)	-	3.9	0.5~1mm大のチャート砂粒をやや多く含む。	10YR 6/4 灰褐色	10YR 4/1 暗灰色	ハケ	タタキ、ハケ、ナデ	底部は突出した平底で、内面足込みに放射状のハケ調整。	
162	ST3		古式土器	鉢	口縁部	17.6	(3.0)	-	-	精選された胎土。1mm前後の砂粒を少量含む。	10YR 7/4 灰褐色	10YR 7/4 灰褐色	ナデ、板ナデ	タタキ、ナデ	口縁は丸く仕上げた。	古墳時代初期
163	ST3		古式土器	高坏	坏部	(11.2)	(3.4)	-	-	胎土は精選されており、0.5~1mm大の砂粒を少量含むのみ。	7.5YR 7/4 灰褐色	7.5YR 7/4 灰褐色	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	腕状の坏部。	
164	ST3		古式土器	鉢	口縁部	13.0	(5.4)	-	-	1~2mm大の砂粒をやや多く含む。	10YR 7/4 灰褐色	10YR 7/4 灰褐色	ハケ	タタキ、ナデ	口縁はわずかに凹状を呈する面をなす。	古墳時代初期
165	ST3	パンタ 西(3)	古式土器	鉢	口縁一底部	(12.5)	(5.1)	-	3.4	1~2mm大のチャート砂粒を多く含む。	7.5YR 8/4 淡黄褐色	10YR 8/4 淡黄褐色	ハケ、ナデ、エビオサエ	ナデ	口縁はわずかに凹状を呈する面をなす。丸底で、底面に粘土層が付。内面に放射状にハケ調整。外縁はナデで仕上げ、放射状に凹凸割れが入る。	古墳時代初期
166	ST3	クワ②	古式土器	鉢(小形鉢)	底部	6.9	3.3	-	2.0	1mm大のチャート砂粒を少量含む。	5YR 6/6 褐色	5YR 6/6 褐色	ナデ	ナデ、エビオサエ	小径でボウル状の鉢形土器。口縁はエビオサエにより細く仕上げた。	古墳時代初期
167	ST3	瓦	古式土器	鉢	口縁一底部	(8.8)	3.7	-	2.0	1~3mm大のチャート砂粒をやや多く含む。	5Y 4/1 灰色	2.5Y 6/2 灰黄色	ナデ、エビオサエ	ハケ、ナデ、エビオサエ	浅い皿状の鉢。口縁は丸く仕上げた。	古墳時代初期
168	ST3	クワ③	古式土器	鉢	口縁一底部	(11.6)	4.9	-	4.0	1~3mm大のチャート砂粒をやや多く含む。	10YR 7/6 明黄褐色	10YR 7/6 明黄褐色	ハケ	タタキ、ナデ	平底でボウル状の鉢形土器。口縁は外縁面をなす。	古墳時代初期
169	ST3	瓦	古式土器	鉢	口縁一底部	(10.7)	(3.3)	-	(7.0)	1mm大前後の砂粒をやや多く含む。	2.5YR 7/4 淡赤褐色	2.5YR 6/4 淡黄色	エビオサエ、ハケ状の圧	エビオサエ、ナデ	浅い皿状の鉢。	古墳時代初期
170	ST3	瓦	古式土器	高坏	坏部	(18.2)	(7.5)	-	-	1~2mm大のチャート砂粒をやや多く含む。5mm大の小礫も認められる。	2.5YR 7/6 褐色	7.5YR 7/6 褐色	ハケ、エビオサエ	ハケ、ナデ、エビオサエ	口縁は丸く仕上げた。坏部の縁ははつきりしている。	
171	ST3		古式土器	高坏	脚部	-	(5.6)	-	-	1~3mm大のチャート砂粒をやや多く含む。	10YR 7/3 灰褐色	10YR 7/3 灰褐色	ハケ、エビオサエ、ナデ	エビオサエ、ナデ	透孔は1孔(径6mm)確認できる。脚部は原直し、大きく開く。	古墳時代初期
172	ST3	クワ④	古式土器	高坏	脚部	-	(4.2)	-	(22.6)	1mm大のチャート砂粒をやや多く含む。	7.5YR 7/4 灰褐色	7.5YR 7/4 灰褐色	ハケ、ナデ、ヘラミゴキ	ハケ、ナデ、ヘラミゴキ	下縁はヨコナデにより凹面をなす。	
173	ST3		古式土器	高坏	脚部	-	(4.6)	-	(13.4)	精選された胎土。チャート砂粒を含む。	7.5YR 6/4 灰褐色	7.5YR 7/4 灰褐色	ハケ、ナデ、ナデ	ハケ、ナデ	内面に貫通していない穿孔線上の孔が認められる。脚部は丸く仕上げた。	
174	ST3	瓦	古式土器	高坏	脚部	-	(4.1)	-	(13.2)	1~3mm大のチャート砂粒をやや多く含む。	7.5YR 7/4 灰褐色	7.5YR 7/6 褐色	ハケ、エビオサエ、ナデ	ハケ、ヨコナデ、ヘラミゴキ	透孔はあるものの、1孔の一部のみ確認できるのみ。	古墳時代初期
175	ST3	クワ⑤	古式土器	高坏	脚部(断面)	-	(3.9)	-	(19.0)	1mm大のチャート砂粒をやや多く含む。	10YR 6/4 灰褐色	10YR 8/4 淡黄褐色	ハケ、エビオサエ、ナデ	ハケ、ヨコナデ	下縁はヨコナデにより面をなす。	
176	ST3	クワ⑥	古式土器	脚台(不明)	底部	-	(5.2)	-	(4.1)	2~3mm大のチャート砂粒を多く含む。	2.5Y 7/2 灰黄色	10YR 7/2 灰褐色	ナデ	ハケ、ナデ、エビオサエ	底部は短い脚状。脚部は上方へ伸びる。製法土器の可能性もあるが不明。	
177	ST3	瓦	古式土器	小形土器	底部	3.7	4.5	3.9	1.4	1mm大前後のチャート砂粒を含む。	2.5Y 6/3 灰黄色	2.5Y 5/2 暗灰黄色	ハケ、エビオサエ	エビオサエ	変形土器を模した小形土器。口縁内面にハケ。全面に煎直調整が施される。	
178	ST3		土器	罌	口縁部	-	(3.7)	-	-	1~2mm大のチャート砂粒を多く含む。	5YR 6/6 褐色	5YR 6/6 褐色	ナデ	ナデ	口縁は丸く仕上げた。脚部はゆるやかながら直直し、口縁は外反する。	古墳時代後期
179	ST3		土器	罌	口縁部	-	(5.6)	-	-	1~2mm大のチャート砂粒を多く含む。	10YR 4/2 灰黄褐色	10YR 4/2 灰黄褐色	ナデ、ヘラミゴキ	ナデ	口縁は丸く仕上げた。脚部はゆるやかながら直直し、口縁は外反する。	古墳時代後期
180	ST3	クワ⑦	土器	罌	口縁部	(4.0)	(2.6)	-	-	精選された胎土。1mm大のチャート砂粒を少量含む。	10YR 7/6 明黄褐色	5YR 7/6 褐色	巻紙調整 調整不明	巻紙調整 調整不明	胴底は原直。口縁は上方へ立ち上がる。口縁は丸く仕上げた。	
181	ST3	クワ⑧	須恵器	罌	胴部	-	(7.9)	(14.3)	-	精選された胎土。	N6/0 灰色	N6/0 灰色	目取ナデ	目取ナデ	球形で大きく開いた胴部。	
182	ST3	クワ⑨	須恵器	坏蓋	下縁	-	(4.0)	-	-	精選された胎土。	7.5Y 6/1 灰色	2.5GY 6/1 オリーブ灰色	目取ナデ	目取ナデ	須恵器坏蓋の下縁。小片。	古墳時代後期
183	ST3		須恵器	坏蓋	下縁	-	(3.3)	-	(14.2)	2mm大の砂粒が認められるが、胎土は精選されており、砂粒をほとんど含まない。	2.5Y 5/2 暗灰黄色	2.5Y 5/2 暗灰黄色	目取ナデ	目取ナデ	下縁は丸く仕上げた。	古墳時代後期
184	ST3		須恵器	坏蓋	口縁一底部	(13.0)	(3.4)	-	-	精選された胎土だが、4mm大の小礫が認められる。	5Y 5/1 灰色	5Y 5/1 灰色	目取ナデ	目取ナデ	立ち上がりは0.7cmで内縁、受部径15.0cm(測定)。体部径7.2~3は目取ヘラナデ。受部径14.2cm(測定)。	古墳時代後期(6世紀末~7世紀初期)

表14 遺物観察表(土器・土製品・須臾器・陶磁器類)(7)

図録番号	遺物	作部遺物部位	器種	器形	部位	法量 (cm)				胎土		色面		画装		特徴	時期・様式番号
						口径	器高	胴径	底径	内面	外面	内面	外面				
														内面	外面		
185	ST3		須臾器	杯身	口縁～底面	12.0	(3.4)	-	-	精選された胎土。黒色の陶磁器砂を含む。	5Y 6/1 灰色	5Y 6/1 灰色	回転ナデ	回転ナデ	立ち上がりは0.8cmで内傾。受口縁は14.2cm(推定)。	古墳時代後期(6世紀後半)	
186	ST3	クワシ	須臾器	杯蓋	口縁～下縁	14.0	(1.9)	-	-	精選された胎土。	2.5Y 6/1 黄灰色	5Y 5/1 灰色	回転ナデ	回転ナデ	下縁は下方へ拡張する。	古代(8世紀前半)	
187	ST3		土師器	引蓋	口縁部	-	(3.0)	-	-	1mm大の砂粒を少量含む。	10YR 4/2 灰黄褐色	10YR 4/2 灰黄褐色	ナデ	ナデ	筒の形状は、断面三角形。口縁部は面をなす。	古代 古墳時代初期の住居跡出土。	
188	ST4		埴土器	甕	口縁部	-	(2.6)	-	-	1-2mm大の砂粒を少し含む。	7.5YR 6/6 褐色	7.5YR 4/2 灰褐色	ナデ	ナデ	口縁部は丸く仕上げ、唇目を備す。頸部以下へ90度急曲(直線)3本施す。	古墳時代前期末。大塚式土器新設例。	
189	ST4		古式土師器	甕	口縁部	16.4	(2.6)	-	-	ガラス質鉱物を含む粗粒砂を多く含む。	2.5Y 5/2 暗灰黄色	7.5YR 7/6 褐色	エビオサエ。ナデ	エビオサエ。ナデ	口縁部は丸く仕上げ、唇目を備す。頸部以下へ90度急曲(直線)3本施す。	古墳時代初期	
190	ST4	パンクII期	古式土師器	甕	口縁部	14.6	(1.9)	-	-	1-2mm大のチャート砂粒を少量含む。	7.5YR 6/4 に近い褐色	7.5YR 6/4 に近い褐色	ハケ	タタキ	口縁部小片。口縁は面をなす。	古墳時代初期	
191	ST4		古式土師器	甕	口縁部	15.6	(2.5)	-	-	2-3mm大のチャート砂粒をやや多く含む。	7.5YR 6/6 褐色	10YR 4/2 灰黄褐色	ハケ、ナデ、エビオサエ	ハケ、ナデ	口縁は面をなし、下縁はわずかに肥厚する。外面に炭化物付着。	古墳時代初期	
192	ST4	ST4南と接合	古式土師器	甕	口縁部	-	(4.4)	-	-	1mm大のチャート砂粒を少量含む。	2.5Y 4/1 黄灰色	2.5Y 4/1 黄灰色	ハケ、ナデ、ヨコナデ	ハケ、ナデ、ヨコナデ	口縁は面をなす。	古墳時代初期	
193	ST4		古式土師器	甕	口縁～上胴部	14.7	(4.5)	-	-	3-5mm大のチャート小粒を含む。	7.5YR 7/6 褐色	10YR 4/2 灰黄褐色	ハケ、エビオサエ	タタキ	口縁は面をなす。	古墳時代初期	
194	ST4		古式土師器	甕	口縁～上胴部	15.2	(8.0)	-	-	1-2mm大のチャート粗粒砂をやや多く含む。	2.5Y 7/3 浅黄色	10YR 5/3 に近い黄褐色	ハケ、ナデ、ヨコナデ	タタキ、エビオサエ、ナデ	口縁は面をなし、下縁は肥厚する。頸部は段をなし、くの字状に強く屈曲する。	古墳時代初期	
195	ST4	北	古式土師器	甕	口縁～上胴部	16.6	(8.2)	-	-	1-2mm大のチャート粗粒砂をやや多く含む。	2.5YR 7/3 浅黄色	10YR 7/3 に近い黄褐色	ハケ、ナデ	タタキ、エビオサエ	口縁は面をなし、下縁は肥厚する。頸部は段をなし、くの字状に強く屈曲する。	古墳時代初期	
196	ST4		古式土師器	甕	口縁～上胴部	13.3	(8.1)	-	-	1-2mm大のチャート粗粒砂をやや多く含む。	2.5Y 6/3 に近い黄褐色	10YR 5/4 に近い黄褐色	ハケ、ナデ、エビオサエ	タタキ、エビオサエ、ナデ	口縁は丸みを帯びた面をなす。口縁内面が若干凹む。	古墳時代初期	
197	ST4		古式土師器	甕	口縁～上胴部	16.4	(6.1)	-	-	1mm大前後の砂粒をやや多く含む。5mm大の小粒も認められる。	10YR 6/4 に近い黄褐色	7.5YR 7/4 に近い褐色	ハケ、ナデ	タタキ、ナデ、エビオサエ	口縁は面をなし、外縁はわずかに肥厚する。	古墳時代初期	
198	ST4		古式土師器	甕	口縁～上胴部	16.8	(6.2)	-	-	1-2mm大のチャート粗粒砂をやや多く含む。	7.5YR 7/6 褐色	7.5YR 6/6 褐色	ハケ、ナデ	タタキ、ナデ	口縁は面をなし、部分に凹みになる。	古墳時代初期	
199	ST4	北	古式土師器	甕	底部	-	(7.2)	-	3.8	1-2mm前後のチャート砂粒を多く含む。	10YR 5/3 に近い黄褐色	10YR 6/4 に近い黄褐色	ナデ	タタキ	底面に径6mmの孔が穿たれる。横穴状穿孔で、孔は内面から外面方向に穿たれたことがわかる。穿孔位置は底面の中央からずれる。外周寄り。内面はナデにより丁寧に仕上げられる。	古墳時代初期	
200	ST4		古式土師器	甕	底部	-	(4.1)	-	3.9	1-3mm大の粗粒砂を含むが、量は少ない。	10YR 7/4 に近い黄褐色	10YR 7/4 に近い黄褐色	ハケ、ナデ	タタキ、エビオサエ、工具による圧痕	底部外縁に工具により粘土を押し出した痕跡が認められる。底面に繊維状痕あり。	古墳時代初期	
201	ST4		古式土師器	甕	底部	-	(3.9)	-	4.2	1mm大のチャート砂粒をやや多く含む。5mm大の小粒も認められる。	7.5YR 6/4 に近い褐色	10YR 7/4 に近い黄褐色	ハケ、ナデ、ハワナデ	タタキ、ナデ	突出した平底の底部。底面に繊維状痕あり。	古墳時代初期	
202	ST4	南	古式土師器	甕	下胴部～底部	-	(3.7)	-	(4.2)	胎土は精選されたもので砂粒は少ない。白色鉱物を含み、在地土器の胎土とは異なる。	2.5Y 4/1 黄灰色	2.5Y 3/1 黒褐色	ナデ、エビオサエ	ナデ、エビオサエ	底部は平底。下胴部は内湾気味に立ち上がる。外面全体に塊状炭化物が付着する。黒入品。	古墳時代初期	
203	ST4	パンクII期	古式土師器	甕	裏面～口縁部	-	(1.9)	-	5.5	1mm前後のチャート粗粒砂を少量含む。	7.5YR 7/6 褐色	10YR 6/4 に近い黄褐色	ハケ、ナデ	タタキ	突出した平底。底面に圧痕など認められず、平滑である。内面の常規面。内面に明確ではないが6-11mm程度の圧痕が認められる。	古墳時代初期	
204	ST4		古式土師器	甕	底部	-	(2.3)	-	4.6	精選された胎土。1mm以下の砂粒を少量含む。	10YR 7/4 に近い黄褐色	10YR 6/4 に近い黄褐色	ハケ	ナデ	平底で底面に圧痕あり。内面のハケ痕跡は放射状。	古墳時代初期	
205	ST4	南	古式土師器	甕	裏面～口縁部	-	(2.9)	-	4.5	1-2mm大のチャート粗粒砂を多く含む。3-5mm大の小粒も認められる。	2.5Y 7/3 浅黄色	10YR 7/4 に近い黄褐色	ハケ、エビオサエ、ナデ	ハケ、エビオサエ、ナデ	突出した平底。	古墳時代初期	
206	ST4		古式土師器	甕	口縁～底部	16.7	6.2	-	(3.4)	2-3mm大のチャート砂粒を含む。	10YR 7/6 明黄褐色	10YR 7/6 明黄褐色	ナデ、エビオサエ	タタキ	口縁は丸みを帯びた面をなし、口縁部内面に6-11mm程度の圧痕が認められる。	古墳時代初期	

表14 遺物観察表(土器・土製品・須恵器・陶磁器類)(8)

図版番号	遺構	床面遺構層位	器種	器形	部位	法量 (cm)				胎土	色画		面影		特徴	時期・様式番号	
						口径		器高	胴径		底径	内面	外面	内面			外面
						器高	胴径										
207	ST4	埋土	古式土師器	鉢	口縁一底部	(20.0)	(8.5)	-	7.0	2-3mm大のチャート砂粒を多く含む。	10YR 7/4 赤い黄褐色	10YR 7/4 赤い黄褐色	なし	ハケ、ナデ、ヘラミガキ	ゴウル状の鉢。口縁は上向き丸みを帯びた面をなす。底面は丸底で、つぶれ気味のタタキ目が見える。	古墳時代初期	
208	ST4	P304	古式土師器	鉢	口縁部	(18.0)	(3.8)	-	-	1-2mm大のチャート砂粒を少量含む。	10YR 6/4 赤い黄褐色	10YR 6/4 赤い黄褐色	ハケ、ナデ、ヨコナデ	ナデ、ヨコナデ	口縁は面をなす。ナデにより丁寧に仕上げられ、タタキ面影を残さない。	古墳時代初期	
209	ST4		古式土師器	高坏	坏部	-	(3.8)	-	-	1mm前後のチャート砂粒を含む。焼通された胎土。	5YR 6/6 褐色	5YR 6/6 褐色	ハケ、ナデ、ヘラミガキ	ハケ、ナデ、ヘラミガキ	坏中で焼をなす斜め上方に立ち上がる。ヘラミガキで丁寧に仕上げる。	古墳時代初期	
210	ST4		古式土師器	高坏	脚部	-	(4.0)	-	13.0	焼通された胎土。1mm大のチャート砂粒を少量含む。	2.5YR 7/4 赤い黄褐色	2.5YR 7/4 赤い黄褐色	ナデ、ヨコナデ、エビデサエ	ナデ、ヨコナデ、エビデサエ、ヘラミガキ	脚部は強いヨコナデで仕上げられる。	古墳時代初期	
211	ST4	クロ1	古式土師器	高坏	底部	-	(1.8)	-	(12.4)	焼通された胎土。2mm大の砂粒を少量含む。	2.5YR 7/6 褐色	2.5YR 7/4 赤い黄褐色	ハケ、ナデ、ヨコナデ	ハケ、ナデ、ヨコナデ	脚部は面をなし、ヨコナデにより凹状になる。	古墳時代初期	
212	ST4	バンタク1層	古式土師器	高坏	脚部	-	(5.3)	-	11.1	1-3mm大のチャート砂粒をやや多く含む。	10YR 7/4 赤い黄褐色	10YR 7/4 赤い黄褐色	ハケ、エビデサエ	ハケ、エビデサエ	脚部は丸く仕上げる。	古墳時代初期	
213	ST4		土製品	支脚部	支脚部?	-	(5.1)	-	-	1-3mm大のチャート砂粒を多く含む。	10YR 6/3 赤い黄褐色	7.5YR 3/1 オリーブ褐色	エビデサエ、ナデ	エビデサエ、ナデ	土製支脚の角部。全体形状不明。	古墳時代初期	
214	ST4		土製品	支脚部	支脚部?	-	(7.0)	-	-	1-3mm大のチャート砂粒を多く含む。	10YR 5/3 赤い黄褐色	10YR 5/3 赤い黄褐色	エビデサエ、ナデ	エビデサエ、ナデ	土製支脚の角部。全体形状不明。	古墳時代初期	
215	ST4		土製品	支脚部	支脚部	-	(9.4)	-	7.0	2-3mm大のチャート砂粒を多く含む。	10YR 7/4 赤い黄褐色	10YR 7/4 赤い黄褐色	エビデサエ	エビデサエ	脚部は丸く仕上げる。	古墳時代初期	
216	ST4	クロ1	須恵器(MC)	須恵器	口縁	(16.0)	(2.0)	-	-	焼通された胎土。微細砂粒を含む。	5Y 5/1 灰色	5Y 5/1 灰色	回転ナデ	回転ナデ	口縁部内外面に自然輪がかかる。		
217	ST4		須恵器	坏	底部	-	(2.1)	-	(13.0)	0.5mm以下の微細砂粒を多く含む。1-2mm大の粗粒も含む。	5Y 5/1 灰色	5Y 5/1 灰色	回転ナデ	回転ナデ	ハの字状に開く高台。		
218	ST4	バンタク1層	土師器	碗	口縁部	(16.6)	(3.1)	-	-	焼通された胎土。微細砂粒を含む。	5YR 7/3 赤い褐色	5YR 7/3 赤い褐色	ロタロナデ	ロタロナデ	口縁は丸く仕上げる。口縁が若干反り出す輪状の形態。	古代末・中世前期	
219	ST4		土師器	供養具	底部	-	(2.0)	-	6.6	0.5mm前後の微細砂粒を多く含む。	7.5YR 7/4 赤い黄褐色	10YR 7/5 赤い黄褐色	ナデ	ナデ	円状の高台。回転糸切り痕あり。	古代末	
220	SK1	床	古式土師器	甕	口縁一上製部	(15.2)	(7.9)	-	-	1-3mm大のチャート砂粒をやや多く含む。	7.5YR 6/4 赤い黄褐色	10YR 6/3 赤い黄褐色	ハケ、エビデサエ	エビデサエ、タタキ	口縁は上下に拡張した面をなす。脚部は面をなし、くの字状に強く屈曲する。	古墳時代初期	
221	SK1	埋土	古式土師器	甕	口縁一上製部	(13.9)	(4.9)	-	-	1-5mm大のチャート砂粒をやや多く含む。	7.5YR 6/4 赤い黄褐色	10YR 4/2 灰黄褐色	ハケ、エビデサエ、ナデ	タタキ、ハケ	脚部で面をなし、くの字状に強く屈曲する。	古墳時代初期	
222	SK1	埋土	古式土師器	甕	口縁一上製部	(14.9)	(5.4)	-	-	1-3mm大のチャート砂粒をやや多く含む。	10YR 7/3 赤い黄褐色	7.5YR 7/4 赤い黄褐色	ハケ、ナデ	タタキ、ナデ	脚部で面をなし、くの字状に強く屈曲する。	古墳時代初期	
223	SK1	埋土	古式土師器	甕	口縁一上製部	(13.6)	(7.0)	-	-	1-2mm大のチャート砂粒を含む。	2.5Y 4/1 黄灰色	7.5YR 5/3 赤い黄褐色	ハケ、エビデサエ、ナデ	タタキ、ハケ	脚部で面をなす。口縁部外面が膨らむ。		
224	SK1	埋土	古式土師器	甕	口縁一上製部	(16.4)	(6.6)	-	-	1-3mm大のチャート砂粒をやや多く含む。	7.5YR 6/4 赤い黄褐色	7.5YR 6/4 赤い黄褐色	ハケ、エビデサエ、ナデ	タタキ、ハケ	口縁は面をなす。脚部でくの字状に強く屈曲する。		
225	SK1		古式土師器	甕	底部	-	(10.6)	-	3.0	1-3mm大のチャート砂粒を含む。	2.5Y 5/2 暗灰黄褐色	10YR 6/3 赤い黄褐色	ナデ、エビデサエ	タタキ、ハケ	底面方向からのタタキにより丸底に成形する。		
226	SK1		古式土師器	甕	底部	-	(6.9)	-	2.8	1-2mm大のチャート砂粒を多く含む。	7.5YR 7/3 赤い黄褐色	10YR 6/3 赤い黄褐色	ナデ	タタキ、ハケ	丸底を指向する土器底部だが、わずかに平坦面を残す。		
227	SK1	埋土	古式土師器	甕	底部	-	(6.6)	-	2.0	1-2mm大のチャート砂粒をやや多く含む。	10YR 6/1 褐色	10YR 7/3 赤い黄褐色	ハケ、エビデサエ、ナデ	タタキ、ハケ、ナデ	丸底。底面方向からのタタキ目が見える。底面付近に放射状のハケ痕あり。		
228	SK1		古式土師器	鉢	鉢あは裏	-	(4.6)	-	4.1	2-3mm大のチャート砂粒をやや多く含む。	10YR 6/2 灰黄褐色	10YR 7/3 赤い黄褐色	ハケ、エビデサエ	タタキ、ナデ	丸底を指向した突出した平底。ヘラミガキで外縁をナデつけ底面形状を整える。		
229	SK1	埋土	古式土師器	鉢	定形	18.7	8.1	-	2.2	1-3mm大のチャート砂粒をやや多く含む。	10YR 7/4 赤い黄褐色	10YR 7/4 赤い黄褐色	ハケ、ナデ	ナデ	ゴウル状の形態の鉢形土器。磨った丸底に成形されている。		
230	SK1	埋土	古式土師器	鉢	口縁一底部	15.1	7.3	-	5.6	1-3mm大のチャート砂粒をやや多く含む。	10YR 7/3 赤い黄褐色	10YR 7/3 赤い黄褐色	ハケ	タタキ、ナデ、エビデサエ	ゴウル状の形態の鉢形土器。底面の輪には膨らむが、丸底を指向する土器である。		

表14 遺物観察表(土器・土製品・須臾器・陶磁器類)(9)

国庫 番号	遺物 番号	作部 遺構 単位	器種	器形	部位	法量 (cm)				胎土		色調		肌質		特徴	時期・様式 番号
						口径	器高	胴径	底径	内面	外面	内面	外面	内面	外面		
	231	SK1	古土 土器	鉢	口縁- 底面	16.5	4.9	-	5.0	1-3mm大の チャート砂粒 を多く含む。 底面付近に 4mm大の小 礫。	2.5Y 7/4 淡黄色	2.5Y 7/4 淡黄色	ハク、ナデ	ナデ	ナデによる 仕肌	ボウル状の形態の鉢形土器。丸 底を向うとする形である。底面 付近に工具による仕肌が残る。 口縁は斜縁する面を有す。	
	232	SK1	古土 土器	鉢	口縁- 底面	14.6	6.4	-	4.0	1-2mm大の チャート砂粒 をやや多く含 む。	10YR 7/3 にぶい黄褐色	10YR 7/2 にぶい黄褐色	ハク	ナデ	ナデ	ボウル状の形態の鉢形土器。底 面の皿上は肥厚するが、丸底名 部向うする土器である。口縁は外 傾面を有す。	
	233	SK1	埋土	古土 土器	脚付 土器	-	(R2)	-	8.5	1-2mm大の チャート砂粒 を含む。	7.5YR 6/3 にぶい褐色	7.5YR 6/4 にぶい褐色	ハク、ナデ	ナデ	ナデ	脚付土器の脚部。脚部のみであ り、上への土器の形態はわか らない。内面に径5mm程度の円形 粘土が付着する。脚部は細く 仕上げられる。外底に工具(ハク 状痕跡)による仕肌が残る。	
	234	SK1	土製 品	文胸 形土 製品	完形	6.2× 5.4 交差	9.1	-	7.0× 6.5	1-2mm大の チャート砂粒 を多く含む。	10YR 6/3 にぶい黄褐色	10YR 6/3 にぶい黄褐色	エビオサエ	エビオサエ	脚部は中央。手づくね成形。	古墳時代初 期。山内分館 C1期	
	235	SK2	須臾 器	坏身	口縁- 坏部	12.5	(3.2)	-	-	0.5mm未満の 微細砂粒を含 む。	5Y 6/1 灰色	7.5Y 8/1 灰白色	回転ナデ、 ナデ	回転ナデ、 ナデ	狭い受盤がゆえ、立ち上がり は内傾する。受盤径は14.8cm。 高さ、立ち上がりは1.0cm。	6世紀後半	
	236	SK8	須臾 器	坏	底面	-	(1.7)	-	(11.0)	精選された胎 土。	2.5Y 6/1 黄灰色	2.5Y 6/1 黄灰色	回転ナデ	回転ナデ	高台はわずかにハの字状に開 く。	古代 8世紀	
	237	SK6	土器	鉢	口縁部	-	(5.6)	-	-	1mm大前後の チャート砂粒 を少し含む。	5YR 7/6 褐色	7.5YR 7/6 褐色	ナデ	ナデ	ナデ	小片。弥生時代か古墳時代か、 詳細な時期の特定はできない。	
	238- 1	SK15	土器	坏	口縁- 体部	13.8	(2.8)	-	-	精選された胎 土。	10YR 8/3 淡黄褐色	5YR 7/6 褐色	ナデ、 回転ナデ	ナデ、 回転ナデ	口縁部内面に沈着がみられる。沈 着はしっかりとおり、明確。	8世紀	
	238- 2	SK15	土器	坏	体部- 口縁部	-	(3.6)	-	(3.9)	精選された胎 土。	10YR 8/3 淡黄褐色	5YR 7/6 褐色	ナデ、 回転ナデ	ナデ、 回転ナデ	底面へつ切。	8世紀	
	239	SK15	須臾 器	坏	底面	-	(1.4)	-	(9.2)	精選された胎 土。微細砂粒 を含むのみ。	2.5Y 7/2 灰黄色	2.5Y 7/2 灰黄色	不明	不明	坏の底部。断面長方形の高台 がわずかにハの字状に開いてい る。	古代 8世 紀?	
	240	SK15	土器	甕	口縁部	22.4	(3.5)	-	-	0.5mm前後の 細砂粒を多量 に含む。再焼 状石莖・ガ ラス質鉱物等 を含む。	7.5YR 6/4 にぶい褐色	7.5YR 6/4 にぶい褐色	ハク、ナデ	ハク、 ナデ	胎土の質から輸入品だと考え られる。器底で厚く固化した後、 口縁部は直線的に外上方へ立ち 上がる。口縁は外傾面を有す。	輸入品。類似 物は、8世紀 前半-9世紀 前半に認めら れる。	
	241	SK15	土器	把手 付鉢 (?)	把手	-	(6.0)	-	-	1-2mm大の チャート砂粒 を多く含む。 赤色チャート を含む。	10YR 8/6 黄褐色	10YR 8/6 黄褐色	ナデ	ナデ、 エビオサエ	器柄を把手付鉢としたが、正確 な器形はわからない。異なる器 種である可能性もある。		
	242	SK16	古土 土器	甕	口縁- 上頸部	14.8	(5.4)	-	-	1-3mm大の チャート砂粒 をやや多く含 む。	7.5YR 7/3 にぶい褐色	7.5YR 6/3 にぶい褐色	ナデ、 エビオサエ	ナデ、 エビオサエ	頸部を縁をなし、くの字状に狭 く開く。口縁は内面を有す。		
	243	SK26	土器	皿	口縁- 底面	10.0	(1.9)	-	(6.5)	1-2mm大の 砂粒を少量含 む。高細砂多 量。	10YR 8/3 淡黄褐色	10YR 8/3 淡黄褐色	ナデ、 回転ナデ	ナデ、 回転ナデ	底面へつ切。	8世紀	
	244	SK24	須臾 器	碗	体部- 底面	-	(4.1)	-	7.0	精選された胎 土。	5Y 7/1 灰白色	5Y 7/1 灰白色	不明	不明	内外面に火傷が残る。口縁は 高台で、底面の残りは少ないが、 必要に応じて確認できる。帯状 着で底面不明。	中世前期。11 世紀前半か?	
	245	SK27	土製 品	支脚 土製 品	完形	5.3	4.4	-	6.7	1-2mm大の チャート砂粒 を多く含む。 底面付近に 4mm大の小 礫。	10YR 6/4 にぶい黄褐色	10YR 6/4 にぶい黄褐色	ナデ、 エビオサエ、 エビオサエ	ナデ、 エビオサエ、 エビオサエ	中実で、底面は上げ板。頭部は わずかに傾斜し、エビオサエに より形成される。	山内分館C1 期	
	246	SK31	須臾 器	坏	口縁- 体部	-	(4.8)	-	-	精選された胎 土。1mm前後 の砂粒を若干 含むのみ。	2.5Y 6/1 黄灰色	2.5Y 5/1 黄灰色	回転ナデ	回転ナデ	口縁部は丸く仕上げられる。	古代 8世 紀?	
	247	SK33	須臾 器	坏	口縁部	-	(3.2)	-	-	精選された胎 土。	10YR 5/1 灰褐色	10YR 5/1 灰褐色	回転ナデ	回転ナデ	口縁部は仕上げられる。口縁部小 片。	古代 8世紀	
	248	SK39	土器	碗	底面	-	(1.7)	-	6.2	精選されてお り、0.5-1mm 大の砂粒を少 量含むのみ。	10YR 7/4 にぶい黄褐色	10YR 7/3 にぶい黄褐色	ハク・エビ オサエ	回転ハク ナデ	高台の内で、底面に回転ナデ が認められる。高台はハの字状 に開く。断面は台形。回転は右 回り。	古代末-中世 前期	
	249	SK39	土器	碗	口縁部	15.2	(2.3)	-	-	精選された胎 土。	5YR 6/6 褐色	5Y 6/6 褐色	ナデ、 回転ナデ	ナデ、 回転ナデ	口縁は若干肥厚。丸く仕上げられ、 外面に沈着したの各層が入る。	古代末-中世 前期	
	250	SK40	須臾 器	碗	口縁- 体部	11.7	(3.3)	-	-	精選された胎 土。	5Y 6/1 灰色	5Y 6/1 灰色	回転ナデ	回転ナデ	口縁は丸く仕上げられ、内面す る。	8世紀	
	251	SK40	土器	供養 具	高台	-	(1.2)	-	(5.8)	精選された胎 土。チャート 砂粒を少量含 む。	10YR 7/4 にぶい黄褐色	10YR 7/4 にぶい黄褐色	ナデ	ナデ	高台。	古代末-中世 前期	
	252	SK43	土器	坏	口縁- 底面	10.0	(1.0)	-	-	精選された胎 土。砂粒はほ んど含まな い。	5Y 6/6 褐色	5Y 6/6 褐色	ナデ、 回転ナデ	ナデ、 回転ナデ	底面へつ切。	7世紀-8世 紀前半	
	253	SK47	土器	坏	口縁部	12.7	(3.0)	-	-	精選された胎 土。砂粒はほ んど含まな い。	5Y 6/6 褐色	5YR 6/6 褐色	ナデ	ナデ	口縁内面に沈着あり。全面に横 方向のヘアズギがあり、さら びた土質の層から直土土器か と考えられる。	8世紀	

表14 遺物観察表(土器・土製品・須恵器・陶磁器類)(10)

図版 番号	遺構	床面 遺構 層位	器種	器形	部位	法量 (cm)				胎土	色澤		面影		特徴	時期・様式 備考
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	内面	外面		
254	SK50		土器 器	土器 器	底部	-	(1.2)	-	(5.8)	精選された胎土。	7.5YR 6/6 褐色	7.5YR 7/4 にぶい褐色	回転ナデ	回転ナデ	底部へウ切り。	
255	SD1		須恵器 供膳 器	口縁部	16.0	(3.5)	-	-		精選されており、砂粒をほとんど含まない。	2.5Y 7/2 灰黄色	2.5Y 7/2 灰黄色	回転ナデ	回転ナデ	口縁部内面が肥厚。段部を形成する。	古代
256	P2		土器 器	口縁へ上製部	13.3	(4.8)	-	-		胎土は精選され、白く微細な砂粒を多く含む。	5YR 6/8 褐色	5YR 6/6 褐色	ユビナデ、ナデ、ヨコナデ	ユビオサエ、ヨコナデ	胴部で屈曲。口縁は大きく反外。口唇は丸く仕上げる。	輸入品。古墳時代前期
257	P47		土器 器	胴部	18.0	(2.0)	-	-		0.5~1mm 大の砂粒を多く含む。白色紙物を含む。	2.5Y 5/6 明赤褐色	2.5Y 5/6 明赤褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	胴は断面台形で水平にのびる。口唇は水平面をなす。	10世紀・播磨赤松系・瀬戸系
258	P63		土製品 土器	文部形土製品	-	(8.9)	-	(10.6)		1~2mm 大のチャート砂粒をやや多く含む。	2.5Y 5/2 暗灰黄色	10YR 6/6 明黄褐色	ユビナデ、ナデ、ユビオサエ	タタキ、ナデ、ユビオサエ	胴部は中空で、脚部は外方に大きく開く形状である。	古墳時代初期
259	P117		土器 器	柄	底部	-	(2.7)	-	6.3	精選された胎土。0.5mm 大の砂粒を含む。	7.5YR 8/3 浅黄褐色	7.5YR 8/3 浅黄褐色	ハタミゴキ	ナデ	輪高台。ハの字状に開く高形台状。外面の高麗は華風のため明確。	中世前期 12世紀
260	P74		須恵器 器	杯	底部	-	(1.3)	-	(7.8)	精選された胎土。	5Y 6/1 灰色	5Y 5/1 灰色	回転ナデ	回転ナデ	高台はハの字状に開き、断面階状。	古代
261	P127		須恵器 土器	器	底部	-	(2.8)	-	(5.6)	1~3mm 大のチャート砂粒をやや多く含む。	5YR 6/4 にぶい褐色	7.5YR 6/3 にぶい褐色	ナデ	ハク、ナデ	わずかに上げ気味の平底。	古墳時代前期末~中前期末
262	P157		古式土器 器	口縁上製部	15.6	(3.9)	-	-		2~3mm 大のチャート砂粒をやや多く含む。	10YR 8/4 浅黄褐色	10YR 8/4 浅黄褐色	ナデ、ユビオサエ	ナデ	胴部で横をなし、くの字状に強く屈曲する。口唇は面をなす。華風。	古墳時代初期
263	P157		土製品 土器	文部形土製品	-	(5.0)	-	8.7		2~3mm 大のチャート砂粒を少し含む。	10YR 6/3 にぶい黄褐色	10YR 6/3 にぶい黄褐色	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ	中央の脚部。底面は上げ版。	古墳時代初期 山内分銅C1型
264	P224		古式土器 器	高杯	脚部	-	(7.0)	-	(11.4)	1~2mm 大のチャート砂粒をやや多く含む。	10YR 7/4 にぶい黄褐色	10YR 7/4 にぶい黄褐色	不明	不明	脚部は中位で屈曲し大きく開く。脚部の穿孔は4ヶ所と設定される。孔径は1.0~1.1cm。	古墳時代初期
265	P231		須恵器 器	杯蓋	天井部~一部	13.0	(2.8)	-	-	精選された胎土。	10YR 5/2 灰黄褐色	10YR 6/2 灰黄褐色	回転ナデ	回転ナデ	縦熱し華変する。	古墳時代後期(6世紀後半~7世紀初期)
266	P233		古式土器 器	高杯	杯部	-	(4.3)	-	-	胎土は精選されており、0.5mm 程度の砂粒を少量含むのみ。	7.5YR 6/6 褐色	7.5YR 6/4 にぶい褐色	ハタミゴキ	ハタミゴキ	高杯の杯部で、口縁形状不明。杯部は外面が横をなして段を形成する。	古墳時代初期
267	P236		古式土器 器	器	口縁へ上製部	12.2	(5.5)	-	-	1~2mm 大のチャート砂粒を少し含む。	10YR 7/4 にぶい黄褐色	10YR 7/3 にぶい黄褐色	ハク、ユビナデ、ユビオサエ、ナデ	タタキ	外面は華風。胴部の屈曲は緩やか。	古墳時代初期
268	P255		土器 器	杯	底部	-	(2.5)	-	(8.3)	微細な砂粒を多い。5mm 程度の小礫を含む。	7.5YR 6/6 褐色	7.5YR 7/6 褐色	回転ナデ(華風のたのため不明瞭)	回転ナデ	底部へウ切り。内面に縦状の物付着。	8世紀
269	P274		古式土器 器	器	底部	-	(3.1)	-	3.2	1~3mm 大のチャート砂粒をやや多く含む。	2.5Y 6/3 にぶい黄褐色	2.5Y 4/1 灰黄色	ユビナデ、ナデ、ユビオサエ	タタキ、ナデ、ユビオサエ	底面はへウ状工具による押圧で彫彫する。	古墳時代初期
270	P282		古式土器 器	器	口縁へ上製部	13.2	(5.7)	-	-	1~2mm 大のチャート砂粒を含む。	5YR 6/4 にぶい褐色	5YR 6/4 にぶい褐色	ハク、ナデ、ユビオサエ	タタキ、ハク	胴部で横をなし、くの字状に強く屈曲する。口唇はわずかに凹面をなす。	古墳時代初期
271	P282		古式土器 器	鉢	底部	16.6	8.2	-	2.0	1~3mm 大のチャート砂粒をやや多く含む。	10YR 7/4 にぶい黄褐色	10YR 6/4 にぶい黄褐色	ハク、ユビナデ、ユビオサエ、ナデ	タタキ、ナデ	底面は丁寧なナデにより丸底に仕上げる。	古墳時代初期
272	P314		須恵器 器	杯	底部	-	(1.9)	-	(9.0)	精選された胎土。	10YR 5/3 にぶい黄褐色	10YR 5/3 にぶい黄褐色	回転ナデ	回転ナデ	縦熱し華変する。	古代
273	P315		土器 器	杯蓋	下蓋	-	(1.7)	-	-	精選された胎土。微細な砂粒を少量含む。	10YR 6/4 にぶい黄褐色	10YR 6/4 にぶい黄褐色	回転ナデ	回転ナデ	下蓋を下方向へ拡張する。	8世紀中葉~後半
274	P327		古式土器 器	器	口縁部	20.3	(3.5)	-	-	1~2mm 大の砂粒をやや多く含む。	7.5YR 6/6 褐色	7.5YR 6/4 にぶい褐色	ハク	タタキ、ハク、ヨコナデ	ラッパ状に大きく開く口縁。口唇は上に膨らみ、わずかに凹状の面をなす。	古墳時代初期
275	P254		土製品 土器	土器	一部欠損	(2.7)	1.1	1.1	0.4	精選された胎土。細砂粒を少量含む。	7.5YR 7/4 にぶい褐色	7.5YR 7/4 にぶい褐色	ナデ	ナデ	円筒形の土器。孔径は4mm前後。	
276	P286		土製品 土器	土器	底部	4.6	1.4	1.3	0.6	精選された胎土。砂粒はほとんど含まない。	2.5Y 5/2 暗灰黄色	2.5Y 5/2 暗灰黄色	ユビナデ、ユビオサエ	ハク、ナデ、ユビオサエ、ハタミゴキ	円筒形の土器。中央部がわずかに膨らみ。孔径は3.5~4mm。	
277	SD7 付添		須恵器 土器	高杯	杯部	20.0	(7.5)	-	-	1~3mm 大のチャート砂粒をやや多く含む。	7.5YR 7/4 にぶい褐色	10YR 7/4 にぶい黄褐色	ハク、ナデ	ハク、ナデ、ハタミゴキ	高杯の杯部。口縁下3分の2附近で横をなして屈曲し反外。丸く仕上げた口唇に至る。膝以下の部分は外面のハタミゴキにより器壁の厚みを減じている。	

表14 遺物観察表(土器・土製品・須恵器・陶磁器類)(11)

国庫 番号	遺物 番号	作田 遺跡 層位	器種	器形	部位	法量 (cm)				胎土		色調		肌理		特徴	時期・様式 番号
						口径	器高	胴径	底径	胎土		色調		肌理			
										内面	外面	内面	外面				
278	SD7		古式土器	鉢	口縁～ 外縁部	15.6	(4.8)	-	-	精選された胎土。チャート砂を少量含むのみ。	7.5YR 6/6 褐色	7.5YR 6/6 褐色	ナデ、 エビオサエ	ナデ、 エビオサエ	口縁は面を歪す。	古墳時代初期	
279	SD7		古式土器	鉢	底部	-	(3.4)	-	2.4	1～2mm大のチャート砂粒をやや多く含む。	10YR 7/4 にぶい黄褐色	10YR 7/4 にぶい黄褐色	ハケ	ハケ、ナデ、 エビオサエ	突出した平底。	古墳時代初期	
280	SD7		土器	甕	肩部～ 上腹部	-	(5.3)	-	-	1～2mm大の砂粒をやや多く含む。	7.5YR 6/4 にぶい褐色	7.5YR 5/3 にぶい褐色	ナデ	タタキ、 ハケ	肩部は横を歪して強く屈曲。外面、肩部下に横方向のウケ溝あり。さらに下にタタキ目が見える。	古代	
281	SD7		土器	羽釜	胴	-	(2.5)	-	-	0.5mmほどの肉質状の白色灰泥を中心とした細粒砂を含む。	10YR 5/4 にぶい黄褐色	10YR 5/4 にぶい黄褐色	ナデ	ナデ	摂津羽釜。購入品。	摂津羽釜 9世紀後半～ 10世紀	
282	SD7		土製品 (器種不明)	不明	胴	-	(6.4)	-	-	精選された胎土。7mm大の小粒も認められる。	10YR 8/4 浅黄褐色	7.5Y 3/2 オリーブ黒色	エビオサエ、 ナデ	エビオサエ、 ナデ	溝状に伸びる部分を持つ土製品。小型の移動式扉の一部の可能性を検討したが断定できず。器種不明土製品として報告。	古代	
283	SD7		須恵器	甕	口縁部	28.4	(3.0)	-	-	白色鉱物(長石)を含む。	7.5YR 5/3 にぶい褐色	5Y 5/1 灰色	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部内面に口唇部が、強いヨココナデにより凹状の面を呈する。	古代	
284	SD7		須恵器	甕	下腹部	-	-	-	-	精選された胎土。細粒砂を少量含む。	7.5Y 6/1 灰色	7.5Y 5/1 灰色	同心円状当 具痕	ハケ	同心円状の角具痕。外面に風乾したハケ調整痕が残る。外面に砂付着。	古代	
285	SD7		土器	杯	底部	-	(1.9)	-	(7.0)	精選された胎土。	5YR 6/6 褐色	5YR 6/6 褐色	回転ナデ	回転ナデ	底部へラ切。	8世紀	
286	SD7		土器	杯	口縁～ 底部	12.4	4.2	-	6.8	精選された胎土。微細砂を含む。	10YR 7/4 にぶい黄褐色	10YR 7/4 にぶい黄褐色	ナデ、 ヨコナデ	ナデ、 ヨコナデ	底部は薄皮により不明瞭だが、へラ切である。外部は垂直的に立ち上がり、口縁は丸く仕上げられる。	10世紀	
287	SD7		須恵器	杯	底部	-	(1.5)	-	(9.0)	精選された胎土。微細砂を含むのみ。	5YR 5/3 にぶい赤褐色	5YR 5/3 にぶい赤褐色	回転ナデ	回転ナデ	底部へラ切。高台は断面四角形で、外側がわずかに肥厚する。断面形状が、2次的に異なる。非変している。	8世紀	
288	SD7		須恵器	甕	底部	-	(1.6)	-	(6.8)	1～4mm大の白色鉱物を含む。	7.5Y 6/1 灰色	7.5Y 6/1 灰色	回転ナデ	回転ナデ	円盤状高台。底部回転糸切り痕。	古代末～中世前期 (11世紀前後)	
289	SD7		須恵器	甕	底部	-	(2.7)	-	6.2	精選された胎土。1mm程度の砂粒を少量含む。	2.5Y 7/2 灰黄色	2.5Y 7/2 灰黄色	回転ナデ	回転ナデ	円盤状高台。底部回転糸切り痕。	古代末～中世前期 (11世紀前後)	
290	D-3 Ⅲ-3 Ⅲ-3 Ⅲ-3	Ⅲ-3 Ⅲ-3 Ⅲ-3 Ⅲ-3	須恵器	甕	口縁部	23.0	(3.3)	-	-	長石、石英などの白色鉱物を含む。	5YR 5/4 にぶい赤褐色	5YR 5/4 にぶい赤褐色	ナデ	ナデ	口縁はわずかに凹状。購入品。	10世紀	
291	A-1- 8 Ⅲ-3 Ⅲ-3	Ⅲ-3 Ⅲ-3 Ⅲ-3 Ⅲ-3	古式土器	鉢	口縁～ 上腹部	30.0	(7.2)	-	-	2～3mm大の砂粒をやや多く含む。	10YR 6/3 にぶい黄褐色	10YR 6/4 にぶい黄褐色	ハケ、 エビオサエ、 ナデ	タタキ、 ハケ、 エビオサエ	径30cmと口径が16cmと異なる。底部は屈曲し口縁は外反するが、断面は細やかである。	古墳時代初期	
292	Ⅲ-3 Ⅲ-3	Ⅲ-3 Ⅲ-3	古式土器	高杯	胴部	-	(3.9)	-	-	精選された胎土。0.5～1mm大の砂粒を少量含むのみ。	5YR 6/6 褐色	5YR 6/6 褐色	ナデ	ハケ、ナデ	高杯の杯部と脚部の境界付近、縁取り目認められる。	古墳時代初期	
293	A-5- 6 Ⅲ-3 Ⅲ-3	Ⅲ-3 Ⅲ-3 Ⅲ-3 Ⅲ-3	古式土器	高杯	脚部	-	(5.6)	-	-	1～3mm大のチャート砂粒をやや多く含む。	7.5YR 7/4 にぶい褐色	7.5YR 7/6 褐色	ハケ、ナデ	ナデ、 エビオサエ	高杯の脚部。	古墳時代初期	
294	Ⅲ-3 Ⅲ-3	Ⅲ-3 Ⅲ-3	土製品	支脚 土製品	角部	-	(9.4)	-	-	1～2mm大のチャート砂粒をやや多く含む。	7.5YR 6/4 にぶい褐色	7.5YR 6/4 にぶい褐色	エビオサエ、 ナデ	タタキ、 エビオサエ、 ナデ	支脚土製品の指(角)部。山内分類型。	古墳時代初期	
295	D-7 Ⅲ-3 Ⅲ-3	Ⅲ-3 Ⅲ-3 Ⅲ-3	土製品	支脚 土製品	角部	-	(7.0)	-	-	0.5mm未満の粗粒砂を少し含む。	10YR 6/4 にぶい黄褐色	10YR 6/4 にぶい黄褐色	-	エビオサエ	支脚土製品の指(角)部。山内分類型。	古墳時代初期	
296	D-7 Ⅲ-3 Ⅲ-3	Ⅲ-3 Ⅲ-3 Ⅲ-3	土製品	支脚 土製品	頂面の一部 が欠ける	(6.4)	(5.0)	4.9	7.0	2～3mm大のチャート砂粒を多く含む。	10YR 7/3 にぶい黄褐色	10YR 7/3 にぶい黄褐色	ナデ	ナデ、 エビオサエ	指状の形跡。上げ面で、頂面は比較的確やかである。くびれがみられる。山内分類1類。	古墳時代初期	
297	A-5- 6 Ⅲ-3 Ⅲ-3	Ⅲ-3 Ⅲ-3 Ⅲ-3 Ⅲ-3	土製品	支脚 土製品	脚部	-	(6.6)	-	(9.8)	1～2mm大の砂粒を多く含む。	10YR 7/2 にぶい黄褐色	10YR 7/3 にぶい黄褐色	エビオサエ	エビオサエ	脚部は中空。上部の形状は不明。	古墳時代初期	
298	Ⅲ-3 Ⅲ-3	Ⅲ-3 Ⅲ-3	土器	甕	口縁～ 上腹部	14.8	(6.2)	-	-	3～7mm大の砂粒を多く含む。	7.5YR 5/3 にぶい褐色	7.5YR 6/6 褐色	ヘラツケナデ、 ナデ	ハケ、ナデ	底部でゆるやかに屈曲した後外反、口縁は丸く仕上げられる。	古墳時代後期	
299	A-8- 9 Ⅲ-3 Ⅲ-3	Ⅲ-3 Ⅲ-3 Ⅲ-3 Ⅲ-3	土器	甕	把手	-	(4.3)	-	-	1～2mm大の砂粒をやや多く含む。	7.5YR 7/4 にぶい褐色	7.5YR 7/4 にぶい褐色	ヘラツケナデ	エビオサエ	甕の把手部分。内面にヘラツケナデ。	古墳時代後期 (6世紀後半～ 7世紀初期)	
300	A-5- 6 Ⅲ-3 Ⅲ-3	Ⅲ-3 Ⅲ-3 Ⅲ-3 Ⅲ-3	土器	甕	把手	-	(4.0)	-	-	3～7mm大の粗粒砂を多く含む。	7.5YR 7/6 褐色	7.5YR 7/6 褐色	現在せず	エビオサエ	把手片。胴の上方に伸びる。	古墳時代後期 (6世紀後半～ 7世紀初期)	
301	A-5- 6 Ⅲ-3 Ⅲ-3	Ⅲ-3 Ⅲ-3 Ⅲ-3 Ⅲ-3	土器	甕	把手	-	(4.9)	-	-	微細砂粒をやや多く含む。7mm大の小粒も認められる。	10YR 5/3 にぶい黄褐色	10YR 5/3 にぶい黄褐色	エビオサエ	エビオサエ	甕の把手部分。	古墳時代後期 (6世紀後半～ 7世紀初期)	
302	D- 8- Ⅲ-3 Ⅲ-3 Ⅲ-3	Ⅲ-3 Ⅲ-3 Ⅲ-3 Ⅲ-3	土器	甕	把手	-	(3.8)	-	-	1～2mm大の砂粒をやや多く含む。	10YR 7/6 明黄褐色	10YR 7/6 明黄褐色	ナデ	エビオサエ	把手破片。丸みを帯びた形状。	古墳時代後期 (6世紀後半～ 7世紀初期)	

表14 遺物観察表(土器・土製品・須恵器・陶磁器類)(12)

図版番号	遺物	床面遺構層位	器種	器形	部位	法量 (cm)				胎土	色画		面装		特徴	時期・様式番号
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	内面	外面		
303	V層上	Ⅰ層上	土器	瓶	把手	-	(6.0)	-	-	1mm前後のナール・砂粒・微細粉砂を多量にお含む。	7.5YR 7/6 褐色	7.5YR 7/6 褐色	ズビオオス	ズビオオス	瓶の把手部分。	古墳時代後期(6世紀後半～7世紀初頭)
304	Ⅲ層中	Ⅰ層上	土器	瓶	把手	-	(4.0)	-	-	1～2mm 大のナール・砂粒を中々多く含む。	7.5YR 7/4 に近い褐色	7.5YR 7/4 に近い褐色	-	ズビオオス	瓶の把手部分。	古墳時代後期(6世紀後半～7世紀初頭)
305	Ⅲ層中	Ⅲ層中	須恵器	坏	口縁一 体部	(13.4)	(3.3)	-	-	精選された胎土。	5Y 7/1 灰白色	5Y 7/1 灰白色	回転ナデ	回転ナデ	立ち上がりは0.9cmで内傾。受部径15.6cm(膨定)。体部下半2/3は回転ヘラズリ。回転は右回り。	古墳時代後期(6世紀後半)
306	Ⅲ層中	Ⅲ層中	須恵器	坏	口縁部	(14.4)	(2.7)	-	-	精選された胎土。微細粉砂や少量だが1mm大の砂粒も認められる。	10YR 6/3 に近い黄褐色	2.5Y 7/2 灰黄色	回転ナデ	回転ナデ	焼熟し、部分的に串刺している。	古墳時代後期(6世紀後半)
307	Ⅲ層中	Ⅲ層中	須恵器	坏	天井部	-	(2.1)	-	-	精選された胎土。	5Y 7/1 灰白色	5Y 7/1 灰白色	回転ナデ	回転ナデ	宝珠は径2.4cm、厚さ0.4cmで厚。	8世紀
308	V層上	Ⅲ層中	須恵器	坏	下端	-	(1.7)	-	12.4	精選された胎土。砂粒はほとんど含まない。	2.5YR 6/6 褐色	5YR 6/6 褐色	ナデ、ヘラズリ	ナデ、ヘラズリ	蓋下端は凹状の面をなす。	8世紀
309	Ⅲ層中	Ⅲ層中	須恵器	坏	底部	-	(3.3)	-	(9.6)	精選された胎土。微細粉砂を少量含む。	N5/1 灰色	N5/1 灰色	回転ナデ	回転ナデ	底部ヘラ切。	8世紀中葉前後
310	Ⅲ層中	Ⅲ層中	土器	坏	口縁一 底部	(15.2)	4.1	-	(10.7)	精選された胎土。微細粉砂を含むのみ。	2.5Y 7/1 灰白色	2.5Y 7/1 灰白色	回転ナデ	回転ナデ	高のある坏(体部)。高は側面内面角形で、下底面が凹状となす。	8世紀前半
311	Ⅲ層中	Ⅲ層中	須恵器	坏	底部	-	(3.1)	-	(9.7)	精選された胎土。3mm大の小礫も認められる。	10YR 6/1 暗灰色	10YR 7/4 に近い黄褐色	回転ナデ	回転ナデ	高のある坏(体部)。高は側面内面角形で、焼熟により外面は色を呈する。	8世紀末～9世紀初頭
312	D-C-8 Ⅲ層中	Ⅲ層中	土器	坏	口縁一 底部	(12.7)	3.1	-	(7.6)	精選された胎土。微細粉砂を含むのみ。	10YR 7/4 に近い黄褐色	10YR 7/4 に近い黄褐色	回転ナデ	回転ナデ	底部ヘラ切。	8世紀後半以降
313	D-6-7 Ⅲ層中	Ⅲ層中	土器	小坏	口縁一 底部	(9.5)	2.3	-	6.4	精選された胎土。微細粉砂を含むのみ。	10YR 7/4 に近い黄褐色	10YR 7/4 に近い黄褐色	回転ナデ	回転ナデ	底部ヘラ切。口径は先(仕上げ)口縁内面が若干肥厚する。	9～10世紀
314	A-8-9 Ⅲ層中	Ⅲ層中	土器	坏	笠形	10.0	2.2	-	5.9	精選された胎土。微細粉砂を含むのみ。	5YR 6/6 褐色	5YR 6/6 褐色	ナデ、回転ナデ	回転ナデ	口縁は縦に仕上げ。底面付法に設部あり。底部ヘラ切り。	古代後期
315	Ⅲ層中	Ⅲ層中	黒色土器	陶	底部	-	(2.2)	-	(8.0)	0.5mm未満の微細粉砂を含む。ガラス質物を含む。	5Y 3/1 オリーブ黒色	10YR 7/4 に近い黄褐色	ヘラミダギ	ナデ	輪高台。内面は黒色を呈し、ヘラミダギ仕上げ。内面の黒色土器A類。	10世紀
316	D-7 Ⅲ層中	Ⅲ層中	緑陶器	陶	口縁部	-	(1.4)	-	-	精選されており、砂粒をほとんど含まない。	7.5Y 7/3 浅黄色	7.5Y 7/3 浅黄色	-	-	小片状に詳細な産地の特定はできないが、畿内産である。口縁部の微反り形状から個人類(表2)に分類されるもので、9世紀後半の可能性が高い。	古代9世紀後半
317	D-C-8 Ⅲ層中	Ⅲ層中	土器	甕	口縁一 上腹部	(19.9)	(6.5)	-	-	0.5mm未満の微細粉砂を多く含む。石など認められる。	5YR 4/3 に近い赤褐色	5YR 6/4 に近い褐色	ハケ、ズビオナデ、ナデ	ハケ、ナデ	内面部分付法に煤状炭化物付着。口縁部は上方へ拡張する。	古代
318	A-5-6 Ⅲ層中	Ⅲ層中	土器	甕	口縁一 上腹部	(31.8)	(7.1)	-	-	0.5～1mm大の砂粒を多量に含む。5mm大の小礫も認められる。長石、角閃石、石英などの鉱物が観察される。	7.5YR 4/1 暗灰色	7.5YR 5/4 に近い褐色	ハケ、ナデ、敷ナデ	ハケ、ナデ、ズビオオス	口径はわずかに凹状。口縁部上方へ拡張。継入品。	9世紀
319	Ⅲ層中	Ⅲ層中	土器	引蓋	口縁部	(21.4)	(5.5)	-	-	0.5mm未満の微細粉砂を多く含む。ガラス質物、石、角閃石などが認められる。	7.5YR 5/3 に近い褐色	7.5YR 6/4 に近い褐色	ナデ、ヨコナデ	ハケ、ナデ、ヨコナデ	口縁部内面はヨコナデによる凹状をなす。口径はわずかに凹状。蓋は水平方向にのびる。	摂津系類。10世紀
320	D-7 Ⅲ層中	Ⅲ層中	土器	引蓋	口縁部・側部	-	(3.8)	-	-	0.5mmほどの角粒状の白色鉱物を中心とした微細粉砂を多く含む。	2.5Y 6/2 灰黄色	2.5Y 5/1 黄灰色	ナデ	ナデ	蓋は水平に延びる。口径は面をなす。	摂津系類 9世紀後半～10世紀
321	Ⅲ層中	Ⅲ層中	土器	引蓋	口縁部	(13.5)	-	-	-	1～2mm 大の砂粒を多く含む。	7.5YR 6/6 褐色	7.5YR 6/6 褐色	ナデ	ナデ	口径はわずかに内傾する面をなす。彫形は断面台形状。	10世紀
322	Ⅲ層中	Ⅲ層中	布目瓦	平瓦	破片	-	(5.0)	-	-	精選された胎土。微細粉砂を含むのみ。	10YR 7/3 に近い黄褐色	10YR 7/3 に近い黄褐色	ズビオナデ、ズビオオス	ヘラミダギ	今回の調査で出土した唯一の布目瓦。手足で両面に布目状。凸面に縄重痕が残る。厚さ15mm。	古代
323	Ⅲ層中	Ⅲ層中	須恵器	甕	口縁一 頸部	-	(5.8)	-	-	精選された胎土。微細粉砂を含むのみ。	5Y 6/1 灰色	5Y 6/1 灰色	ナデ	ナデ	口径は面をなす。外反り口縁。8世紀	8世紀
324	Ⅲ層中	Ⅲ層中	須恵器	甕	口縁部	-	(3.9)	-	-	微細粉砂を含む。5mm大の小礫も認められる。	2.5Y 7/1 灰白色	2.5Y 7/1 灰白色	タタキ	ヨコナデ	口縁は上方へ拡張。内面部分以下に同心凹状のタタキ。	古墳後期～古代

表14 遺物観察表(土器・土製品・須恵器・陶磁器類)(13)

編年 番号	遺物 番号	作期 遺物 層位	器種	器形	部位	法量 (cm)				胎土	色調		調整		特徴	時期・様式 番号
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	内面	外面		
325	A-5-6 Ⅱa	Ⅱa	壺	口縁部	-	(4.1)	-	-	精選された胎土。	2.5Y 5/1 黄灰色	2.5Y 5/1 黄灰色	ヨコナテ	ヨコナテ	口縁は丸みを帯び、上方へ拡張する。	古墳後期-古 代	
326	A-5-9 Ⅱa	Ⅱa	壺	口縁部	-	(2.8)	-	-	精選された胎土。砂粒を若干含む。	5Y 6/1 灰色	7.5Y 5/1 灰色	ナテ	ナテ	口縁外面肥厚。	古墳後期-古 代	
327	Ⅱa	Ⅱa	壺	口縁部	-	(7.2)	-	-	白色胎物を含む。	5Y 5/1 灰色	5Y 5/1 灰色	ナテ	ナテ	口縁基部下肥厚。	古 代	
328	D-C-8 Ⅱa	Ⅱa	壺	底部	-	(3.1)	-	(14.6)	5mm大の小礫が認められる。	N5/1 灰色	N5/1 灰色	ナテ	ナテ	平底。	古墳後期-古 代	
329	D-3 Ⅱa	Ⅱa	壺	底	-	(6.3)	-	-	精選された胎土。細砂粒を少量含む。	7.5Y 6/1 灰色	5Y 5/1 灰色	ナテ	ナテ	高台はハの字状に開く。	古 代	
330	Ⅱa	Ⅱa	壺	底	-	(8.5)	-	(13.0)	1-2mm大の白色胎物を少量含む。	5Y 5/1 灰色	5Y 5/1 灰色	ナテ、 板ナテ	タタキ、 ナテ	平底の壺。	古 代	
331	A-5-6 Ⅱa	Ⅱa	小皿	口縁- 底部	9.2	1.8	-	5.5	精選された胎土。砂粒を10%以上含む。	10YR 8/3 浅黄褐色	10YR 8/8 浅黄褐色	回転ナテ	回転ナテ	底部回転糸切り痕。口縁は細く仕上げられる。	12世紀	
332	A-6-7 Ⅱa	Ⅱa	杯	口縁- 底部	14.4	3.9	-	7.5	精選された胎土。	10YR 7/6 明黄褐色	5YR 6/6 にぶい褐色	ロクロナテ	ロクロナテ	摩耗面著。糸切り痕で平圧行状を残す。	12-13世紀	
333	A-7 Ⅱa	Ⅱa	杯	口縁- 底部	14.7	4.1	-	8.1	精選された胎土。0.5-1mm大の砂粒を少量含む。	7.5YR 7/6 褐色	7.5YR 7/6 褐色	回転ナテ(摩 耗のため不明瞭)	回転ナテ(摩 耗のため不明瞭)	底部回転糸切り痕。体部は流線的に立ち上がり、口縁は細く仕上げられる。	中世前期(12 -13世紀)	
334	V層上	Ⅱa	土師 器	底	-	(2.0)	-	3.9	0.5-1mm大の砂粒を少量含む。	5YR 7/4 褐色	5YR 7/4 褐色	回転ナテ	回転ナテ	円盤状高台(柱状高台)の輪。底部回転糸切り痕。	中世前期(11 世紀末-12 世紀)	
335	Ⅱa	Ⅱa	土師 器	杯	口縁- 底部	14.8	4.0	-	(8.2)	0.5mm未満の微細砂粒を多く含む。	5YR 7/6 褐色	10YR 7/4 にぶい黄褐色	ロクロナテ	ロクロナテ	底部回転糸切り痕。体部は流線的に立ち上がり、口縁は細く仕上げられる。	中世前期(12 世紀後半-後 半)
336	Ⅱa	Ⅱa	土師 器	杯	底	-	(1.4)	-	(6.0)	0.5-1mm大の砂粒を含む。	10YR 5/2 灰黄褐色	10YR 5/2 灰黄褐色	ナテ	ナテ、 板ナテ	輪高台。底面にハケ調整の痕跡がある。	古代末-中世 前期
337	Ⅱa	Ⅱa	土師 器	供養 具	底	-	(1.8)	-	(6.8)	0.5-1mm大の砂粒を多く含む。	5YR 7/6 褐色	7.5YR 6/6 褐色	ナテ	ナテ	輪高台の供養具の高台部分。	古代末-中世 前期
338	Ⅱa	Ⅱa	土師 器	杯	底	-	(3.3)	-	(6.8)	精選された胎土。	2.5Y 8/3 淡黄色	2.5Y 8/3 淡黄色	摩耗面著 調整不明	摩耗面著 調整不明	輪高台。	古代末-中世 前期(11- 12世紀)
339	Ⅱa	Ⅱa	土師 器	杯	底	-	(1.8)	-	7.6	精選された胎土。	2.5Y 7/2 灰黄色	2.5Y 7/2 灰黄色	ナテ	ナテ	円盤状高台。底部回転糸切り痕。	中世前期(11 世紀末-12 世紀)
340	D-6-7 Ⅱa	Ⅱa	土師 器	杯	底	-	(2.5)	-	(8.1)	白色微細砂粒を多く含む。7-8mm大の胎物も含まれる。	10YR 6/4 にぶい黄褐色	10YR 6/4 にぶい黄褐色	ハケ、 エビオサセ、 ナテ	ハケ、 エビオサセ、 ナテ	高台はハの字状に開き、断面は内径より外径が若干厚くなる。底面にハケ状原形による調整痕。	高知平野では 10-11世紀 (古代末-中世 前期)
341	A-8- 9 Ⅱa	Ⅱa	白磁 器	口縁部	17.9	(4.1)	-	-	-	7.5Y 7/1 灰白色	7.5Y 7/1 灰白色	-	-	高知平野では12世紀後半に多い。		
342	Ⅱa	Ⅱa	白磁 器	体部	-	(2.5)	-	-	-	5Y 7/1 灰白色	5Y 7/1 灰白色	-	-	白磁焼成の体部の小破片。	高知平野では 12世紀後半 に多い。	
343	Ⅱa	Ⅱa	青磁 器	口縁部	10.0	(2.0)	-	-	-	7.5Y 6/2 灰オリーブ	7.5Y 6/2 灰オリーブ	-	-	体部中央で稜をなし、口縁は大さく外反する。口縁は細く仕上げられる。胎厚は0.5mm以下。同安流有磁厚1.15mm。	中世前期 (12世紀)	
344	Ⅱa	Ⅱa	土師 器	土師 器	一部欠 損	(4.2)	1.9	1.9	0.6	0.5-1mm大の砂粒を多く含む。	10YR 7/4 にぶい黄褐色	10YR 7/4 にぶい黄褐色	-	-	管状土師。中央部が膨らむ。長さはおよそ4.2cm。胴径1.3cm。中央部胴径1.9cm。孔径0.6cm。	時期不明
345	D-6-7 Ⅱa	Ⅱa	土師 器	土師 器	欠損部 あり	(3.8)	1.8	1.7	0.6	1-2mm大の砂粒を少量含む。	7.5Y 7/1 灰白色	7.5Y 7/1 灰白色	ナテ	ナテ、 エビオサセ	円筒形の土師。孔径は6mm前後。	時期不明
346	A-8- 9 Ⅱa	Ⅱa	土師 器	土師 器	移動 式	-	(12.8)	-	-	1-2mm大の砂粒を多く含む。	5YR 6/6 褐色	5YR 7/6 褐色	ハケ、ナテ	ハケ、ナテ	残存部の幅は5.5-7.0cm。	古 代
347	Ⅱa	Ⅱa	土師 器	土師 器	口縁部	15.0	(4.5)	-	-	1-3mm大の砂粒を多く含む。7-8mm大の胎物も認められる。	5YR 4/4 にぶい赤褐色	7.5Y 5/3 にぶい褐色	ナテ	ハケ、ナテ	器部は直立した後、口縁部は斜めに傾斜して外反する。口縁は外側面をなす。	
348	B-C-8 Ⅱa	Ⅱa	土師 器	土師 器	口縁部	-	(4.7)	-	-	1-4mm大のチナート粒砂を多く含む。	10YR 5/2 灰黄褐色	7.5YR 5/2 灰黄褐色	ナテ	ハケ	口縁は流線的に外上方へ立ち上がる。口縁は外側面をなす。	古 代
349	Ⅱa	Ⅱa	土師 器	土師 器	口縁部	-	(2.7)	-	-	1-3mm大の砂粒を含む。	7.5YR 6/3 にぶい褐色	7.5YR 6/4 にぶい褐色	ナテ	ナテ	口縁は外反。短く外上方へ立ち上がる。口縁は外側面をなす。	
350	Ⅱa	Ⅱa	土師 器	土師 器	口縁部	-	(2.2)	-	-	1-4mm大のチナート粒砂を多く含む。	7.5YR 7/4 にぶい褐色	5YR 6/4 にぶい褐色	ナテ	ナテ	器部で強く屈曲した後外反する。口縁は上方へ拡張する。	古 代

表15 遺物観察表（石器類）

図録番号	器種	石材	遺構・層名	全長 (cm)	全幅 (cm)	全厚 (cm)	重量 (g)	特徴・備考
S1	焼熟赤変礫 (重片礫)	粗粒砂岩 (砂礫岩)	S T 3	2.9	1.9	4.0	22000	楕円形で角が丸みを帯びた重片礫、20 kgを超える重量である。2分の1以上が焼熟により赤変する。一部、なめらかな原礫面を残すが、表面の剥落が認められる部位が多い。表面は粗粒砂岩だが、1mm前後の小礫も含んでおり、砂礫岩と表現する方が適切かもしれない。ガラス質の微細粒子を含む。
S2	焼熟赤変礫 (角礫)	粗粒砂岩	S T 3	5.0	2.3	7.5	4000	全体の3分の1程度が焼熟赤変する。粗粒砂岩で、ガラス質の微細粒子を多く含んでいる。角礫であり、一面に剥離した部分が見られるが、打点は確認できない。
S3	打製石包丁	泥質片岩	SK15	8.3	4.9	1.2	62.0	敲打により獲得した扁平な剥片を素材とし、剥片背面に原礫面を残す。原礫の両側縁を打ち欠き、縁り部を形成する。基部には2次加工を施し、剥片形成時にできた縁辺を刃部とする。刃部には微細割線が残る。磨滅する。磨滅は石器使用によるものと推察される。磨滅具である打製石包丁と考えられる。
S4	磨製石芥	蛇紋岩	表採資料	5.8	3.3	1.1	36.0	扁平な磨製石芥。両面からの研削で刃部を形成するが、片方の刃が折れとっており、片方の磨製石芥であり、「扁平片状石芥」の範疇で捉えられる石芥である。部分的に礫面を残すもの、全面を研削し丁寧に仕上げている。基部と両側縁は研削により面をなす。表採資料である。

第V章 考察

西野遺跡ルノ丸地区出土の鉄製鍬・鋤先

ここでは西野遺跡ルノ丸地区の今次調査で出土した鉄器・鉄製品のうち、鍬・鋤先について出土の背景に触れてみたい。

SK45に於いてU字形鍬・鋤先が出土している。共伴遺物は無いが、古墳時代後期から古代のものと比定される。先述のように、U字形鍬・鋤先は朝鮮半島にその出自をもち、日本列島にもたらされるのは5世紀初頭と考えられている。出現段階の初期には古墳の副葬品として用いられていることが多く、集落跡から出土するのは古墳後期以降とされている。古代に於いても伯耆国府跡から複数枚の出土が見られたことなどを考慮するならば、当該時期に於いても重要な生産具であり、流通品であったと考えるのが妥当であろう。また、今次調査でそういった遺物が出土した背景には、隣接する下ノ坪遺跡や深河遺跡が共に官衙関連遺跡とされていることなども深くかかわっている。鉄製鍬・鋤先は後述する深河遺跡の古代の遺物包含層から、中央刃部の長さや整った形状など今次調査出土の製品とは形状の異なる製品の出土が報告されている。これは西野遺跡を含めたこの地域が鉄製農耕具などを比較的安定して供給されていた地域であったことを物語る。

U字形鍬・鋤先は、高知県中央部では南国市岡豊の長畝4号墳の石室から副葬品として鉄鍬や刀子、鉄鎌などと共に出土している。耳部を一部欠くが、残存長13.7cm、残存幅16.5cm、中央刃部の長さが約3cm、耳部幅は約2.1cmである。長畝4号墳の築造年代は6世紀前半とされている。また、形態等言及しかねるが、この近くに存在した蒲原山東1号墳からもU字形の鉄製鍬・鋤先が出土している。これら古墳群の臨む平野部の東側には小蓮古墳や舟岩古墳群が存在しており、更に東の国分・比江地域に後世土佐国衙が展開する。国分川水系やそれを通じた海運、また古代の南海道や嶺北地域との陸上交通の要衝と考えられ、滝本・定林寺・蒲原・小蓮などの地域に存在したであろう集落の長期的な存在の被葬者を想像することができる。補記1)

高知県西部の四万十川水系に三原村を水源とする中筋川がある。この河川の下流域に具同中山遺跡が存在し、古墳時代の河川祭祀跡が多く検出されている。そのうち1998年の調査では、炭化物の集中と焼土の確認されたSF13から土師器の甕や高杯、鉢などと共にU字形鍬・鋤先が発見されている。全体の約1/3の規模ではあるが、残存長19.6cm(復元全長)、残存幅13.2cm、刃部の長さは2.7cmを測る。SF13は古墳時代中期の祭祀跡と考えられている。同じく四万十川水系の不動山系を源とする後川の古津賀遺跡では、1987年度の調査でSF4から須恵器の杯や甕、土師器などと共に鋤先が出土している。残存長は19.5cm、残存幅は16.5cm、厚さ1.5cmを測る。刃部がやや広がった下彫れの形態である。農耕儀礼に伴う祭祀と考えられる。補記2)

今治平野では、伊予国府域に程近い浅川の形成する小さな谷間の丘陵部に高地栗谷1号墳がある。石室内からは追葬時の副葬品として鉄斧や鉄鎌と共にU字形鍬・鋤先が出土している。全長16.0cm、全幅15.8cm、中央刃部の長さは4.6cm、耳部の幅は2.4cmを測り、追葬時期の6世紀中葉から後葉のものとしてされている。この古墳の被葬者は農業生産のみならず、多様な生業に関わる職能集団の長として生きた人物と捉えられており、後に出現する蒼社川左岸の高橋佐野ノ谷遺跡の製鉄炉などに

も繋がるものであろうか。松山平野の中央部の小野川沿いにある東山鶯が森3号墳でも柄装着溝のある鉄製鍬・鋤先の耳部破片が出土している。耳部幅は2.3cm、厚さは0.7cmを測り、造営時期は6世紀後半とされている。古墳時代の集落である福音小学校遺跡、東方に後世展開する久米官衙遺跡群に関わるような当時の首長層が、東山や周辺の丘陵を占める古墳群の被葬者と考えられている。

本遺跡の北側には深淵遺跡が存在する。1988年の調査に際して8～9世紀の遺物包含層が確認されており、U字形鍬・鋤先が破片であるが出土している。全長は16.8cm、全幅は約19.2cm、中央刃部の長さは約4cm、耳部の幅は2.4cmを測る。今次出土資料とは形態をやや異にしている。深淵遺跡の性格は官衙に関わるものと推定できること、また下ノ坪遺跡の調査成果から鑑みるならば、農業生産や製瓦のみならず鍛冶など他の生業に関わる職能集団が存在していた可能性がある。補記3)

以上鉄製U字形鍬・鋤先の出土を見た遺跡を概観すると、その存在は単なる生産具としてよりも威信的、祭器的な様相が色濃く、その出土する位置は当時の権力に関わる地点と言える。松井和幸氏の論考によると、原三国時代のU字形鍬・鋤先は長さ約10～21cm、幅約12～18cmの法量値をとる。今次調査で出土した製品はこの数値に比較的近い値を示していることになる。また初出のものに比べ後出するものは中央刃部の長さが伸びる傾向があり、加えて新出のものになると耳部と中央刃部の幅がともに増すとされている。因みに今次調査で出土した鍬・鋤先の中央刃部/耳部は約3.3である。古墳時代の長畝4号墳、高地栗谷1号墳、具同中山遺跡群から出土したものと古代の深淵遺跡から出土したものを比較の対象とするならば、鍬・鋤先の中央刃部の長さ/耳部幅が各々1.5、1.9、2.2、1.7の値をとる。製品の製作については各地で行われていたとされている。遺物の形態は使用の程度や保存状態などに影響を受けるものであるから一概には言えないが、今次出土の製品の中央刃部がやや突出している形状は古墳時代後期のものの範疇にある。

U字形鍬・鋤先に先行して流通していた方形鍬・鋤先は弥生時代中期に出現する。弥生時代を通じて香長平野には拠点集落とされる田村遺跡がある。弥生時代後期中葉には新興の拠点集落として小籠遺跡、東崎遺跡群、ひびのき遺跡群などがあり、平野縁辺部の水田化(乾田経営)や台地上(長岡台地など)での畑作を行うことで生産の場を確保したであろう。これらの集落にとって鉄器・鉄製品の安定した供給は集落経営にとって重要な要素であったと考えられる。西野遺跡や周辺の遺跡もこれらの拠点集落と連動して平野の縁辺や台地上(野市面)に生産の主体を置いたものである。西野ルノ丸遺跡のST1やST2・3から出土している鉄器・鉄製品や鉄滓などは、隣接する深淵遺跡の弥生後期後半の竈穴住居ST3や古墳後期のST1の鉄器・鉄製品とともに消費地としての当時の様子を表すものであり、先述の古代下ノ坪遺跡の各遺構から出土している鍛冶に関わる遺物の存在からは供給側の様子が看取できる。弥生時代の鉄や鉄製品の流通については、西分増井遺跡の鉄器・鉄製品に関わる山本純代氏や下ノ坪遺跡の小松大洋氏の考察に詳しく、南四国における鉄器・鉄製品の生産と消費地の動向が明にされている。また時代は下るが、『延喜式』卷二十六(927年)に見られる土佐からの鉄の祿物や『南路志』に見られる土佐郡の高川、円行寺、万々、秦泉寺、滝本、吾川郡の柏尾、幡多郡の下田浦金ヶ濱、岡田山、藤ノ川村白目山での砂鉄の採取や鉄生産の記述などから推して、在地での鉄生産は早い段階で開始され継続して行われていた可能性を示唆する。形態は異なるが深淵遺跡出土の鍬・鋤先などと共に今回の出土品も近隣での生産を視野に入れておく必要があるだろう。補記4)

集団と呼ばれるものの形成途上に於いては、祭祀が一つの大きな役割を果たしたと考えられている。稲作は水田や灌漑設備の維持や管理など集落単位で行うことが要求される。定住的で構成する人員も多い。稲作の専門的な集落を維持するには生活の中で欠落する物品を補完するべき他の生業を主とする集落の存在も不可欠である。稲作自体は他の穀物と同じで農耕儀礼を伴い、決して大きな組織を必ずしも必要としたとは思われない。大陸から新たに導入されてきた稲作を核としたシステムは集団を形成し、更に大きな集団へと発達する。稲作に直接携わる複数の集落が同じ時期に同じ様な農耕儀礼を執り行う。またその周辺に存在する間接的に稲作に関わる集落も農耕儀礼を許容する。更に大きな集団を形成するに於いてはこういった人々の価値観の共有が前提となった。稲作に伴う農耕儀礼の延長に形骸化した祭祀がある。祭祀を操作することで集団を纏める試みが成されたと考えても良いであろう。補記5)

山間部では畑作農耕や焼畑農耕を主とする生活が営まれる。これらは流動性が高く、一つの集団を構成する人員は少ない。特に焼畑農耕を伴った生活では数年単位で耕作地を移動することが必要であり、年間を通して多様な選択枝(生業)を行うことで成り立っていた。基本的には自己完結と考えられるから様々な手段で生活を構築していったであろう。隣りの集団との繋がりが希薄ではあるが、物品の交換や流通の構築が容易く頻繁であった。五穀豊穡と呼ばれるような雑穀や根菜類の稔りに支えられ、山や川などから狩猟や漁猟によって得られたもののうえに成り立つ生活であった。また海に暮らす専ら漁撈を生業とする集団も、自立性の強い集団で、船という機動性に富んだ移動手段を有している。商品経済の最たる海産物を扱い、半農半漁の生活が行われていた。補記6)

稲作を主体とする集団の形成には沖積地の拡大が大きな鍵を握る。沖積平野の発達が瀬戸内海側などに比べて四国の太平洋側では緩やかに進んだ。纏まった平野部の少ない太平洋岸では溺れ谷が形成され、河川に絡むように細長く伸びた沖積地ができあがる。ここが導入された稲作の舞台となる。稲作を主体とする集落は一部に限定され、多くは畑作など他の生業を伴うか主とする集団であった。丘陵や山間部によって平野は画されおり、同様な価値観のもとに連携を築こうとする集落と集落が一つに纏まるのを拒んだと言っても無理はないであろう。大きな集団を形成するには時間を必要とし、その内情も実は他の地方の集団とは明らかに異なった地域色の濃いものであった。時代は遥かに下る。“長宗我部地検帳 長岡郡”に見られる“切畑”の記述は、廿枝郷や江村郷と呼ばれる当時の土佐の中心地にも濃く分布している。この“切畑”は純粋な非定住の焼畑農耕とは異なるとしても、稲作農耕に特化した集団とは全く違った性格を持ったものであろう。こうした焼畑農耕や漁撈など様々な生業を営む人々の圧倒的な存在の中で、稲作農耕主体による文化は面的な広がりを持つことができたであろうか。大きな集団が稲作農耕を母体として形成され易かったと考えるならば、四国の山間部や太平洋岸の地域が大きな集団となるのに時間を必要とし、更に大きな集団に取り込まれながらも実情は他地域のように一元的に捉えられるものではない。それは多様な価値観を包含した文化の違いに起因するものであり、短絡的に後進性とかで表現されるものではない。補記7)

最後に本報告書に携わることができたのはひとえに香南市民と文化財行政に携わる方々のおかげであります。発掘調査や報告書が客観性を重視されながらも、人間の手で行われたものであり、人間の言葉で表現されるものである以上、調査担当者が発掘調査中に感じたことや考えが報告書に反映されることなく完結されるものではありません。また、報告書刊行後も遺跡については地域の財

産であり、人々へ広く伝えられる必要があります。果たして、今回の報告内容が調査担当者の思いに副うものであったらうか。今後行われる発掘調査と報告書に調査担当者の思いを載せることができればと期待します。

補記

1) 後期古墳に副葬される品々に就いては、故人又はその家族に関わる威信財として予め準備されたものが取められる場合がある。また故人が願として生前暮らしていた集落の特徴を表すものが納められる場合がある。古墳の石室内などでは調査される以前の盗掘等の影響も考えられ、本来同時に副葬されたであろう品々を考え合わせる必要がある。何れにしても、当該地域が交通の要所であり、歴史的に重要な位置を占めていたと考えられ、仮に農具の副葬が集落の性格を表すものとしても、農耕を中心として安定した集落経営が成されていたことが窺える。

2) 後川や中筋川が形成する沖積地が水田経営にとって格好の場を提供していた。河川祭祀の場面に使用されたと考えられる鉄製品が物語るものは、祭祀を司る集団の志向、精神性であろう。具体的に言うならば、集団にとっての河川は生活の場や生産の場を脅かす災いの元である。しかし、そこからもたらされる肥沃な土や魚介類は日々生活の源であり糧であった。この祭祀について出原恵三氏は、遺跡域が現河川の下流域で嘗ては内水面的な環境であり、後世の海路を通じて直接他地域との繋がりを考え易い位置であることから、広く豊饒と優れた文化をもたらす入り口としての河川(海を含め)を対象とした祭りの跡と指摘している。物資や文化の導入地点であり、破壊と生産という両義性を持った河川に対する祭祀と考えられる。また、祭祀具については井本葉子氏や出原恵三氏が祭祀形態の分類のなかで行っており、器の抽象的な内容物を祀る形態から器そのものを祀る形態への変化が観取されるとしている。集団の性格もあるだろうが、祭祀の目的そのものの変質に起因するとされている。

3) 1988年度の報告書からは槍鉾、鉄鍬、鉄剣などの出土がみられる。

4) 当前期の遺跡で拠点と呼ばれる集落については、栗林誠治氏が香長平野縁辺の集落と徳島県域との関わりとして三つの集落をあげている。陸路で北の小龍遺跡が嶺北地域や吉野川を経て徳島西部域と関係を持ち、東のひびのき遺跡などが那珂川上流域や徳島県東部との関わりを持っていたとしている。西野遺跡や深瀬遺跡が占める位置としては土佐湾岸の海路を介して、徳島県南部と通じていた可能性があり、水系を介した流通経路の形成に繋がったであろう。

5) ここで言う“集団”は門脇貞二氏が言うところの“農業共同体”を表す。この農業共同体を底辺とした“地域国家”が“大きな集団”に相当する。“地域国家”には、様々な生業が存在し一個の完結する地域を形成していた。稲作農耕は沖積平野の発達に即して拡大成長するものであるから、その基盤が大きければ大きいほど安定した生産が見込まれ、生活も保障されていたと考えられている。中央国家がそれらを取り込むことで拡大された。

宮本常一氏は稲作農耕により、人々の定住化と生産活動の単純化が図られたと言う。各地で行われる稲作は斉一的で、それに関わる農耕儀礼も良く似たものであった。それは沖積平野の発達と云った条件のもとに飛躍的にその場を拡大してゆく。大陸からもたらされた新しい技術であるシステムとしての稲作農耕がそこにある。

6) 農耕儀礼について古野清人氏は、水田農耕と焼畑農耕の農耕儀礼には耕作地の選定など若干の差異が認められるだけであるとしている。

宮本常一氏は漁業に従事する村の立地について、基本的に隣接して存在する漁村とは主たる海産物を違えるとか、異なる漁法による漁をおこなうことで共存を図っていると指摘している。

7) 焼畑は全国的に昭和30年代に姿を消したところが多い。最近では休閒地を有する自然循環型の農法と考えられており、山間地域の活性化や地球規模の食糧難への対策とすることで注目を集めている。嘗て全国的にも耕作面積が広がった高知県でも今日殆ど焼畑を目にすることができなくなった。各地域で個性的で高い水準まで達していた焼畑技術の記録と継承が急務である。

長宗我部地検帳には山間を中心に行われていた焼畑の様子が窺われる。香南市域の山間部、嘗ての大忍庄域には“切畑”“キリハタ”の記述は見られないが、近辺では東隣の安芸郷の畑山や北隣の蕪生郷などには“切畑”の記述が見られる。また焼畑の耕作休閒地を挿す記述として“山畠荒”“山畠久アレ”などが相当するものと考えられている。長岡郡では本山郷など高山とされる地域に切畑があり、麦・小麦・大麦・芋（イモ）・大豆・小豆・蕎麦（ソハ・ソバ）・稗（ヒエ）・粟（アハ）・小豆（アツキ）・エントウ・マメ・サ・キなどの植物名が記載されている。当時の山間部で多様な穀物や野菜が生産され、切畑は供給源として畠と共に多くの記述が成されている。

焼畑には定住しておこなうものと栽培地に伴って移動するものがあり、柳田國男氏は前者を山間民、後者を山人として区別している。

参考文献

- 赤坂憲雄, 山野河海まんだら, 筑摩書房, 1999
 安室 知, 水田をめぐる民俗学的研究 - 日本稲作の展開と構造 -, 慶友社, 1998
 上野敏彦, 千年を耕す 権業焼き畑村紀行, 平凡社, 2011
 岡田敏彦, 三好裕之, 今泉ゆかり, 若杉美香, 北井戸遺跡 - 一般国道33号松山インター関連整備に伴う埋蔵文化財調査報告書 -, 財団法人 愛媛県埋蔵文化財調査センター, 2010
 岡本健児, 廣田典夫, 高知県ひびのき遺跡, 土佐山田町教育委員会, 1977
 岡本健児, 日本の古代遺跡 高知, 保育社, 1989
 門脇貞二, “古代社会論”, 岩波講座 日本歴史2 古代2, 岩波書店, 1975, p.331~377.
 木村茂光, ハタケと日本人, 中公新書, 1996
 榑部大作, 高橋佐夜ノ谷II遺跡, 今治市教育委員会, 2007
 栗林誠治, “四国の東阿波型土器”, 庄内式土器研究XXIV - 庄内式併行期の土器生産とその動き -, 2001, p.47~62.
 栗林誠治, “鉄器の生産と流通”, 平成23年度 考古学入門講座 第5回資料, 徳島市立考古資料館, 2011

黒田末寿, “滋賀県高時川上流域の焼畑技法”, 人間文化 Vol. 32, 滋賀県立大学人間文化学部, 2012, p.2 ~11.

高知県立図書館, 南路志, 高知県立図書館, 1981

長宗我部地検帳 安芸郡 下, 高知県立図書館, 1961

長宗我部地検帳 香美郡 上, 高知県立図書館, 1962

長宗我部地検帳 香美郡 下, 高知県立図書館, 1962

長宗我部地検帳 長岡郡 上, 高知県立図書館, 1958

長宗我部地検帳 長岡郡 下, 高知県立図書館, 1959

小松大洋, “南四国における弥生時代の鉄器について”, 下ノ坪遺跡Ⅱ, 野市町教育委員会, 1998, p.209 ~221.

佐藤洋一郎, 原田信男, 鞆田 崇 他, 焼畑の環境学—いま焼畑とは, 思文閣, 2011

下垣仁志, 古墳時代の王権構造, 吉川弘文館, 2012

高尾和長, 山之内志郎, 梅木謙一, 東山古墳群Ⅱ — 3次調査・6次調査—, 松山市教育委員会, (財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター, 2004

高橋啓明, 出原恵三, 吉原達生, 深淵遺跡, 野市町教育委員会, 1989

詫間一之, 山本哲也, 森田尚宏, 林田遺跡, 土佐山田町教育委員会, 1985

千葉徳爾, “山の生活”, 岩波講座 日本通史第一巻 日本列島と人類社会, 岩波書店, 1993, p.153 ~183.

筒井三葉, “具同中山遺跡群Ⅳにおける古墳時代の祭祀について”, 具同中山遺跡群Ⅳ, (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター, 2001, p.381 ~384.

都出比呂志, 日本農耕社会の成立過程, 岩波書店, 1991

出原恵三, 泉 幸代, 藤方正治, 小籠遺跡Ⅰ, (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター, 1995

出原恵三, 泉 幸代, 浜田恵子, 藤方正治, 小籠遺跡Ⅱ, (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター, 1996

出原恵三, 池澤俊幸, 小松大洋, 行藤たけし, 下ノ坪遺跡Ⅰ, 野市町教育委員会, 1997

出原恵三, 廣田佳久, 松田直則, 山本哲也, 後川・中筋川埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ 古津賀遺跡 具同中山遺跡群, 高知県教育委員会, 1988

永松 敦, “狩猟と焼畑”, いくつもの日本Ⅳ さまざまな生業, 岩波書店, 2003, p.65 ~93.

春野町史編纂委員会, 春野町史, 春野町, 1976

半澤直也, “四国地方における弥生時代の鉄器について”, 土佐山田史談会定例会発表資料, 土佐山田史談会, 2002

廣田佳久, 池澤俊幸, 長畝遺跡・長畝古墳群, (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター, 1996

藤村啓修, 山内英樹, 高地栗谷1号墳, 今治市教育委員会, 2010

古野清人, “農耕儀礼と稲作”, 稲の日本史(下), 筑摩書房, 1969, p.203 ~231

松井和幸, “鉄製農具の変遷”, 古代における農具の変遷 —稲作技術史を農具から見る—, 財団法人静岡県埋蔵文化財研究所, 1994, (発表要旨集), p.49 ~60.

松村信博, 宮地啓介, 北地遺跡, 香南市文化財センター, 2011

松村信博, 山本純代, 奥谷南遺跡Ⅰ, 財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター, 1999

松村信博, 山本純代, 奥谷南遺跡Ⅱ, 財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター, 2000

宮本常一, 飢饉からの脱出 —生業の発展と文化, 八坂書房, 2012, p.7 ~172

村上恭通, “弥生時代の鉄文化”, 日本の考古学講座5 弥生時代上, 青木書店, 2011

山崎正明, 武吉眞裕, 具同中山遺跡群Ⅳ, (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター, 1998

山本純代, “西分増井遺跡出土の鉄と鍛冶遺構”, 西分増井遺跡Ⅱ, (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター, 2004, p.142 ~183.

山本哲也, 大谷古墳, (財)高知県文化財団, 1991

山本哲也, 東崎遺跡Ⅰ, (財)高知県文化財団, 1991

吉田 孝, “律令制と村落”, 岩波講座 日本歴史3 古代3, 岩波書店, 1976, p.141 ~200.

第Ⅵ章 西野遺跡ルノ丸地区2005年度調査のまとめ

第1節 「西野遺跡群」から「西野遺跡」へ

～西野遺跡群研究史と遺跡の捉え方の変遷～

1) 「西野遺跡群」としての発掘調査の履歴

「西野遺跡群」として知られてきた当遺跡だが、本報告書より遺跡名称を「西野遺跡」と変更、今回の調査地点は、西野遺跡ルノ丸地区2005年度調査となる。本報告書の刊行される2012年度までの間、2005年3月の試掘確認調査を嚆矢として、試掘調査3回、本発掘調査5回、合計8回の発掘調査が行われた。調査地点により、小字名をもとにつけられた調査区名で調査地点をルノ丸地区・ルノ丸南地区・ルノ丸南A地区と区別している。

表16 西野遺跡群の発掘調査一覧

整理番号	遺跡名(調査時点・地点名)	調査回数(本発掘)	調査	調査期間	調査対象面積(m ²)	調査面積(m ²)
1	西野遺跡群ルノ丸地区	1-5次調査試掘	試掘	平成17年3月16日～平成17年3月30日	4,471	100
2	西野遺跡群ルノ丸地区(2005年度)	1次調査	本発掘	平成17年5月23日～平成17年8月5日	2,409	564
3	西野遺跡群ルノ丸地区南・南A	第2～4次調査試掘	試掘	平成17年10月3日～平成17年10月25日	15,000	168
4	西野遺跡群ルノ丸地区南	2次調査	本発掘	平成18年4月4日～平成19年3月30日	8,700	4,500
6	西野遺跡群ルノ丸地区南A	3次調査	本発掘	平成18年10月1日～平成19年3月30日	2,400	3,000
7	西野遺跡群ルノ丸地区南第2次調査	4次調査	本発掘	平成19年10月9日～平成19年11月8日	905	170
8	西野遺跡群ルノ丸地区(2010年度)第4次調査	5次調査	本発掘	平成22年11月4日～平成23年1月7日	2,284	700
	合計				41,169	9,202

※参考 「ルノ丸地区南」は試掘ではルノ丸地区南B区
「ルノ丸地区南A」は試掘ではルノ丸地区南A区

野市町史の中で、西野遺跡については「ごく一部の地点で出土したものであるが」としたうえで、「西野遺跡は地点によって時期的な差が認められる」こと、「弥生時代中期初頭から古墳時代前期、さらに奈良時代後半まで続く複合遺跡である」ことなどの確かな指摘がなされている²¹⁾。本報告書の範囲である2005年度の本発掘調査とそれと先行する試掘確認調査(2005年3月)では、従来、表採資料によって知られていた西野遺跡の様相と同じ内容を確認、同時に多くの新発見も得られた。

計8回の試掘確認調査・本発掘調査で、2012年現在、堅穴住居57棟が確認され、出土遺物の総点数も約16万点と遺跡の詳細な内容を推察可能な遺構・遺物が検出されている。従来知られていた西野遺跡の内容と較べ、より広範な時期の遺物を含んでいることが明らかになった。

2006年度以降の調査については、整理作業の後、順次報告書を刊行していく予定である。

2) 野市町「西野」という地名と地籍図に残る歴史資料としての地名

「西野」は香南市野市町の物部川左岸に広がる地名であり、さらに東側の「東野」、南側の「下井」とともに、旧野市村を構成する3つの地域の一つである。「西野」は一般に「野市町」と呼ばれる市街地の集まった地域が中心であり、東町・中町・西町にわかれていた。東町には民家・商家が密集する中心市街が形成されている。東町から西へ向かって、中町・西町と物部川近くまで、街道沿いに住宅街が延び、街村景観を呈している。この西町の西端、街道の南北約600mの範囲が西野遺跡である。現在、遺跡範囲の住宅地化が進んでいるが、以前は街道の南北には田園地帯が広がっていた。遺跡北側に十善寺の渡しがあり、物部川対岸と渡船で結ばれていた。十善寺には船宿も営まれるなど交通の要衝・結節点として栄えていた。

遺跡内の小字は、北半が「ホノ丸」南半が「ルノ丸」で、西野・東野・下井の田園地帯に広範に広がる片仮名「イ・ロ・ハ・ニ・ホ・ヘ・ト……」と数詞「1・2・3……」の組み合わせで表現されている小字地名のひとつである。近世・野中兼山の時期に開墾される前は、原野が広がっているとされる領域に当たる。本調査区でも、中世前期以前の生活領域が断片的に確認されているものの、残念ながら、地名に土地の来歴は残っていない。

本報告書、第1章に示した西野遺跡周辺の地籍図（第8図で確認すると、旧野市村に隣接する「三島村」（上岡地区）や「深淵村」（深淵地区）には地籍図に個別の名称が残っていたことがわかる。地籍図の示す一単位の面積を比較すると、三島村・深淵村など隣接地の小字の広さは、野市村の片仮名数詞で表現された小字の広さとほぼ同じ面積であり、見事に対応する区画となっている。「ル-1」「ル-2」など一つ一つに固有の地名が存在していた可能性が高い。明治初期の地図など現存する資料では、すでにこの片仮名と数詞の組み合わせで表現されている。これほど広範な領域の地名が失われてしまったとするならば、きわめて残念である。江戸時代から地元に伝わる検地台帳など地名復原の手掛かりになる資料確保が急務となっている。

3) 「西野遺跡群」 遺跡名称の設定と経緯～遺跡地図・遺跡台帳・町史～

『全国遺跡地図 高知県』文化庁（昭和51年）

『遺跡台帳』野市町教育委員会 高知県教育委員会（昭和53年）

『野市町史』野市町史編纂委員会（平成4年）

『高知県遺跡地図』高知県教育委員会文化財保護室 高知県埋蔵文化財調査報告第42集（平成8年）

これらの文献をもとに、本書第1章第4節で、遺跡名称の変遷および遺跡名変更についての検討を行った。（『西野遺跡群の範囲と遺跡名の変更について』本書8～10ページ）

平成4年の段階で「西野遺跡群」は「西野遺跡」として把握されていた。そもそも、この遺跡発見の経緯と発見者はだれなのか。現在、高知県立歴史民俗資料館で副館長をされている濱田眞尚氏から野市町の文化財保護審議会委員を務められていた地元の郷土史家河野通信氏だというご指摘をいただいた。

濱田氏によると、「西野遺跡群」については、河野通信氏が何ヶ所かの土器出土地点を確認しており、「遺跡の発見者は自分である。」という旨の発言をされたい。濱田さんは当時高校生で、何ヶ所かの土器出土地点を確認したが、再度訪れた時には住宅建設後であり、詳細な資料について

はわからなくなった地点（西野遺跡群の北）や、大量に土器の出土を確認した地点（松田ふとん店、下井605番地、南国バイパス道路工事現場）などがあり、当時の高知新聞でもとりあげられたという。

以下に、当時の高知新聞の記事を引用する。

※高知新聞 昭和53年10月24日（火曜日） 記載の記事（引用）

弥生期の稲作集落（野市町の西野、深淵地区） 岡本教授らの調査で判明

【香長】香美郡野市町西野、深淵周辺で、今春から夏にかけて、多数の弥生式土器が発見された。これに伴い、このほど岡本健児高知女子大学教授らが現地調査した結果、西野、深淵周辺は弥生時代前期から中期にかけて、稲作を中心とした一大集落であることがわかった。

弥生式土器が発見されたのは西野、深淵地区六カ所。日ごろから考古学に興味を持つ浜田真高さん（21）＝南国市前浜、公務員＝、町文化財保護審議委員の河野通信さん（60）＝同町西野、会社員＝の二人が、いずれも家の基礎工事現場を探し、つば、かめなど約300点の土器片を見つけた。

この連絡を受けた町が県へ報告、このほど岡本教授、宅間一之郎教育委員会文化振興課社会教育主事、発見した二人、町教委の野島係長、井沢町文化財保護審議会会長らが現地調査した。

この結果、土器片が点在していたのは物部川沿いの自然堤防（水面から六メートル前後、海面から二十メートル前後）上であり、また発見された土器片は弥生時代前期（紀元前二～四世紀）の大籬式土器であることから、物部川西岸で県下の稲作発生地である田村遺跡の農耕民族が、人口の自然増に伴い移動したと考えられるという。宅間主事らは「当時西野、深淵を中心に稲作を主体にした一大集落が形成されたことは間違いない」とみている。

この調査で発見場所周辺は「西野遺跡群」と命名されたが、地形調査と表面採取によるものであり、本格的な発掘調査が待たれている。

またこの調査で、同町下井地区から平安～鎌倉時代にかけての寺院の存在を示す布目がわらも多数発見されている。

4) 河野通信氏による「西野遺跡群」紹介

河野通信氏は「土佐史談」や地元広報誌、ラジオなど様々な媒体で野市の歴史をわかりやすくまとめて発信し続けた。その中で「西野遺跡群」発見の経緯についても記録が残されている。

『土佐史談 第125号』に取められている「土佐に於ける物部氏と野市町上岡部落について」の中で河野氏は、物部氏の居住地域の推定など、土佐における物部氏について、「1. 記録に残る物部氏、2. 野市町上岡部落について、3. 上岡部落に於ける物部氏と関連のある伝承、4. 上岡に於ける遺跡、5. 記録による考察」と5項目の検証・考察を進め、「6. 結論として」で、「高知県史要記載の如く前述の物部氏の居住地は物部郷以外には、考えられないのであり、神丘山（現上岡山）に祖神を祭りこの山を中心に繁栄し、或時代に祖神もろ共大忍庄東川に移住したという伝承を肯定したいのである。」と結論付けている。

河野通信氏が、この中で取り上げた「四、上岡に於ける遺跡」に、西野遺跡群が発見された当時の経緯や周辺への遺跡についての昭和45年当時の認識が記録されている。ここに転載し、まとめておきたい。

四、上岡に於ける遺跡

(イ) 上岡山の北側に「下の坪」と云うホノギの土地がある。これは地検帳にも下の坪と記載されており検地当時は香宗我部の家臣池内肥前守の給地とあり、現在面積が一町一反八畝二十三歩にて、ほぼ正方形で一反二畝位に整然と区画されている。これは国立高知工専の島田豊寿博士は「完全に近い原形をとどめている条里制の遺構である」と断定され、この種のもは「長地形条里」と云う又之の如く小面積のものは文武天皇以前古墳中期にさかのぼるとの学説があると云われた。之は上岡部落の古代より続く歴史を立証するものであり伝承を裏付ける史料として、極めて意義深いものがある。

(ロ) この「下の坪」東方三〇米北地部落の水田から最近弥生式土器が発見された。現地は沖積層である野市台地の西端で、下の坪よりは十米の高台にある。

(ハ) 上岡山の東側に地検帳によれば「執行（しぎやう）やしき」「倉やしき」というホノギがあり又此の西方五〇〇米物部部落には「政どころやしき」と云う地字の土地がある共に庄園時代の役所及び倉庫の跡で国衙領の時代に於いても此の附近が政治の中心地であった事が推察されるのである。

引用文献

河野通信「土佐に於ける物部氏と野市町上岡部落について」〔土佐史談 第125号－復刊第46号 輔多特集号〕昭和45年)

註1) 廣田典夫「原始編 第二章 弥生時代」『野市町史 上巻』平成4年 野市町史編纂委員会

第2節 2005 年度調査のまとめ

1) 調査区の概要と出土遺物・検出された遺構の時期

西野遺跡ルノ丸地区 2005 年度調査は、東西 48 m 南北 12 m のほぼ長方形の範囲を調査区とする。2005 年 3 月の試掘調査では 3ヶ所のトレンチ調査が行われた。試掘 TR1・2 は 2005 年度調査区の南側に、試掘 TR3 は本調査区の西隣に位置する 2010 年度調査区の南側に設定されたトレンチである。TR3 では掘立柱建物の復原が可能であるが、本報告では建物の復原報告は行っていない。隣接する 2010 年度調査区と同様に 12 世紀前後の柱穴群が確認されており¹⁾、2010 年度調査報告と併せて報告する予定である。

出土遺物の時期は、弥生時代前期末から近現代にわたる。遺物量が最も多いのは弥生時代終末～古墳時代初頭であり、それに先行する時期の遺物はほとんど出土していない。特に弥生時代中期の資料は皆無で、西野遺跡の南側に位置する北地遺跡の様相²⁾とは異なっている。

西野遺跡全体で見ると、西隣の 2010 年度調査区やルノ丸南地区・ルノ丸南 A 地区など、他の調査地点からは弥生前期末の遺構や古墳時代後期の遺構が確認されており^{3)・4)・5)}、遺跡内での居住域の変遷など全体像については、他調査区の報告成果が揃った後でまとめて提示したい。

今回の調査で確認できた遺構は、竪穴状遺構 4 棟、土坑 53 基、ピット 343 基、溝状遺構 12 条である。遺構検出面は 1 面であり、全ての時期の遺構が同一面で重なっている。細片のみ出土する遺構も多く、詳細な形成時期について特定できない遺構が大半である。

遺物を確認できた時期は、弥生時代前期末（紀元前 4 世紀）、弥生時代後期末～古墳時代初頭（3 世紀）、古墳時代後期（6 世紀後半～7 世紀前半）、古代（8～10 世紀）、古代末～中世前期（11～13 世紀）、近世～近現代（19～20 世紀）の 6 期、図示できた資料は試掘調査時出土遺物も合わせて 366 点である。

2) 時期別にみた調査成果

弥生時代前期末（紀元前 4 世紀）

ST3 から 1 点、ST4 から 2 点の弥生時代前期末の甕形土器が出土している。少量の遺物は出土するものの遺構は形成されておらず、今回の調査地点に当該期集落は確認できなかった。南側の北地遺跡や隣接する調査区では、前期末～中期前半の遺構・遺物が検出されており、周辺には生活領域が広がっていたと考えられる。

弥生時代後期末～古墳時代初頭（3 世紀）

竪穴建物 4 棟と土坑 8 基以上、ピット 30 基以上がこの時期に属する遺構である。今回の調査区の中では、当該期が出土遺物量・遺構数とも最も多い。4 棟の竪穴建物 ST1～4 の中で、竪穴住居と考えられる遺構は ST1・3・4 の 3 棟であり、いずれも高床部、ベッド状遺構を持つ。ST1 は西側に張り出し部を持つ一辺 5.5～6.0 m の隅丸方形の住居で、ST2 は一辺 6.9 m の隅丸方形と推定されるが、張り出し部の有無など全体の形状は不明。ST4 は張り出し部を持つ隅丸方形で、遺構の一辺が 7.2

mと推定される。張り出し部にベッド状の高まりを持つ。いずれの竪穴住居も調査区外に延びる未調査部分があり、全貌を把握することはできなかった。ST1とST3は隅丸方形（ST3張り出し部の有無は確認できず）の平面形で、推定される支柱穴4本、ベッド状遺構を有するという共通点を持つ竪穴住居である。

ST2は中央ピットなど床面遺構と考えられる遺構も伴うが、他の竪穴建物と比較すると小型であり、平面形状も異なる。短辺3.04 m長辺3.20 m以上の隅丸長方形で、壁溝や支柱穴に相当する遺構は確認されていない。竪穴住居とは異なる機能を持つ竪穴建物の可能性がある。

土坑やピットの中には出土遺物の僅少な遺構もある。一部の遺構については、より新しい時期に形成された遺構の可能性も否定できない。その中でSK1は他の遺構と大きく異なる遺構である。平面は58cm×47cmの楕円形で深さ18cm、2段に掘り込まれる形状を持つ。遺構内から70点ほどの土器片が出土、円礫も出土している。

竪穴建物は調査区西半に集まり、時期的にも同時期あるいは近接した時期に形成された遺構だと考えられる。これに対し、調査区東側には先述の土坑SK1が形成される。東側は西側と較べて竪穴建物を含む遺構密度は低いものの、ピットや土坑に限ると、古墳時代初頭の遺構は東側でも同様の分布を示し、調査区全域に広がる。今回は柱穴の並びをもとにした建物復原はできなかったが、遺構の分布から調査区全域が生活空間として利用されていたことがわかった。

出土遺物は弥生時代終末から古墳時代初頭にかけてのもので、大半が絶対年代で3世紀中葉前後、ヒビノキⅢ式土器（古式土師器Ⅰ期）の範疇で捉えられる資料である。鉢形土器の組成や甕形土器の底部形状などを基準に、遺構ごとの時期を細分することは可能である。より古い様相を示す遺構がST4とSK1、新しい様相を示す遺構がST1とST3、出土遺物の少ないST2についてはヒビノキⅢ式の段階だと判断できるが、それ以上の細分は難しい。

- | | | |
|-----------------|---------|-------|
| ①古式土師器Ⅰ期の古～新段階 | ST4・SK1 | (ST2) |
| ②古式土師器Ⅰ期の新段階～Ⅱ期 | ST1・ST3 | (ST2) |

ST1出土資料には、75・78など庄内式土器の影響を受けて成立した在地土器で布留式登場後の特徴を示す遺物も含まれる。鉢形土器の器形のバリエーションが多い点、ヒビノキⅢ式の新段階になって登場する浅い皿状の鉢が個体数で鉢全体の4分の1を占めるほど多くなっている点、91・92など在地土器胴部の球形化が顕著な点など、より新しい段階（ヒビノキⅢ式の次の段階・古式土師器Ⅱ期）への移行期にあることを示している⁹⁰。ST3もほぼ同じ時期に位置づけられる。

古い様相の土器を示すST4やSK1にも古式土師器Ⅰ期の新段階の土器が含まれている。①・②の2段階に分けたが、これらの遺構は極めて近接した時期に営まれたものであり、同時期に存在してもおかしくない。

古墳時代後期（6世紀後半～7世紀前半）

4棟の竪穴建物に混入する形で古墳時代の遺物が出土している。古墳時代初頭の遺構を掘り込ん

で古墳時代後期の遺構が形成された痕跡が確認されていないことから、先行するトレンチ調査あるいは検出時、遺構上面包含層境界部の調査等での混入と判断、遺物の所属時期を判断をした上で図化した。

この調査区で、古墳時代後期と特定できる遺構は一部のビットや土坑(SK2)などごくわずかだが、西野遺跡の隣接する調査区であるルノ丸南地区からは、古墳時代後期の堅穴住居 11 棟（うちコマド付住居が7棟）が確認されたことが報告されている¹⁷⁾。

古代（8世紀～10世紀）

古代の遺物が出土した遺構は、土坑 20 基以上、ビット 50 基以上であり、調査区全域に分布する。8 世紀の遺物が多く、時期特定のできる遺構も 8 世紀のものがまともまっている。調査区西半の P255・273、SK40・43・44・47、調査区東半のSK8・15・31・33などが出土遺物から8世紀と特定できる遺構である。9世紀後半から10世紀にかけての遺物がそれに次ぐが、出土量は少ない。

小片だが、赤彩土師器、製塩土器（2類製塩土器）、移動式竈、黒色土器、緑釉陶器など8世紀から9世紀にかけての一般集落と異なる特別な遺物が、他時期の遺構や包含層中など調査区全域から出土している。西野遺跡の下段・物部川沿いに立地する下ノ坪遺跡¹⁸⁾（古代の官衛関連の川津）や同じ段丘面上の南側に立地する北地遺跡¹⁹⁾と同様の性格の官衛関連遺構群が周辺に広がっていると推測される。

調査区西端、ST4の遺構上面に形成された土坑SK45出土のU字形鉄・鋤先（F1）は5世紀以降の遺物である。調査区全体の出土遺物から、この土坑は古墳時代後期後半あるいはそれ以降の時期の遺構であり、遺物形態から判断すると古代の可能性が高いといえる。

古代末～中世前期（11世紀～13世紀）

中世前期の遺構密度が高い地点は2010年度調査区の南側、試掘TR3周辺である。12世紀前後の遺物が集中する。2005年度調査区では遺物が確認された遺構はビット8基であり、この時期の遺物出土量は少ない。

調査区中央付近を南北に横断する直線的な溝（SD7）はこの時期の遺構である。この溝からは弥生時代から中世前期にかけて、細片も含めて600点あまりの遺物が出土している。

この時期（あるいはこの時期以降）に形成された遺構として、調査区東端の南北に交わる溝状遺構がある。溝状遺構は、方向と規格性から3群に分けることができる。形状から、畑の畝状遺構の残存部の可能性があるが、断定はできない。溝の走る方向から遺構形成時の地割方向が推定できるものの、遺構間の先後関係は明瞭ではなく変遷を捉えることはできない。

近世～近現代（19～20世紀）

ごく少量の遺物が確認できるが、図化できた遺物はない。近世以降にはこの地点に集落が形成された痕跡は確認できない。調査前には全域が水田として利用されていた。

3) おわりに

西野遺跡は物部川下流域左岸段丘上に広がる遺跡群の中央部に位置する。下ノ坪・北地・深河・上岡・上岡北など隣接する諸遺跡の発掘調査の成果が蓄積され、このエリアの歴史を弥生時代に遡って描くことを可能とする資料は充実してきたといえる。西野遺跡の性格は、これらの遺跡との関係ではじめて理解することができる。

残された最後のピースは西野遺跡自体の調査成果の報告である。隣接する遺跡群全てを合わせた竪穴住居の数よりも多くの竪穴住居が、未報告のまま残されている。そのためにも2006年度以降の西野遺跡の調査成果報告作業を急ぎたい。

発掘調査担当者の熱意と想いに応えられる唯一の方法は、一刻も早い報告書刊行である。

脚注 参考・引用文献

- (1) 『平成22年度 西野遺跡群 現地説明会資料』香南市教育委員会 2011年
- (2) 『北地遺跡』香南市教育委員会 2011年
北地遺跡からは、弥生前期末～中期前半の竪穴住居や土坑が確認され、後期前半の竪穴住居とともに土器もまもって出土した。これらの時期は、西野遺跡ルノ丸地区05年調査の範囲にほとんどなく、逆に今回多かった古墳時代初頭が北地遺跡には全くない。
- (3) 同(1)
- (4) 更谷大介「香南市 西野遺跡群 ルノ丸地区南」
〔埋文こうち第20号〕高知県教育委員会文化財課 2007年
- (5) 更谷大介「香南市 西野遺跡群ルノ丸地区南・ルノ丸地区南A」
〔埋文こうち第21号〕高知県教育委員会文化財課 2008年
- (6) 出原恵三「高知平野の古式土師器Ⅰ・Ⅱ期について」
〔小龍遺跡Ⅲ〕(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 1997年
- (7) 同(4)
- (8) 『下ノ坪遺跡Ⅰ』野市町教育委員会 1997年
『下ノ坪遺跡Ⅱ』野市町教育委員会 1998年
『下ノ坪遺跡Ⅲ』野市町教育委員会 2000年
- (9) 同(2)

写真図版



調査に参加した人々



調査前の景観（調査区全景 西から）



（東から）

（西から）

本発掘調査開始 調査区東端の状況





調査区東 北壁セクション



調査区中央 北壁セクション



礫出土状況



調査区東端部 遺構検出状況（北から）

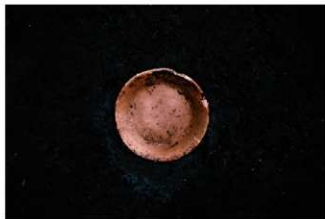


礫出土状況



調査区東端部 遺構検出状況（南から）







西上方から



西上方から



東から(後方は、ごめんなはり線)



南から



南から



西から



西から



北から



南から



遺物出土状況



遺物出土状況



堆積状況(西から)



北上方から



東から



西から



ST1中央バンク(北上方から)



遺構完掘(北上方から)



遺物出土状況(北から)



遺物出土状況(西から)



ST3検出状況(西から)



遺構完掘(南上方から)



ST3セクション (西から)



ST3と出土遺物



遺構完掘 (西から)



遺構完掘 (北西から)



SK45出土U字形鉄・鋸先



ST4遺物出土状況





ST4セクション (南から)



遺構完掘 (西上方から)



ST4から東方向の遺構をのぞむ



ST4とその周辺の遺構 (北から)



東から



北東から



SR1 (南から)



SR1南端の状況とセクション



SR1北端セクション



調査区中央付近 (D8・9ライン) から東側の遺構 (西から)



調査区東側 遺構完掘状況 (西から)



調査区中央付近 (D-8・9ライン) から東側の遺構 (西から)



ST4とその周辺・西端部の遺構 (南から)



調査区西側から中央～東半部の遺構をのぞむ

ST1



ST2

ST3

ST1・2・3と周辺の遺構



ST2 (南西方向から)



東からのぞむ・右後方はごめんなはり線



西側からみた景観



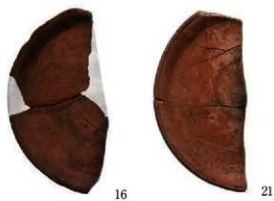
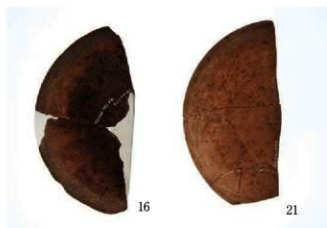
西野遺跡ルノ丸地区2005年度調査 参加メンバー



試掘 TR1 出土遺物



試掘 TR2 出土遺物



試掘 TR3 出土遺物





31



32



33



45



42



39



40



41



57



46



47



58



59



60



62



63



61



ST1 中央ビット 出土



ST1 P2 出土



66

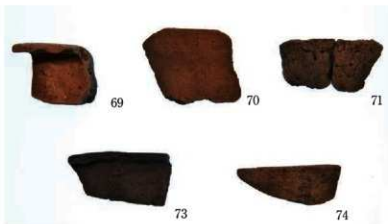


65

ST1 P1 出土



67



69

70

71



73



74



79



84



82



78



90











125



127



126



136



130



128



129



130



128



129



130



133



134



133



134



133



134



137

138

139



141



144



140

ST2 出土遺物 (137 ~ 140)



143



142

ST3 P1 (141 ~ 144)



147

148



151

152



149

150



153

157



154

155

159



161

159

161





古墳時代後期 (178 ~ 186) ・ 古代 (187)



188



189



189



195



199



199



210



206



212



200



201



209



208



202



205



204



213



215

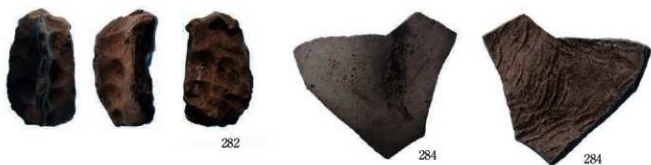


214

















F1



F2



F3



F4



F5



F9



F6



F7



F8



F10



F11



TR1 検出状況



TR1 黒色土層



TR1 完掘



TR1 セクションとサブトレ



TR1 セクション



TR



TR2 遺構検出状況



TR2 完掘状況



TR3 検出状況



TR3 P-4



TR3 遺物出土状況



TR3 検出状況



TR3 完掘(東から)



TR3 完掘(東から)



TR3 完掘(西から)



TR3 完掘(西から)

報 告 書 抄 録

ふりがな	にしのいせきのるのまるちく							
書名	西野遺跡ルノ丸地区 2005年度調査							
副書名	宅地開発に伴う発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	高知県香南市発掘調査報告書							
シリーズ番号	第10集							
編著者名	松村信博・藤方正治							
編集機関	高知県香南市教育委員会 香南市文化財センター							
所在地	〒781-5453 高知県香南市香我美町山北1553-1 TEL 0887-54-2296							
発行年月日	西暦 2013年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡 番号					
にしのいせき 西野遺跡 るの丸地区	こうちけんこうなんし 高知県香南市 のいちちよう 野市町	39324	200023	33度 33分 50秒	133度 41分 11秒	試掘調査 平成17年 3月16日 ～3月17日 本発掘調査 平成17年 5月23日 ～8月5日	100㎡ 564㎡	宅地開発
	にしのいせき 西野1526番 地2他							
所収遺跡名	種別	主な 時代	主な 遺構	主な遺物		特記事項		
西野遺跡	集落	弥生時代前期末 弥生時代後期 弥生末～古墳初頭 古墳時代後期 古代 中世前期	竪穴建物 土坑 溝状遺構 ピット	弥生土器 土師器 須恵器 土製品 石器 鉄製品		古墳時代初頭の竪穴建物4棟 庄内式土器 鉄製U字形鍬・鋤先 緑釉陶器、黒色土器、移動式カ マド、白磁		
要約	<p>西野遺跡は、香南市野市町西野の物部川左岸段丘上に位置する弥生時代から近世にかけての集落遺跡である。今回の調査は民間の宅地開発計画に伴うもので、弥生時代前期末から近世にかけての遺物が確認された。調査対象地が居住域として機能していた主な時期は、弥生終末～古墳初頭（3世紀）・古墳後期（6世紀後半～7世紀初頭）・古代（8世紀～10世紀）・古代末～中世前期（11世紀～13世紀）の4時期である。</p> <p>弥生終末～古墳時代初頭の遺物が最も多く、竪穴建物4棟と土坑8基などの遺構とともに庄内式土器など搬入土器も確認されている。</p> <p>古墳時代後期や古代の遺物も一定量含まれており、ピット・土坑など8世紀の遺構が調査区全体に分布、隣接する下ノ坪遺跡や北地遺跡など一連の官衙関連遺構の広がりが予想される。鉄製U字形鍬・鋤先など鉄器も出土、小片だが、緑釉陶器（椀A類）、黒色土器、移動式カマドなど注目される遺物も出土している。</p>							

高知県香南市発掘調査報告書 第10集

西野遺跡ルノ丸地区 2005年度調査

－宅地開発に伴う発掘調査報告書－

2013年3月

発行 高知県香南市教育委員会

香南市文化財センター

〒781-5453 高知県香南市香我美町山北1553-1

電話 0887-54-2296

印刷 共和印刷株式会社